

中原区区民アンケート

報 告 書

令和2年12月

川崎市中原区

目 次

I 調査概要	5
1 調査の目的	7
2 調査の方法	7
3 調査の項目	7
4 回収状況	7
5 この報告書の見方	7
6 回答者の属性	9
II 調査結果の詳細	15
1 区民の定住性	17
(1) 居住年数	17
(2) 以前の居住場所	20
(3) 定住意向	22
(4) 定住したい理由	25
(5) 転出したい理由	28
2 生活環境評価	29
(1) 生活環境の満足度	29
(2) 生活環境全体の満足度	36
(3) 住みよい環境についての意識	39
3 区役所業務の評価・区のイメージ	42
(1) 満足している区役所の業務	42
(2) 力を入れてほしい区役所の業務	46
(3) 中原区のイメージ	50
4 中原区役所の広報	54
(1) 行政・地域情報の入手方法	54
(2) 充実してほしい行政・地域情報の提供方法	58

(3) 「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況	62
(4) 充実してほしい行政・地域情報の種類	65
5 中原区役所の環境	69
(1) 中原区役所の利用頻度	69
(2) 中原区役所の環境・設備の満足度	72
6 子育て支援	77
(1) 子育ての経験の有無	77
(2) 利用したことがある子育て支援サービス	79
(3) 子育て支援サービスを知ったきっかけ	83
7 地域包括ケアシステム	86
(1) 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動	86
(2) 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと	90
8 自立的な活動	92
(1) 自由な時間があるときに過ごす場所	92
(2) 外出する頻度	94
(3) グループ活動への参加状況	96
(4) グループ活動への参加頻度	99
(5) グループ活動に参加していない理由	101
9 地域の支え合い	103
(1) 地域で支え合える人の有無	103
(2) 地域の支え合いに協力できること	107
(3) 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うこと	111
(4) 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと	112
(5) 「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」につい ての考え	115
10 在宅療養	116
(1) 最期までどのように住みたいか	116
(2) 実際に最期を迎えると思う場所	119
(3) 在宅療養を考えた経験	121

11 防災対策	123
(1) 食料の備蓄状況	123
(2) 食料を準備していない理由	125
(3) 浸水想定の確認	126
(4) 地域で行われる訓練への参加経験	128
(5) 地域で行われる訓練に参加していない理由	129
(6) 災害情報の入手手段	130
12 ペットに関する防災対策	132
(1) 飼養状況	132
(2) ペットの同行避難の認知度	135
(3) ペットの同行避難で大事だと思うこと	138
(4) どのような訓練なら参加したいか	141
13 新しい生活様式について	144
(1) 実施している対策	144
(2) どのような対策を求めるか	146
14 自由意見	154
Ⅲ 質問と回答	155

I 調查概要

1 調査の目的

この調査は、区政に対する区民の意識、要望を、地域特性を踏まえて多面的に調査を行うことで明らかにし、調査結果を区政運営や地域課題の解決に係る基礎資料として活用することを目的として実施した。

2 調査の方法

- (1) 調査地域 …………… 川崎市中原区全域
- (2) 調査対象 …………… 区内に在住する満 18 歳以上の男女（外国籍の区民を含む）
- (3) 標本数 …………… 2,000 サンプル
- (4) 標本抽出方法 …… 住民基本台帳に基づく単純無作為抽出
- (5) 調査方法 …………… 郵送法
- (6) 調査期間 …………… 令和 2 年 7 月 31 日(金)～令和 2 年 8 月 26 日(水)
- (7) 調査委託機関 …… 株式会社 CCNグループ

3 調査の項目

- (1) 区民の定住性
- (2) 生活環境評価
- (3) 区役所業務の評価・区のイメージ
- (4) 中原区役所の広報
- (5) 中原区役所の環境
- (6) 子育て支援
- (7) 地域包括ケアシステム
- (8) 自立的な活動
- (9) 地域の支え合い
- (10) 在宅療養
- (11) 防災対策
- (12) ペットに関する防災対策
- (13) 新しい生活様式について
- (14) 自由意見

4 回収状況

- (1) 調査票配布数 2,000
- (2) 有効回収数 1,178（有効回収率 58.9%）

5 この報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（number of case の略）は各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- (2) 集計は百分率とし、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。

(4) 標本誤差は回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、無作為抽出法による場合の誤差（信頼度 95%）は次の式によって得られる。

<標本誤差算出式>

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差（無作為抽出法の場合）
 N = 母集団全体
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答の比率

今回の調査結果の場合、誤差及び信頼の範囲は下表のとおりであり、「ある設問の回答者数が 1,178 人で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は±2.85 である」ということとなる。

<標本誤差早見表>（信頼度：95%）

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,178	±1.75%	±2.33%	±2.67%	±2.85%	±2.91%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

(注) Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

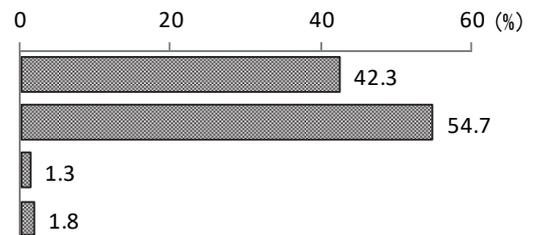
(5) クロス集計時に、基数（n）が小さい数字になる場合は誤差が大きいため注意が必要である。

(6) クロス集計について、分析の軸となる設問の回答の「無回答」は表示していない。ただし、全体の件数には含めているので、分析軸に表記した回答者数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

6 回答者の属性

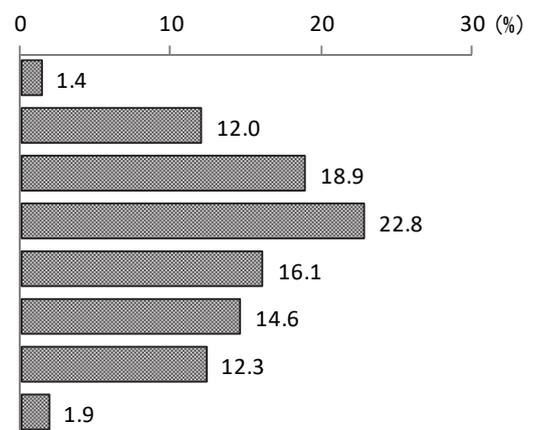
(1) 性別

	基数	構成比
1 男性	498	42.3
2 女性	644	54.7
3 回答しない	15	1.3
(無回答)	21	1.8
合 計	1,178	100.0



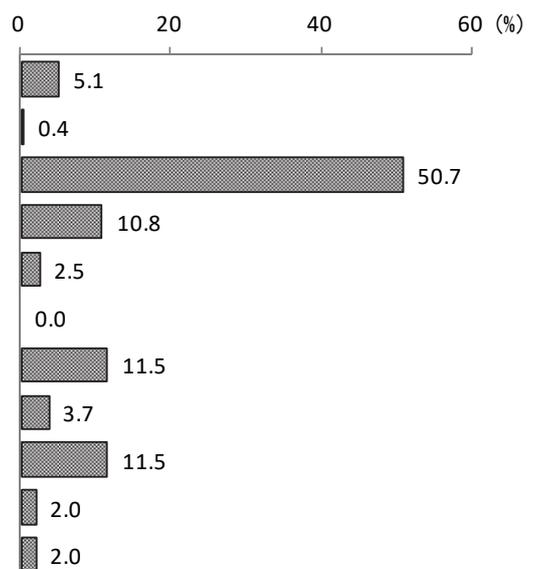
(2) 年代

	基数	構成比
1 18～19歳	17	1.4
2 20～29歳	141	12.0
3 30～39歳	223	18.9
4 40～49歳	268	22.8
5 50～59歳	190	16.1
6 60～69歳	172	14.6
7 70歳以上	145	12.3
(無回答)	22	1.9
合 計	1,178	100.0

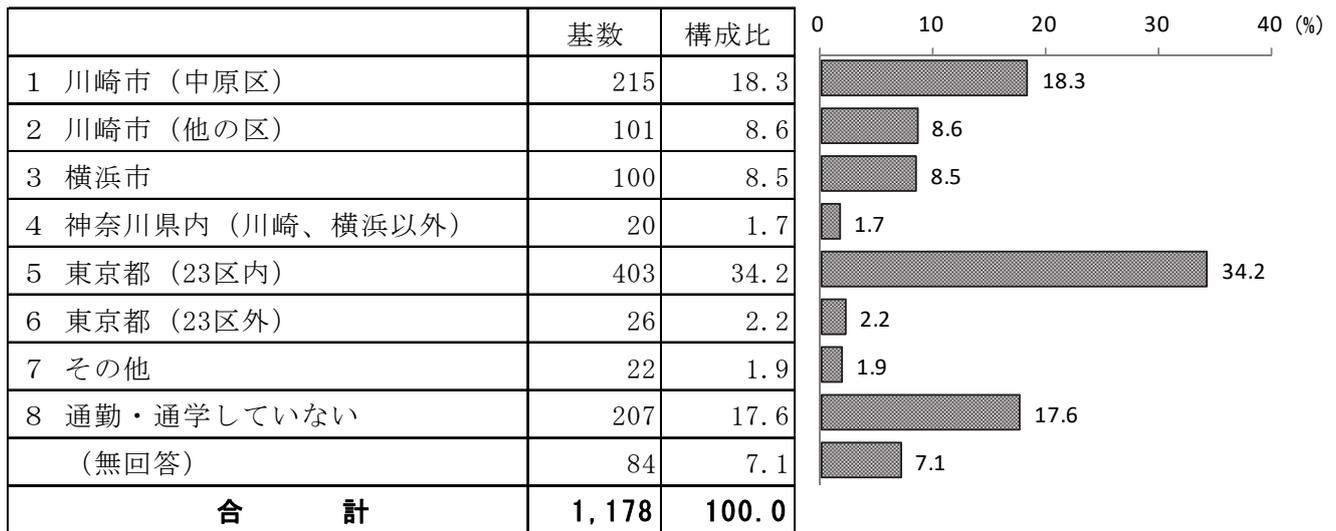


(3) 職業

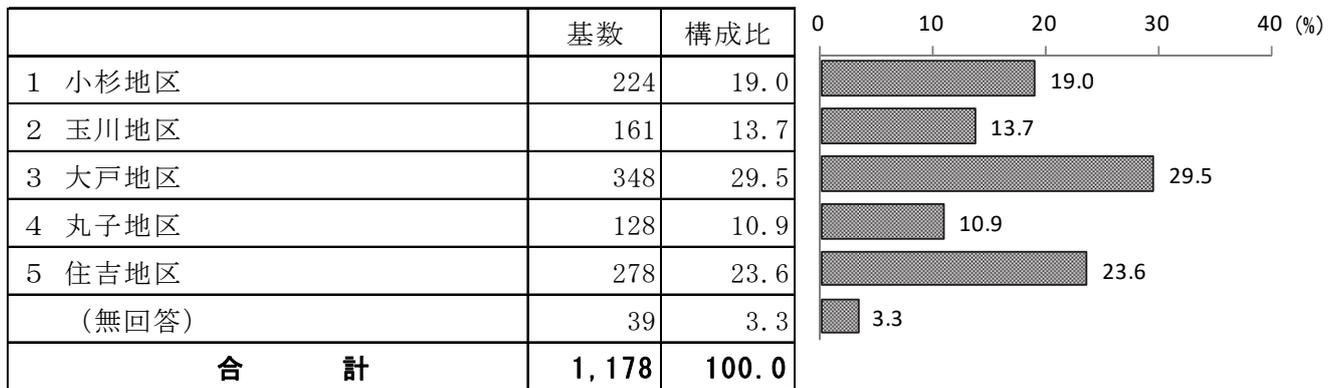
	基数	構成比
1 自営業	60	5.1
2 家族従業 (家事手伝い)	5	0.4
3 勤め (全日)	597	50.7
4 勤め (パートタイム)	127	10.8
5 アルバイト	30	2.5
6 内職	0	0.0
7 専業主婦	135	11.5
8 学生	43	3.7
9 無職	135	11.5
10 その他	23	2.0
(無回答)	23	2.0
合 計	1,178	100.0



(4) 通勤・通学先



(5) 居住地区（※）

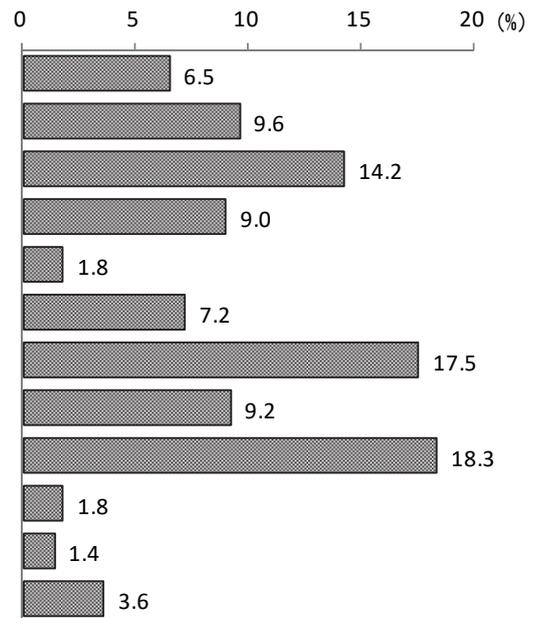


(※) 居住地区の分類

地区名	町丁名
小杉地区	市ノ坪、今井上町、今井仲町、今井西町、今井南町、小杉、小杉御殿町1・2丁目、小杉陣屋町1・2丁目、小杉町1～3丁目、等々力
玉川地区	上平間、北谷町、下沼部、田尻町、中丸子
大戸地区	上小田中1～7丁目、上新城1・2丁目、下小田中1～6丁目、下新城1～3丁目、新城、新城1～5丁目、新城中町、宮内1～4丁目
丸子地区	上丸子、上丸子山王町1・2丁目、上丸子天神町、上丸子八幡町、新丸子東1～3丁目、新丸子町、丸子通1・2丁目
住吉地区	井田1～3丁目、井田三舞町、井田杉山町、井田中ノ町、大倉町、荻宿、木月1～4丁目、木月伊勢町、木月祇園町、木月住吉町、木月大町、西加瀬

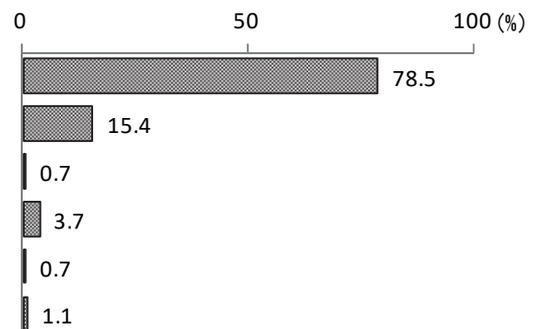
(6) よく利用する駅

	基数	構成比
1 JR武蔵小杉（南武線）	77	6.5
2 JR武蔵小杉（横須賀線）	113	9.6
3 JR武蔵中原	167	14.2
4 JR武蔵新城	106	9.0
5 JR向河原	21	1.8
6 JR平間	85	7.2
7 東急武蔵小杉	206	17.5
8 東急新丸子	108	9.2
9 東急元住吉	216	18.3
10 東急日吉	21	1.8
11 その他	16	1.4
（無回答）	42	3.6
合 計	1,178	100.0



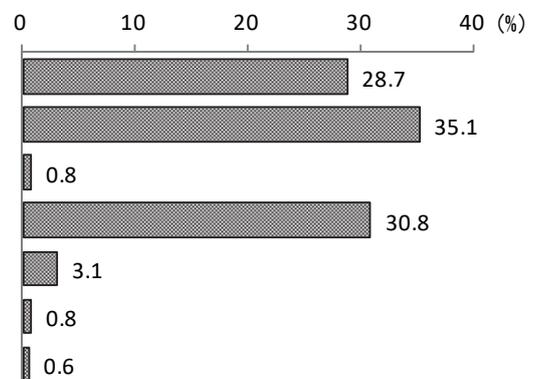
(7) よく利用する駅までの交通手段

	基数	構成比
1 徒歩	925	78.5
2 自転車	181	15.4
3 バイク	8	0.7
4 バス	43	3.7
5 車	8	0.7
（無回答）	13	1.1
合 計	1,178	100.0



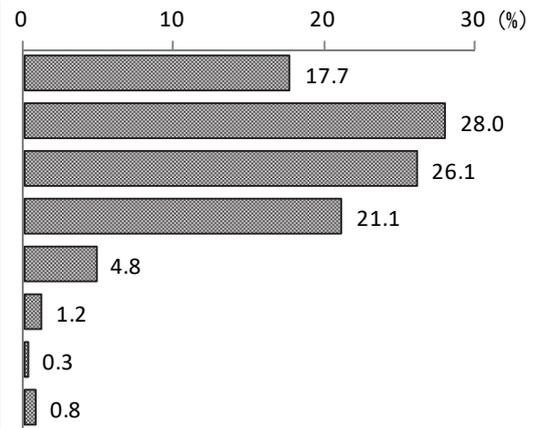
(8) 住居形態

	基数	構成比
1 持家（一戸建）	338	28.7
2 持家（マンション・集合住宅）	414	35.1
3 借家（一戸建）	9	0.8
4 借家（マンション・集合住宅）	363	30.8
5 社宅・寮・公務員社宅	37	3.1
6 その他	10	0.8
（無回答）	7	0.6
合 計	1,178	100.0



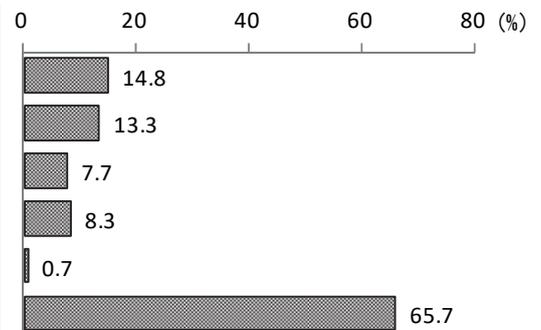
(9) 家族人数

	基数	構成比
1 1人	209	17.7
2 2人	330	28.0
3 3人	307	26.1
4 4人	249	21.1
5 5人	57	4.8
6 6人	14	1.2
7 7人以上	3	0.3
(無回答)	9	0.8
合 計	1,178	100.0



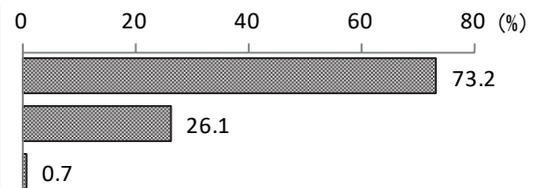
(9-1) 高校生以下の家族との同居 (複数回答、(9)で「2人」～「7人以上」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 未就学児	142	14.8
2 小学生	128	13.3
3 中学生	74	7.7
4 高校生	80	8.3
5 いない	7	0.7
(無回答)	631	65.7
合 計	960	100.0



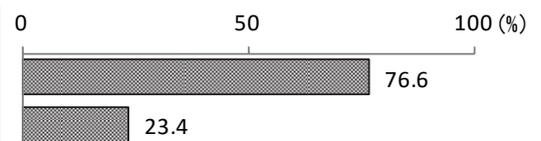
(9-2) 同居している未就学児の人数 ((9-1)で「未就学児」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 1人	104	73.2
2 2人	37	26.1
3 3人	1	0.7
合 計	142	100.0



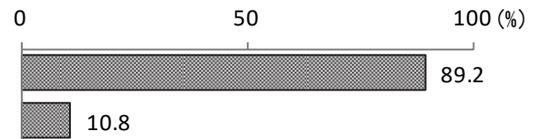
(9-3) 同居している小学生の人数 ((9-1)で「小学生」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 1人	98	76.6
2 2人	30	23.4
合 計	128	100.0



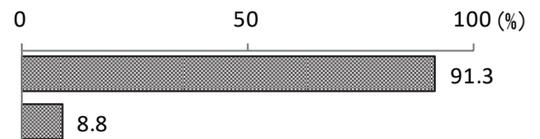
(9-4) 同居している中学生の人数 ((9-1)で「中学生」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 1人	66	89.2
2 2人	8	10.8
合 計	74	100.0



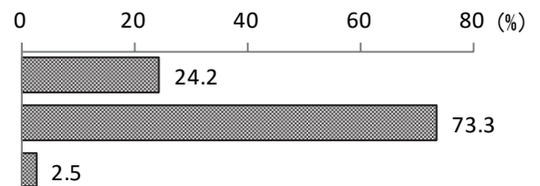
(9-5) 同居している高校生の人数 ((9-1)で「高校生」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 1人	73	91.3
2 2人	7	8.8
合 計	80	100.0



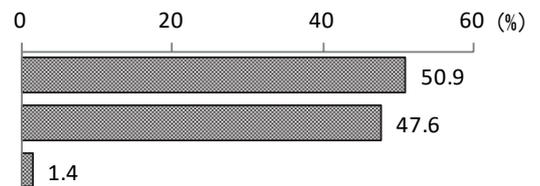
(9-6) 65歳以上の家族との同居 ((9)で「2人」～「7人以上」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 いる	232	24.2
2 いない	704	73.3
(無回答)	24	2.5
合 計	960	100.0



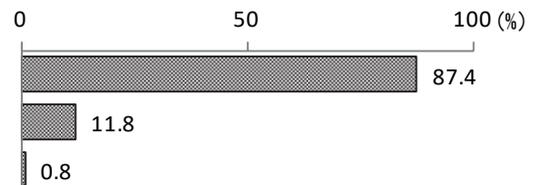
(10) 町内会・自治会の加入状況

	基数	構成比
1 加入している	600	50.9
2 加入していない	561	47.6
(無回答)	17	1.4
合 計	1,178	100.0



(11) インターネットの利用状況

	基数	構成比
1 利用している	1,030	87.4
2 利用していない	139	11.8
(無回答)	9	0.8
合 計	1,178	100.0



Ⅱ 調査結果の詳細

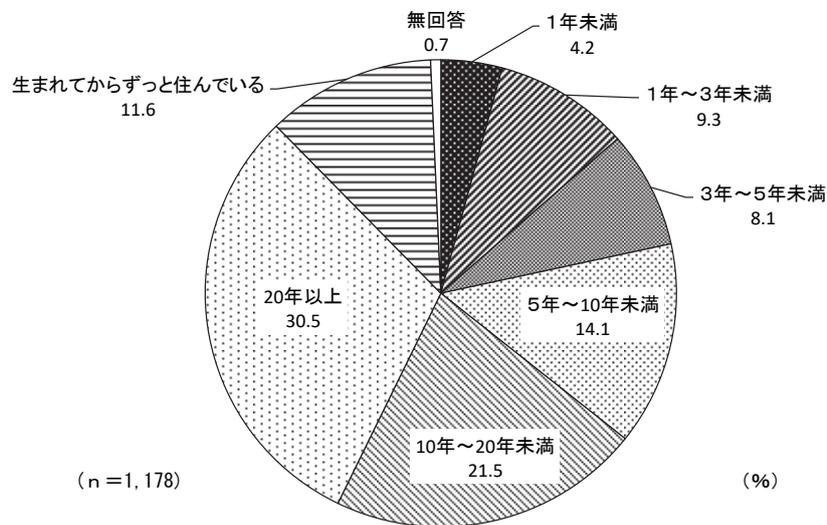
1 区民の定住性

(1) 居住年数

問1 中原区にお住みになって何年になりますか。(○は1つだけ)

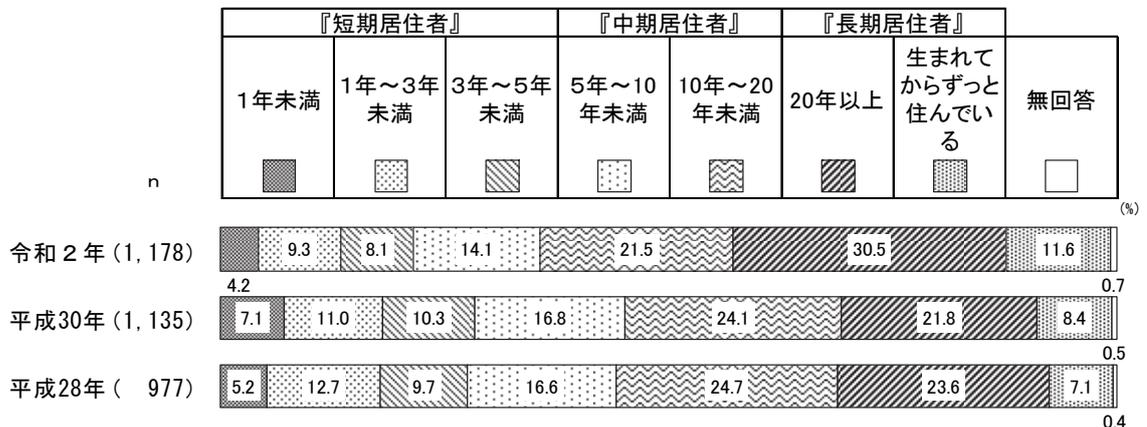
居住年数を聞いたところ、「20年以上」(30.5%)と「生まれてからずっと住んでいる」(11.6%)の2つを合わせた『長期居住者』(42.1%)は4割を超えて高くなっている。「5年～10年未満」(14.1%)と「10年～20年未満」(21.5%)の2つを合わせた『中期居住者』(35.6%)は3割半ばで、「1年未満」(4.2%)、「1年～3年未満」(9.3%)、「3年～5年未満」(8.1%)の3つを合わせた『短期居住者』(21.6%)は2割を超えている。(図表1-1-1)

図表1-1-1 居住年数



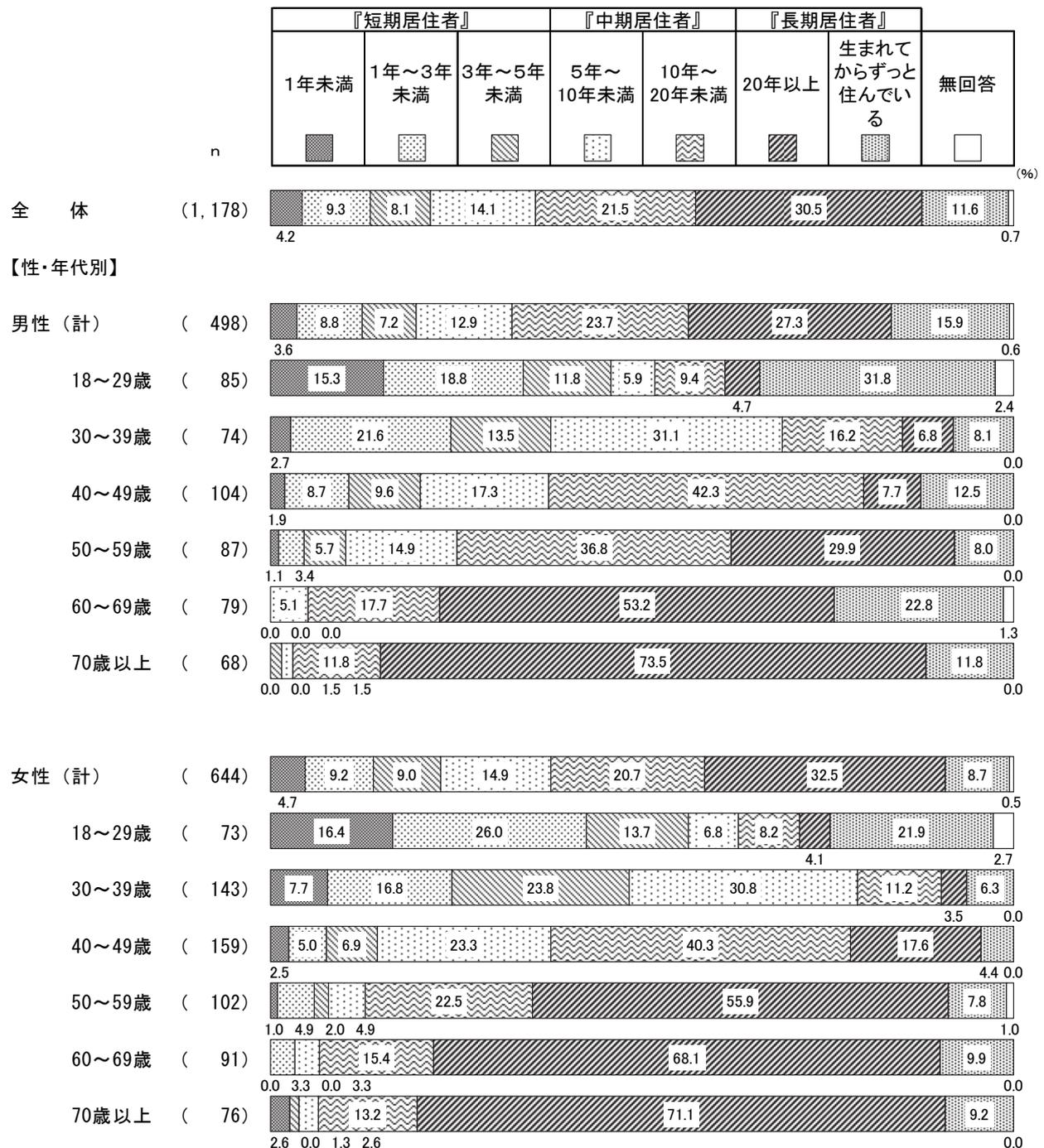
過去の調査と比較すると、前回調査より『短期居住者』は6.8ポイント減少し、『長期居住者』は11.9ポイント増加している。(図表1-1-2)

図表1-1-2 居住年数—過去の調査との比較



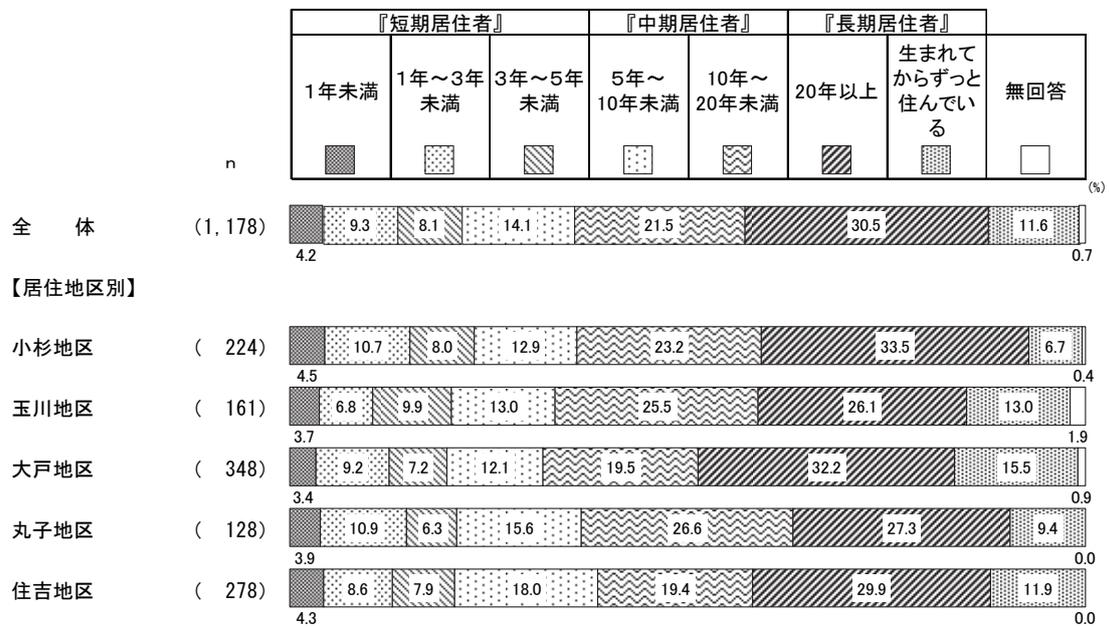
性・年代別にみると、『短期居住者』は女性 18～29 歳（56.1%）が 5 割半ばと高くなっている。『中期居住者』は男性 40～49 歳（59.6%）・女性 40～49 歳（63.6%）が約 6 割以上、『長期居住者』は男性 70 歳以上（85.3%）・女性 70 歳以上（80.3%）が 8 割以上で高くなっている。（図表 1-1-3）

図表 1-1-3 居住年数－性・年代別



居住地区別にみると、『短期居住者』は小杉地区（23.2%）が2割半ば近くと高くなっている。『中期居住者』は丸子地区（42.2%）が4割強、『長期居住者』は大戸地区（47.7%）が5割半ばを超えて高くなっている。（図表1-1-4）

図表1-1-4 居住年数-居住地区別

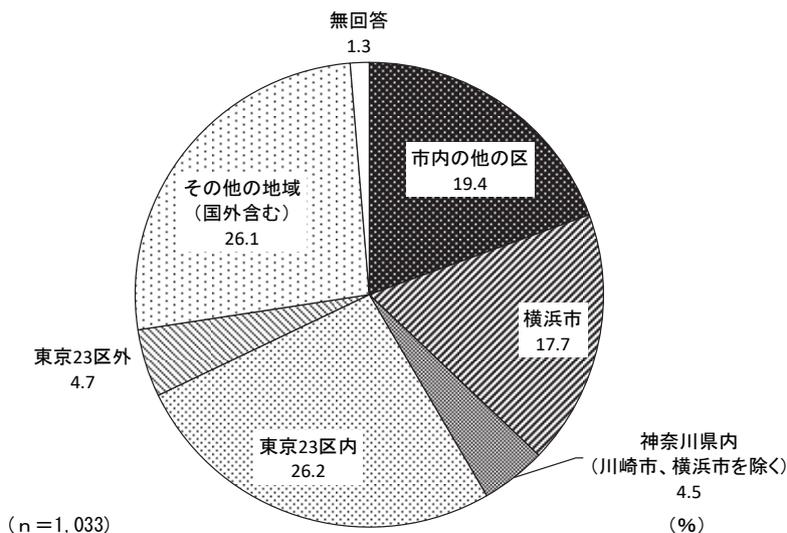


(2) 以前の居住場所

(問1で、「生まれてからずっと住んでいる」以外を回答した方に)
 問1-1 中原区に住む以前はどちらにお住まいでしたか。(〇は1つだけ)

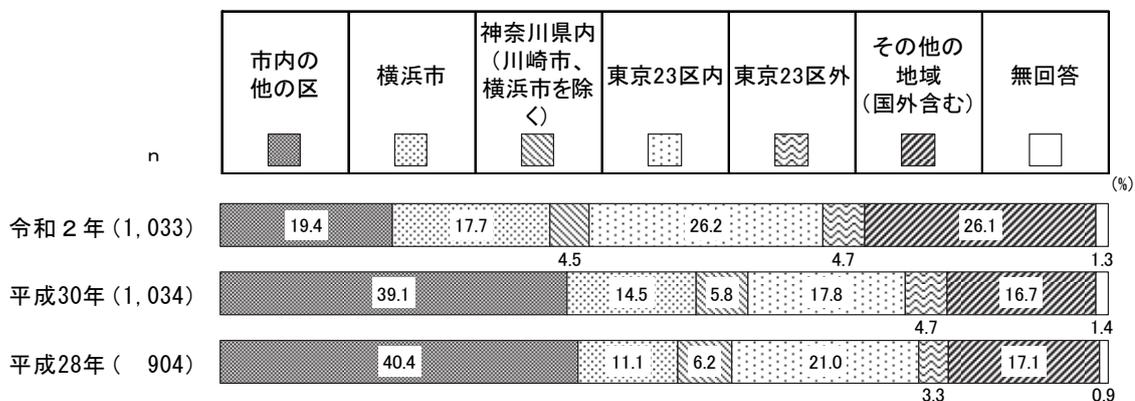
中原区に「生まれてからずっと住んでいる」以外と回答した方(1,033人)に、以前の居住場所を聞いたところ、「東京23区内」(26.2%)が2割半ばで最も高く、次いで「その他の地域(国外含む)」(26.1%)、「市内の他の区」(19.4%)、「横浜市」(17.7%)となっている。(図表1-2-1)

図表1-2-1 以前の居住場所



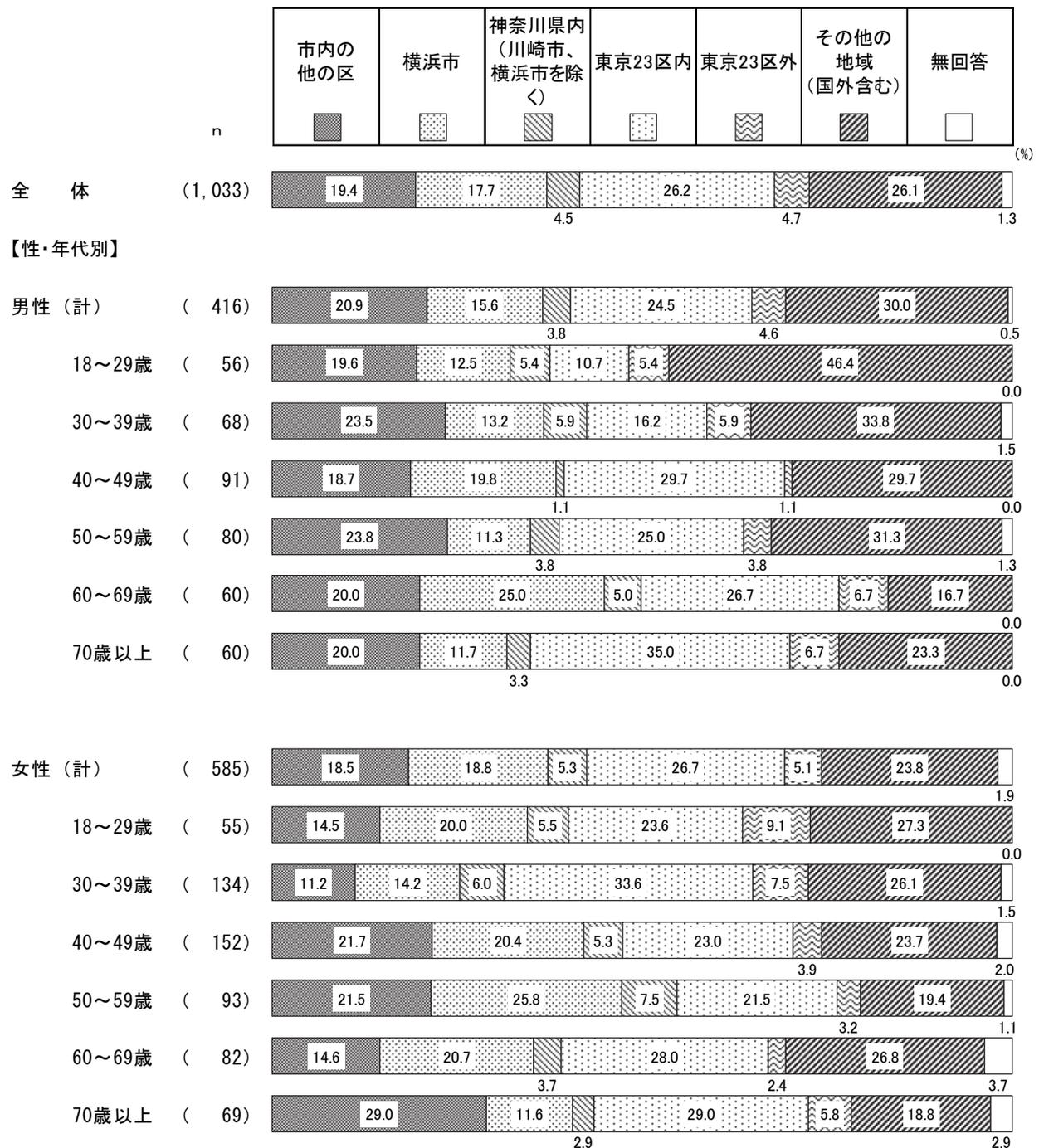
過去の調査と比較すると、前回調査より「市内の他の区」は19.7ポイント減少、「東京23区内」は8.4ポイント増加、「その他の地域(国外含む)」は9.4ポイント増加している。(図表1-2-2)

図表1-2-2 以前の居住場所—過去の調査との比較



性・年代別にみると、「市内の他の区」は女性70歳以上（29.0%）で3割近くと高くなっている。「東京23区内」は男性70歳以上（35.0%）が3割半ばで高くなっている。「その他の地域（国外含む）」は男性18～29歳（46.4%）で4割半ばと高くなっている。（図表1-2-3）

図表1-2-3 以前の居住場所一性・年代別

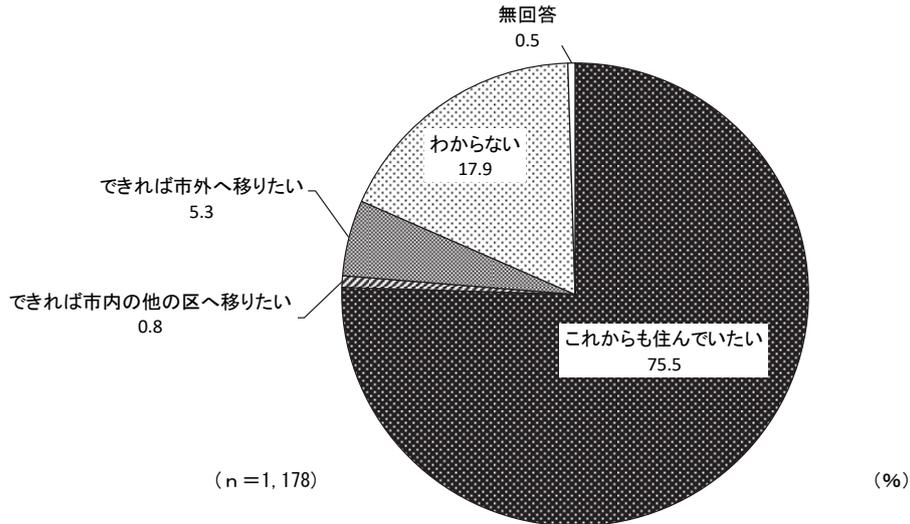


(3) 定住意向

問2 これからも中原区にお住まいになる予定ですか。(〇は1つだけ)

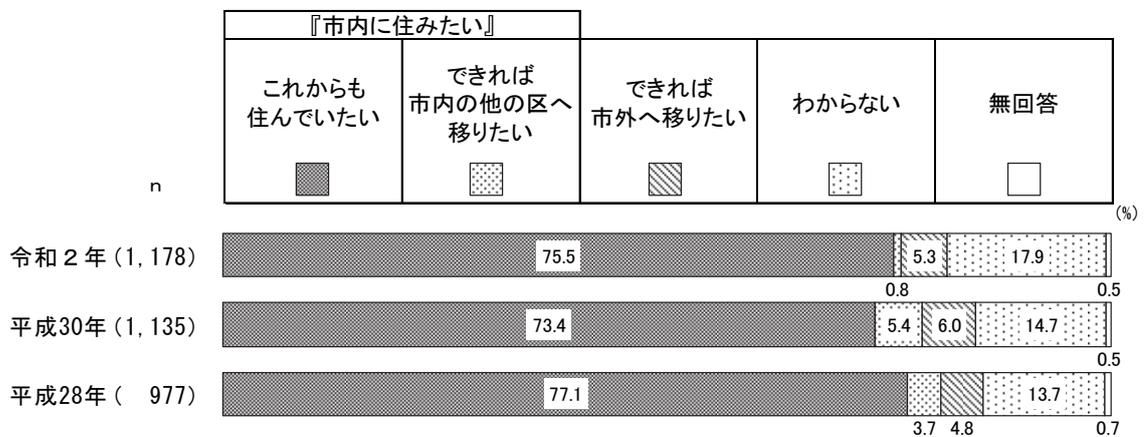
定住意向を聞いたところ、「これからも住んでいたい」(75.5%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(0.8%)を合わせた『市内に住みたい』(76.3%)が7割半ばで高くなっている。一方、「できれば市外へ移りたい」(5.3%)は1割未満となっている。(図表1-3-1)

図表1-3-1 定住意向



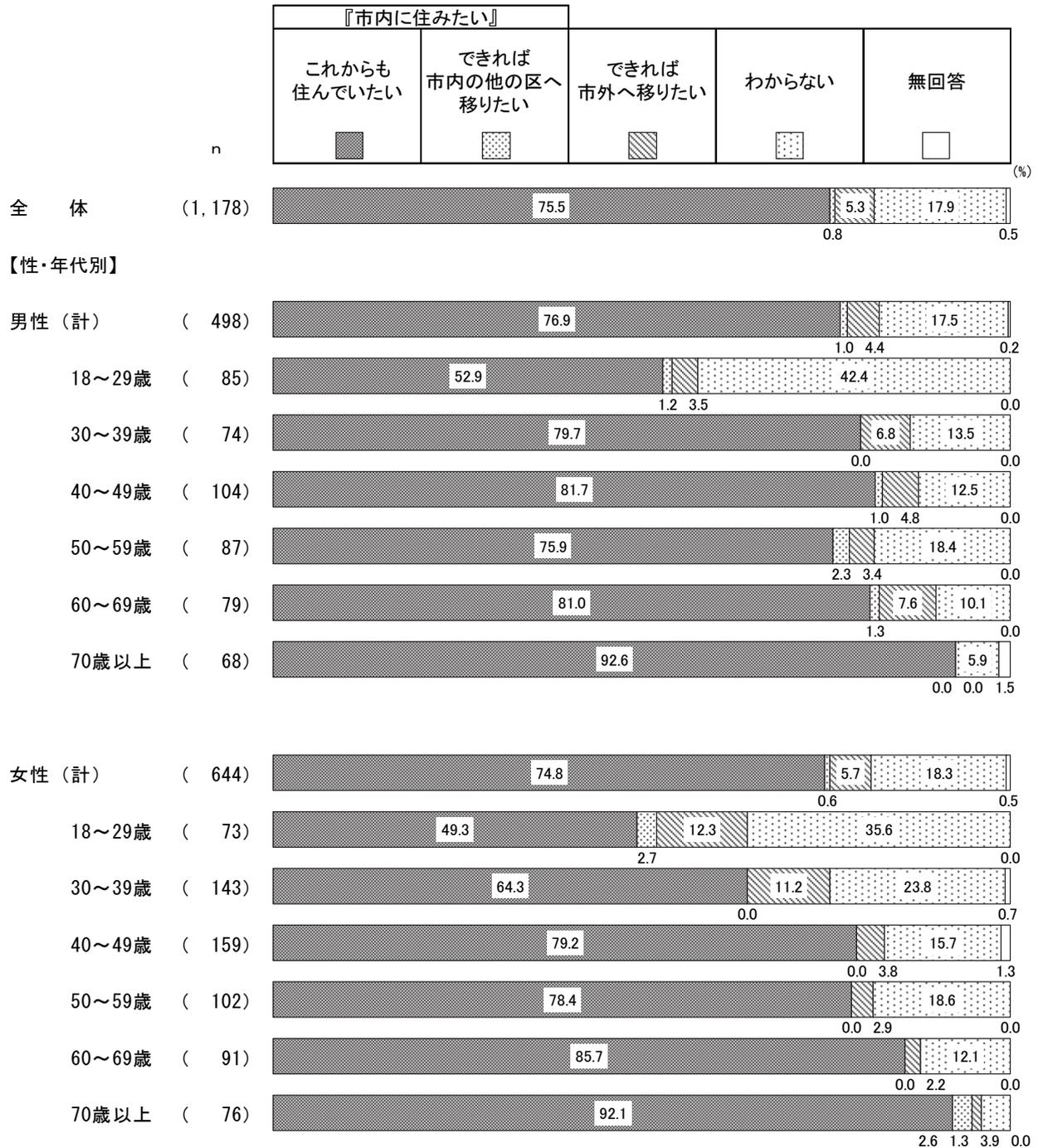
過去の調査と比較すると、「これからも住んでいたい」が前回調査から2.1ポイント増加し、「できれば市内の他の区へ移りたい」は0.8%と例年と比較すると大きく減少している。(図表1-3-2)

図表1-3-2 定住意向—過去の調査との比較



性・年代別にみると、「これからも住んでいたい」は男性70歳以上(92.6%)・女性70歳以上(92.1%)で9割を超えて高く、おおむね年代が上がるほど割合が高くなる傾向にある。「できれば市外へ移りたい」は女性18～29歳(12.3%)・女性30～39歳(11.2%)で1割を超えている。(図表1-3-3)

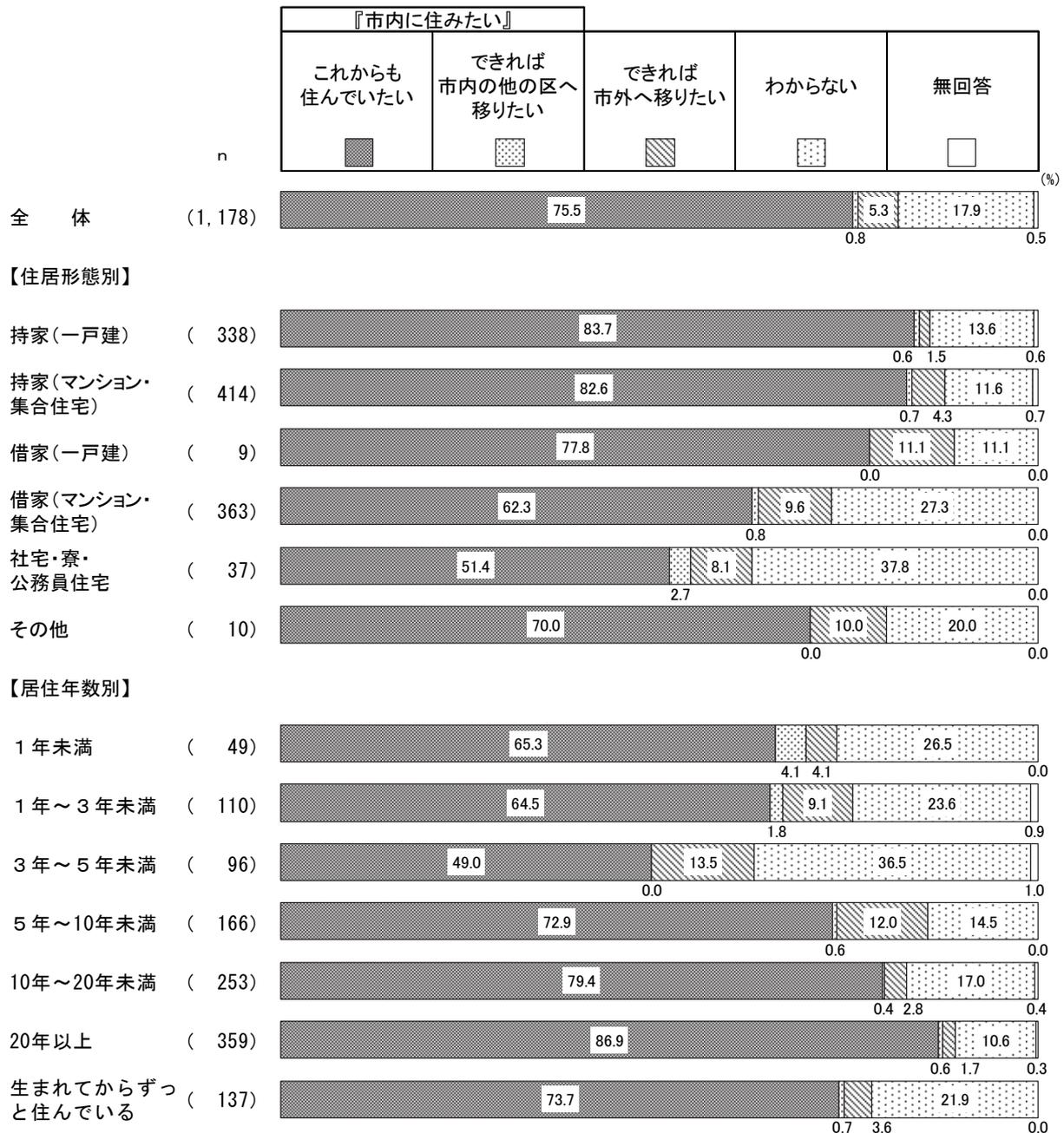
図表1-3-3 定住意向一性・年代別



住居形態別にみると、「これからも住んでいたい」は持家（一戸建て）（83.7%）・借家（マンション・集合住宅）（82.6%）で8割以上と高くなっている。

居住年数別にみると、「これからも住んでいたい」は20年以上（86.9%）で8割半ばと高くなっている。「できれば市外へ移りたい」は3年～5年未満（13.5%）・5年～10年未満（12.0%）で1割を超えて高くなっている。（図表1-3-4）

図表1-3-4 定住意向一住居形態別・居住年数別

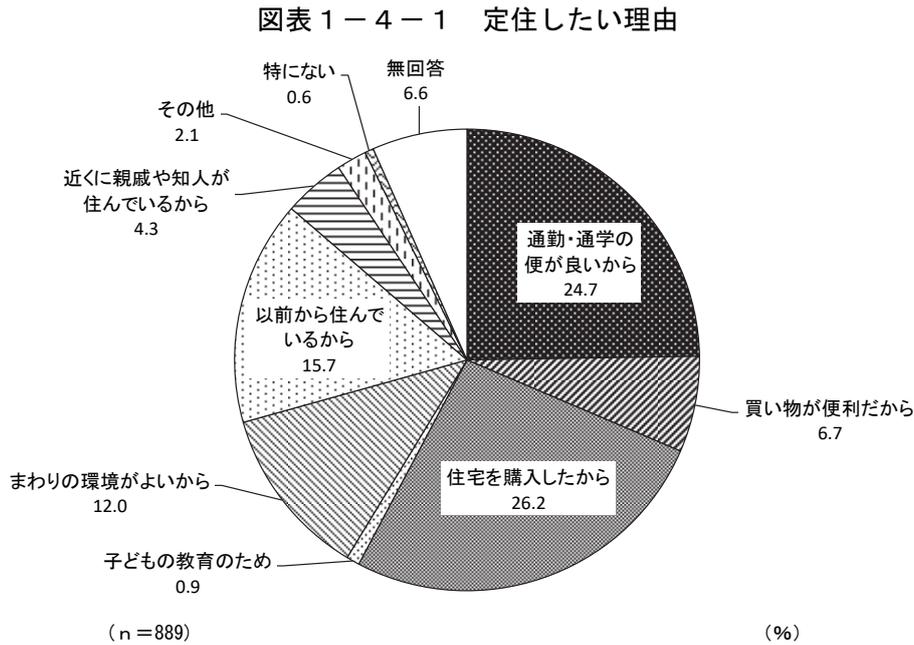


(4) 定住したい理由

(問2で、「これからも住んでいたい」と回答した方に)
 問2-1 中原区に住んでいたい主な理由は何ですか。(〇は1つだけ)

中原区に「これからも住んでいたい」と回答した方(889人)に、その理由を聞いたところ、「住宅を購入したから」(26.2%)が2割半ばで最も高く、次いで「通勤・通学の便が良いから」(24.7%)、「以前から住んでいるから」(15.7%)、「まわりの環境がよいから」(12.0%)となっている。

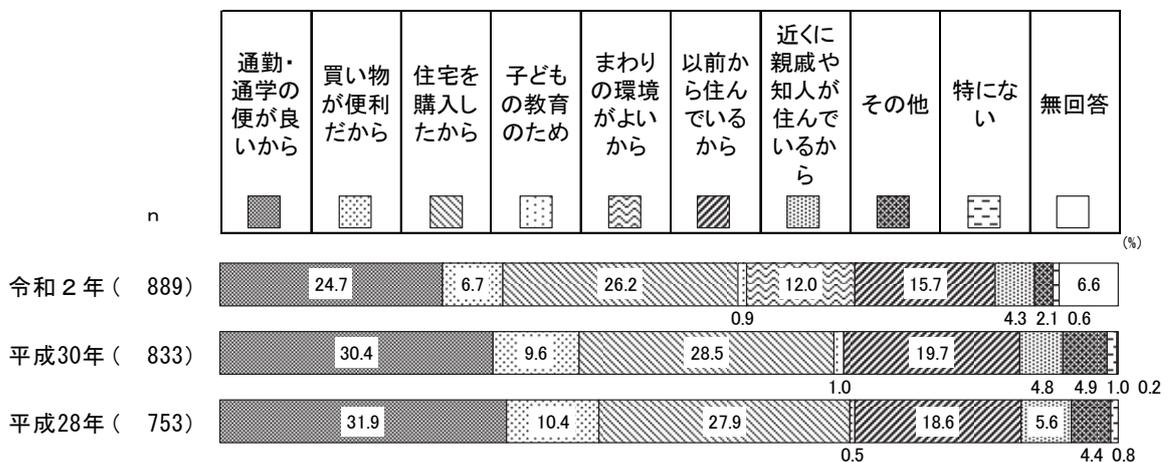
(図表1-4-1)



過去の調査と比較すると、前回調査より「通勤・通学の便が良いから」が5.7ポイント減少している。

(図表1-4-2)

図表1-4-2 定住したい理由—過去の調査との比較

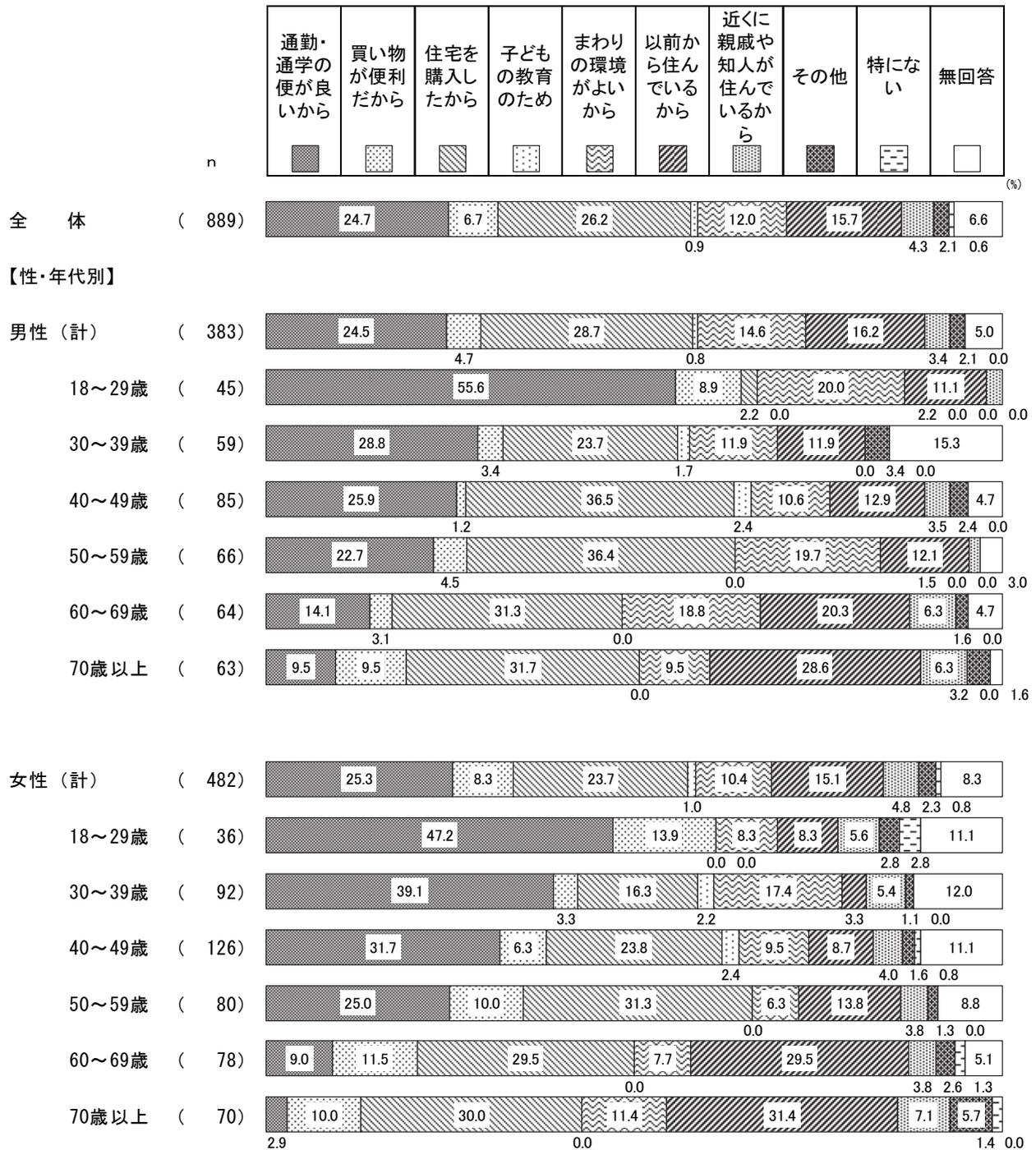


※「まわりの環境がよいから」は令和2年からの新規選択肢

性・年代別にみると、「通勤・通学の便が良いから」は男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が高く、男性 18～29 歳（55.6%）で 5 割半ばとなっている。「以前から住んでいるから」は男性 70 歳以上（28.6%）・女性 60～69 歳（29.5%）・女性 70 歳以上（31.4%）で 3 割前後と高くなっている。「まわりの環境がよいから」は男性（14.6%）が女性（10.4%）より 4.2 ポイント高くなっている。

（図表 1-4-3）

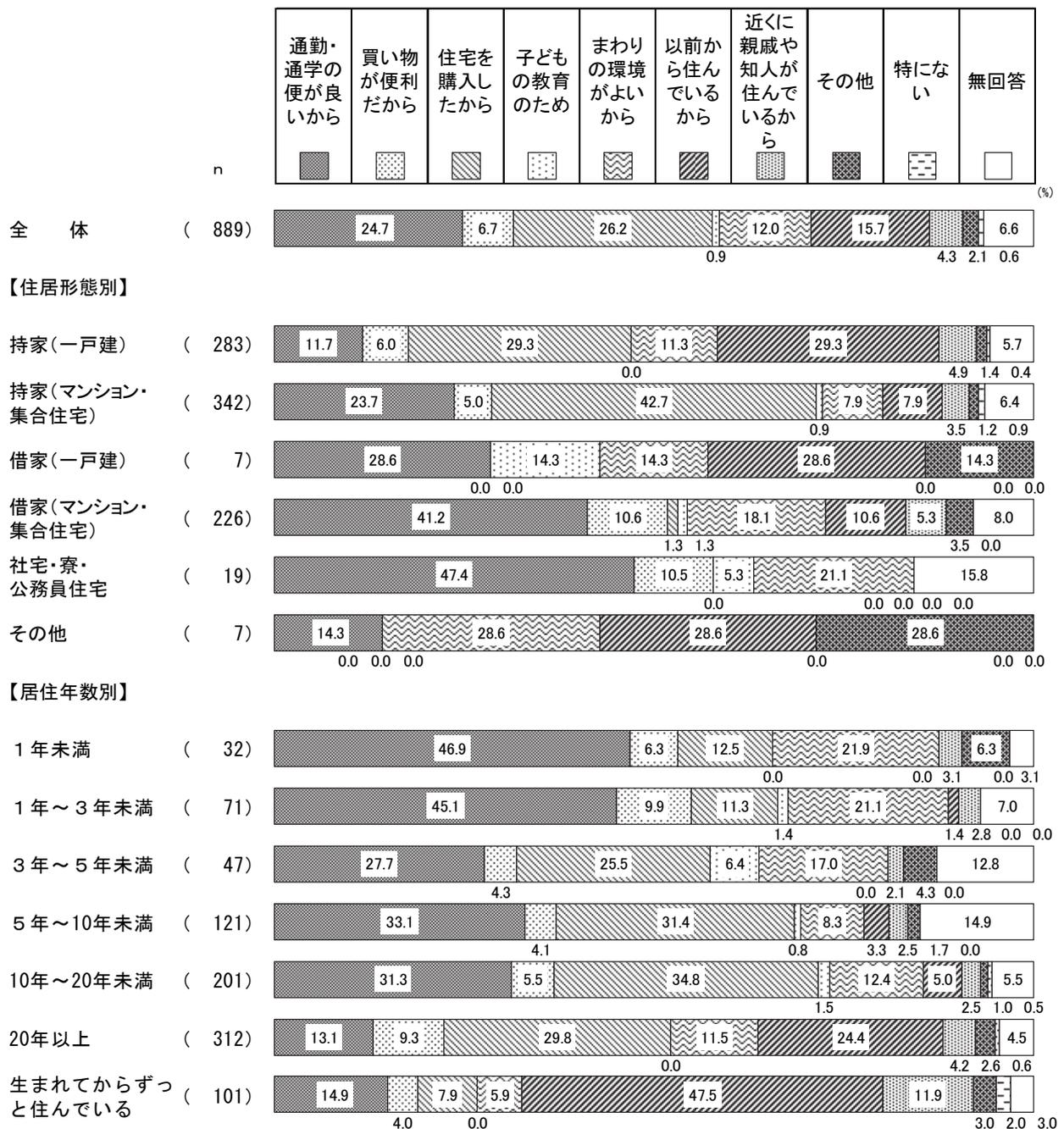
図表 1-4-3 定住したい理由—性・年代別



住居形態別にみると、「通勤・通学の便が良いから」は社宅・寮・公務員住宅（47.4%）・借家（マンション・集合住宅）（41.2%）で4割以上と高くなっている。「住宅を購入したから」は持家（マンション・集合住宅）（42.7%）で4割を超えて高くなっている。

居住年数別にみると、「通勤・通学の便が良いから」は1年未満（46.9%）・1年～3年未満（45.1%）で4割半ばと高くなっている。「住宅を購入したから」は10年～20年未満（34.8%）で3割半ばと高くなっている。「以前から住んでいるから」は生まれてからずっと住んでいる（47.5%）で5割近くとなっている。（図表1-4-4）

図表1-4-4 定住したい理由－住居形態別・居住年数別

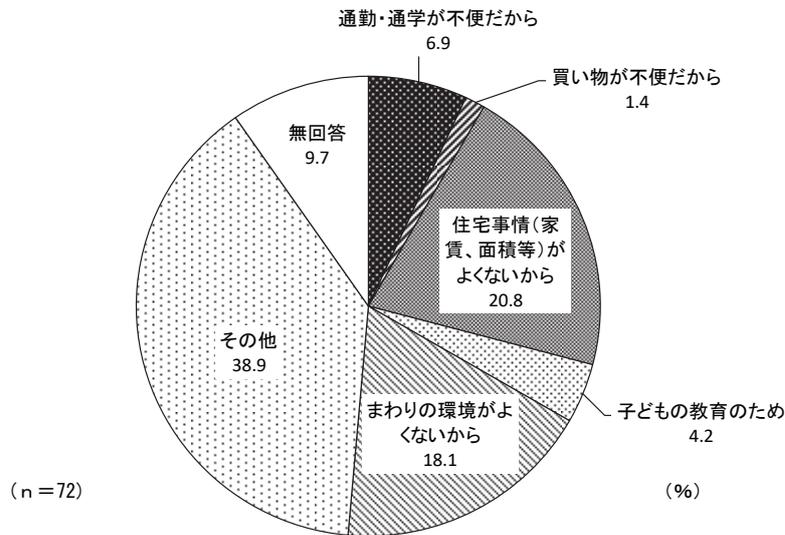


(5) 転出したい理由

(問2で、「できれば市内の他の区へ移りたい」、「できれば市外へ移りたい」と回答した方に)
 問2-2 中原区から移りたいという主な理由は何ですか。(〇は1つだけ)

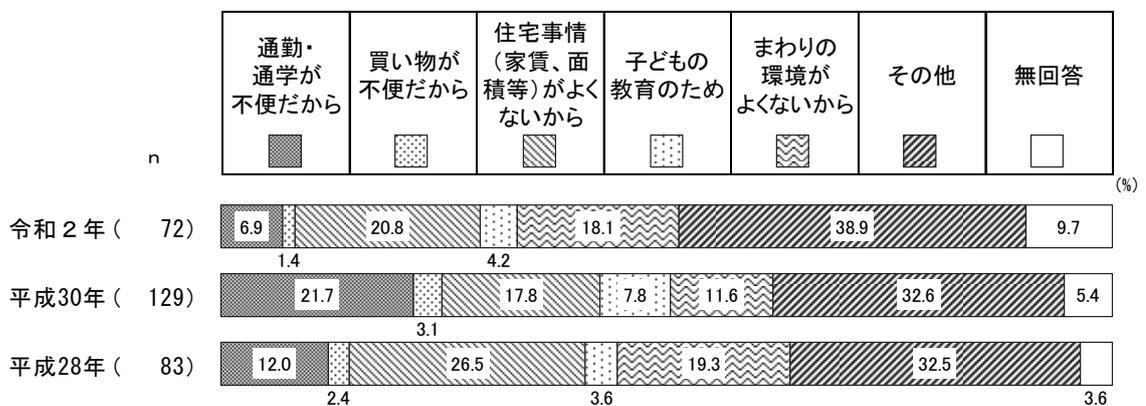
中原区から「できれば市内の他の区へ移りたい」、「できれば市外へ移りたい」と回答した方(72人)に、その理由を聞いたところ、「住宅事情(家賃、面積等)がよくないから」(20.8%)が約2割で最も高く、次いで「まわりの環境がよくないから」(18.1%)、「通勤・通学が不便だから」(6.9%)となっている。(図表1-5-1)

図表1-5-1 転出したい理由



過去の調査と比較すると、前回調査より「通勤・通学が不便だから」は14.8ポイント減少している。一方、「まわりの環境がよくないから」は6.5ポイント増加している。(図表1-5-2)

図表1-5-2 転出したい理由—過去の調査との比較



2 生活環境評価

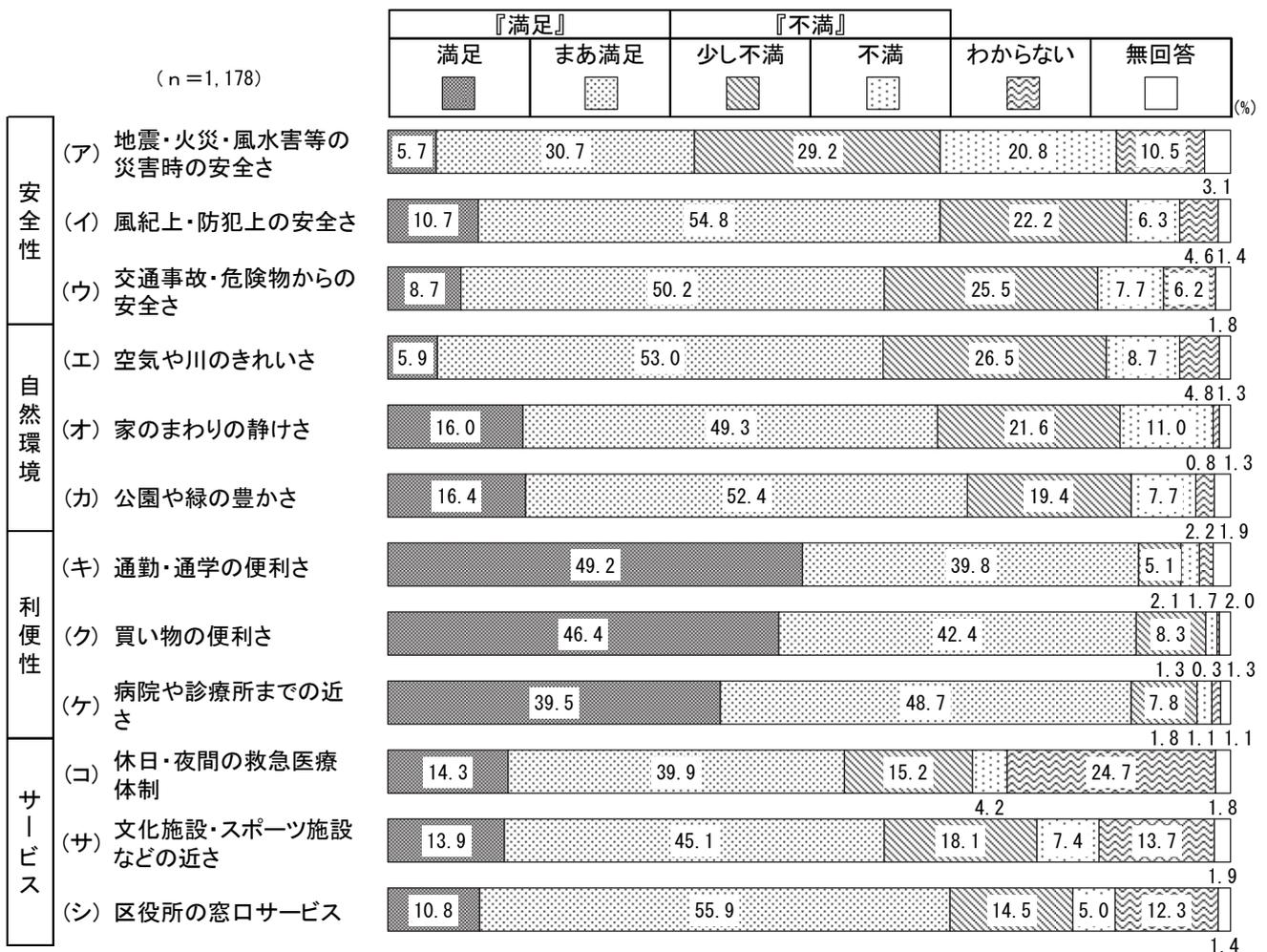
(1) 生活環境の満足度

問3 中原区の生活環境についてお伺いします。次にあげる(ア)から(シ)のそれぞれの項目についての程度満足していますか。各項目について1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

中原区の生活環境について、12項目に分けて満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』は、(キ)通勤・通学の便利さ(89.0%)が9割弱で最も高く、次いで(ク)買い物の便利さ(88.8%)、(ケ)病院や診療所までの近さ(88.2%)となっている。

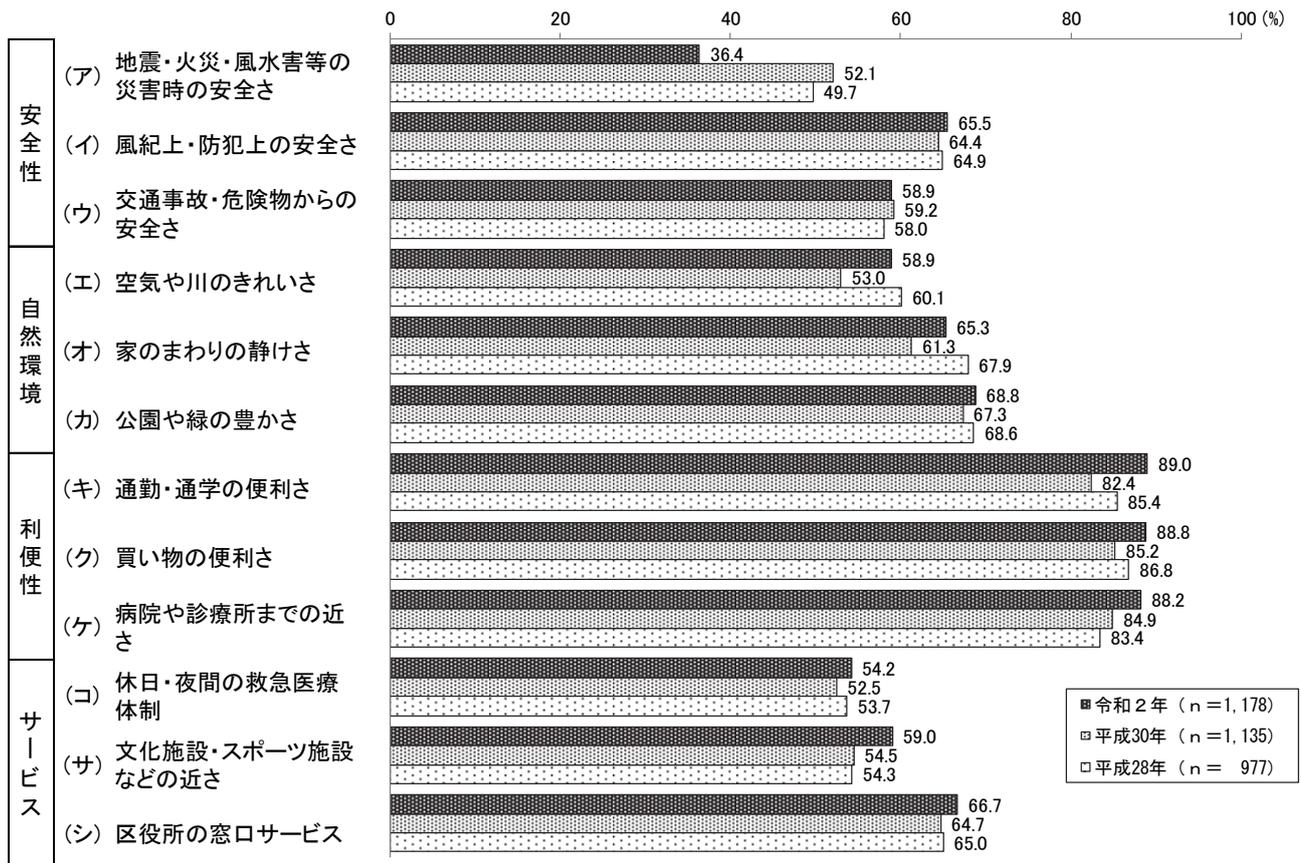
一方、「少し不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』は、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(50.0%)が5割で最も高く、次いで(エ)空気や川のきれいさ(35.2%)、(オ)家のまわりの静けさ(32.6%)となっている。(図表2-1-1)

図表2-1-1 生活環境の満足度



「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』を過去の調査と比較すると、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(36.4%)が平成30年より15.7ポイント減少している。一方、(サ)文化施設・スポーツ施設などの近さ(59.0%)が平成30年より5.5ポイント増加している。また、(キ)通勤・通学の便利さ(89.0%)・(ク)買物の便利さ(88.8%)・(ケ)病院や診療所までの近さ(88.2%)はいずれも9割近くとなり、過去2回の調査と比べて高くなっている。(図表2-1-2)

図表2-1-2 生活環境の満足度－『満足』の過去の調査との比較



12項目にわたる生活環境の満足度の相互の比較をしやすくするために、以下のような加重平均値の計算式を用いた評価点を算出した。

$$\text{評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「少し不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、評価点は+2.00点～-2.00点の間に分布し、+2点に近くなるほど満足度が高く、逆に-2点に近くなるほど満足度が低くなる。

評価点の計算結果および地区別の評価点の計算結果は、以下の図表2-1-3のとおりである。

図表2-1-3 生活環境の満足度—居住地区別

	中原区全体	小杉地区	玉川地区	大戸地区	丸子地区	住吉地区
(ア) 地震・火災・風水害等の災害時の安全さ	-0.33	-0.44	-0.81	-0.04	-1.06	0.05
(イ) 風紀上・防犯上の安全さ	0.44	0.60	0.43	0.35	0.44	0.47
(ウ) 交通事故・危険物からの安全さ	0.29	0.35	0.35	0.27	0.38	0.26
(エ) 空気や川のきれいさ	0.22	0.25	0.21	0.26	0.21	0.18
(オ) 家のまわりの静けさ	0.39	0.42	0.35	0.49	-0.16	0.55
(カ) 公園や緑の豊かさ	0.52	0.56	0.54	0.54	0.21	0.65
(キ) 通勤・通学の便利さ	1.34	1.49	1.43	1.12	1.58	1.32
(ク) 買い物の便利さ	1.26	1.35	1.03	1.27	1.45	1.25
(ケ) 病院や診療所までの近さ	1.19	1.35	0.92	1.05	1.55	1.25
(コ) 休日・夜間の救急医療体制	0.61	0.74	0.58	0.52	0.93	0.57
(サ) 文化施設・スポーツ施設などの近さ	0.47	0.64	0.25	0.62	0.65	0.22
(シ) 区役所の窓口サービス	0.61	0.77	0.61	0.53	0.78	0.54

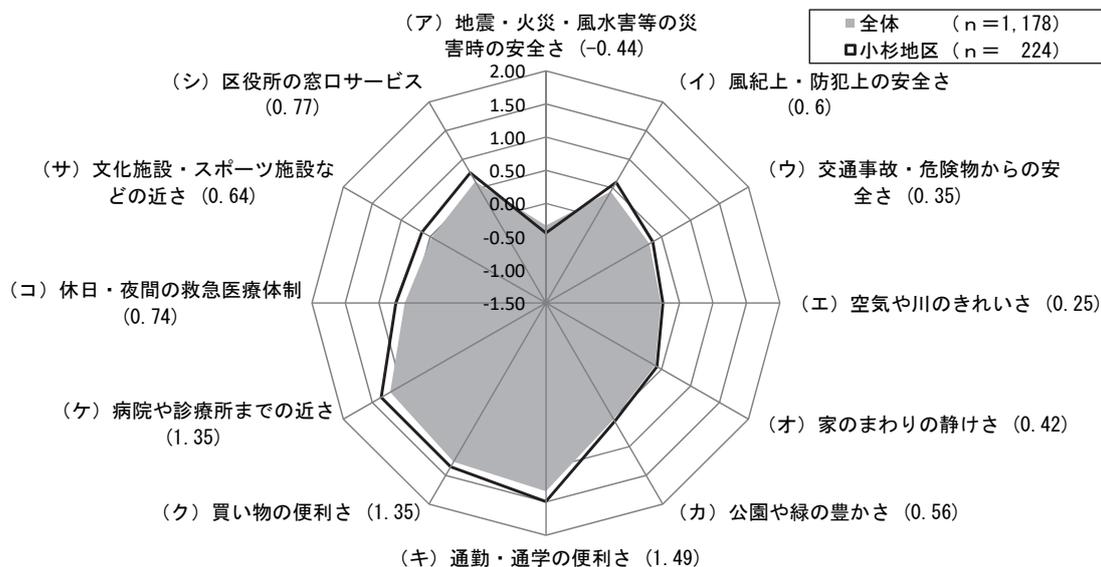
※図表中の網かけは、各項目で中原区全体と比べて低い値であることを示す。

また、以下の図表2-1-4～図表2-1-8において、各居住地区の生活環境の満足度の評価点を、中原区全体と比較して示した。

さらに、以下の図表2-1-9と図表2-1-10において、問2（定住意向）の質問で「これからも住んでいたい」と答えた人と、「できれば市内の他の所へ移りたい」または「できれば市外へ移りたい」と答えた人の間で、どの項目で生活環境の満足度の評価の違いが大きいか、中原区全体と比較して示した。

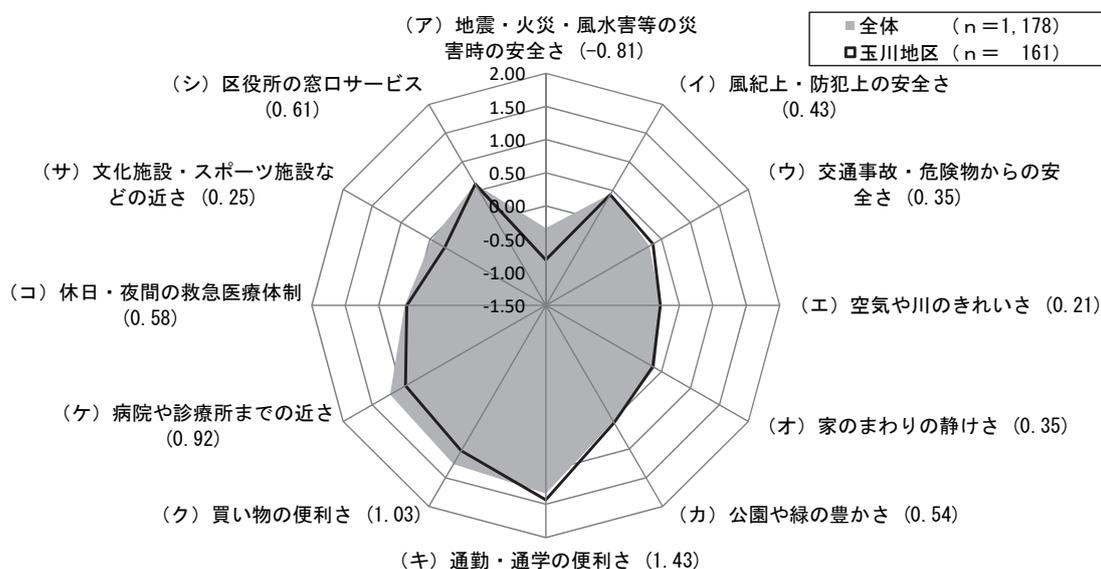
小杉地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(サ)文化施設・スポーツ施設などの近さ(+0.17)、(イ)風紀上・防犯上の安全さ、(ケ)病院や診療所までの近さ、(シ)区役所の窓口サービス(いずれも+0.16)など計11項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(-0.11)となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-4 生活環境の満足度の評価点—小杉地区



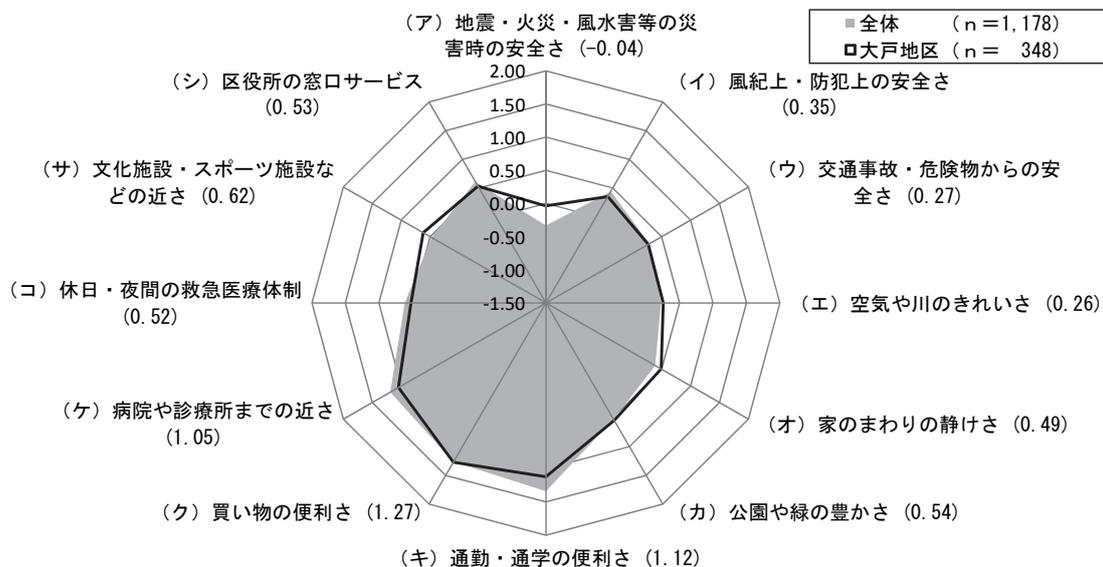
玉川地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(キ)通勤・通学の便利さ(+0.09)、(ウ)交通事故・危険物からの安全さ(+0.06)など計3項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(-0.48)、(ケ)病院や診療所までの近さ(-0.27)など計8項目となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 生活環境の満足度の評価点—玉川地区



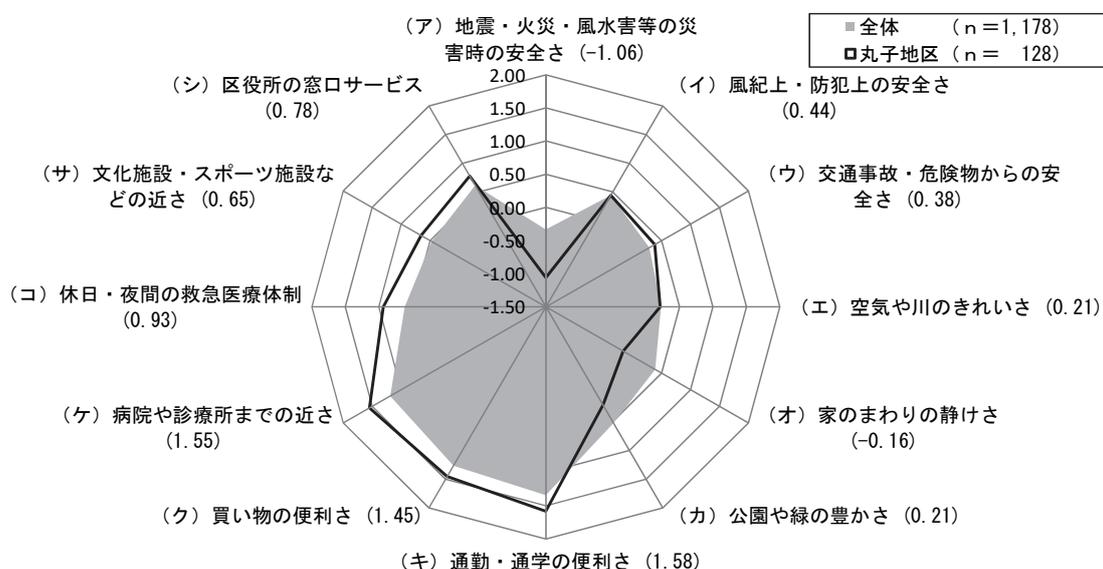
大戸地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(+0.29)、(サ)文化施設・スポーツ施設などの近さ(+0.15)など計6項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(キ)通勤・通学の便利さ(-0.22)、(ケ)病院や診療所までの近さ(-0.14)など計6項目となっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 生活環境の満足度の評価点—大戸地区



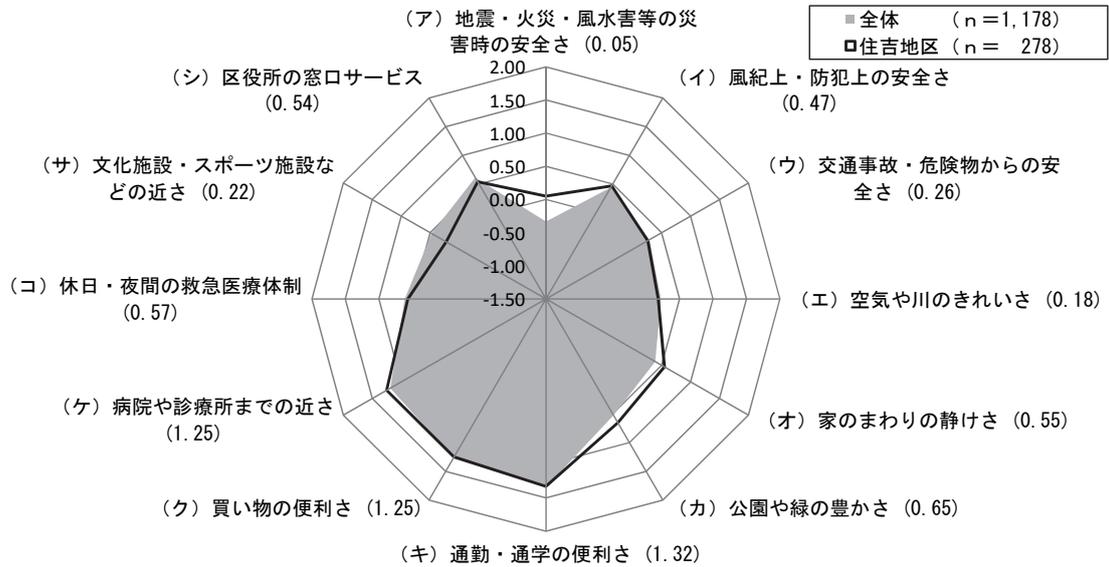
丸子地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(ケ)病院や診療所までの近さ(+0.36)、(コ)休日・夜間の救急医療体制(+0.32)など計7項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(-0.73)、(オ)家のまわりの静けさ(-0.55)など計4項目となっている。(図表2-1-7)

図表2-1-7 生活環境の満足度の評価点—丸子地区



住吉地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(+0.38)、(オ)家のまわりの静けさ(+0.16)など計5項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(サ)文化施設・スポーツ施設などの近さ(-0.25)、(シ)区役所の窓口サービス(-0.07)など計7項目となっている。(図表2-1-8)

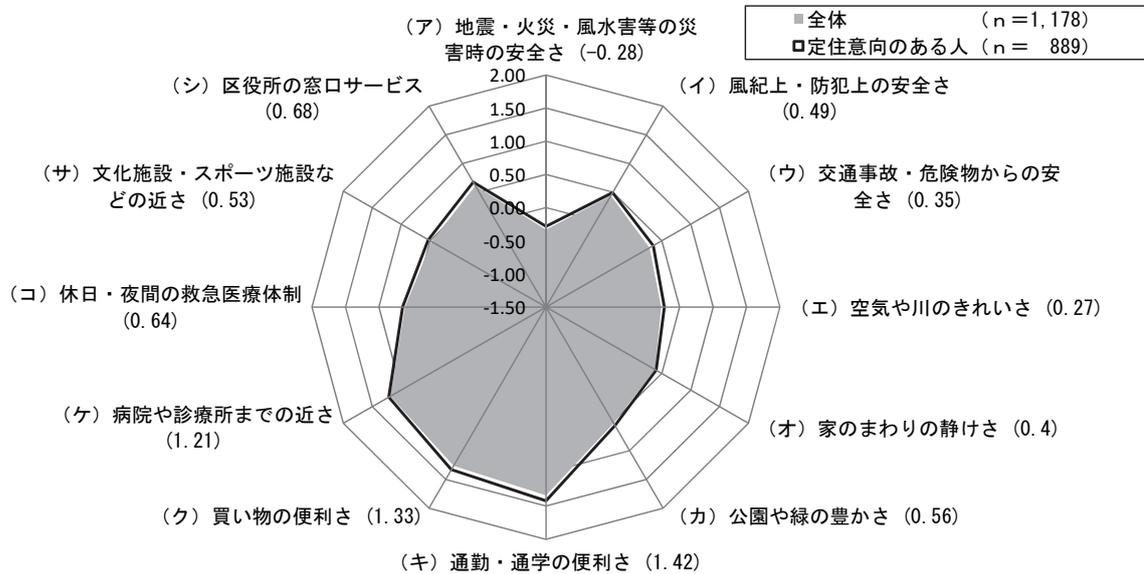
図表2-1-8 生活環境の満足度の評価点—住吉地区



問2で、今のところに「これからも住んでいたい」と答えた、定住意向のある人（889人）でみると、すべての項目で中原区全体と比べて評価が高くなっており、特に（キ）通勤・通学の便利さ（+0.08）、（ク）買い物の便利さ、（シ）区役所の窓口サービス（いずれも+0.07）の評価が高くなっている。

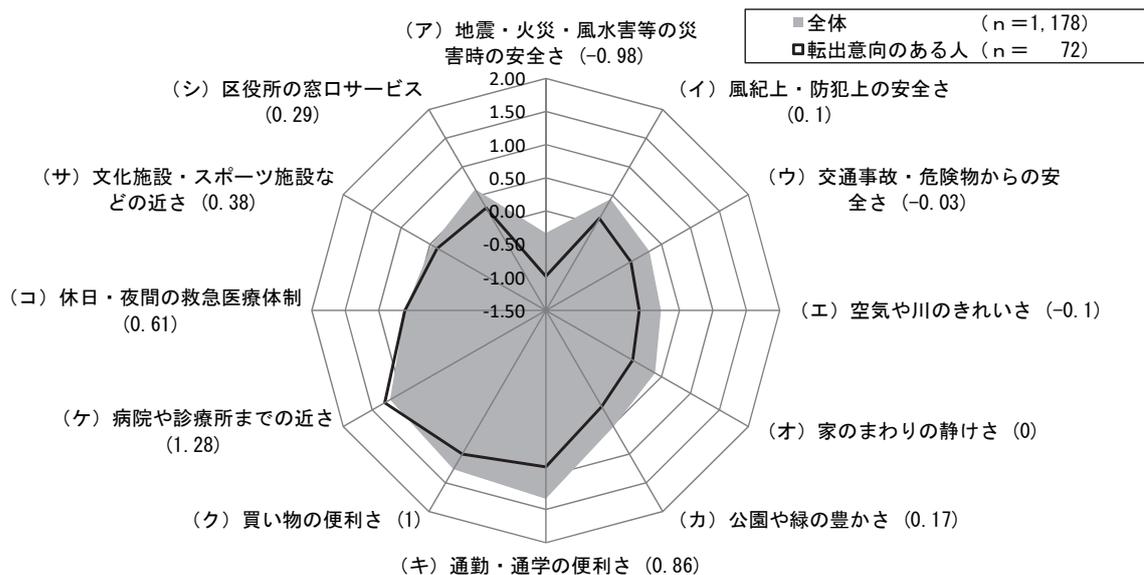
（図表2-1-9）

図表2-1-9 生活環境の満足度の評価点—定住意向のある人



問2で、今のところから「できれば市内の他の区へ移りたい」または「できれば市外へ移りたい」と答えた、転出意向のある人（72人）でみると、すべての項目で中原区全体と比べて評価が低くなっており、特に（ア）地震・火災・風水害等の災害時の安全さ（-0.65）、（キ）通勤・通学の便利さ（-0.48）の評価が低くなっている。（図表2-1-10）

図表2-1-10 生活環境の満足度の評価点—転出意向のある人

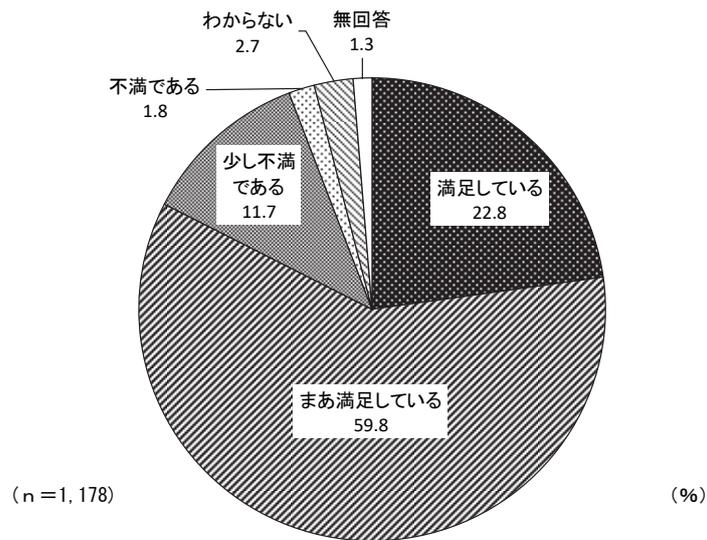


(2) 生活環境全体の満足度

問4 地域の生活環境を総合的にみた場合、中原区にどの程度満足していますか。(○は1つだけ)

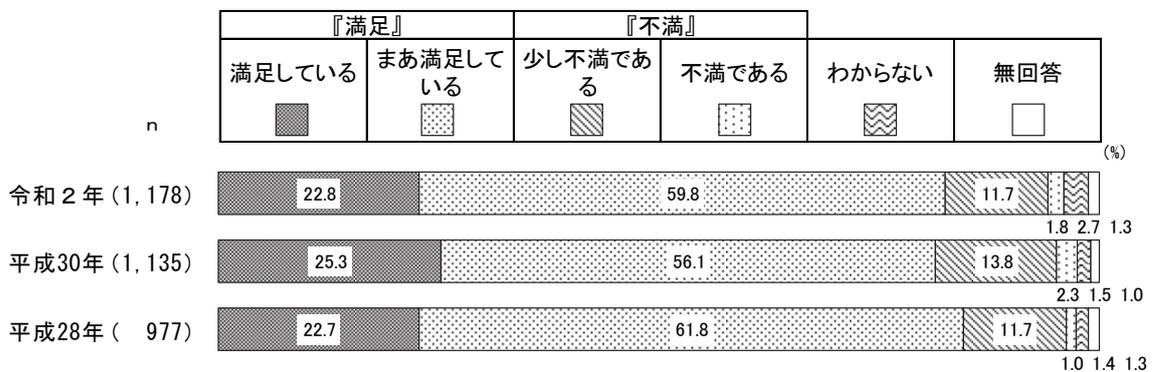
地域の生活環境を総合的にみた場合、中原区にどの程度満足しているか聞いたところ、「満足している」(22.8%)と「まあ満足している」(59.8%)の2つを合わせた『満足』(82.6%)が8割を超えて高くなっている。一方、「少し不満である」(11.7%)と「不満である」(1.8%)の2つを合わせた『不満』(13.5%)が1割を超えている。(図表2-2-1)

図表2-2-1 生活環境全体の満足度



過去の調査と比較すると、『満足』・『不満』で大きな差はみられない。(図表2-2-2)

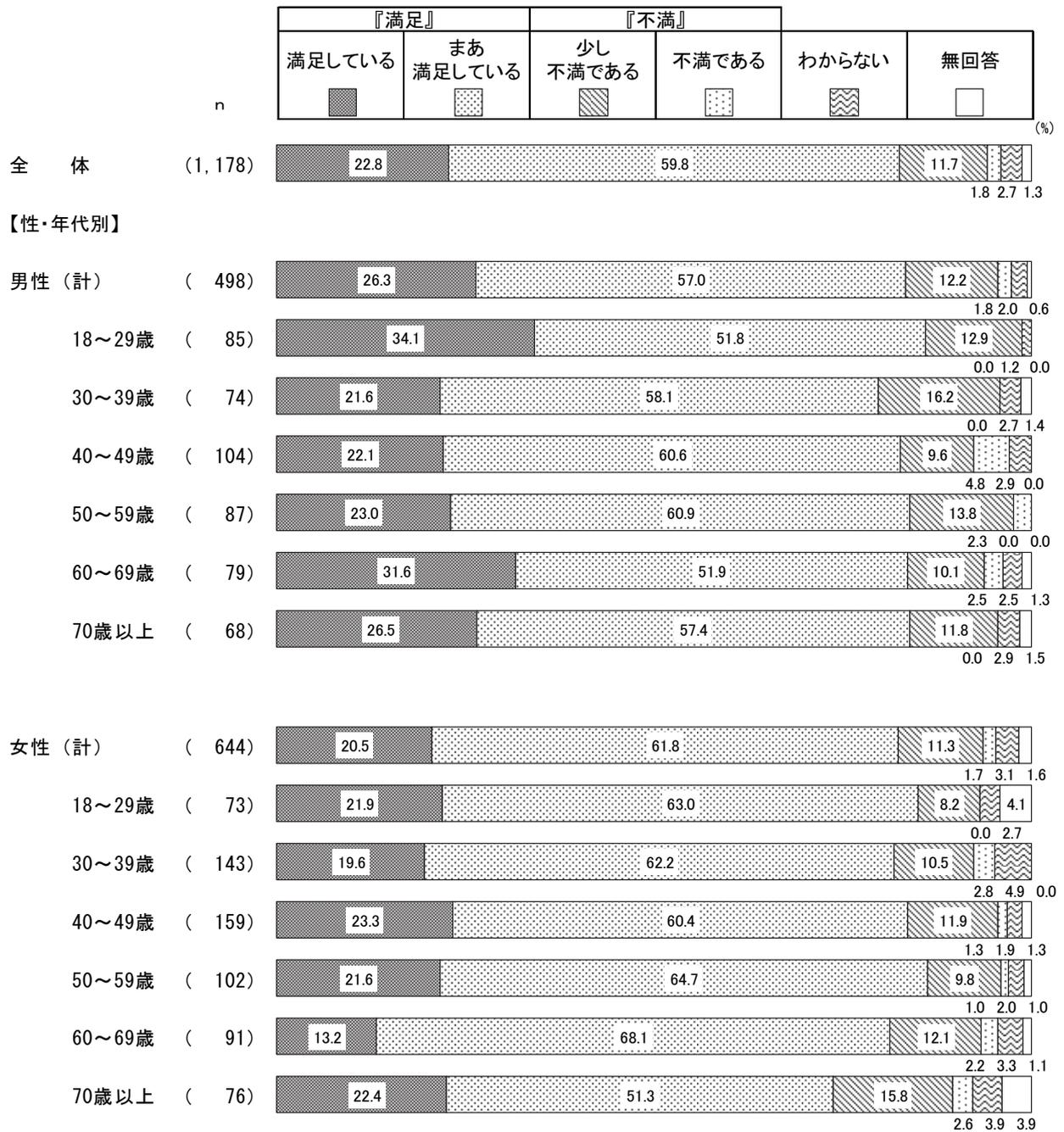
図表2-2-2 生活環境全体の満足度—過去の調査との比較



性・年代別にみると、『満足』は男性 18～29 歳（85.9%）・女性 50～59 歳（86.5%）で 8 割半ば以上と高くなっている。一方、『不満』は女性 70 歳以上（18.4%）で 2 割近くと高くなっている。

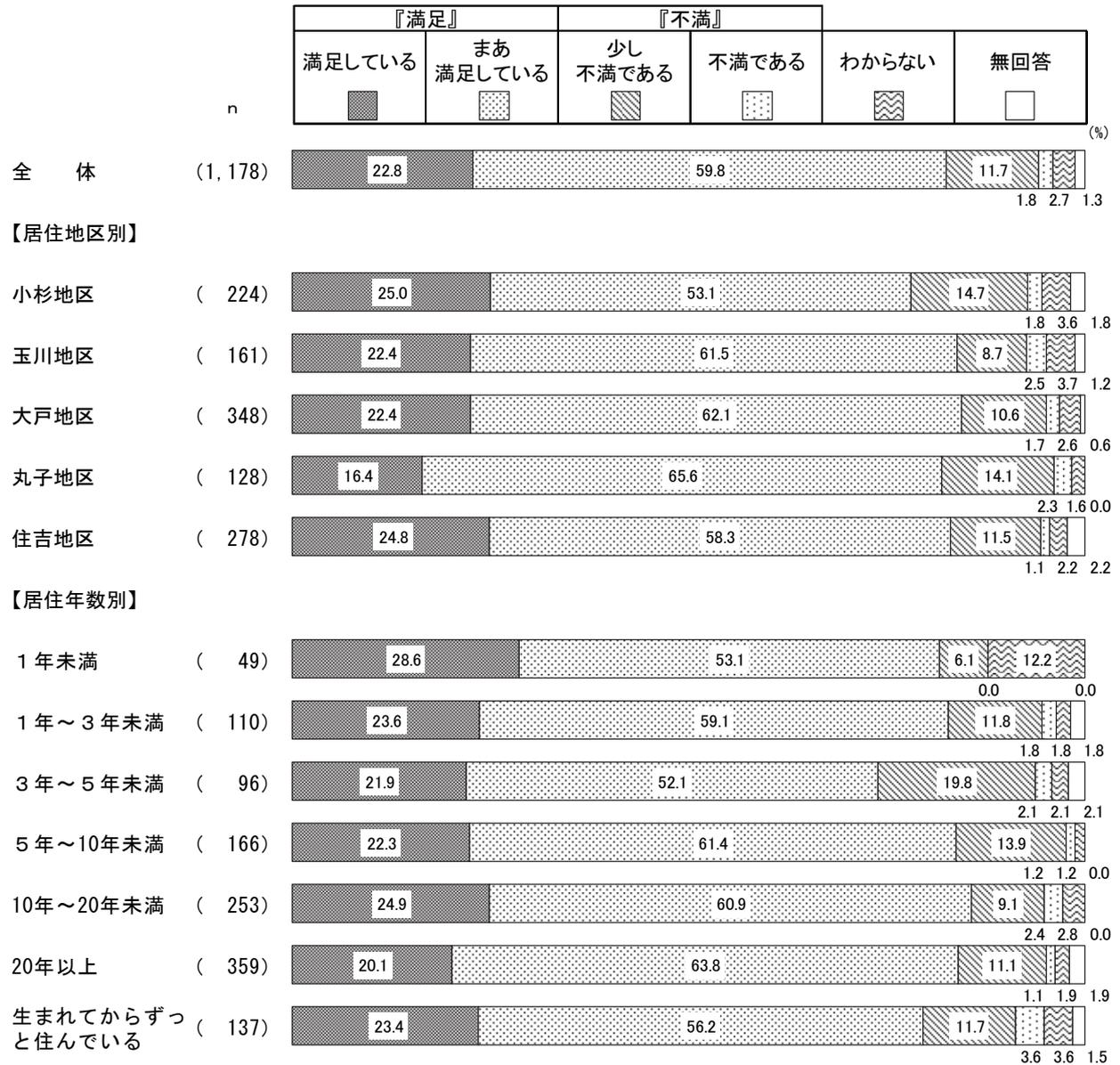
（図表 2-2-3）

図表 2-2-3 生活環境全体の満足度－性・年代別



居住地区別にみると、『満足』は大戸地区（84.5%）が8割半ばと最も高くなっている。
 居住年数別にみると、『満足』は10年～20年未満（85.8%）が8割半ばと最も高く、『不満』は3年～5年未満（21.9%）が2割を超えて最も高くなっている。（図表2-2-4）

図表2-2-4 生活環境全体の満足度－居住地区別・居住年数別

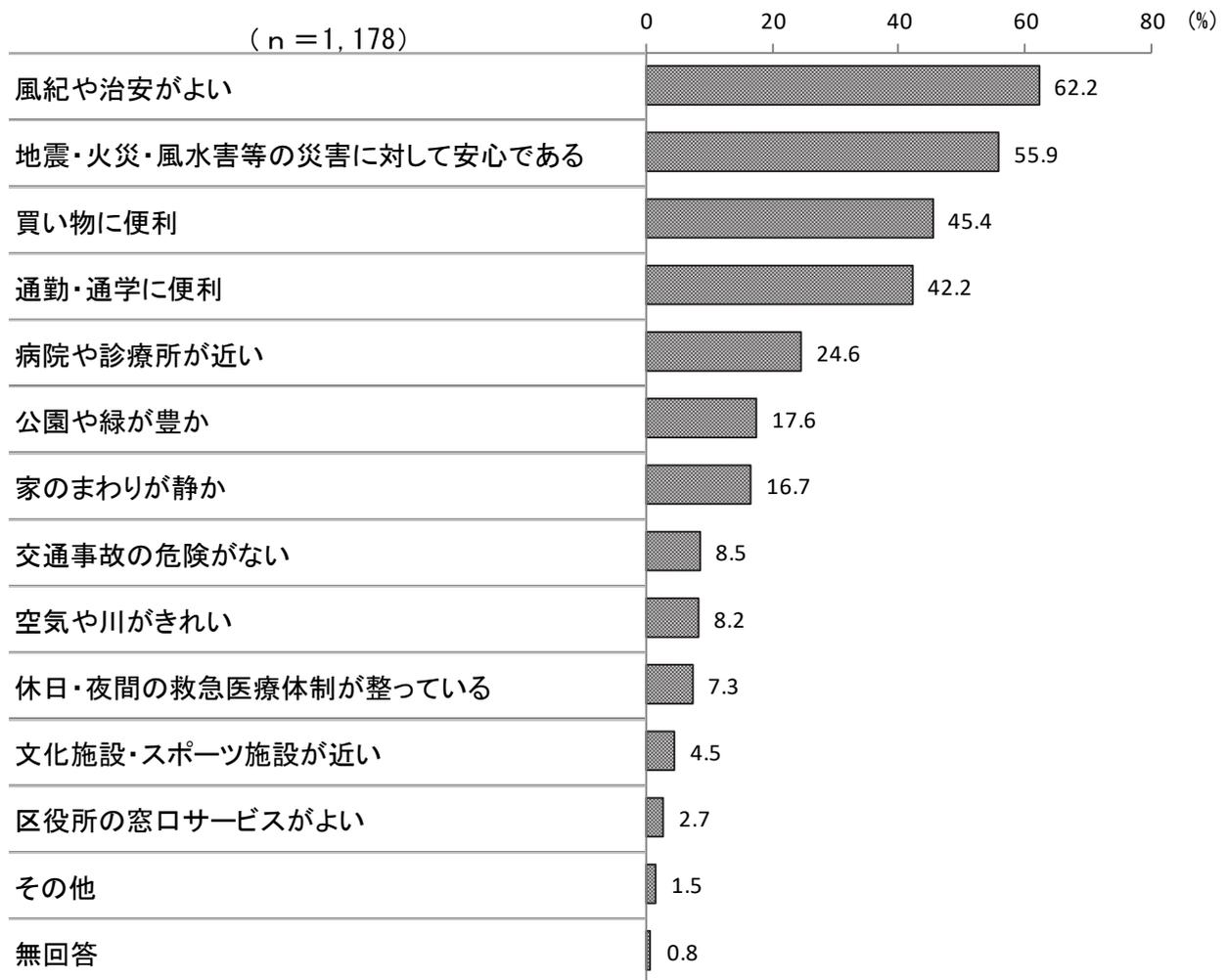


(3) 住みよい環境についての意識

問5 住みよい環境とは、どのようなものだと思いますか。(〇は3つまで)

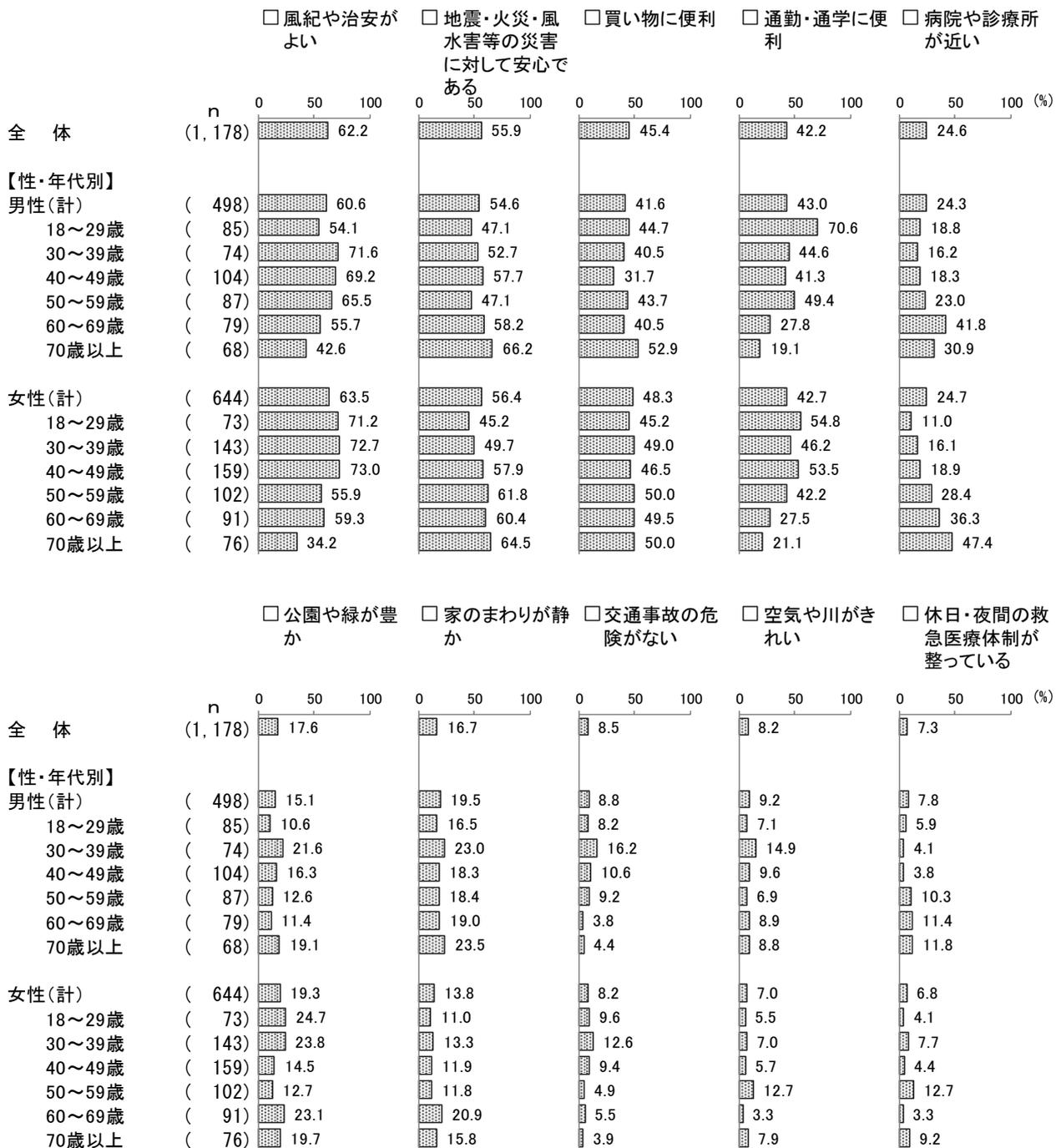
住みよい環境とは、どのようなものだと思うか聞いたところ、「風紀や治安がよい」(62.2%)が6割を超えて最も高く、次いで「地震・火災・風水害等の災害に対して安心である」(55.9%)、「買い物に便利」(45.4%)、「通勤・通学に便利」(42.2%)となっている。(図表2-3-1)

図表2-3-1 住みよい環境についての意識



性・年代別にみると、「風紀や治安がよい」は男性 30～39 歳（71.6%）・女性 18～29 歳（71.2%）・30～39 歳（72.7%）・40～49 歳（73.0%）で 7 割を超えて高くなっている。「地震・火災・風水害等の災害に対して安心である」は男性 70 歳以上（66.2%）女性 70 歳以上（64.5%）で 6 割半ば以上と高くなっている。「買い物に便利」は男性 70 歳以上（52.9%）・女性 50～59 歳（50.0%）・女性 70 歳以上（50.0%）が 5 割以上と高くなっている。（図表 2-3-2）

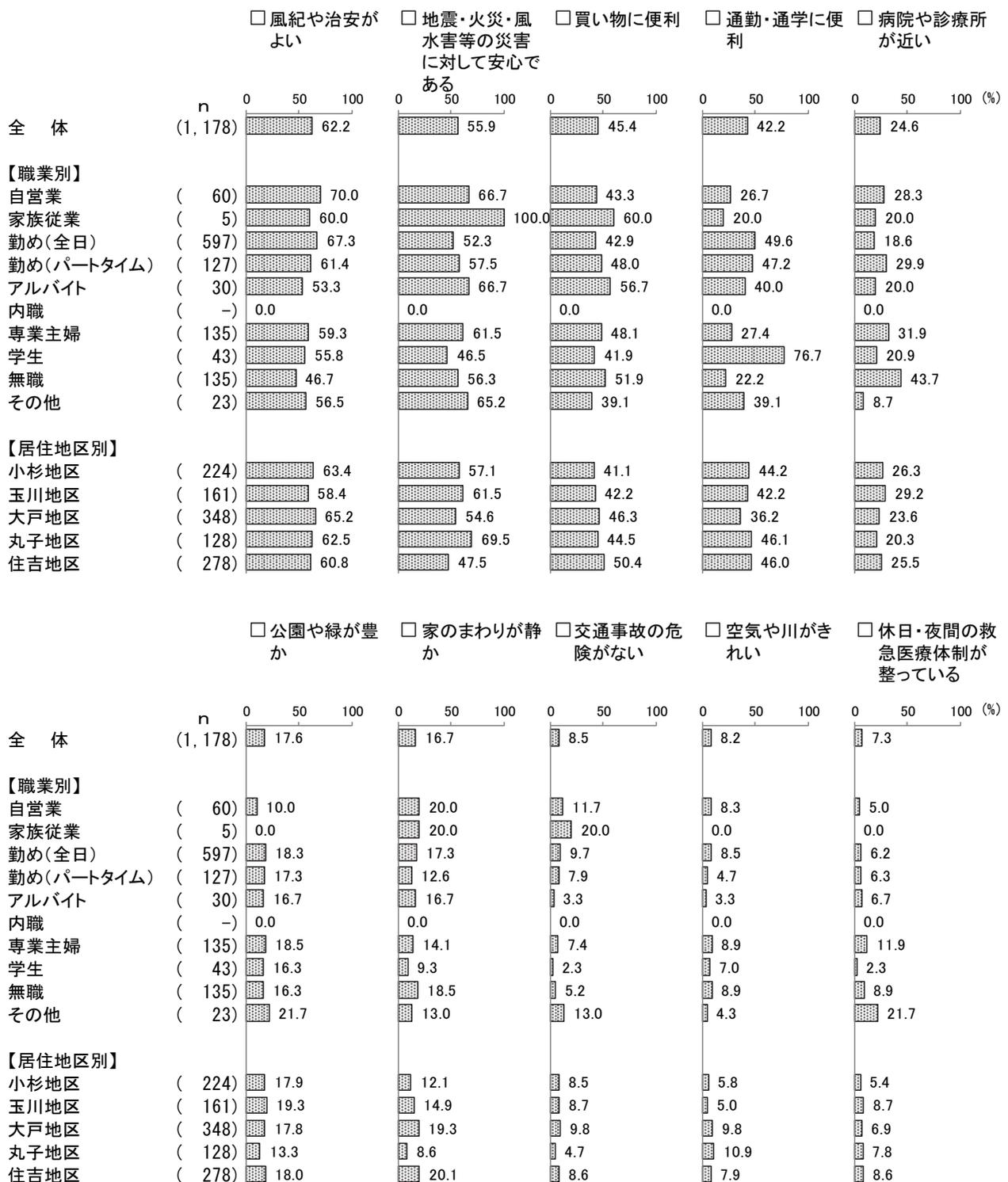
図表 2-3-2 住みよい環境についての意識—性・年代別（上位 10 項目）



職業別にみると、「風紀や治安がよい」について自営業（70.0%）で7割と高くなっている。「通勤・通学に便利」は学生（76.7%）が7割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「地震・火災・風水害等の災害に対して安心である」は丸子地区（69.5%）が約7割と高くなっている。（図表2-3-3）

図表2-3-3 住みよい環境についての意識—職業別・居住地区別



3 区役所業務の評価・区のイメージ

(1) 満足している区役所の業務

問6 次にあげる区役所の業務で、よくやっていると思うものは、どれですか。(〇はいくつでも)

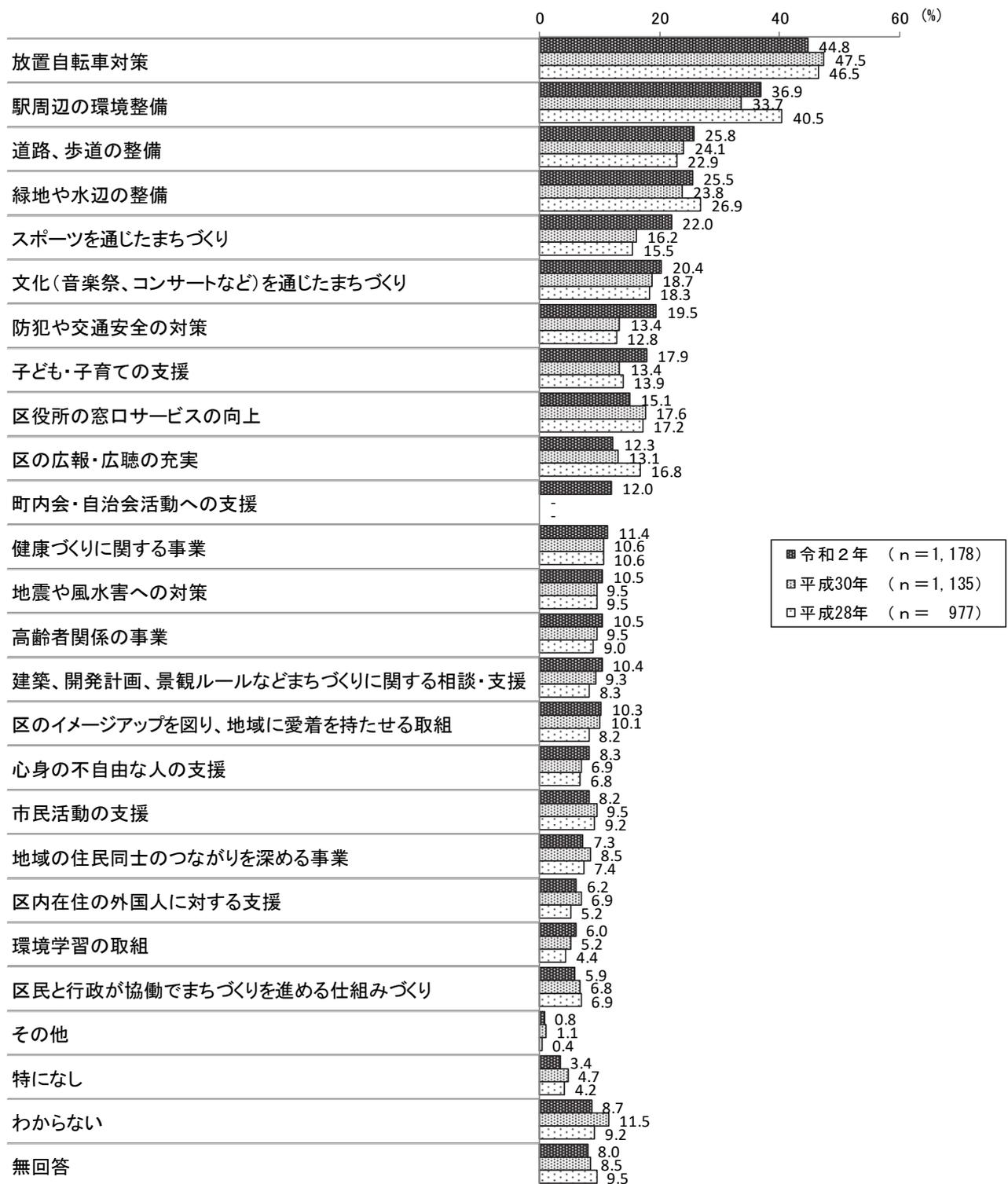
区役所の業務で、よくやっていると思うものを聞いたところ、「放置自転車対策」(44.8%)が4割半ばで最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(36.9%)、「道路、歩道の整備」(25.8%)、「緑地や水辺の整備」(25.5%)となっている。(図表3-1-1)

図表3-1-1 満足している区役所の業務



過去の調査と比較すると、「スポーツを通じたまちづくり」(22.0%)・「防犯や交通安全の対策」(19.5%)・「子ども・子育ての支援」(17.9%)が増加している。一方、「放置自転車対策」は前回調査より2.7ポイント減少している。(図表3-1-2)

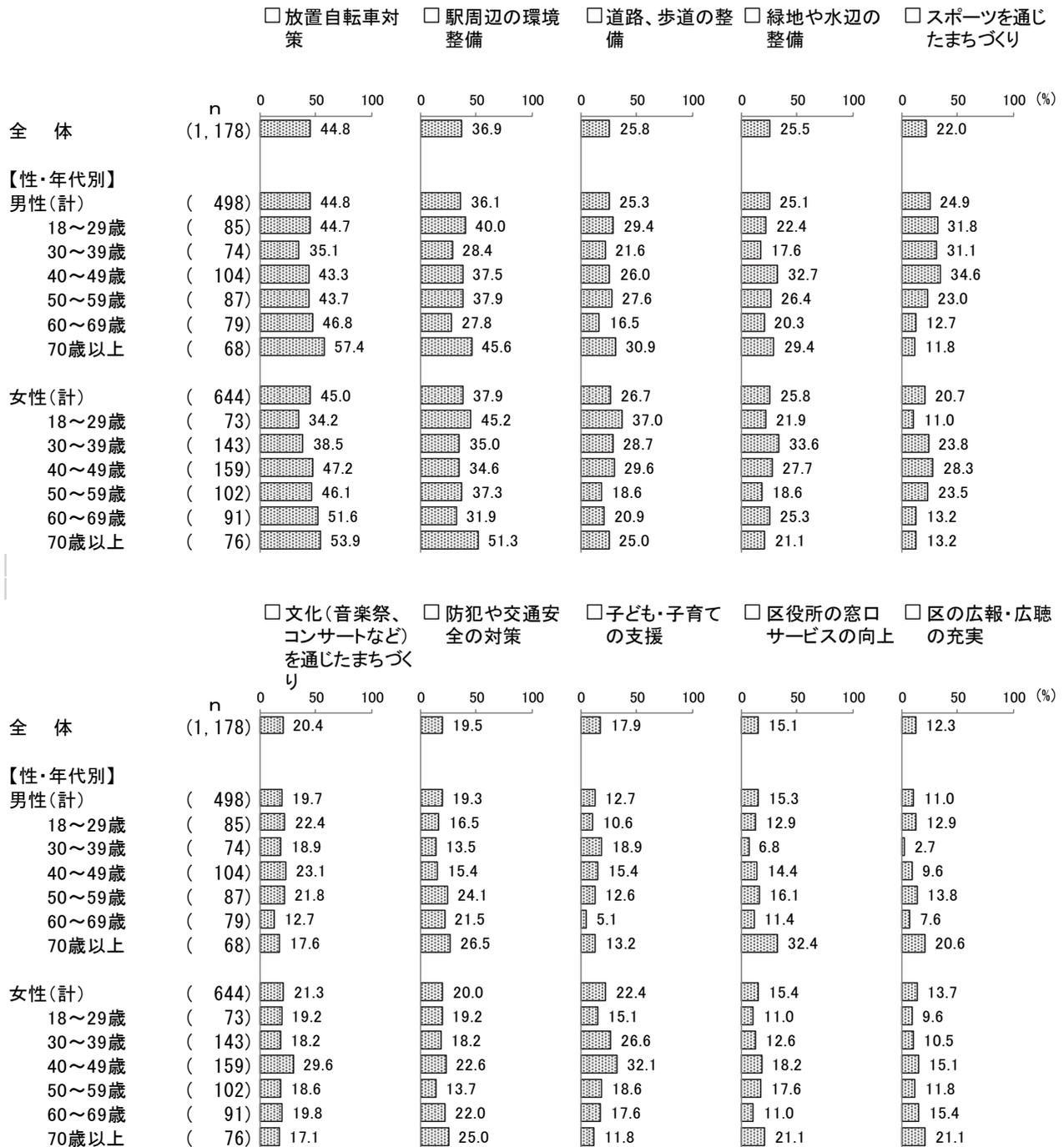
図表3-1-2 満足している区役所の業務—過去の調査との比較



※「町内会・自治会活動への支援」は令和2年からの新規選択肢

性・年代別にみると、「放置自転車対策」は男性70歳以上（57.4%）・女性60～69歳（51.6%）・女性70歳以上（53.9%）で5割以上と高くなっている。また、「駅周辺の環境整備」は男性70歳以上（45.6%）・女性70歳以上（51.3%）で4割半ば以上、「道路、歩道の整備」は女性18～29歳（37.0%）で4割近くと高くなっている。（図表3-1-3）

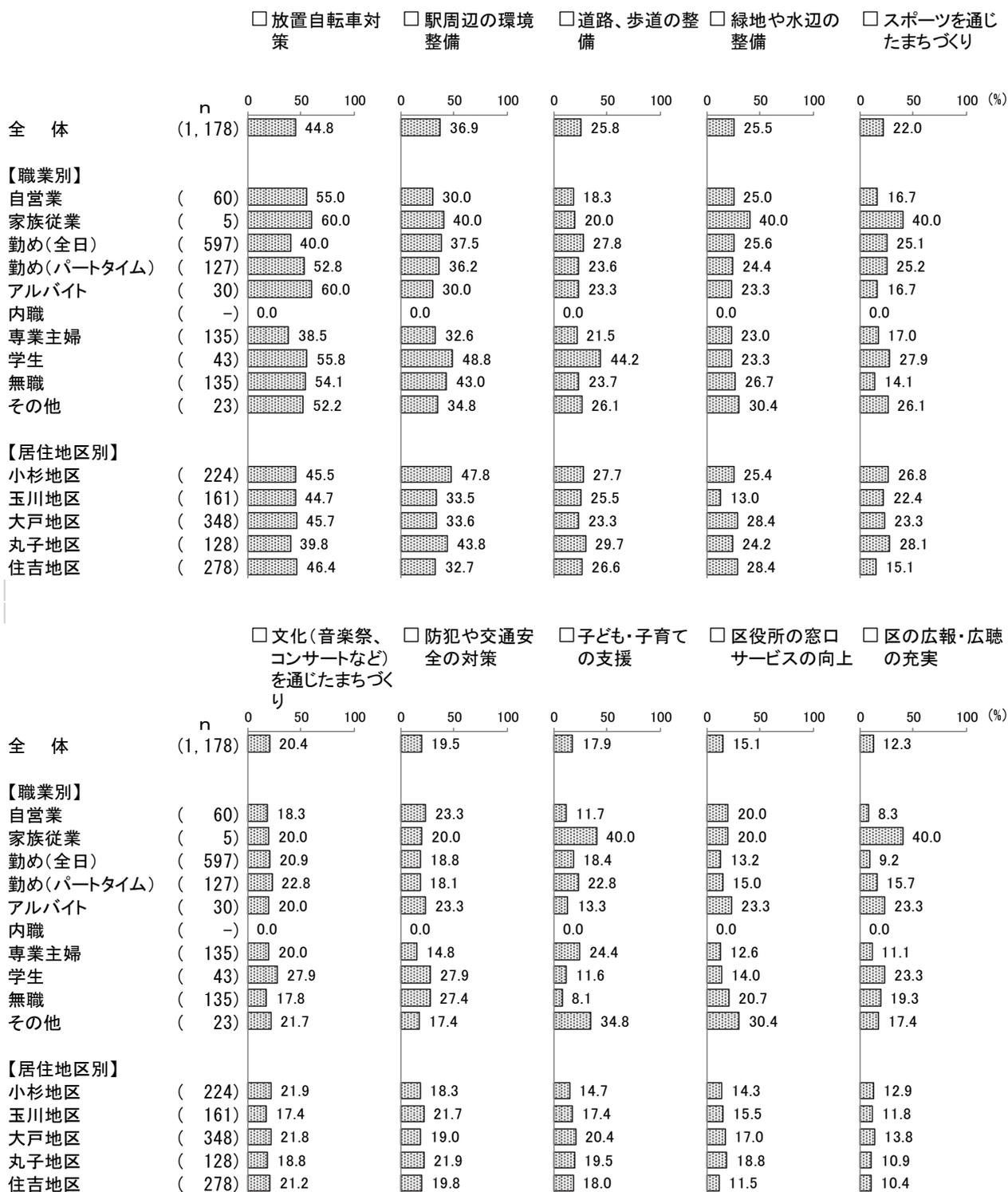
図表3-1-3 満足している区役所の業務一性・年代別（上位10項目）



職業別にみると、「放置自転車対策」はアルバイト（60.0%）が6割と高くなっている。また、「駅周辺の環境整備」は学生（48.8%）が5割近く、「道路、歩道の整備」は学生（44.2%）が4割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「放置自転車対策」は住吉地区（46.4%）が、「駅周辺の環境整備」は小杉地区（47.8%）が高くなっている。（図表3-1-4）

図表3-1-4 満足している区役所の業務—職業別・居住地区別（上位10項目）



(2) 力を入れてほしい区役所の業務

問7 今後、特に力を入れてほしいと思うものは、どれですか。(〇はいくつでも)

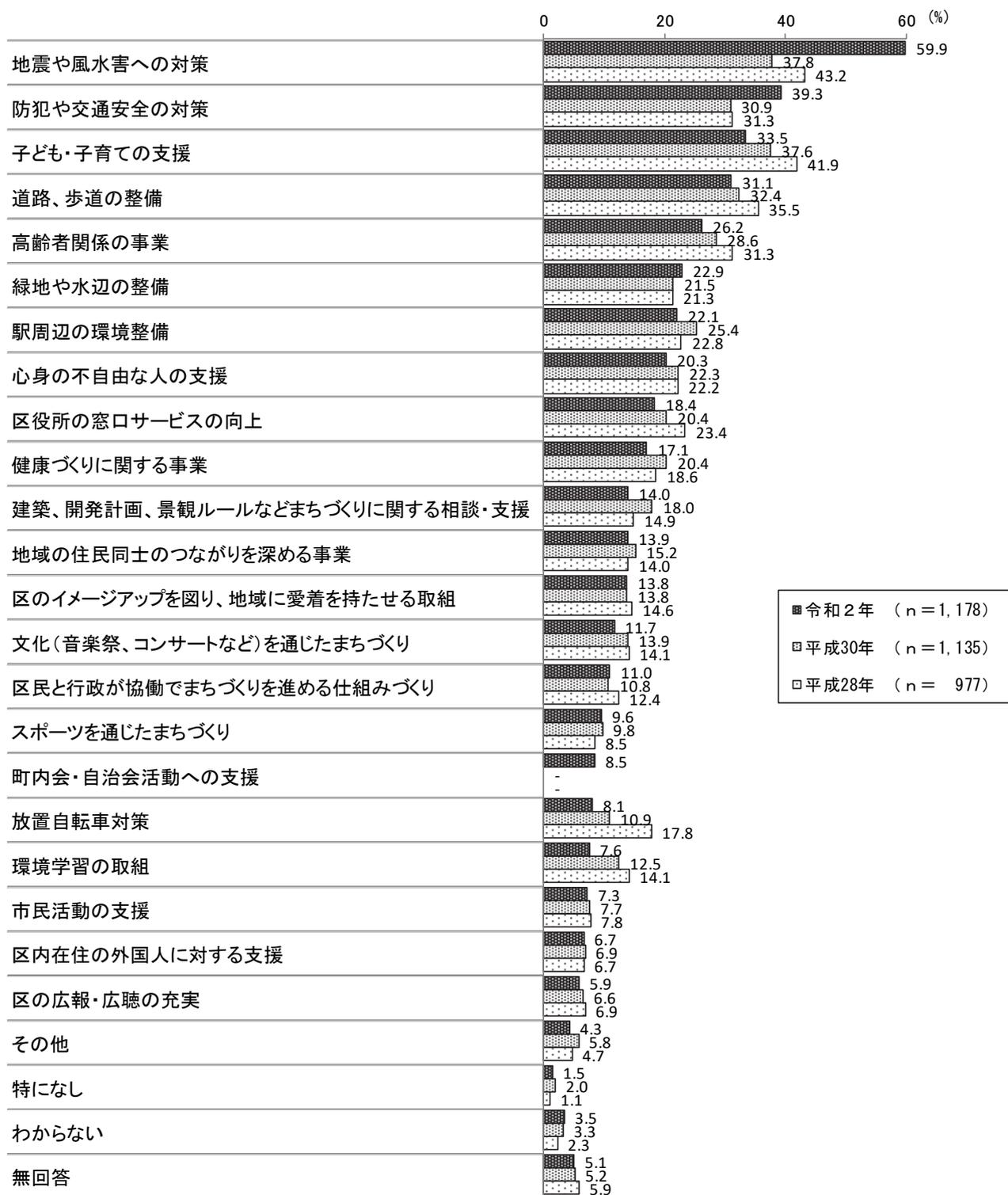
区役所の業務で、今後、特に力を入れてほしいと思うものを聞いたところ、「地震や風水害への対策」(59.9%)が約6割で最も高く、次いで「防犯や交通安全の対策」(39.3%)、「子ども・子育ての支援」(33.5%)、「道路、歩道の整備」(31.1%)となっている。(図表3-2-1)

図表3-2-1 力を入れてほしい区役所の業務



過去の調査と比較すると、「地震や風水害への対策」は前回調査より 22.1 ポイント、「防犯や交通安全の対策」は前回調査より 8.4 ポイント増加している。また、「子ども・子育ての支援」・「道路、歩道の整備」・「高齢者関係の事業」は減少傾向にある。（図表 3-2-2）

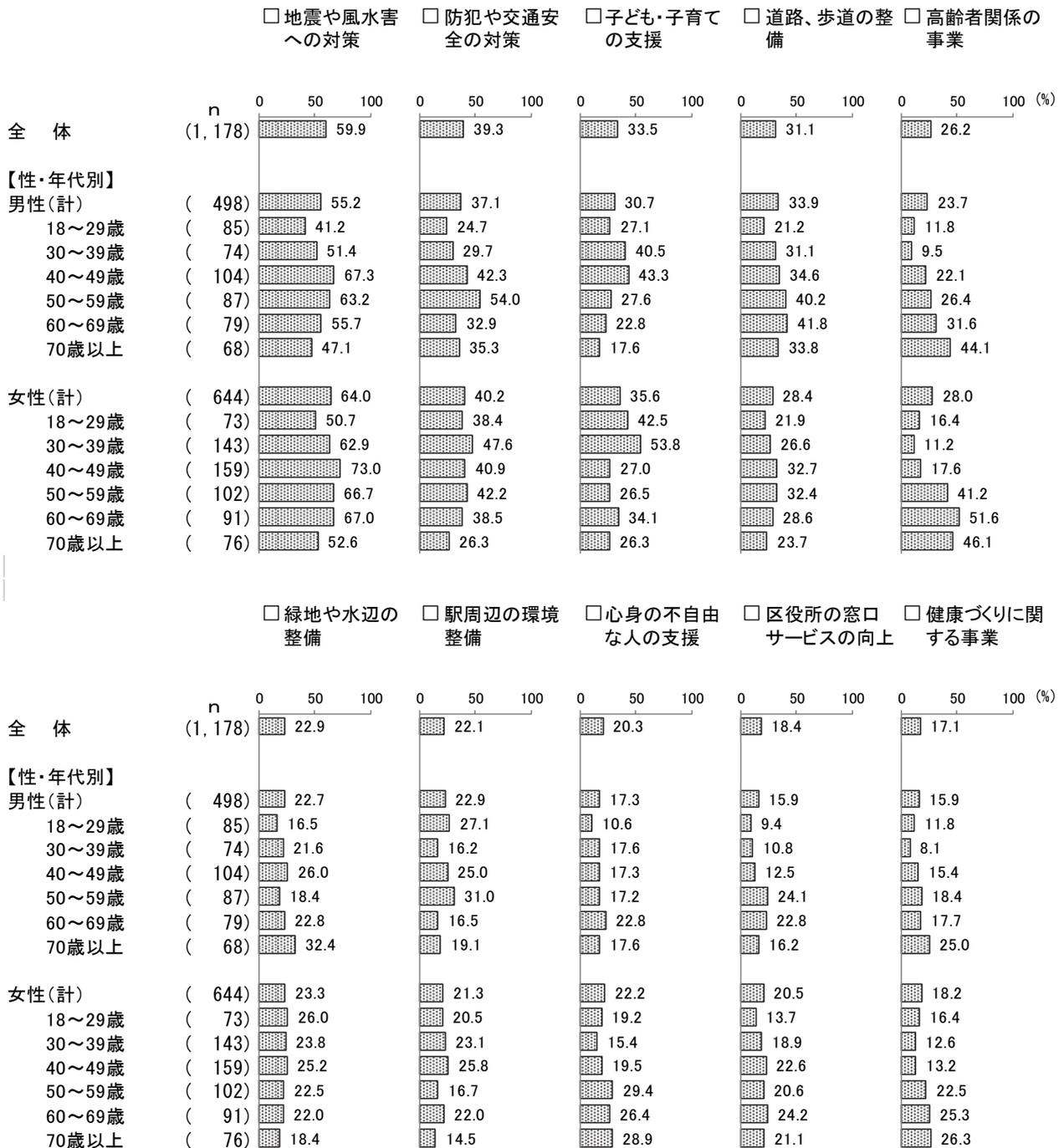
図表 3-2-2 力を入れてほしい区役所の業務—過去の調査との比較



※「町内会・自治会活動への支援」は令和2年からの新規選択肢

性・年代別にみると、「地震や風水害への対策」は女性 40～49 歳（73.0%）が7割を超えて高くなっている。また、「防犯や交通安全の対策」は男性 50～59 歳（54.0%）が5割を超えて高く、「子ども・子育ての支援」は女性 30～39 歳（53.8%）が5割を超えて高くなっている。（図表 3-2-3）

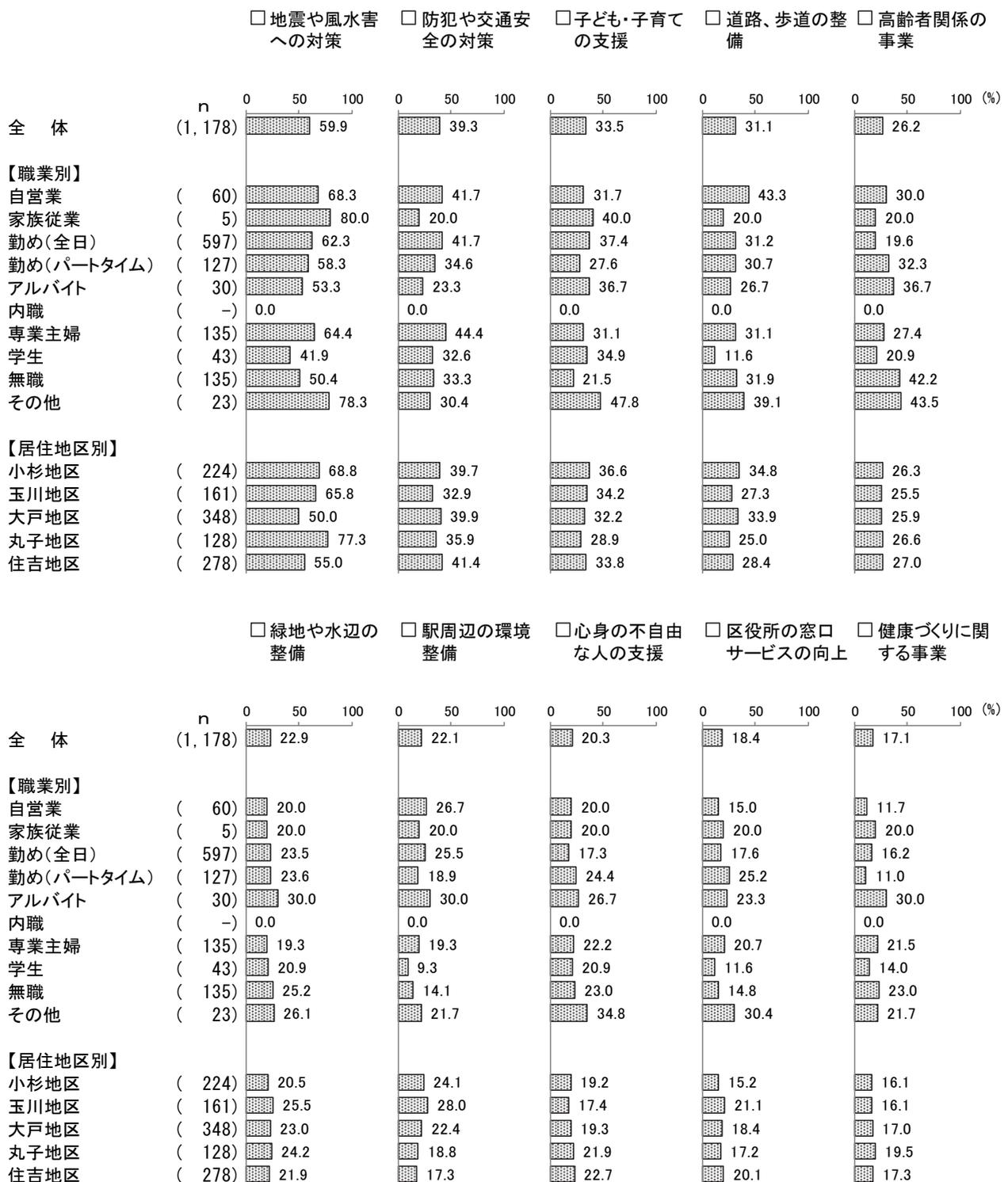
図表 3-2-3 力を入れてほしい区役所の業務一性・年代別（上位 10 項目）



職業別にみると、「防犯や交通安全の対策」は専業主婦（44.4%）が4割半ばと高くなっている。「道路、歩道の整備」は自営業（43.3%）が、「健康づくりに関する事業」はアルバイト（30.0%）が高くなっている。

居住地区別にみると、「地震や風水害への対策」は丸子地区（77.3%）が、「駅周辺の環境整備」は玉川地区（28.0%）が高くなっている。（図表3-2-4）

図表3-2-4 力を入れてほしい区役所の業務—職業別・居住地区別（上位10項目）



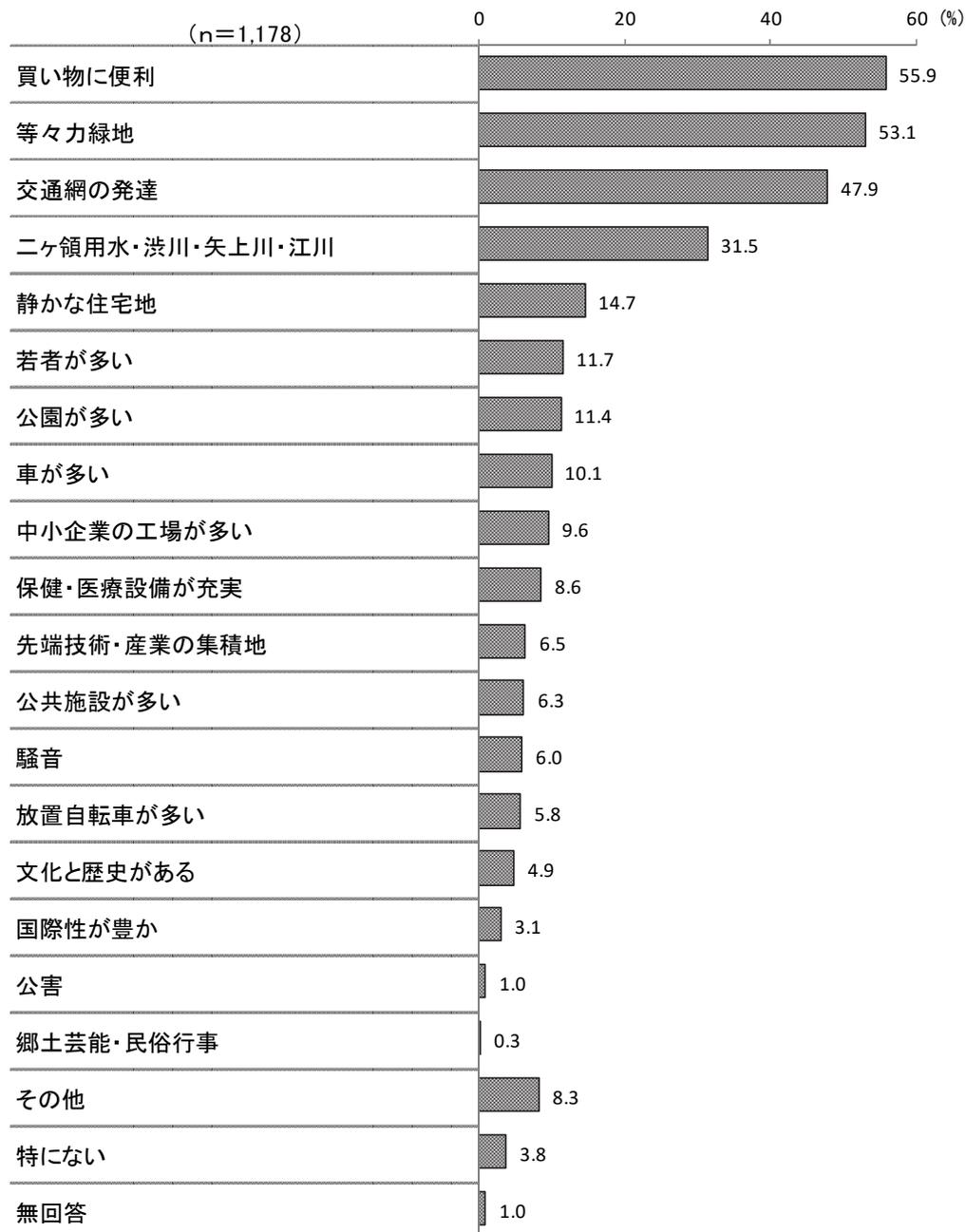
(3) 中原区のイメージ

問8 中原区の「イメージ」として何を思い浮かべますか。(〇はいくつでも)

中原区の「イメージ」として何を思い浮かべるか聞いたところ、「買い物に便利」(55.9%)が5割半ばで最も高く、次いで「等々力緑地」(53.1%)、「交通網の発達」(47.9%)となっている。

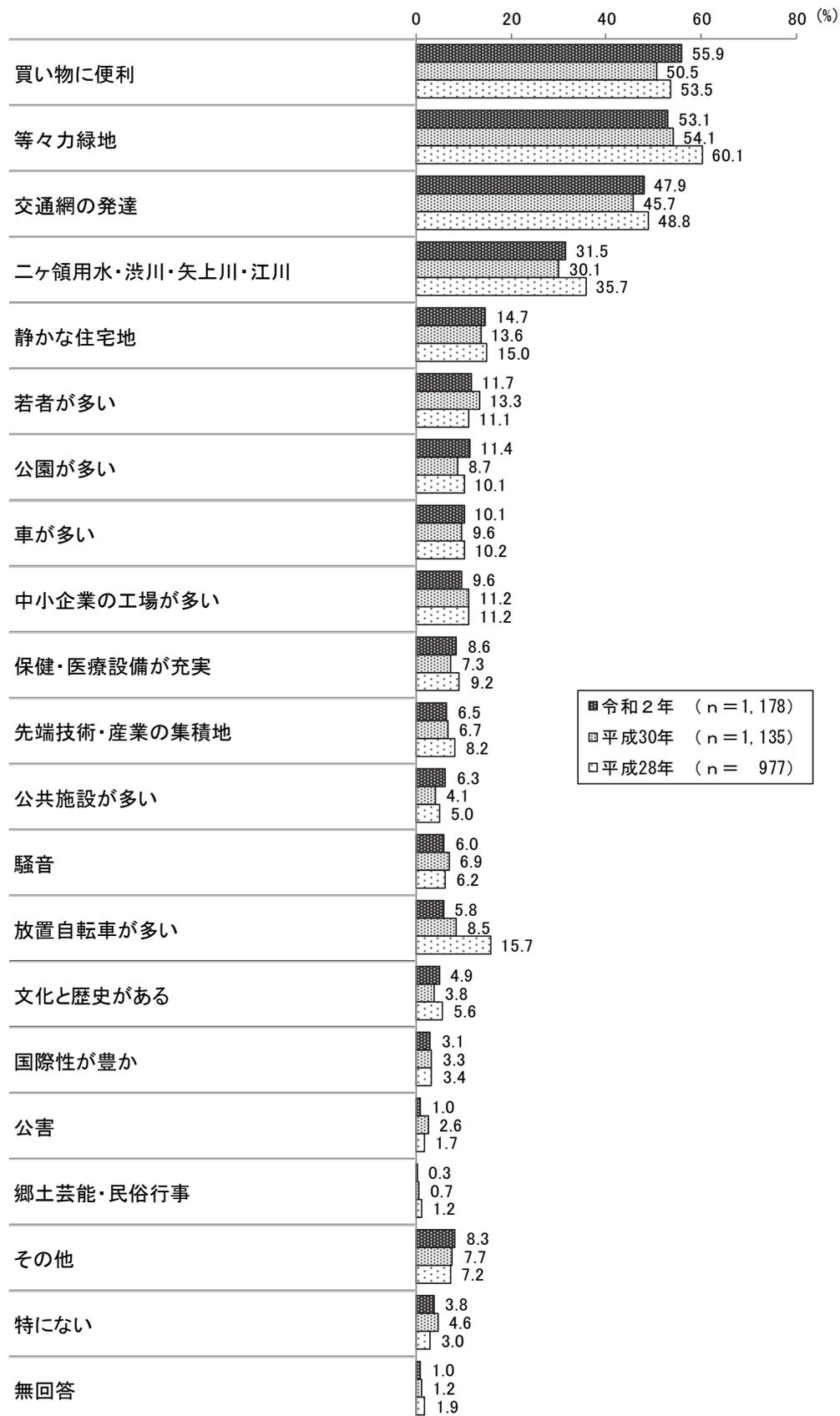
(図表3-3-1)

図表3-3-1 中原区のイメージ



過去の調査と比較すると、前回調査より「買い物に便利」は5.4ポイント、「公園が多い」は2.7ポイント増加している。「等々力緑地」と「放置自転車が多い」は減少傾向にある。（図表3-3-2）

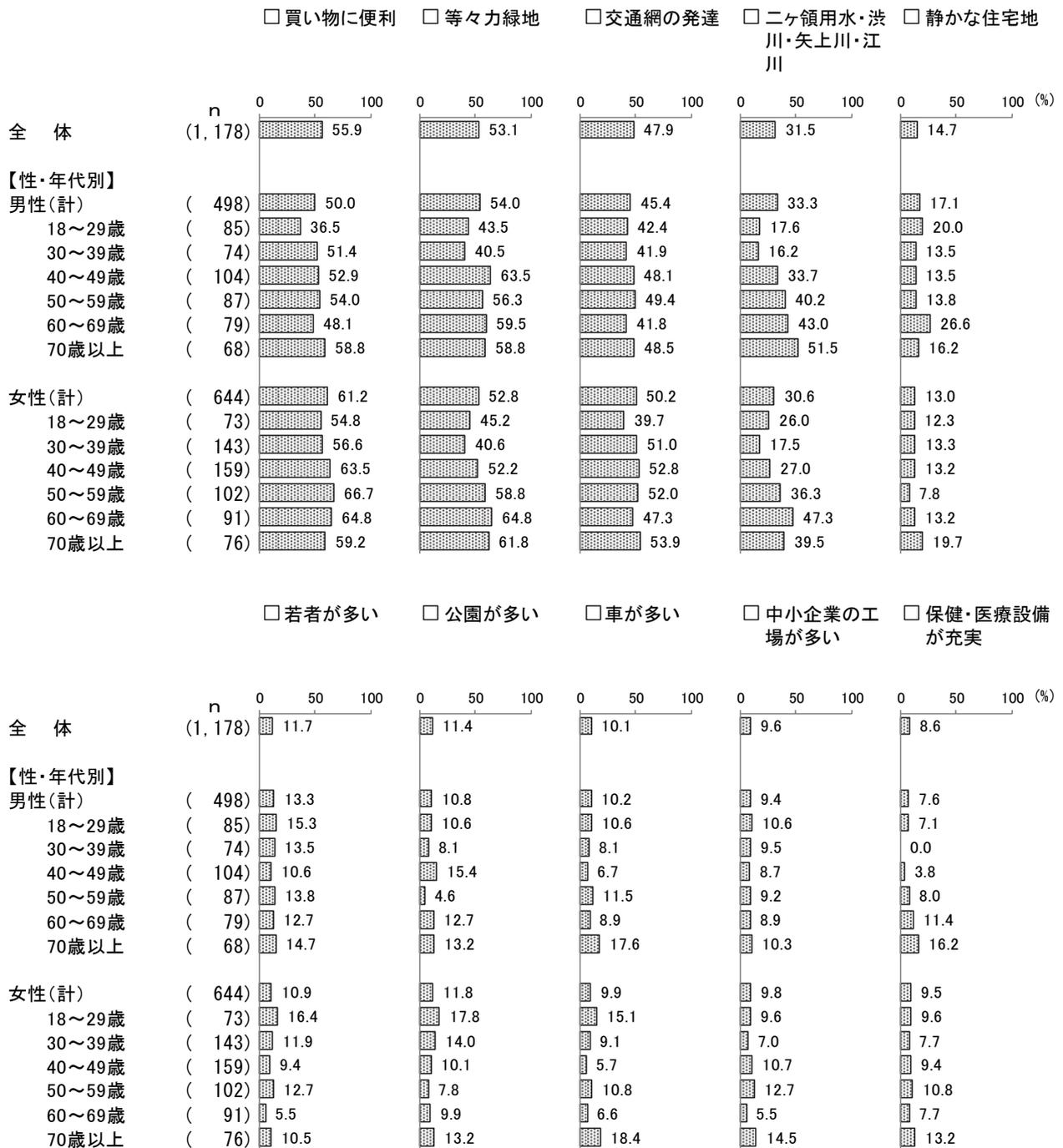
図表3-3-2 中原区のイメージ過去の調査との比較



性・年代別にみると、「買い物に便利」は女性（61.2%）が男性（50.0%）より 11.2 ポイント高くなっている。「等々力緑地」は女性 60～69 歳（64.8%）が 6 割半ばと高くなっている。「二ヶ領用水・渋川・矢上川・江川」が男性 18～29 歳（17.6%）・男性 30～39 歳（16.2%）で低くなっている。

(図表 3-3-3)

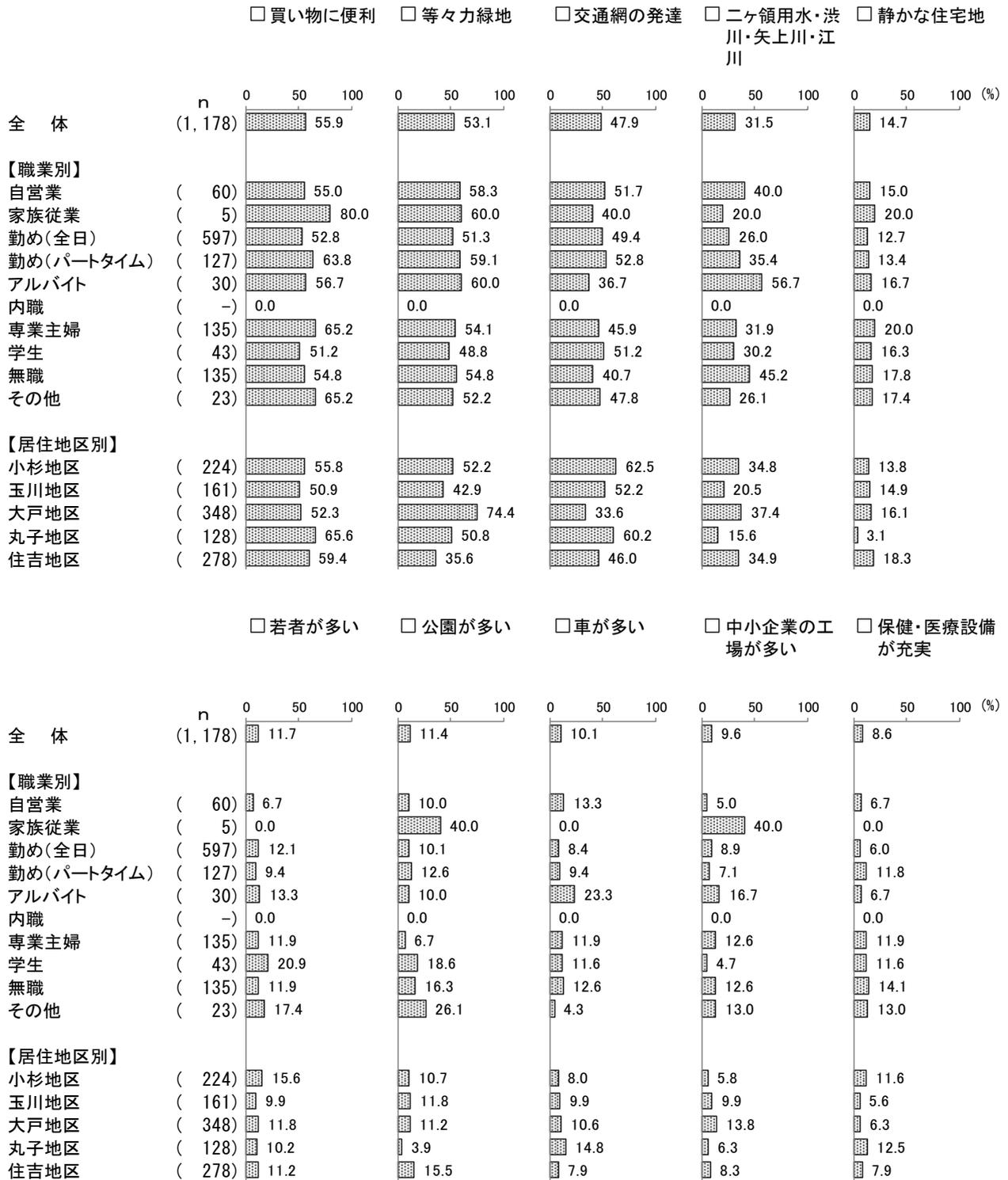
図表 3-3-3 中原区のイメージ性・年代別（上位 10 項目）



職業別にみると、「交通網の発達」は勤め（パートタイム）（52.8%）が5割を超えて高くなっている。「二ヶ領用水・渋川・矢上川・江川」はアルバイト（56.7%）が5割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「買い物に便利」は丸子地区（65.6%）が6割半ば、「等々力緑地」は大戸地区（74.4%）が7割半ばと高くなっている。（図表3-3-4）

図表3-3-4 中原区のイメージ・職業別・居住地区別（上位10項目）



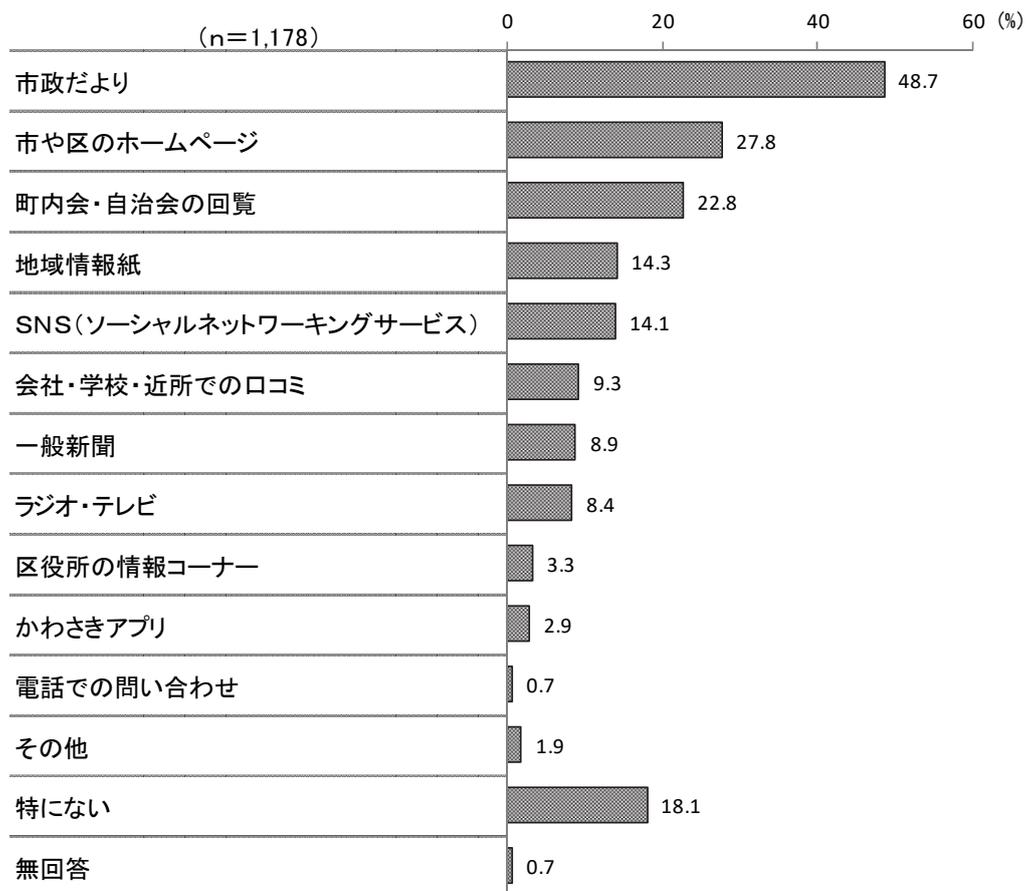
4 中原区役所の広報

(1) 行政・地域情報の入手方法

問9 ふだん、行政情報や地域情報を何から入手していますか。(〇はいくつでも)

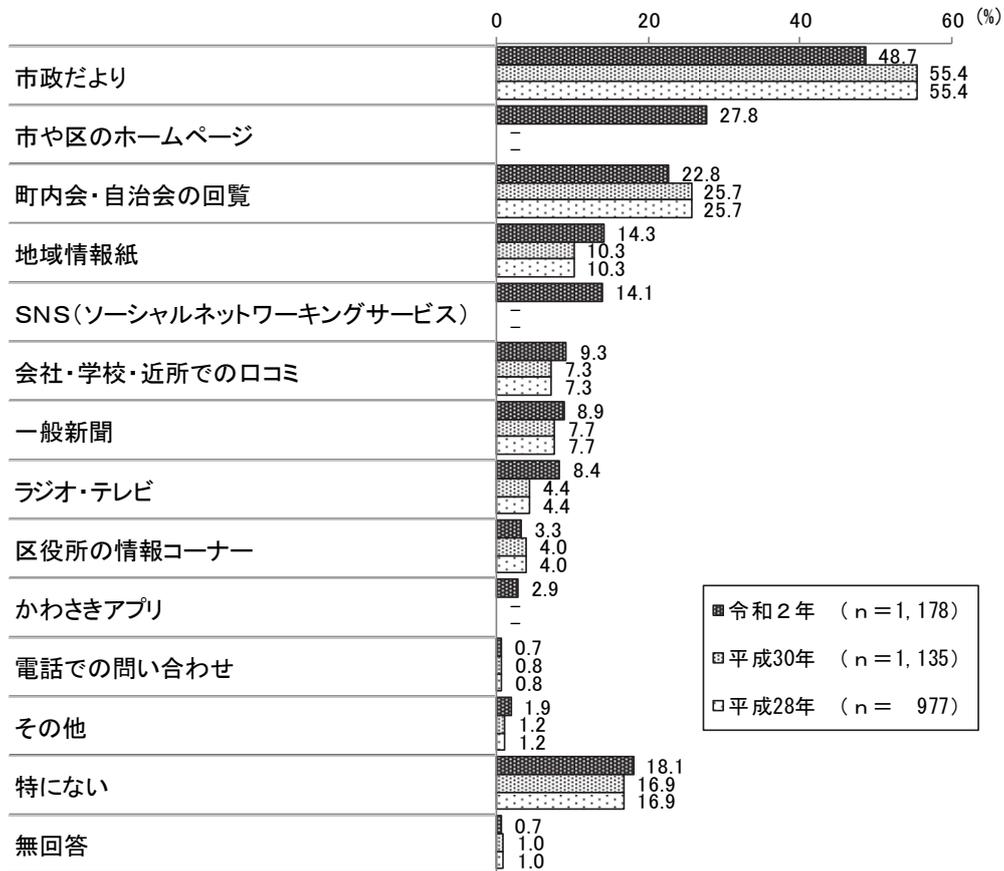
ふだん、行政情報や地域情報を何から入手しているか聞いたところ、「市政だより」(48.7%)が5割近くと最も高く、次いで「市や区のホームページ」(27.8%)、「町内会・自治会の回覧」(22.8%)となっている。(図表4-1-1)

図表4-1-1 行政・地域情報の入手方法



過去の調査と比較すると、前回調査より「市政だより」は6.7ポイント、「町内会・自治会の回覧」は2.9ポイントそれぞれ減少している。「地域情報紙」・「会社・学校・近所での口コミ」・「一般新聞」・「ラジオ・テレビ」はやや増加傾向にある。（図表4-1-2）

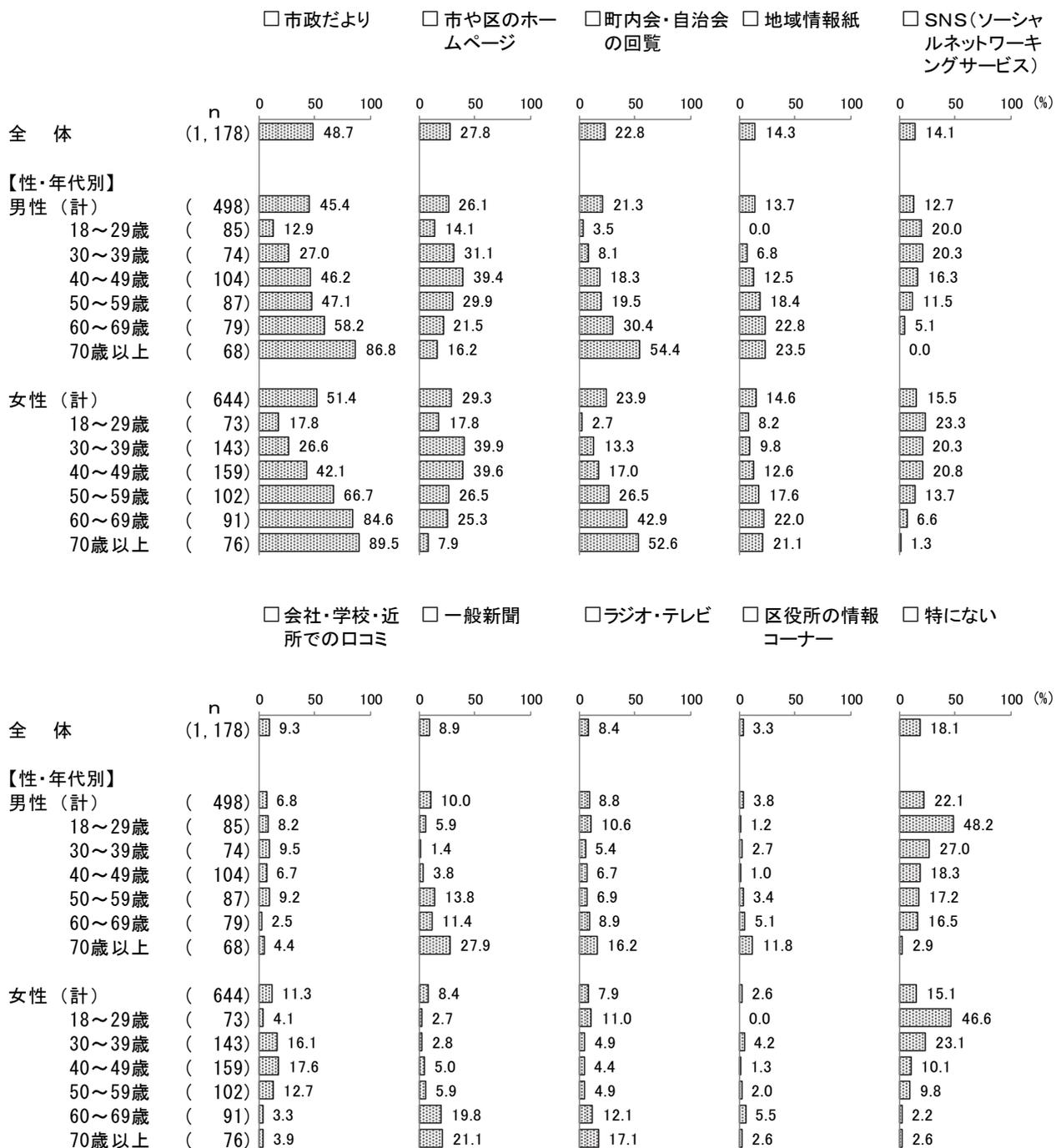
図表4-1-2 行政・地域情報の入手方法—過去の調査との比較



※「市や区のホームページ」、「SNS（ソーシャルネットワークサービス）」、「かわさきアプリ」は令和2年からの新規選択肢

性・年代別にみると、「市政だより」は女性（51.4%）が男性（45.4%）を6.0ポイント上回り、年代が上がるにつれ高くなっている。また、「町内会・自治会の回覧」も年代が上がるにとも高くなっている。「市や区のホームページ」は女性70歳以上（7.9%）が低くなっている。（図表4-1-3）

図表4-1-3 行政・地域情報の入手方法—性・年代別（上位9項目+「特にない」）

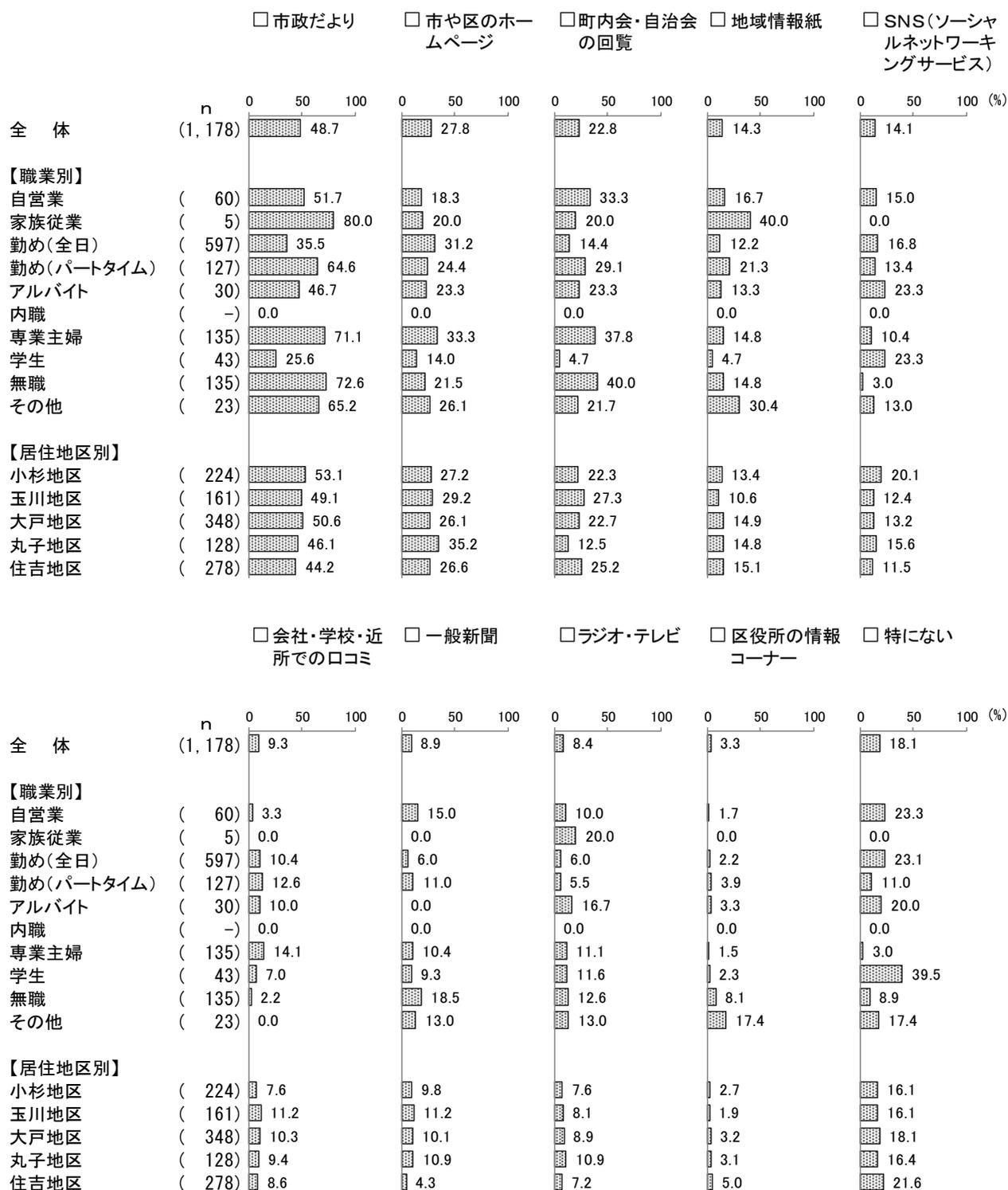


職業別にみると、「市や区のホームページ」は専業主婦（33.3%）が3割を超えて、「町内会・自治会の回覧」は無職（40.0%）が4割と高くなっている。

居住地区別にみると、「市や区のホームページ」は丸子地区（35.2%）が3割半ば、「SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」は小杉地区（20.1%）が約2割とそれぞれ高くなっている。

(図表4-1-4)

図表4-1-4 行政・地域情報の入手方法—職業別・居住地区別（上位9項目+「特にない」）

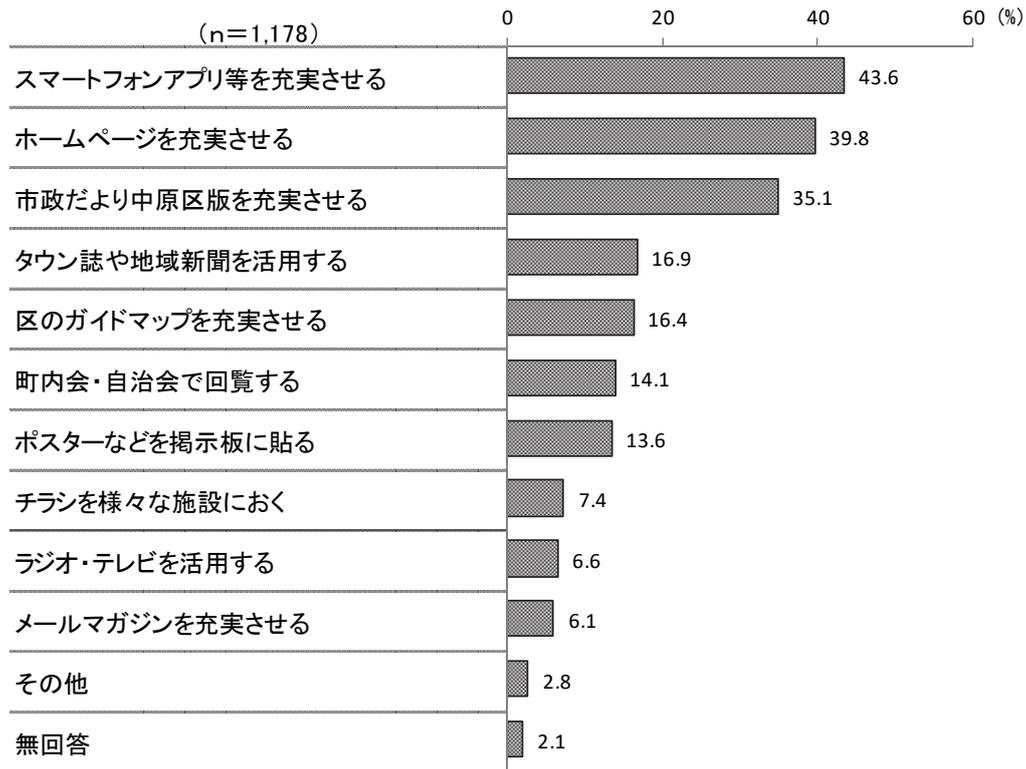


(2) 充実してほしい行政・地域情報の提供方法

問 10 行政情報や地域情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。(〇は3つまで)

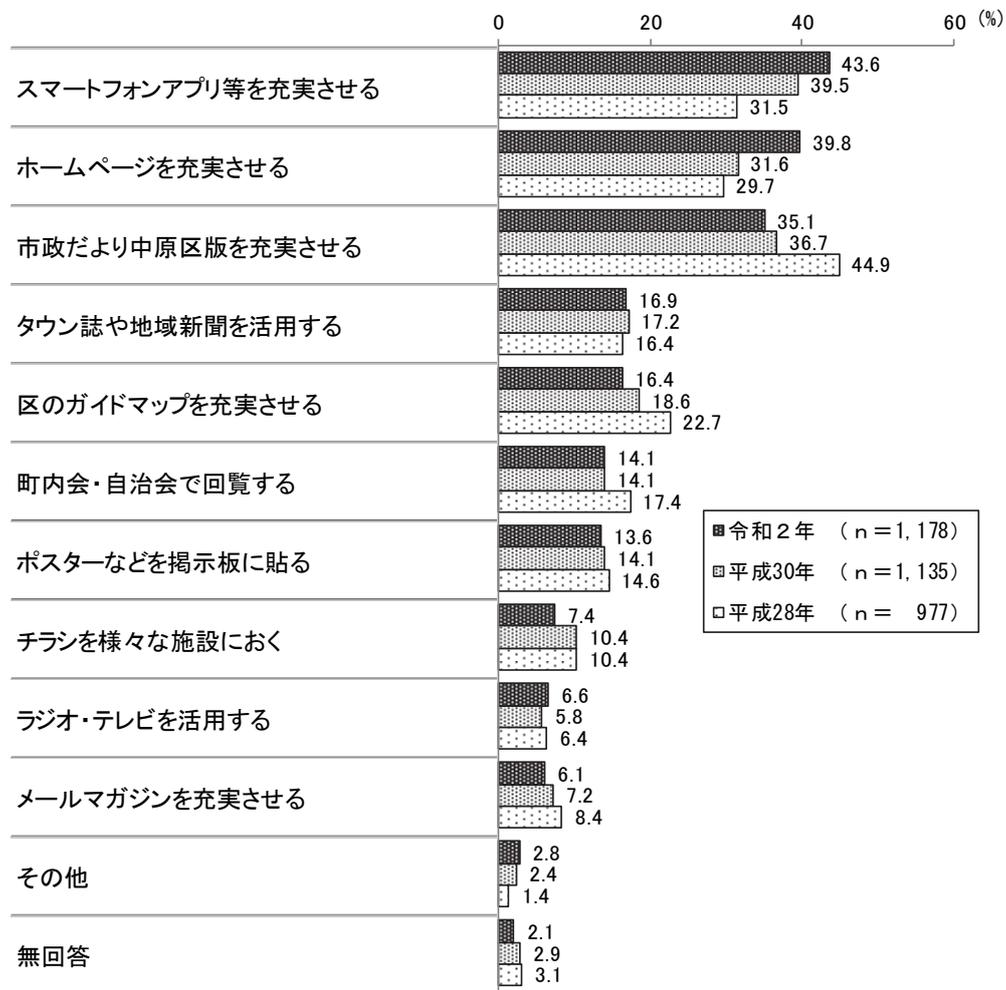
行政情報や地域情報を提供するためには、どのような手法がよいか聞いたところ、「スマートフォンアプリ等を充実させる」(43.6%)が4割を超えて最も高く、次いで「ホームページを充実させる」(39.8%)、「市政だより中原区版を充実させる」(35.1%)となっている。(図表4-2-1)

図表4-2-1 充実してほしい行政・地域情報の提供方法



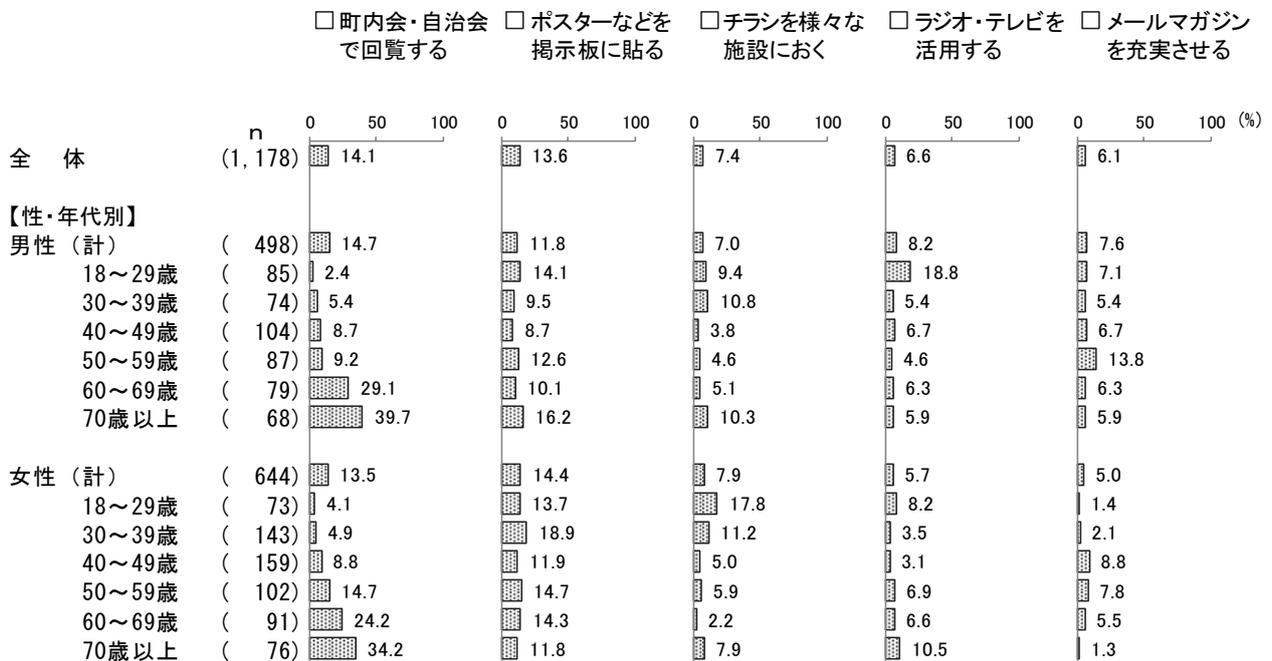
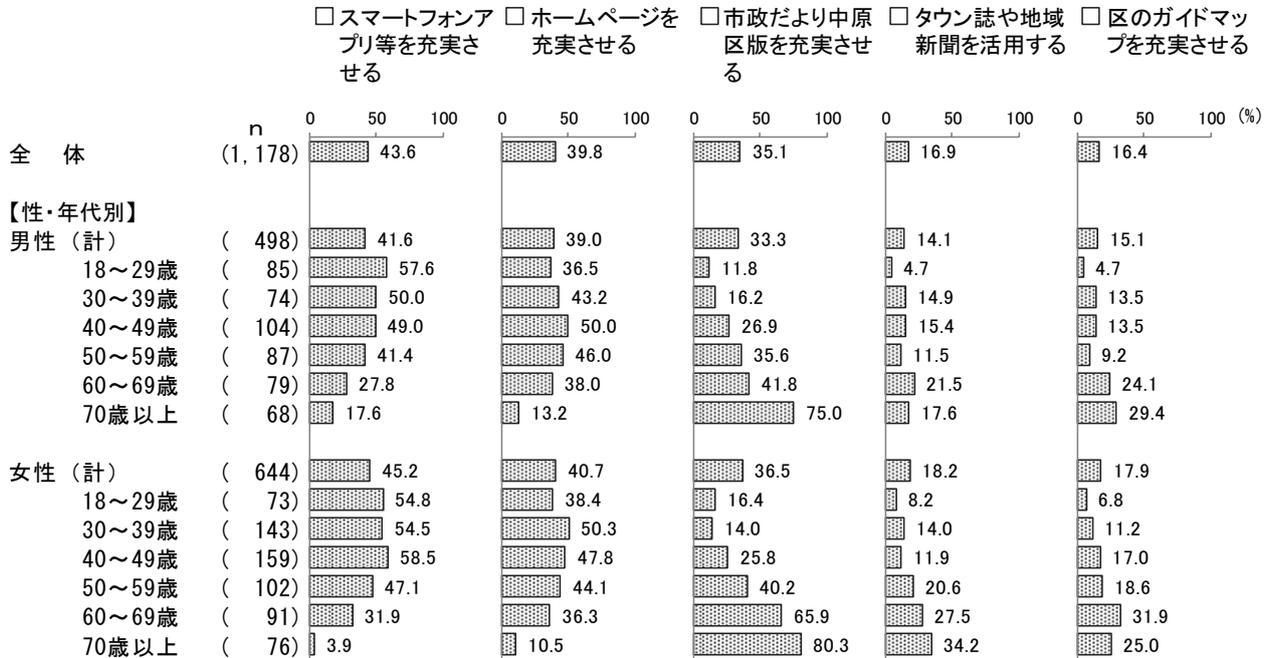
過去の調査と比較すると、前回調査より「スマートフォンアプリ等を充実させる」は4.1ポイント、「ホームページを充実させる」は8.2ポイントそれぞれ増加している。「市政だより中原区版を充実させる」は1.6ポイント、「区のガイドマップを充実させる」は2.2ポイント減少している。（図表4-2-2）

図表4-2-2 充実してほしい行政・地域情報の提供方法—過去の調査との比較



性・年代別にみると、「スマートフォンアプリ等を充実させる」は女性 40～49 歳（58.5%）が 6 割近く、「ホームページを充実させる」は女性 30～39 歳（50.3%）が約 5 割と高くなっている。「区のガイドマップを充実させる」はおおむね年代が上がるるとともに高くなっている。（図表 4-2-3）

図表 4-2-3 充実してほしい行政・地域情報の提供方法－性・年代別（上位 10 項目）

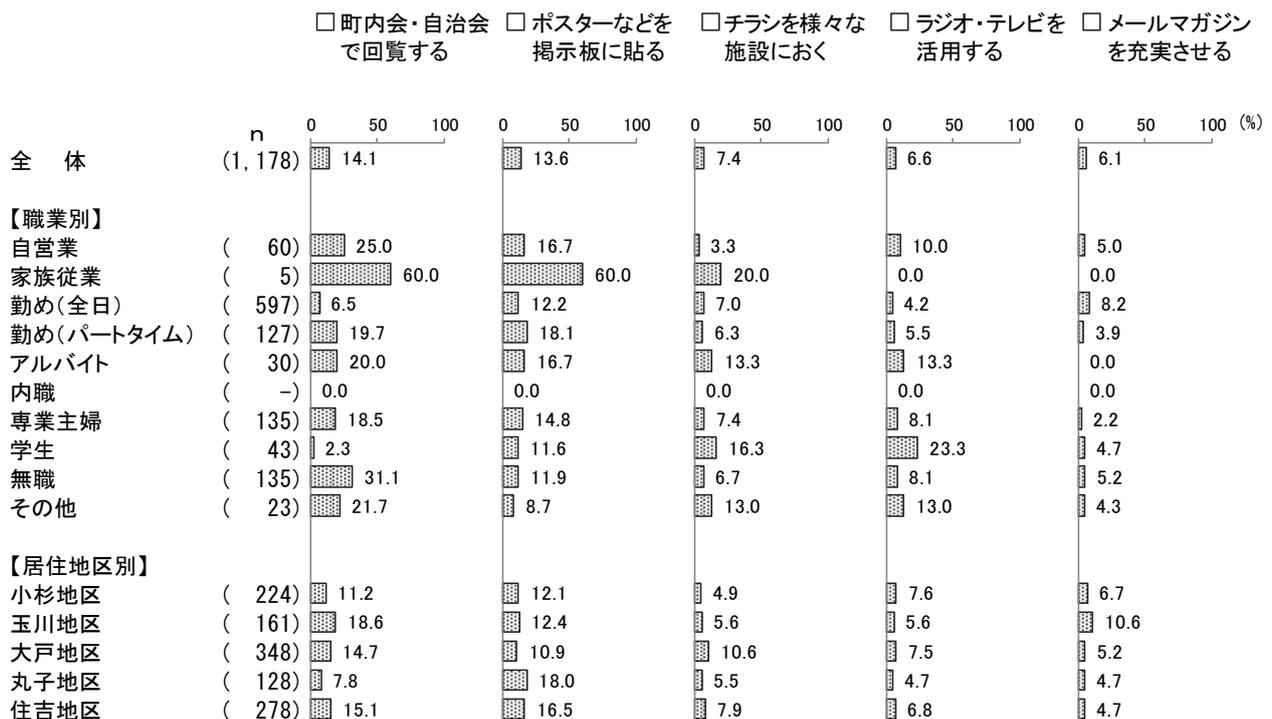
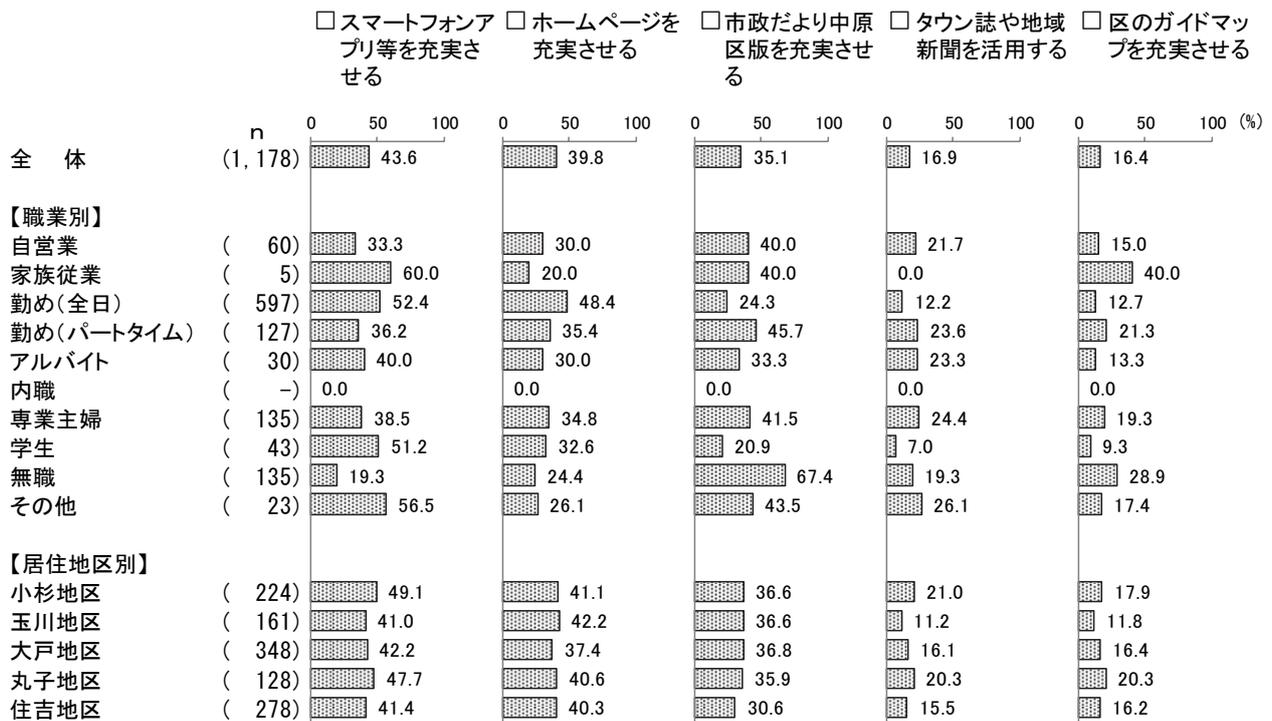


職業別にみると、「ホームページを充実させる」は勤め（全日）（48.4%）が約5割、「市政だより中原区版を充実させる」は無職（67.4%）が7割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、「スマートフォンアプリ等を充実させる」は小杉地区（49.1%）が約5割、「区のガイドマップを充実させる」は丸子地区（20.3%）が約2割と高くなっている。

（図表4-2-4）

図表4-2-4 充実してほしい行政・地域情報の提供方法—職業別・居住地区別（上位10項目）

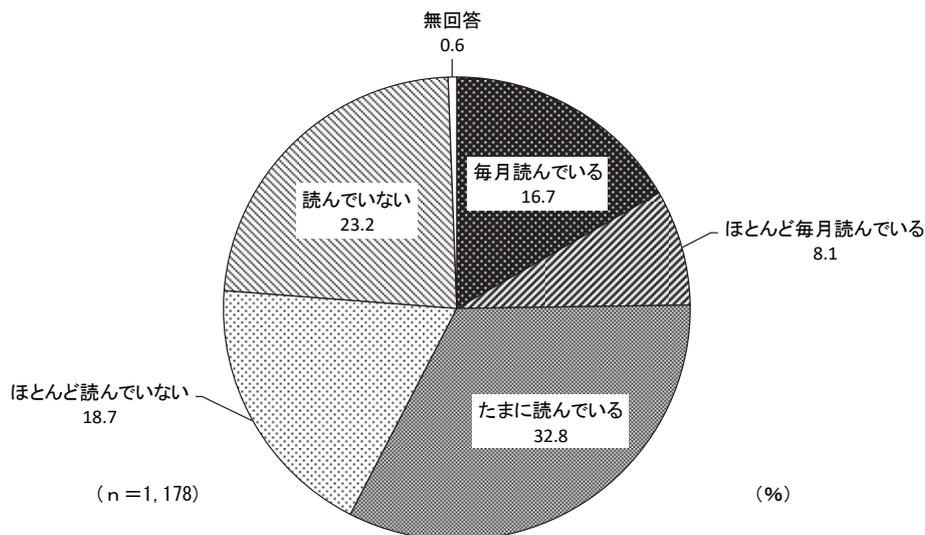


(3) 「かわさき市政だより」 中原区版の閲覧状況

問 11 区の広報誌としては毎月1日発行の「かわさき市政だより」の中に中原区版がありますが、中原区版はお読みになっていますか。(〇は1つだけ)

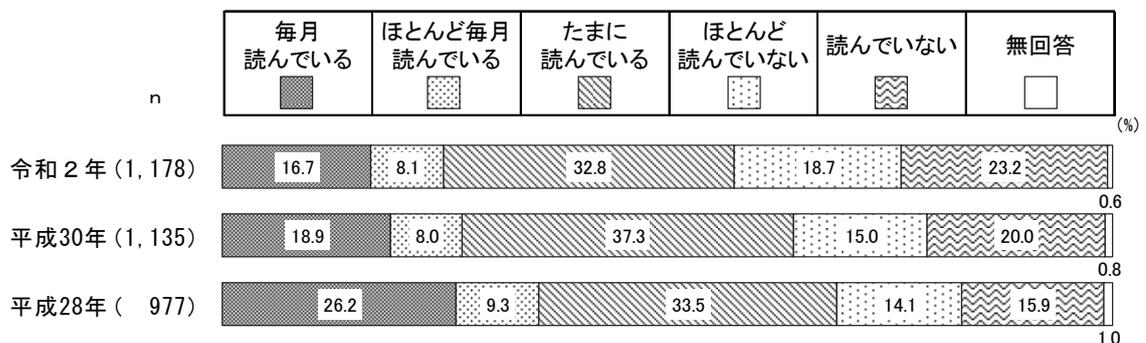
「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況を聞いたところ、「毎月読んでいる」(16.7%)が1割半ば、「ほとんど毎月読んでいる」(8.1%)は1割近く、「たまに読んでいる」(32.8%)は3割を超えている。一方、「ほとんど読んでいない」(18.7%)が2割近く、「読んでいない」(23.2%)は2割を超えている。(図表4-3-1)

図表4-3-1 「かわさき市政だより」 中原区版の閲覧状況



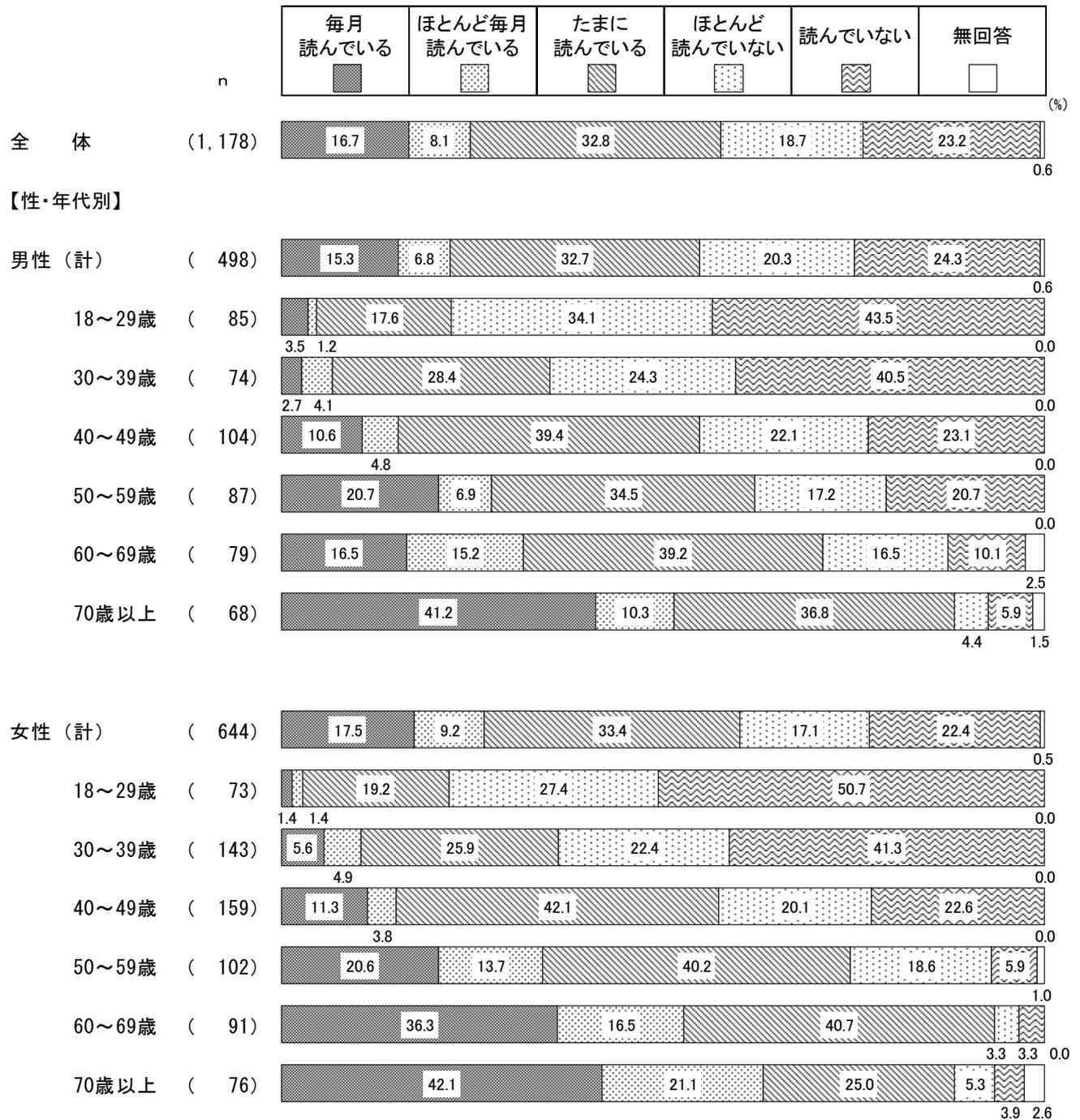
過去の調査と比較すると、前回調査より「たまに読んでいる」は4.5ポイント減少し、「ほとんど読んでいない」は3.7ポイント増加している。「毎月読んでいる」は減少傾向に、「読んでいない」は増加傾向にある。(図表4-3-2)

図表4-3-2 「かわさき市政だより」 中原区版の閲覧状況—過去の調査との比較



性・年代別にみると、おおむね「毎月読んでいる」は年代が上がるにつれ、「読んでいない」は年代が下がるにつれ高くなる傾向になっている。「毎月読んでいる」は男性70歳以上（41.2%）・女性70歳以上（42.1%）で4割を超えて高くなっている。（図表4-3-3）

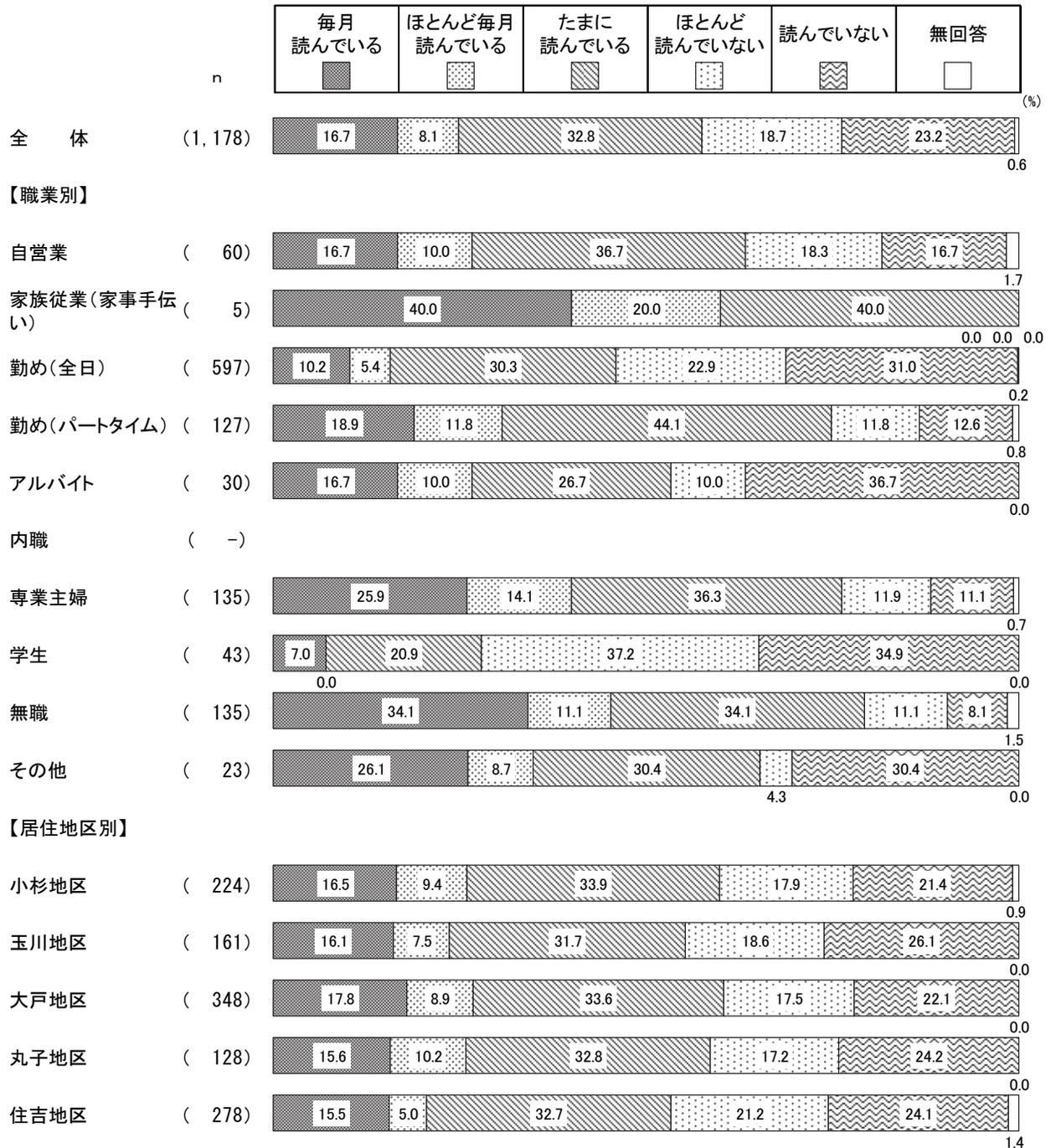
図表4-3-3 「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況－性・年代別



職業別にみると、「毎月読んでいる」は無職(34.1%)が3割半ば、「読んでいない」はアルバイト(36.7%)が3割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「毎月読んでいる」は大戸地区(17.8%)が2割近く、「読んでいない」は玉川地区(26.1%)が2割半ばと高くなっている。(図表4-3-4)

図表4-3-4 「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況—職業別・居住地区別

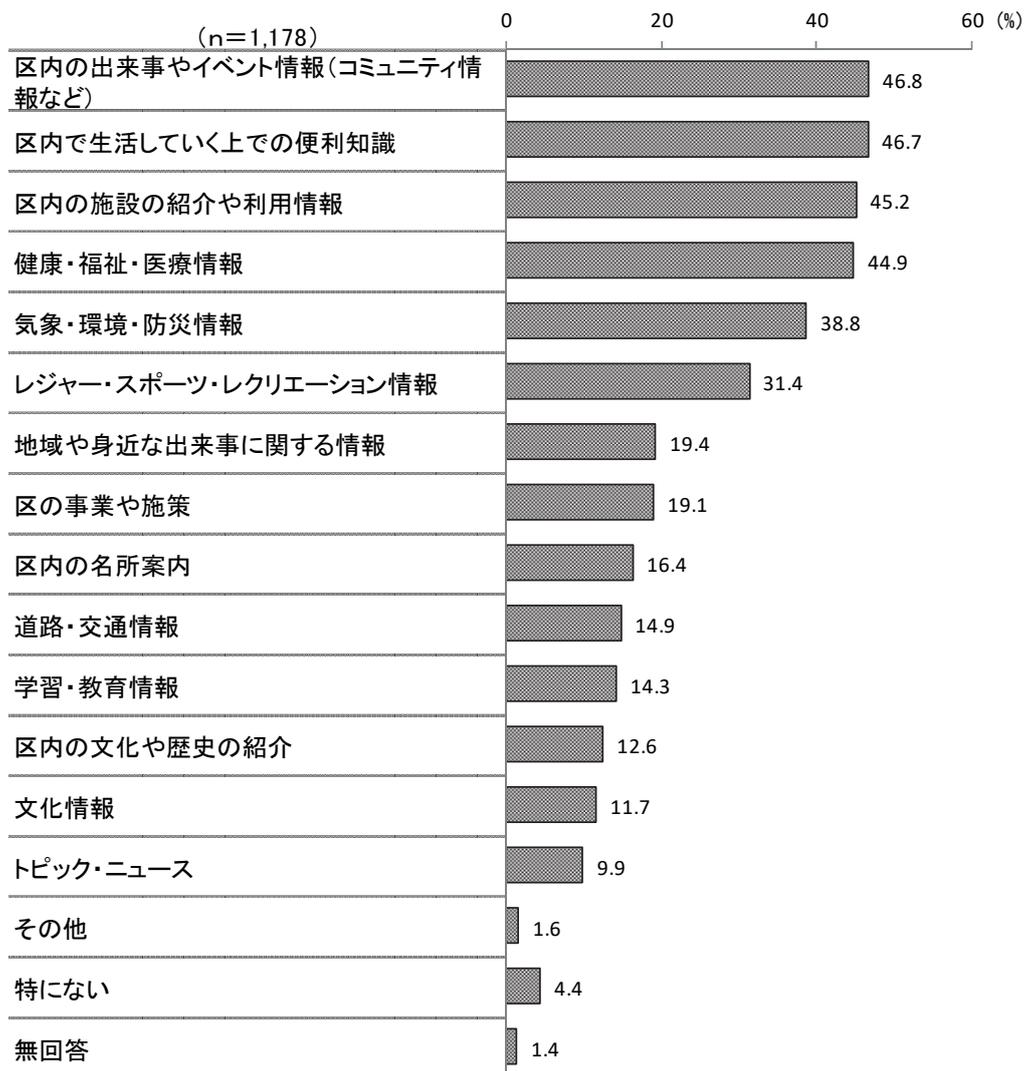


(4) 充実してほしい行政・地域情報の種類

問 12 今後、区の広報を区民の皆さんの情報源として活かしていくには、どのような内容に重点をおいていくのがよいと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、区の広報を区民の情報源として活かしていくには、どのような内容に重点をおいていくのがよいと思うか聞いたところ、「区内の出来事やイベント情報(コミュニティ情報など)」(46.8%)、「区内で生活していく上での便利知識」(46.7%)、「区内の施設の紹介や利用情報」(45.2%)、「健康・福祉・医療情報」(44.9%)、「気象・環境・防災情報」(38.8%)と続いている。(図表4-4-1)

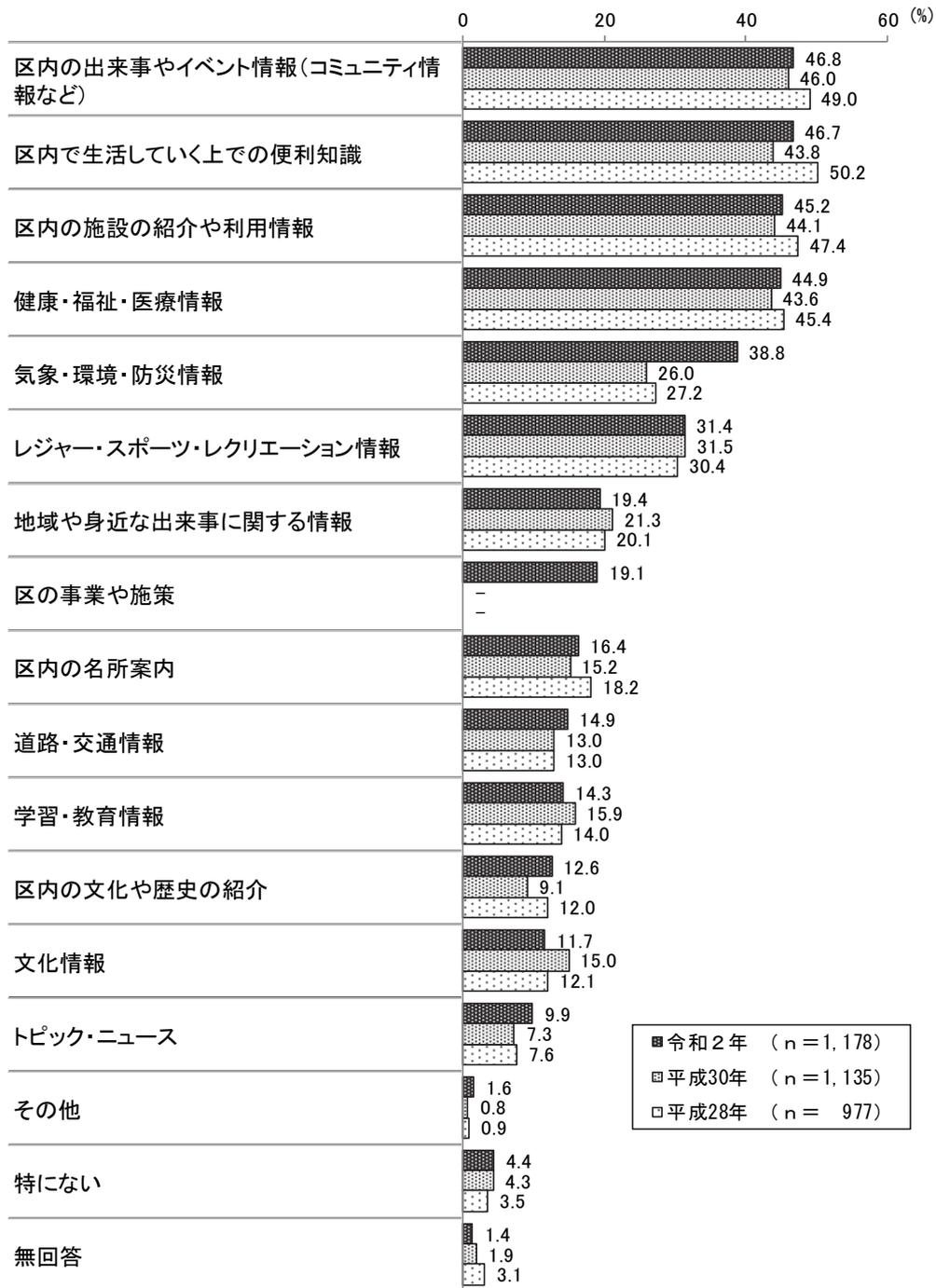
図表4-4-1 充実してほしい行政・地域情報の種類



過去の調査と比較すると、前回調査より「気象・環境・防災情報」が12.8ポイント増加している。

(図表4-4-2)

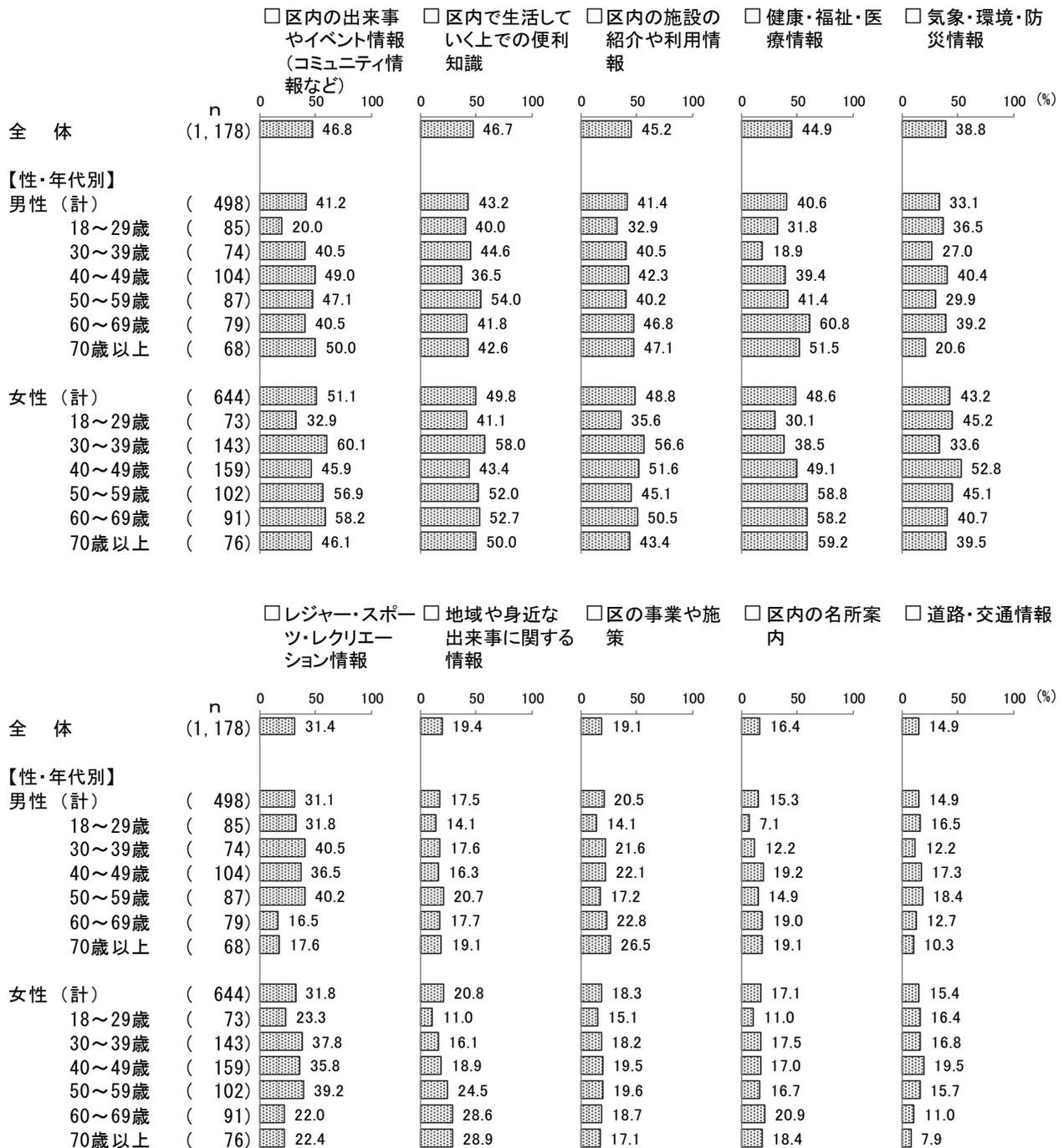
図表4-4-2 充実してほしい行政・地域情報の種類—過去の調査との比較



※「区の事業や施策」は令和2年からの新規選択肢

性・年代別にみると、「区内の出来事やイベント情報（コミュニティ情報など）」は女性（51.1%）が男性（41.2%）を9.9ポイント上回っており、女性30～39歳（60.1%）が約6割と高くなっている。「区内で生活していく上での便利知識」は女性30～39歳（58.0%）が6割近く、「区内の施設の紹介や利用情報」は女性30～39歳（56.6%）が5割半ばと高くなっている。（図表4-4-3）

図表4-4-3 充実してほしい行政・地域情報の種類一性・年代別

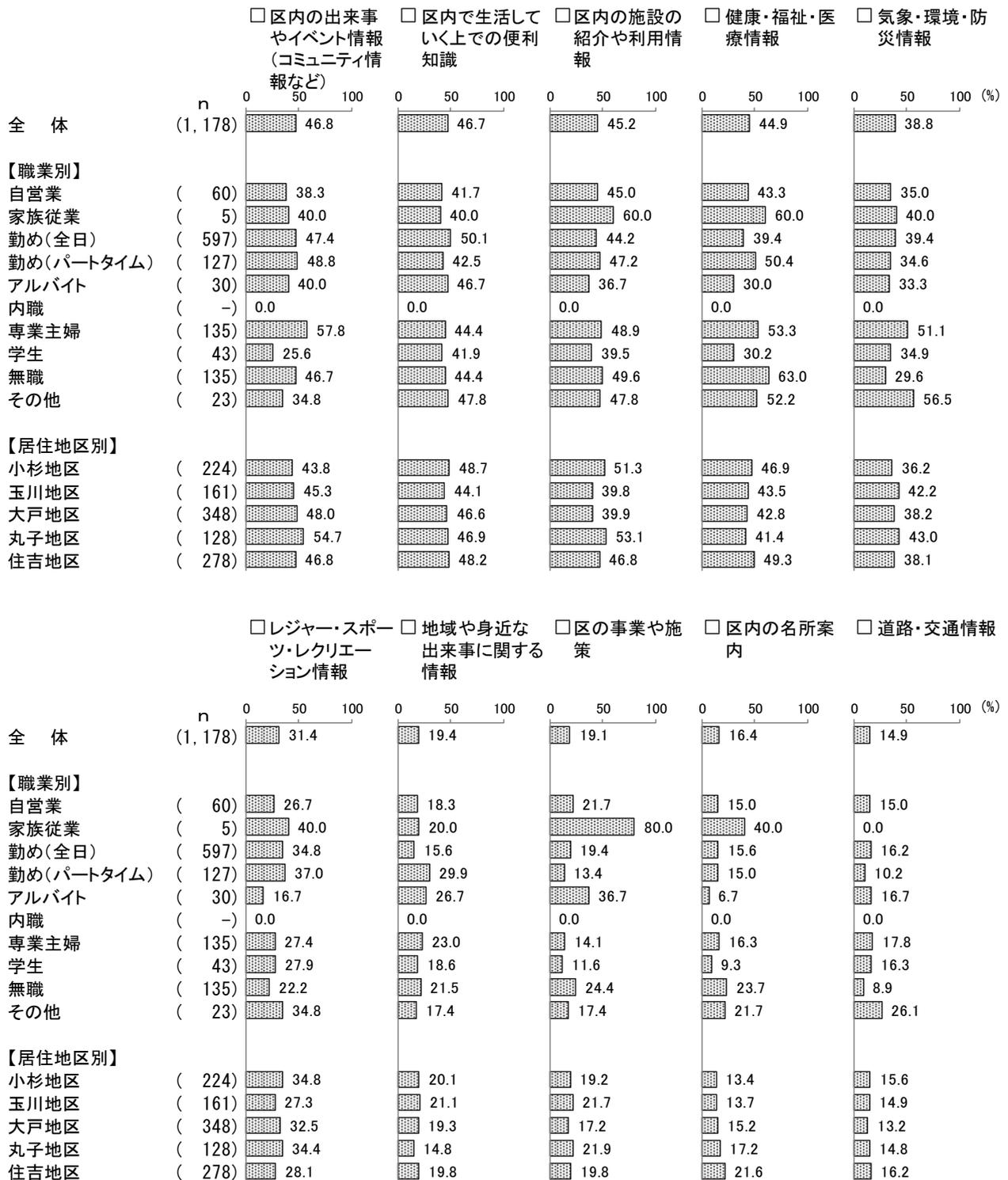


職業別にみると、「区内の出来事やイベント情報（コミュニティ情報など）」は専業主婦（57.8%）が6割近くと高くなっている。「区内で生活していく上での便利知識」は勤め（全日）（50.1%）が約5割と高くなっている。

居住地区別にみると、「区内の出来事やイベント情報（コミュニティ情報など）」は丸子地区（54.7%）が5割半ば、「区内の名所案内」は住吉地区（21.6%）が約2割とそれぞれ高くなっている。

(図表4-4-4)

図表4-4-4 充実してほしい行政・地域情報の種類－職業別・居住地区別



5 中原区役所の環境

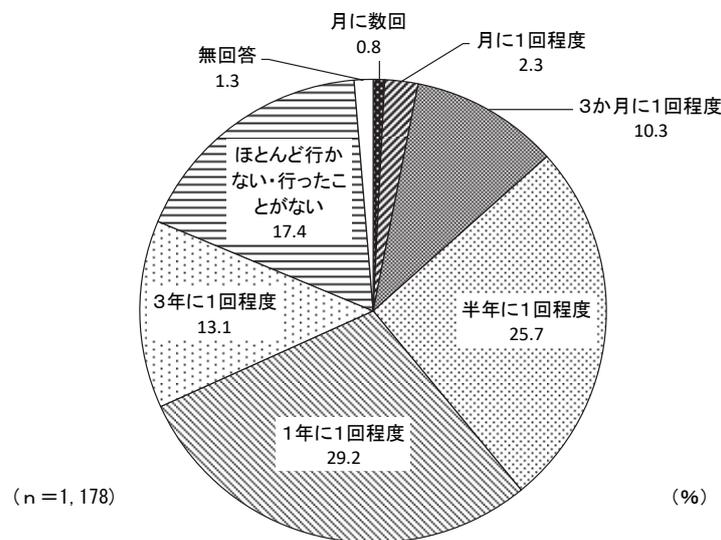
(1) 中原区役所の利用頻度

問 13 中原区役所をどの位の頻度で利用しますか。(○は1つだけ)

中原区役所の利用頻度を聞いたところ、「1年に1回程度」(29.2%)が3割弱で最も高く、次いで「半年に1回程度」(25.7%)、「3年に1回程度」(13.1%)、「3か月に1回程度」(10.3%)となっている。一方、「ほとんど行かない・行ったことがない」(17.4%)は2割近くとなっている。

(図表5-1-1)

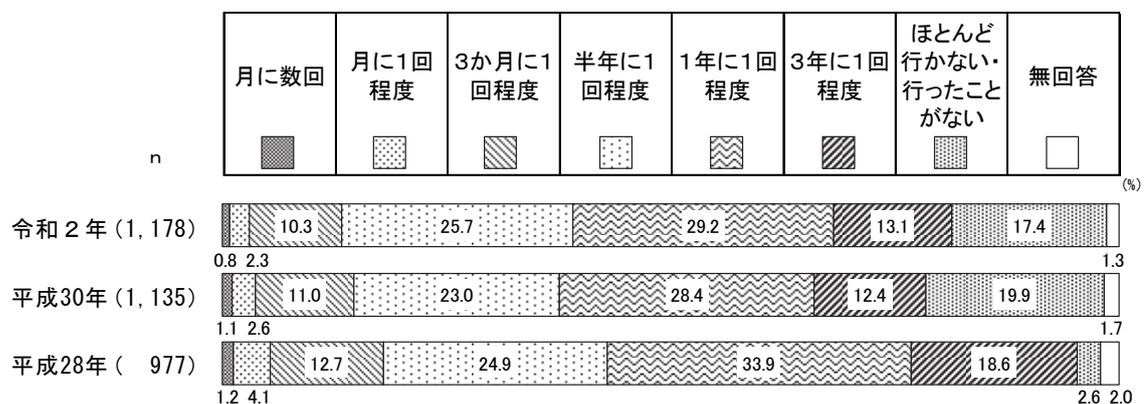
図表5-1-1 中原区役所の利用頻度



過去の調査と比較すると、前回調査より「半年に1回程度」が2.7ポイント高くなっている。

(図表5-1-2)

図表5-1-2 中原区役所の利用頻度—過去の調査との比較

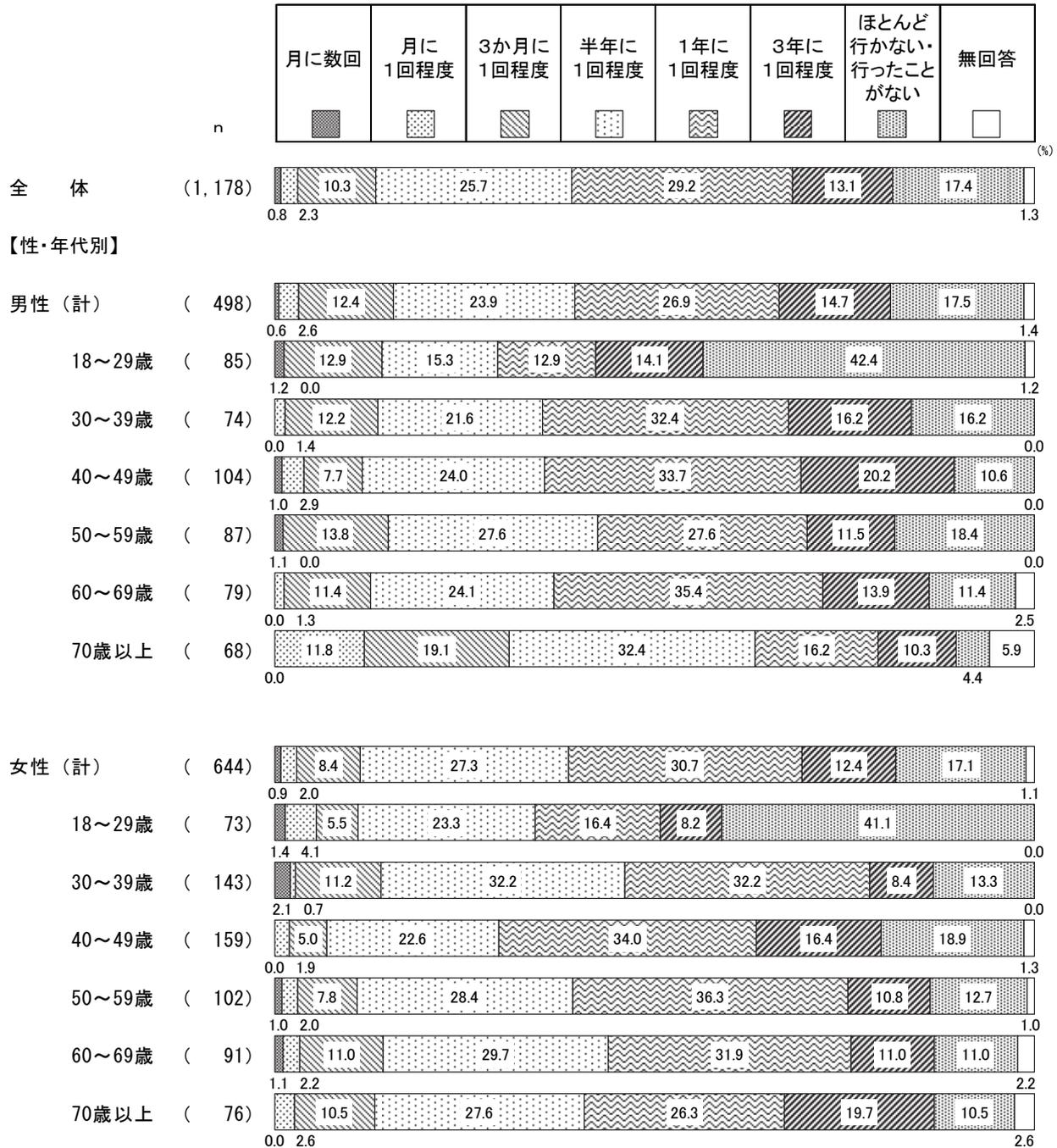


※「ほとんど行かない・行ったことがない」は、平成28年調査では「行ったことがない」としていた

性・年代別にみると、「ほとんど行かない・行ったことがない」はおおむね年代が下がるにつれ高くなる傾向にあり、男性 18～29 歳 (42.4%) ・女性 18～29 歳 (41.1%) で 4 割を超えて高くなっている。「年に 1 回程度」は女性 50～59 歳 (36.3%) ・男性 60～69 歳 (35.4%) で 3 割半ばと高くなっている。

(図表 5-1-3)

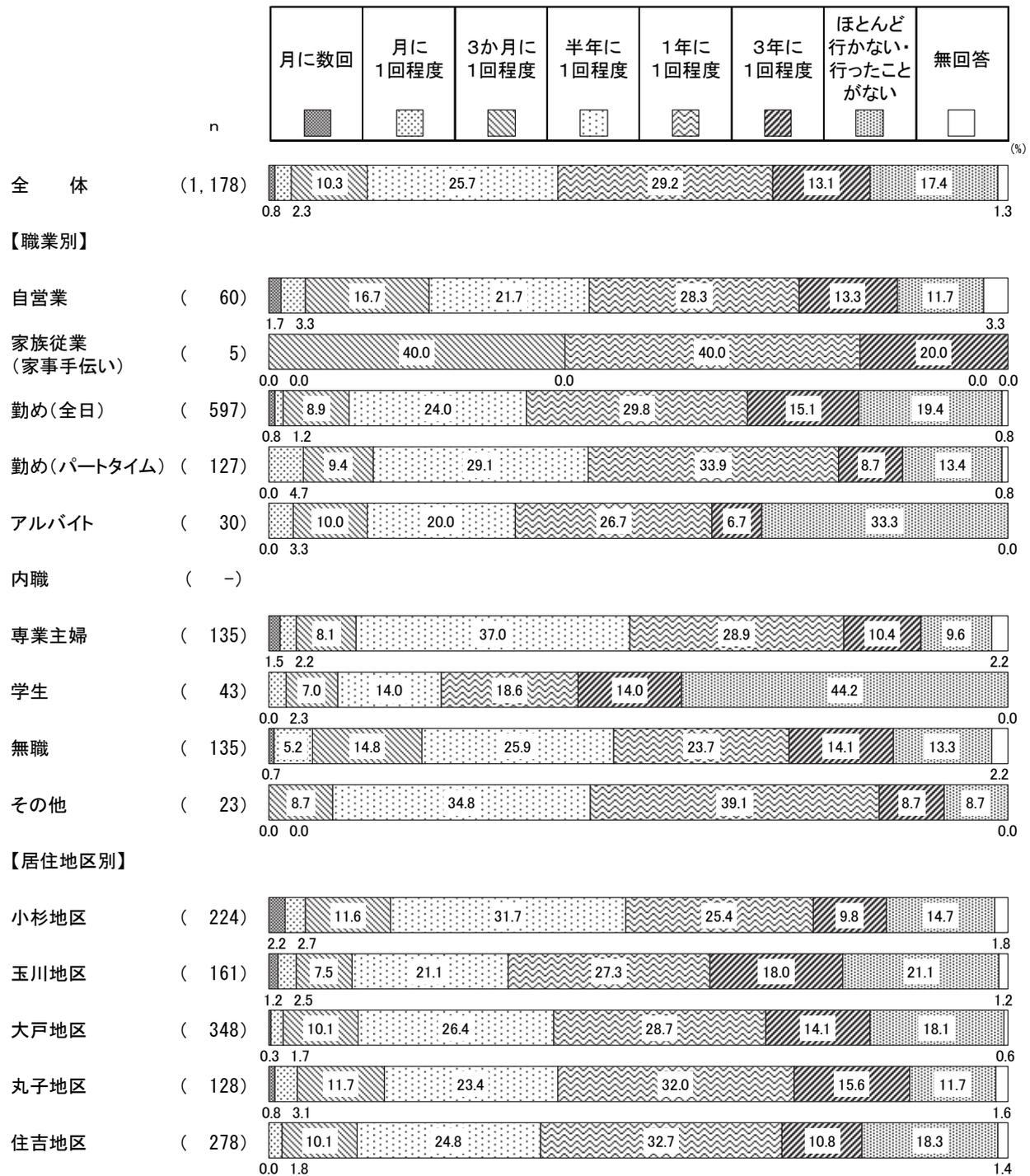
図表 5-1-3 中原区役所の利用頻度－性・年代別



職業別にみると、自営業が「月に数回」(1.7%)「月に1回程度」(3.3%)「3か月に1回程度」(16.7%)で高くなっている。「ほとんど行かない・行ったことがない」はアルバイト(33.3%)・学生(44.2%)が3割以上と高くなっている。

居住地区別にみると、「月に1回程度」は丸子地区(3.1%)、「半年に1回程度」は小杉地区(31.7%)で高くなっている。(図表5-1-4)

図表5-1-4 中原区役所の利用頻度—職業別・居住地区別



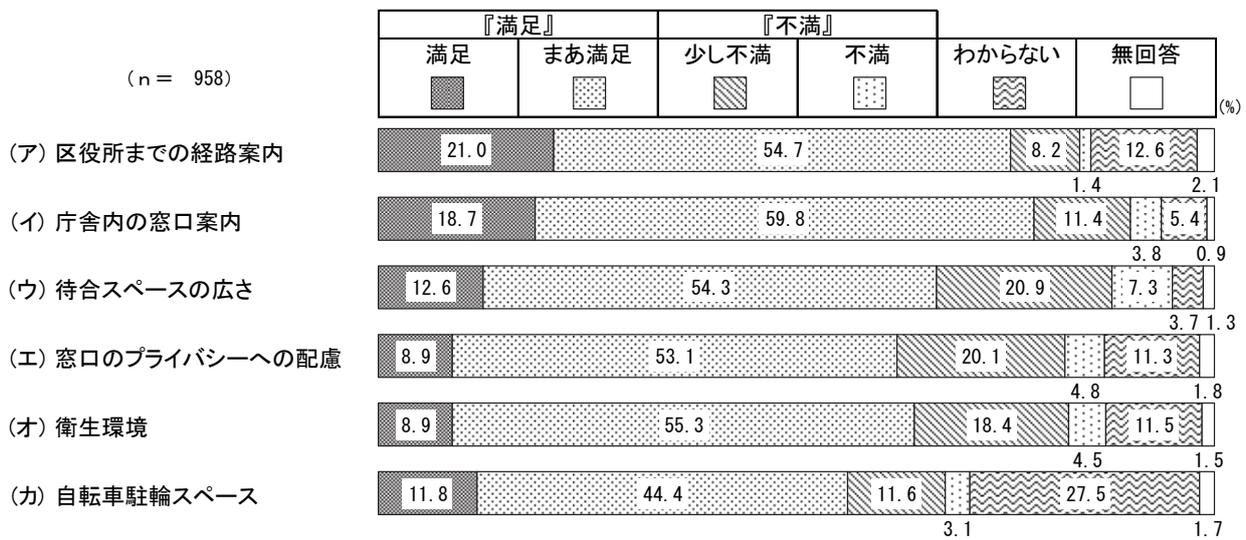
(2) 中原区役所の環境・設備の満足度

(問 13 で、「ほとんど行かない・行ったことがない」以外を回答した方に)
 問 13-1 中原区役所庁舎についてお伺いします。次にあげる (ア) から (カ) のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。各項目について1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つ)

中原区役所の利用頻度で「ほとんど行かない・行ったことがない」以外と回答した方 (958 人) に、中原区役所の環境・設備について6項目に分けて満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』は、(イ) 庁舎内の窓口案内 (78.5%) が8割近くと最も高く、次いで(ア) 区役所までの経路案内 (75.7%)、(ウ) 待合スペースの広さ (66.9%) となっている。

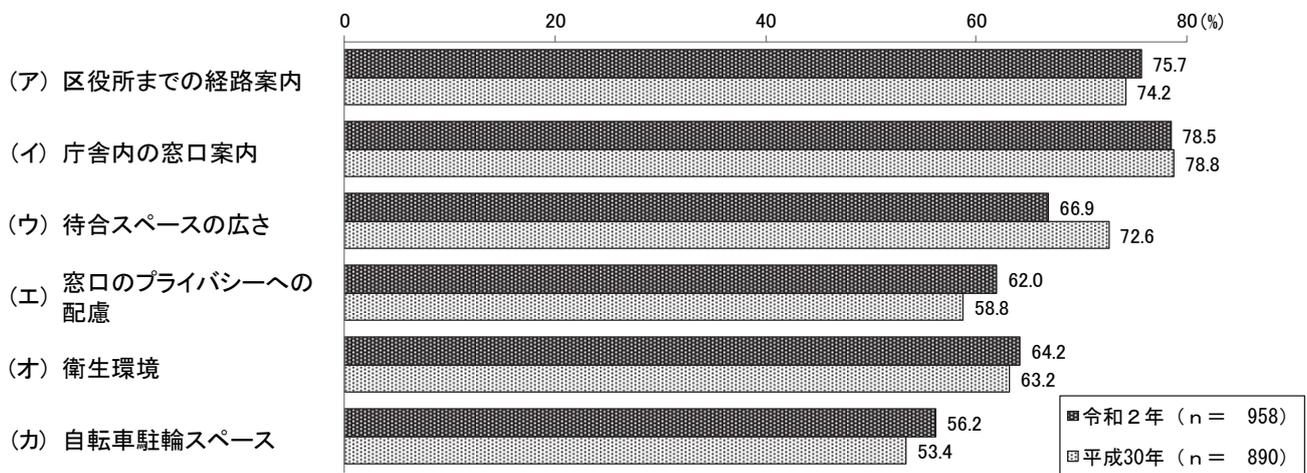
一方、「少し不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』は、(ウ) 待合スペースの広さ (28.2%) が3割近くで最も高く、次いで(エ) 窓口のプライバシーへの配慮 (24.9%)、(オ) 衛生環境 (22.9%) となっている。(図表5-2-1)

図表5-2-1 中原区役所の環境・設備の満足度



前回の調査と比較すると、前回調査より「(ウ) 待合スペースの広さ」は 5.7 ポイント減少、「(エ) 窓口のプライバシーへの配慮」は 3.2 ポイント増加している。(図表 5-2-2)

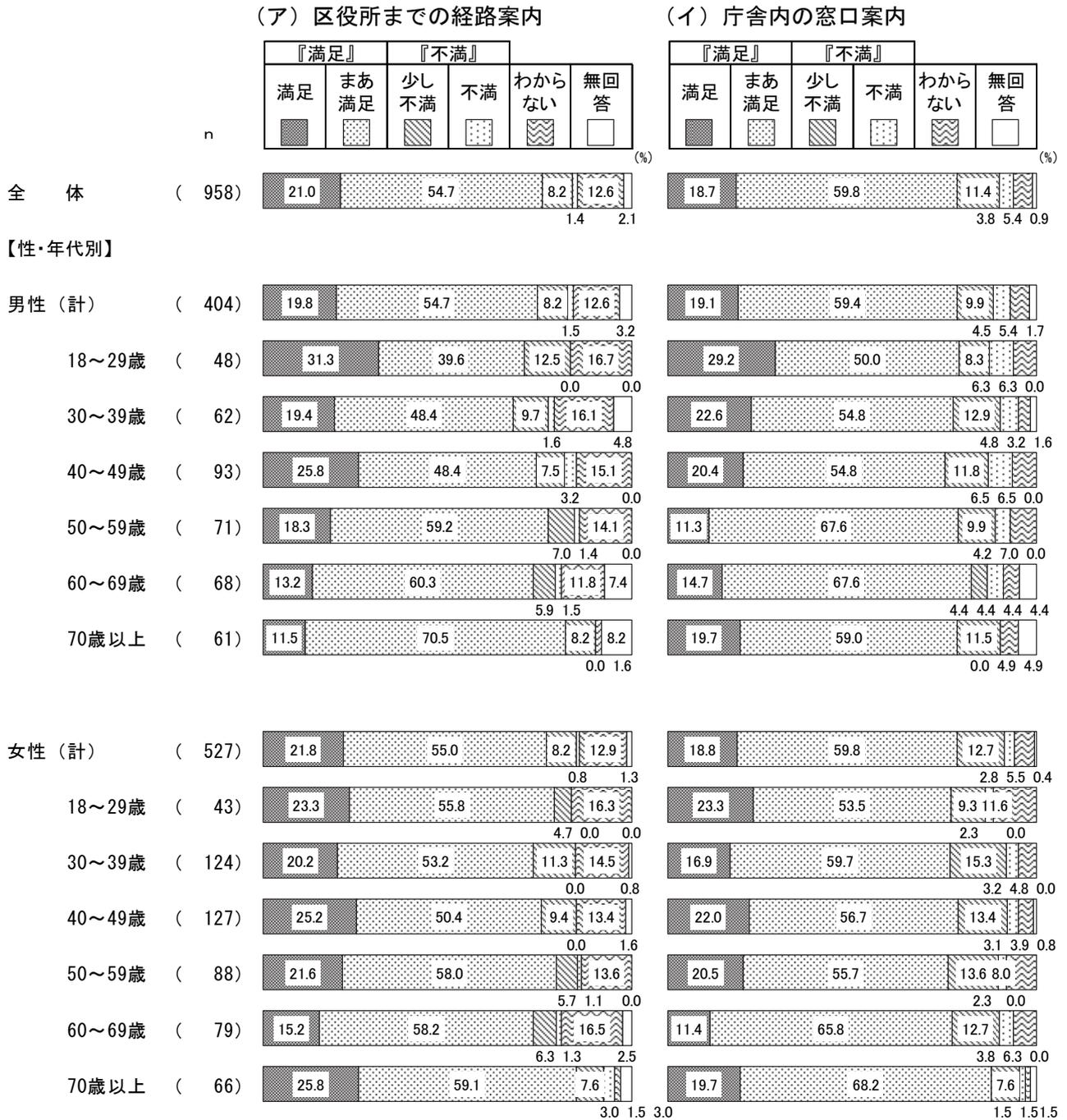
図表 5-2-2 中原区役所の環境・設備の満足度－『満足』の前の調査との比較



(ア) 区役所までの経路案内について性・年代別にみると、『満足』は男女ともに70歳以上（男性82.0%・女性84.9%）が8割以上と高くなっている。

(イ) 庁舎内の窓口案内について性・年代別にみると、『満足』は女性70歳以上（87.9%）と男性60～69歳（82.3%）が8割以上と高くなっている。（図表5-2-3）

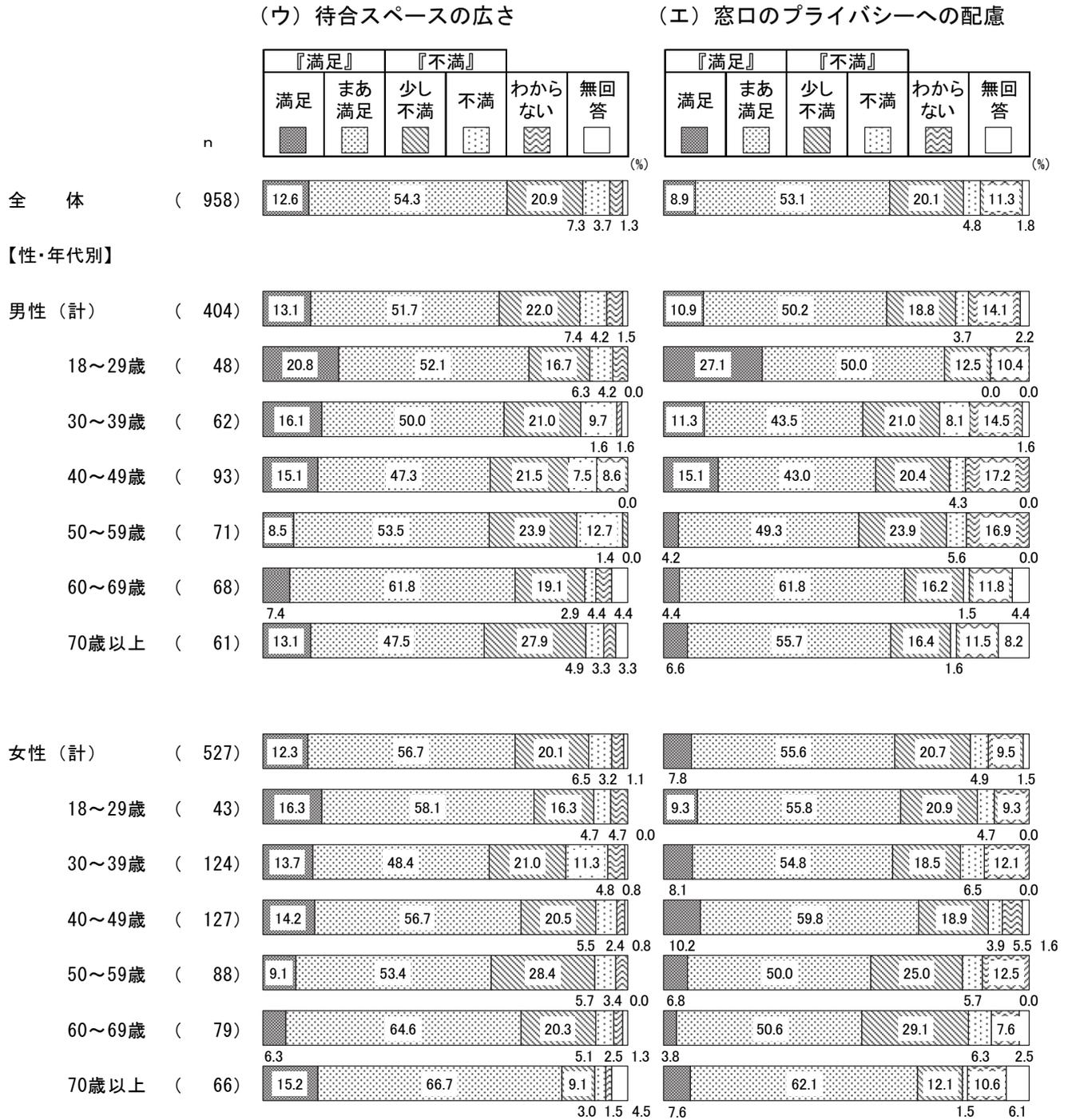
図表5-2-3 中原区役所の環境・設備の満足度—性・年代別



(ウ) 待合スペースの広さについて性・年代別にみると、『満足』は男性では最若年層の18～29歳(72.9%)が、女性は逆に最高齢層の70歳以上(81.9%)が最も高くなっている。

(エ) 窓口のプライバシーへの配慮について性・年代別にみると、『満足』は男性18～29歳(77.1%)が、女性40～49歳(70.0%)が最も高くなっている。(図表5-2-4)

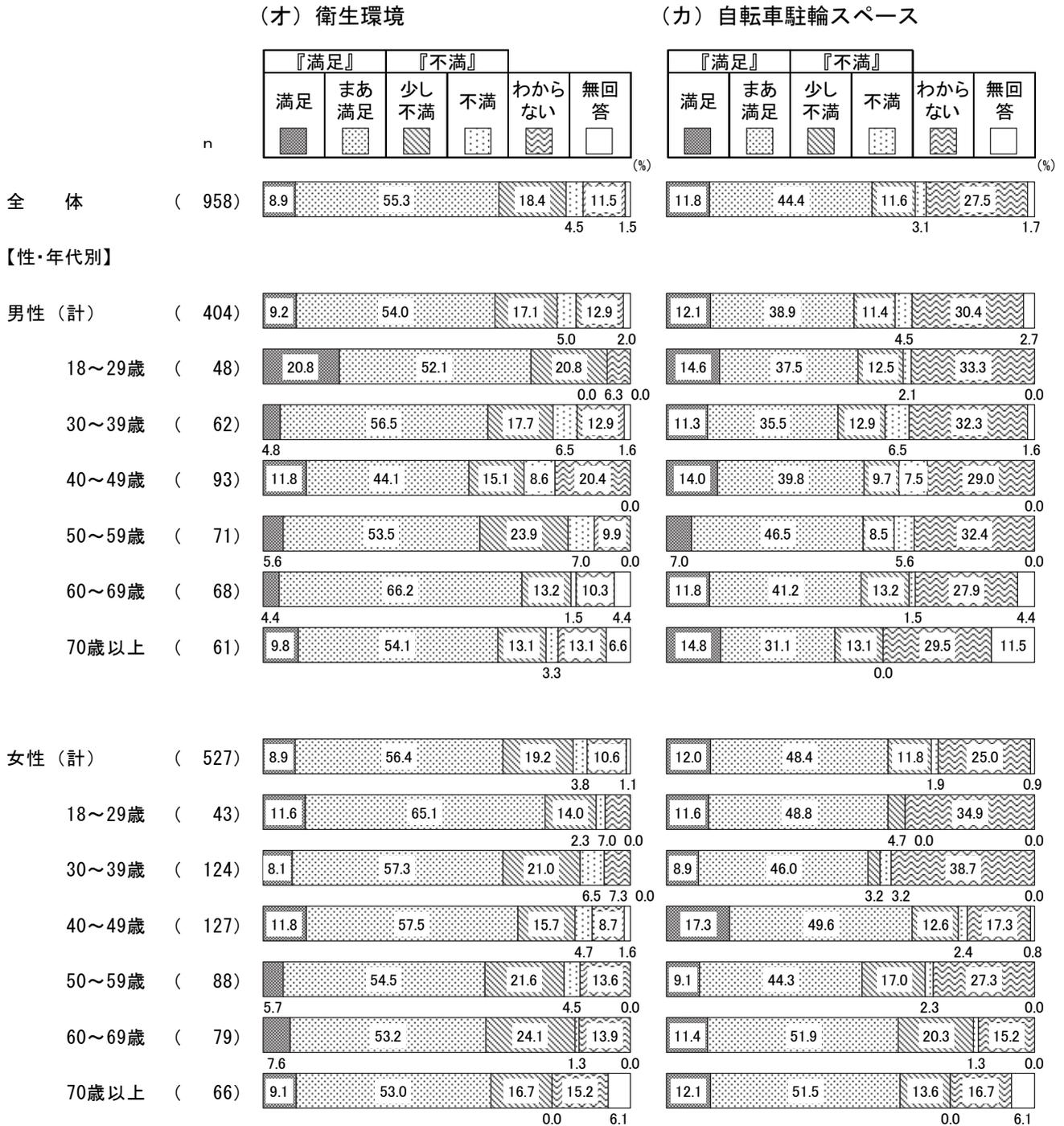
図表5-2-4 中原区役所の環境・設備の満足度—性・年代別



(オ) 衛生環境について性・年代別にみると、『満足』は男性18～29歳(72.9%)が、女性も18～29歳(76.7%)が最も高くなっている。『不満』は男性50～59歳(30.9%)が唯一3割を超えて高くなっている。

(カ) 自転車駐輪スペースについて性・年代別にみると、『満足』は男性40～49歳(53.8%)が、女性は40～49歳(66.9%)が最も高くなっている。(図表5-2-5)

図表5-2-5 中原区役所の環境・設備の満足度—性・年代別



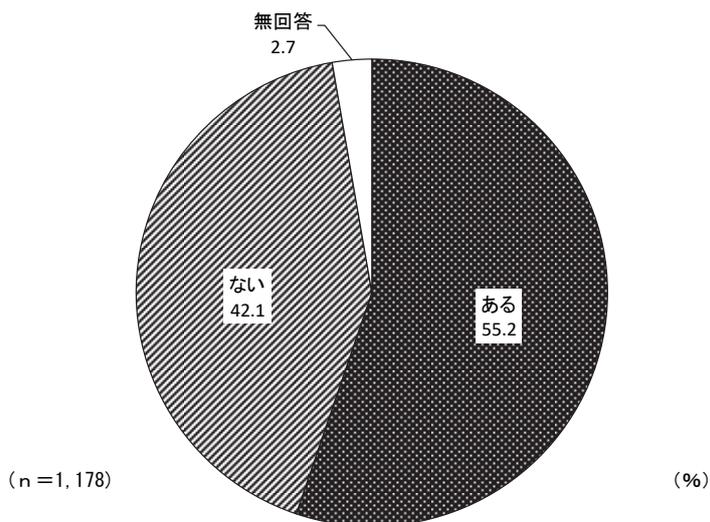
6 子育て支援

(1) 子育ての経験の有無

問 14 あなたは子育ての経験がありますか。(〇は1つだけ)

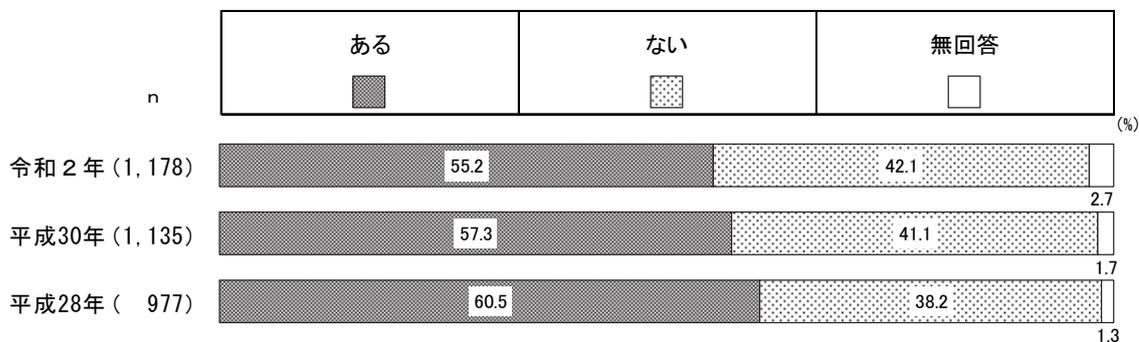
子育ての経験があるか聞いたところ、「ある」(55.2%)が5割半ば、「ない」(42.1%)は4割を超えている。(図表6-1-1)

図表6-1-1 子育ての経験の有無



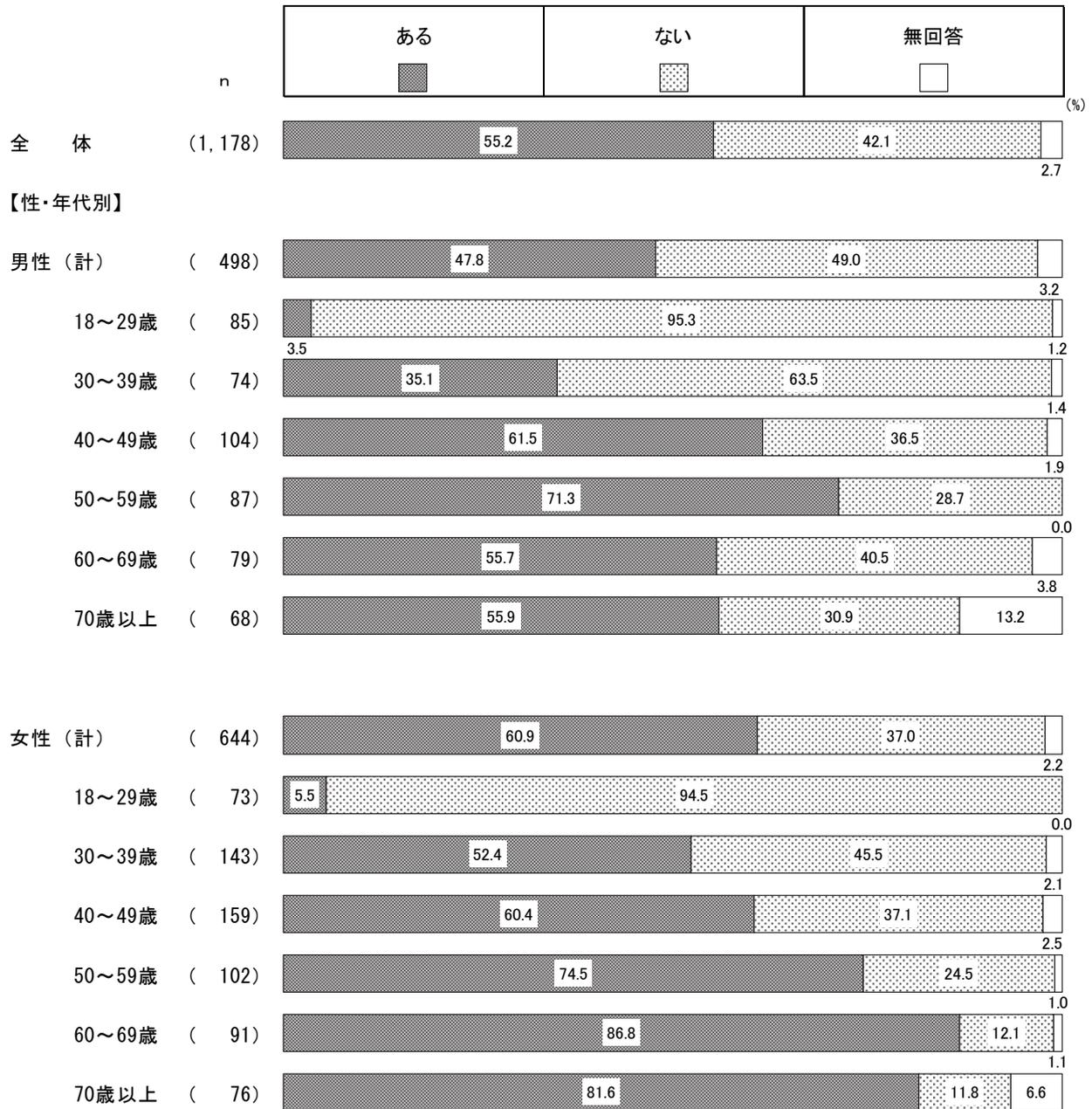
過去の調査と比較すると、「ある」は減少傾向となっている。(図表6-1-2)

図表6-1-2 子育ての経験の有無—過去の調査との比較



性・年代別にみると、「ある」は男性 50～59 歳（71.3%）・女性 50～59 歳（74.5%）・女性 60～69 歳・女性 70 歳以上が 7 割以上で高くなっている（図表 6－1－3）

図表 6－1－3 子育ての経験の有無一性・年代別



(2) 利用したことがある子育て支援サービス

(問 14 で、「ある」と回答した方に)

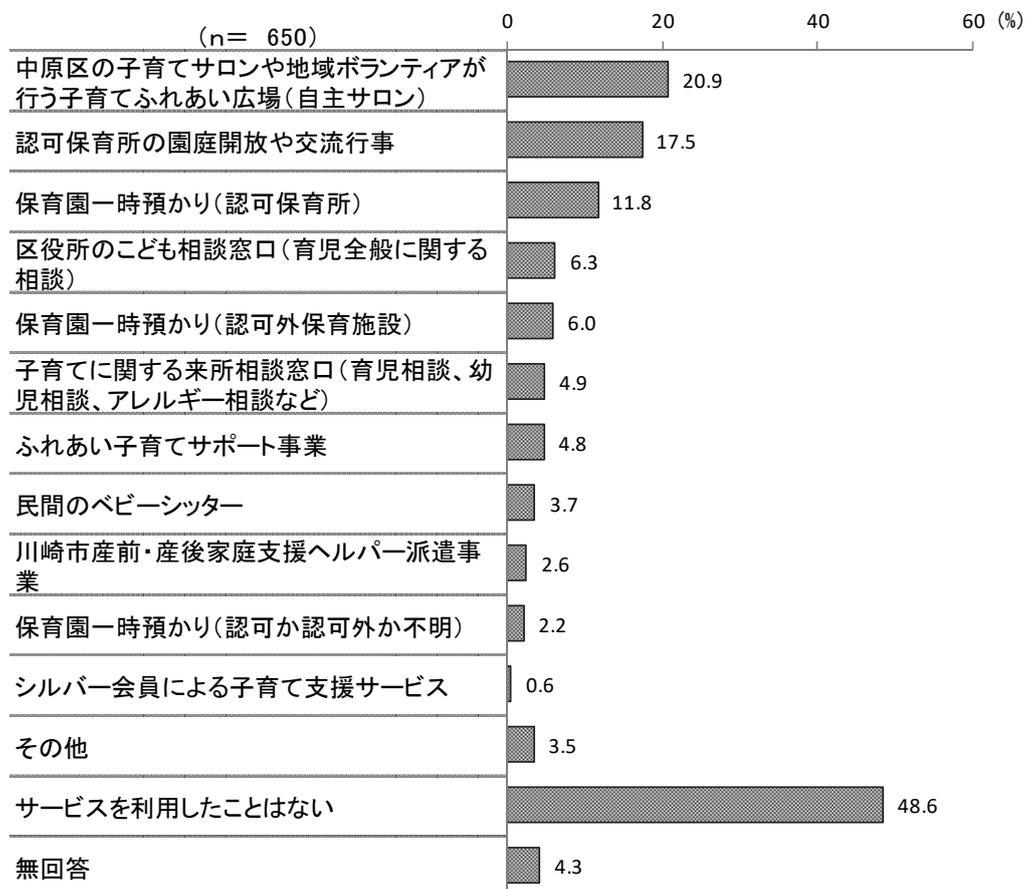
問 14-1 ふだん利用している、もしくは利用したことのあるサービスを教えてください。

(○はいくつでも)

子育ての経験が「ある」と回答した方(650人)に、ふだん利用している、もしくは利用したことのあるサービスを聞いたところ、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場(自主サロン)」(20.9%)が約2割で最も高く、次いで「認可保育所の園庭開放や交流行事」(17.5%)、「保育園一時預かり(認可保育所)」(11.8%)となっている。

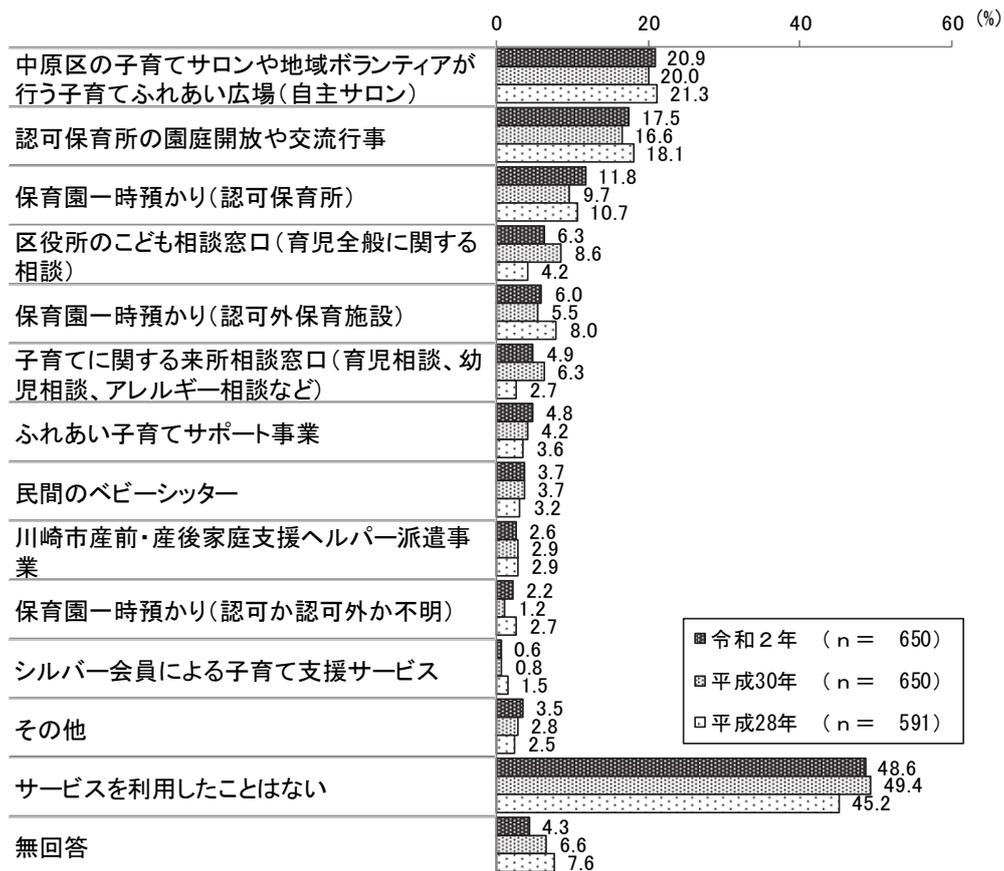
一方、「サービスを利用したことはない」(48.6%)は5割近くとなっている。(図表6-2-1)

図表6-2-1 利用したことがある子育て支援サービス



前回の調査と比較すると、「保育園一時預かり（認可保育所）」が2.1ポイント、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」・「認可保育所の園庭開放や交流行事」が0.9ポイント増加している。「区役所のこども相談窓口（育児全般に関する相談）」が2.3ポイント減少している（図表6-2-2）

図表6-2-2 利用したことがある子育て支援サービス—過去の調査との比較

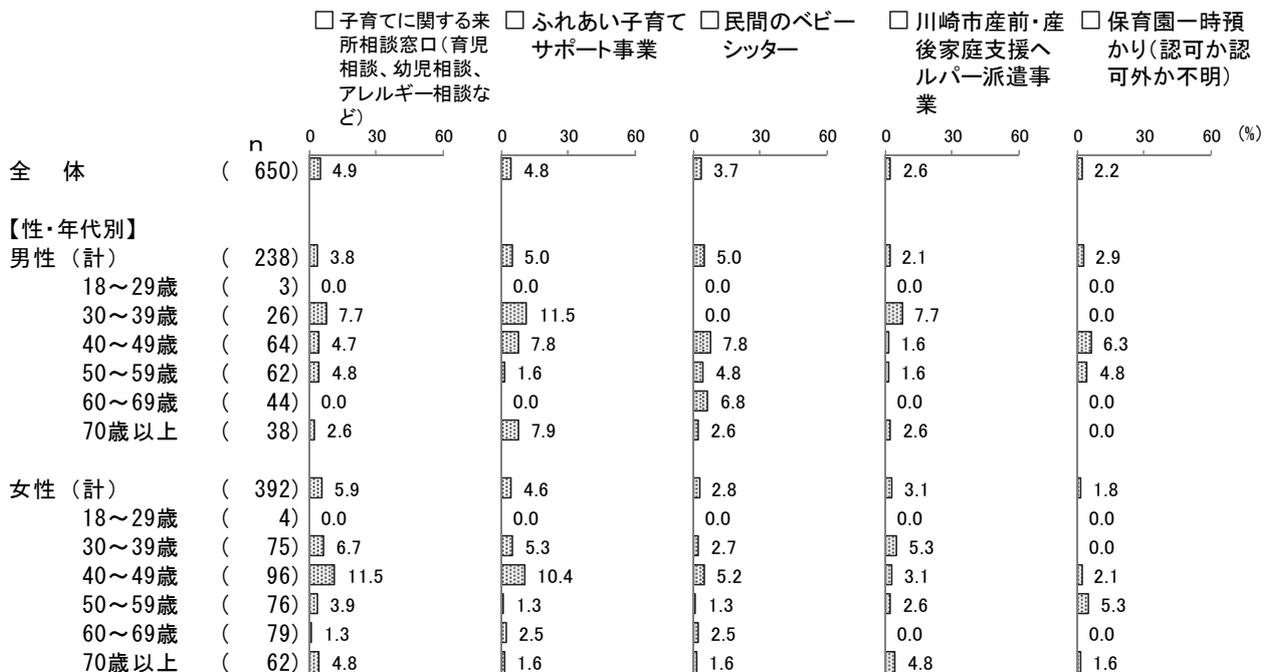
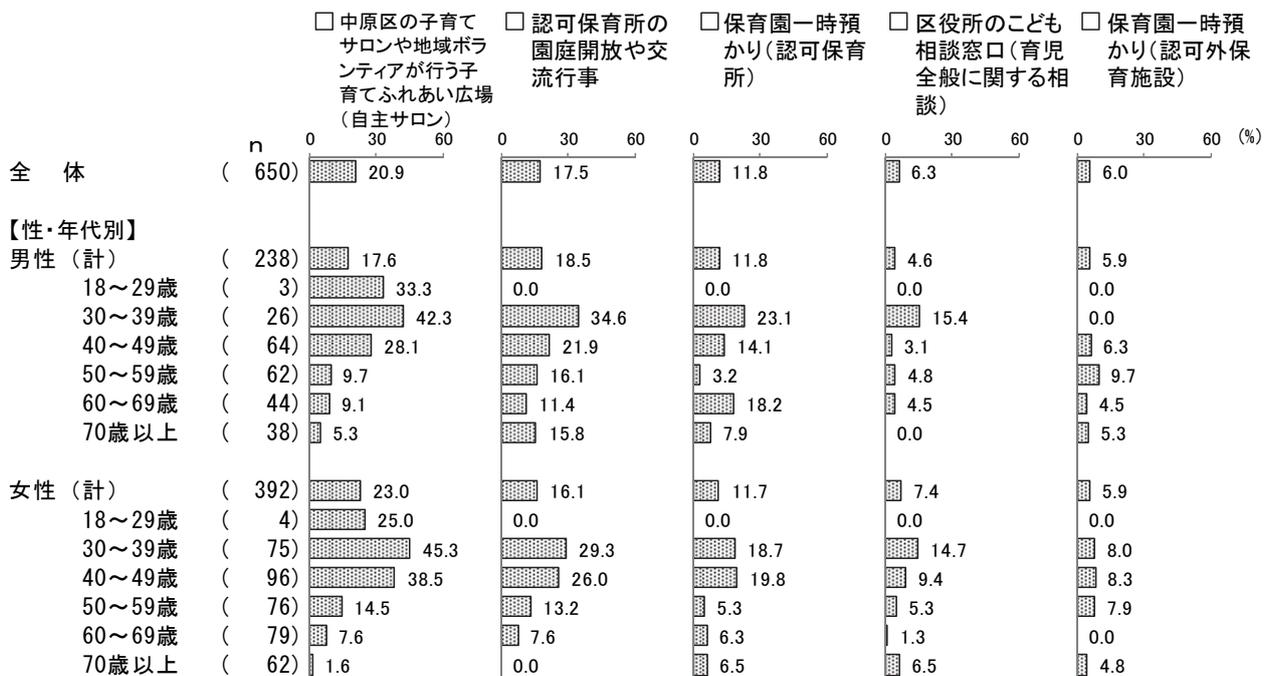


- ※「区役所のこども相談窓口（育児全般に関する相談）」は、平成28年調査では「こども相談窓口」としていた。
- ※「子育てに関する来所相談窓口（育児相談、幼児相談、アレルギー相談など）」は、平成28年調査では「子育てに関する来所相談窓口」としていた。

性・年代別にみると、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」は男性30～39歳（42.3%）・女性30～39歳（45.3%）が4割を超えて、「認可保育所の園庭開放や交流行事」は男性30～39歳（34.6%）・女性30～39歳（29.3%）が約3割以上で高くなっている。

（図表6-2-3）

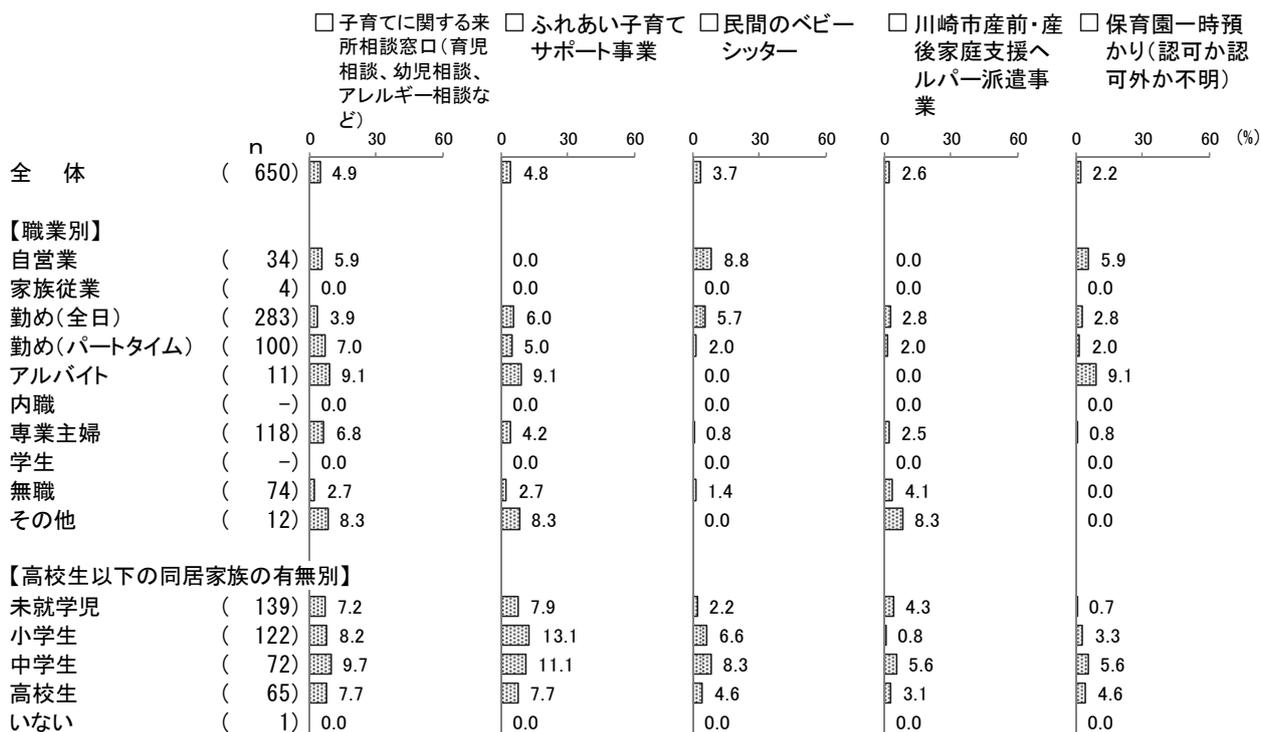
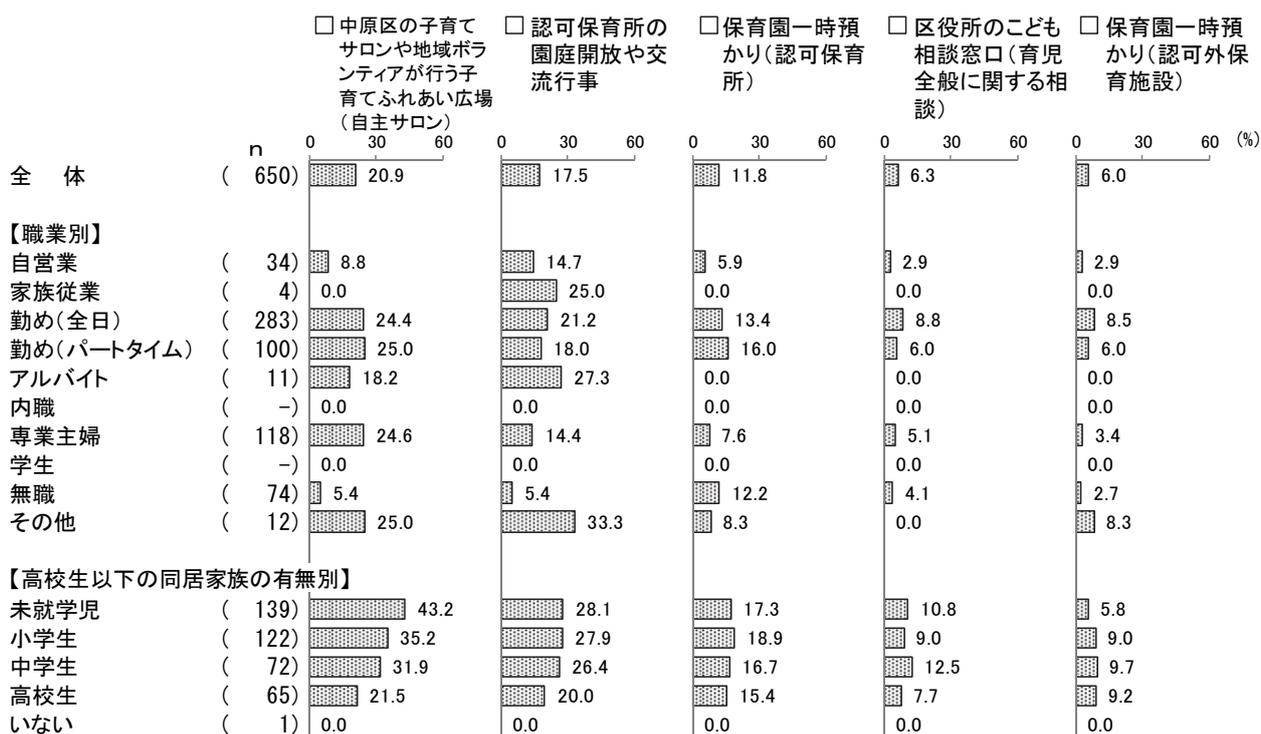
図表6-2-3 利用したことがある子育て支援サービス・性・年代別（上位10項目）



職業別にみると、「認可保育所の園庭開放や交流行事」はアルバイト（27.3%）が3割近くで高くなっている。

高校生以下の同居家族の有無別でみると、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」は未就学児（43.2%）が4割を超えて高くなっている。（図表6-2-4）

図表6-2-4 利用したことがある子育て支援サービス－職業別・高校生以下の同居家族の有無別
（上位10項目）

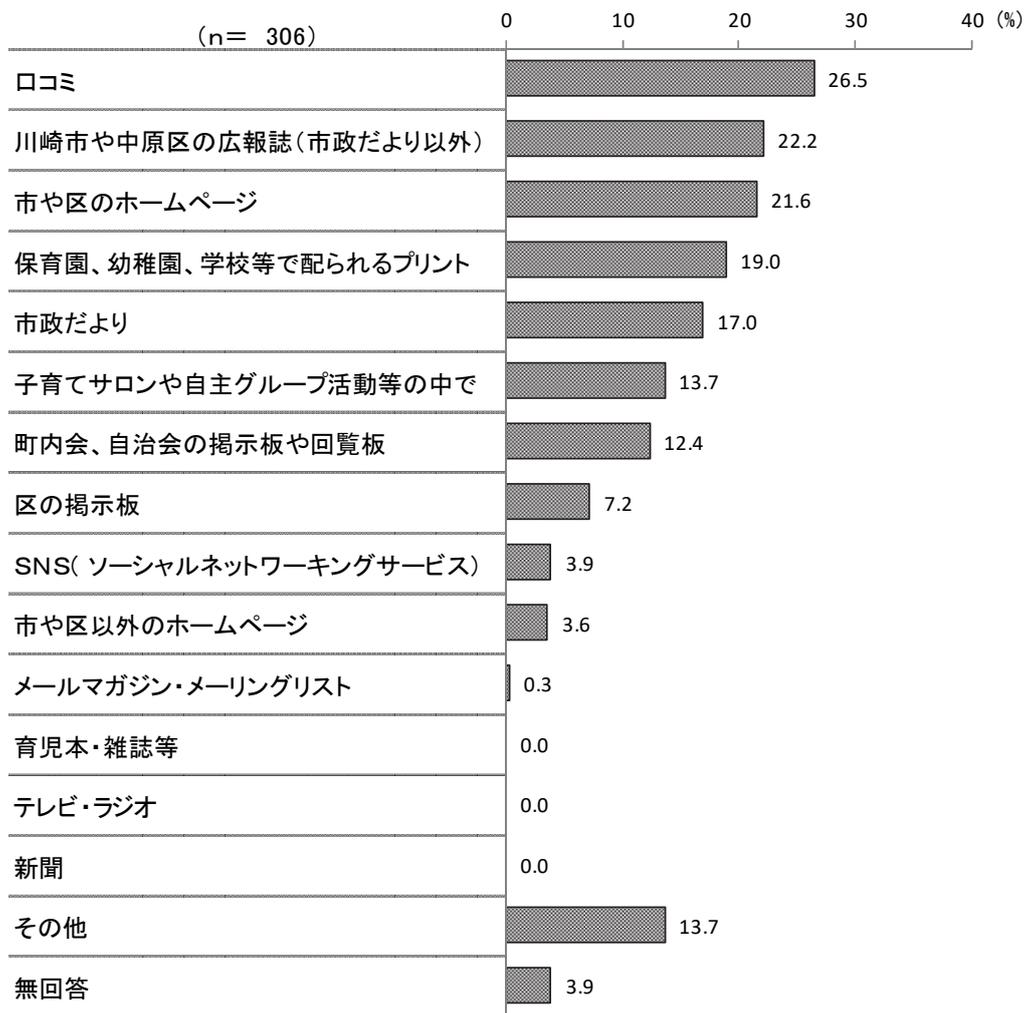


(3) 子育て支援サービスを知ったきっかけ

(問 14-1 で、「サービスを利用したことはない」以外を回答した方に)
 問 14-2 これらのサービスはどちらで知りましたか。(〇は3つまで)

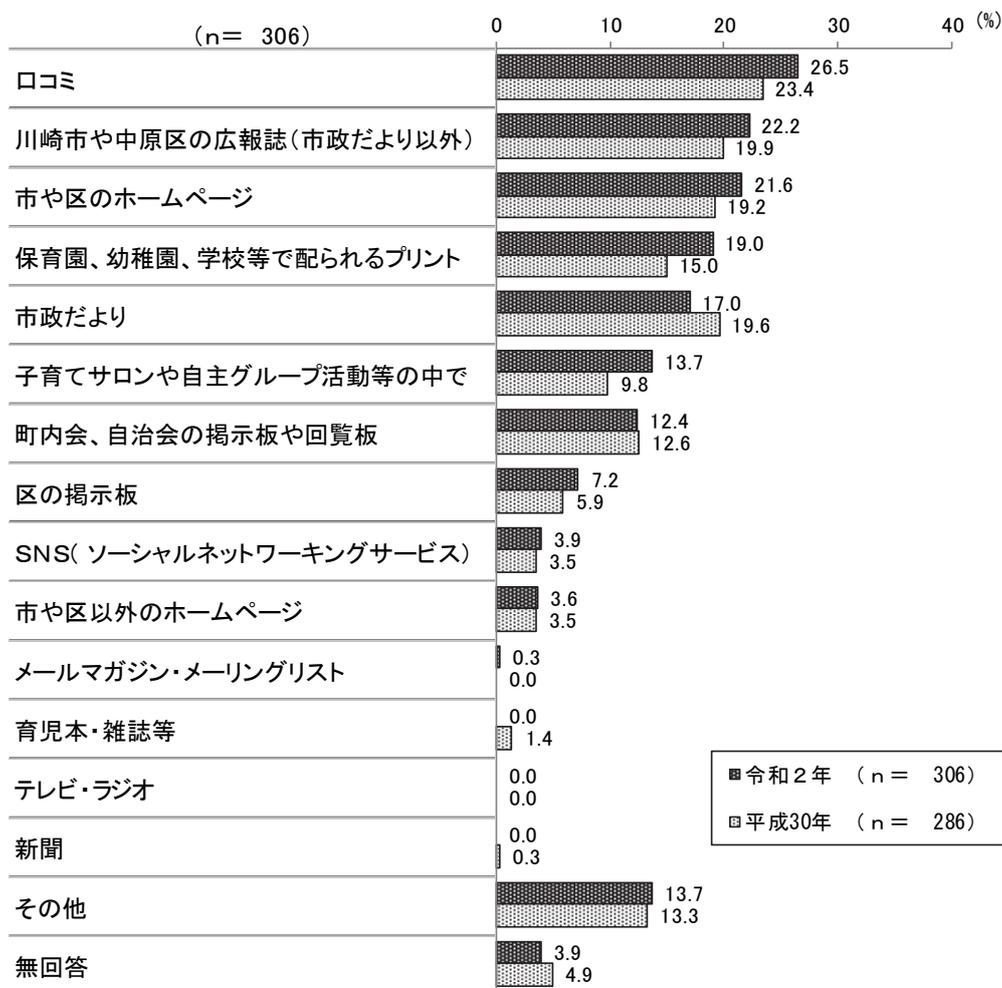
子育て支援の「サービスを利用したことはない」以外と回答した方(306人)に、サービスを何で知ったか聞いたところ、「口コミ」(26.5%)が2割半ばで最も高く、次いで「川崎市や中原区の広報誌(市政だより以外)」(22.2%)、「市や区のホームページ」(21.6%)、「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」(19.0%)となっている。(図表6-3-1)

図表6-3-1 子育て支援サービスを知ったきっかけ



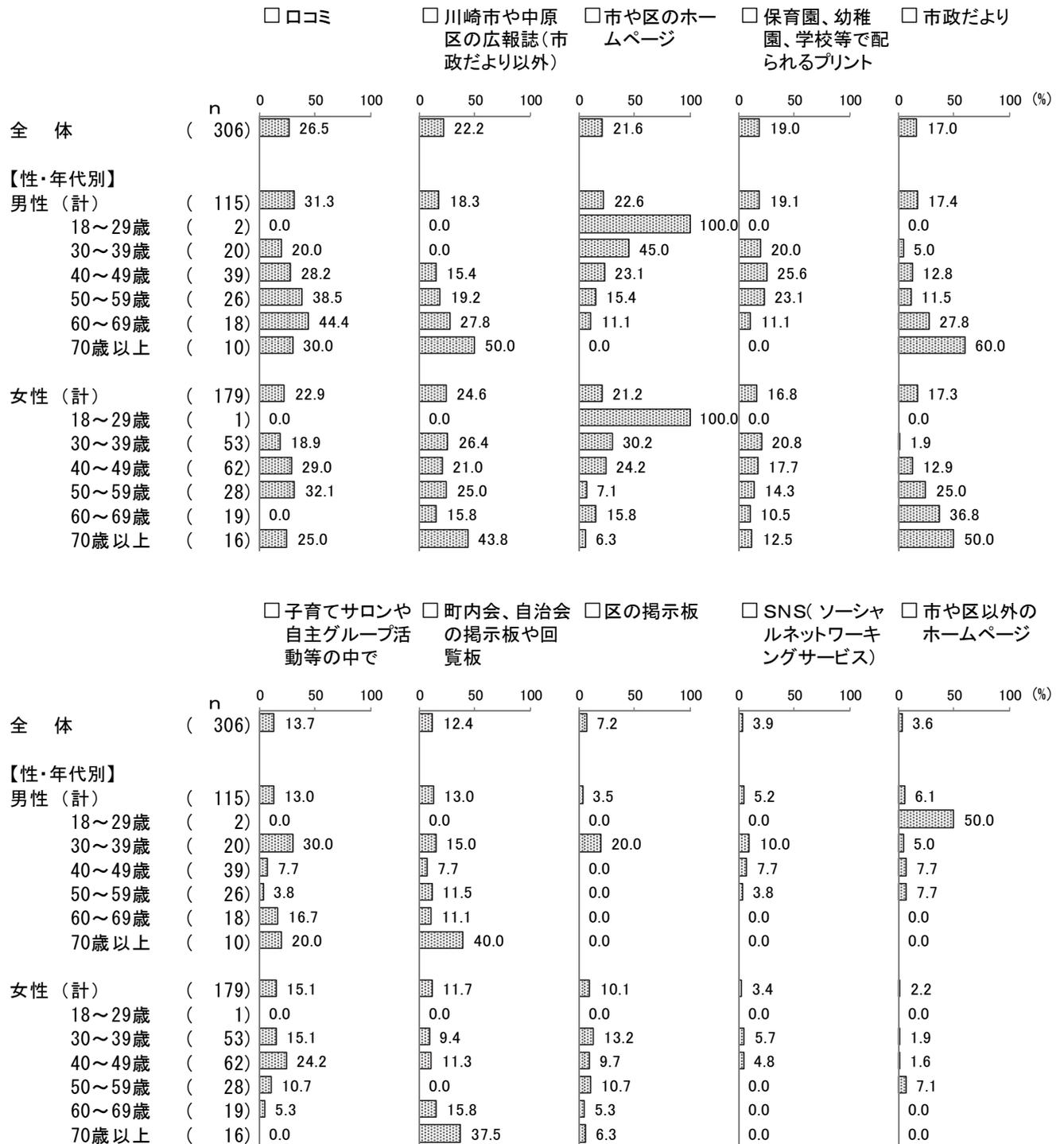
前回の調査と比較すると、「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」が4.0ポイント、「子育てサロンや自主グループ活動の中で」が3.9ポイント増加している。「市政だより」が2.6ポイント減少している。（図表6-3-2）

図表6-3-2 子育て支援サービスを知ったきっかけ—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「ロコミ」は男性（31.3%）が女性（22.9%）を8.4ポイント上回っており、「区の掲示板」は女性（10.1%）が男性（3.5%）を6.6ポイント上回っている。「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」は男性40～49歳（25.6%）が2割半ばと高くなっている。（図表6-3-3）

図表6-3-3 子育て支援サービスを知ったきっかけ-性・年代別（上位10項目）



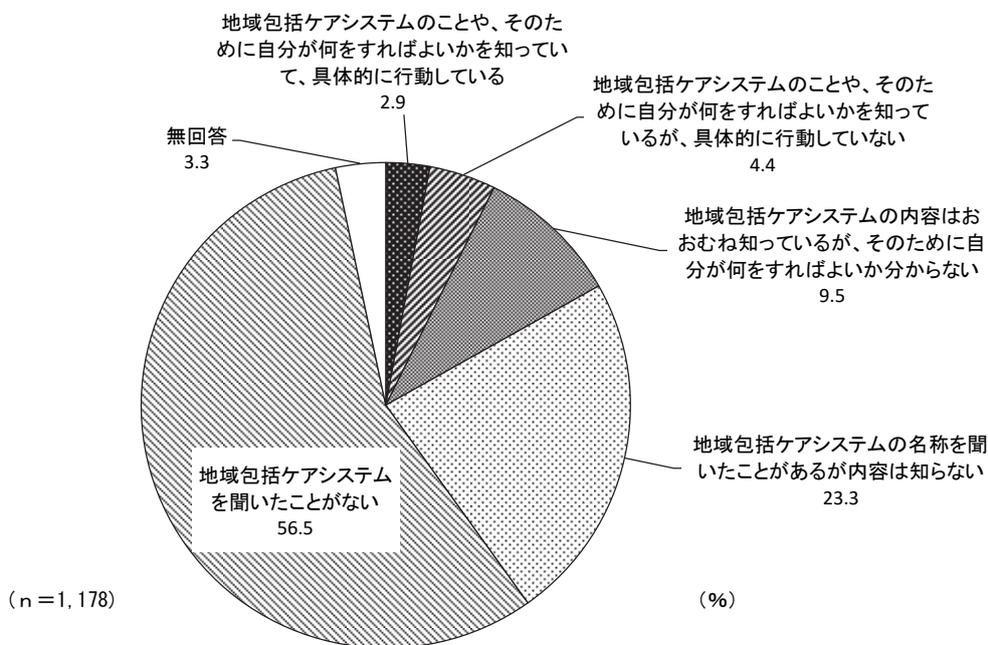
7 地域包括ケアシステム

(1) 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動

問 15 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。
あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものを選んでください。
(○は1つだけ)

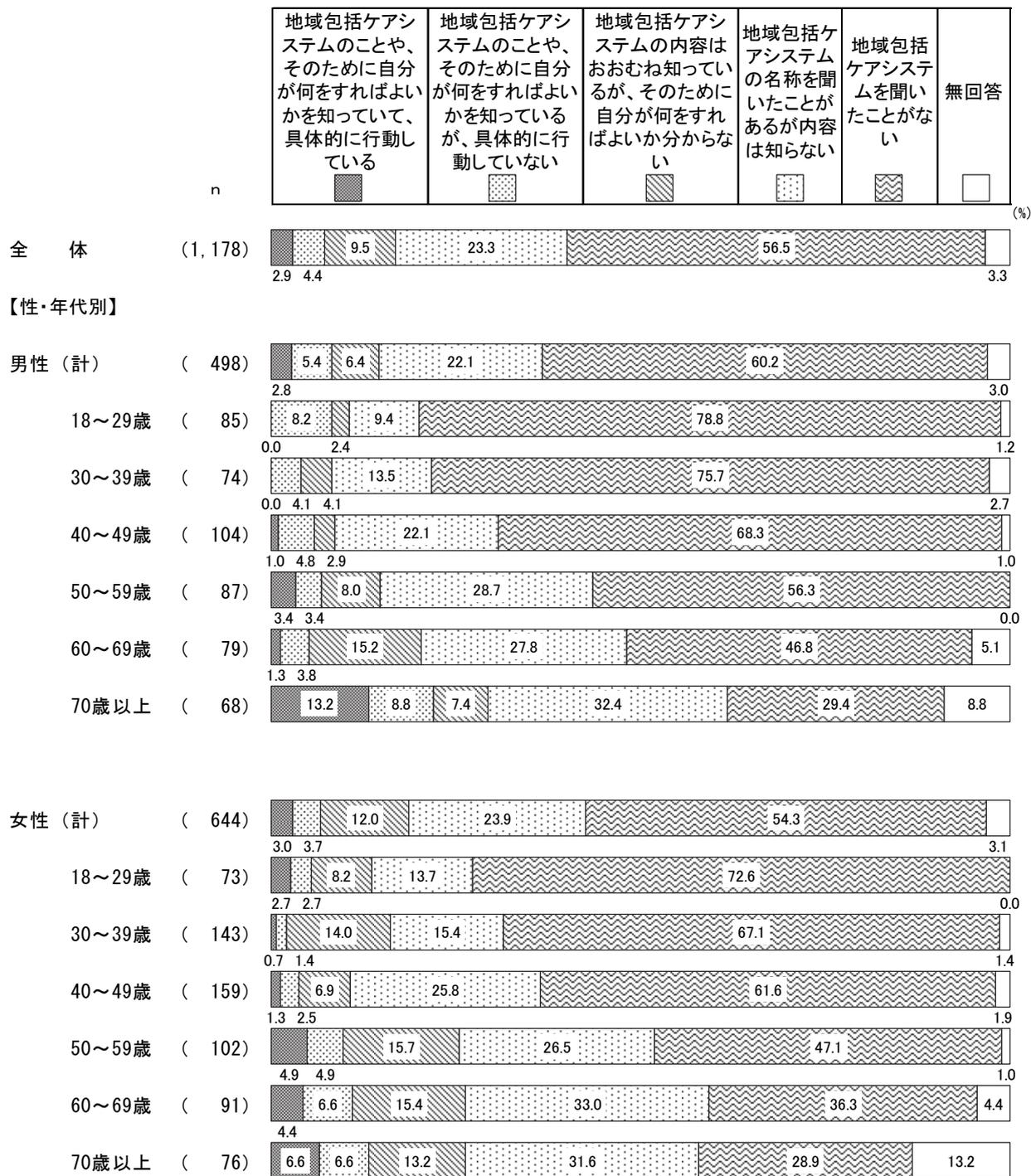
「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について聞いたところ、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」(56.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(23.3%)、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいか分からない」(9.5%)、「地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っているが、具体的に行動していない」(4.4%)となっている。(図表7-1-1)

図表7-1-1 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動



性・年代別にみると、男女とも年代が下がるほど「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が高くなっている。（図表7-1-2）

図表7-1-2 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動一性・年代別



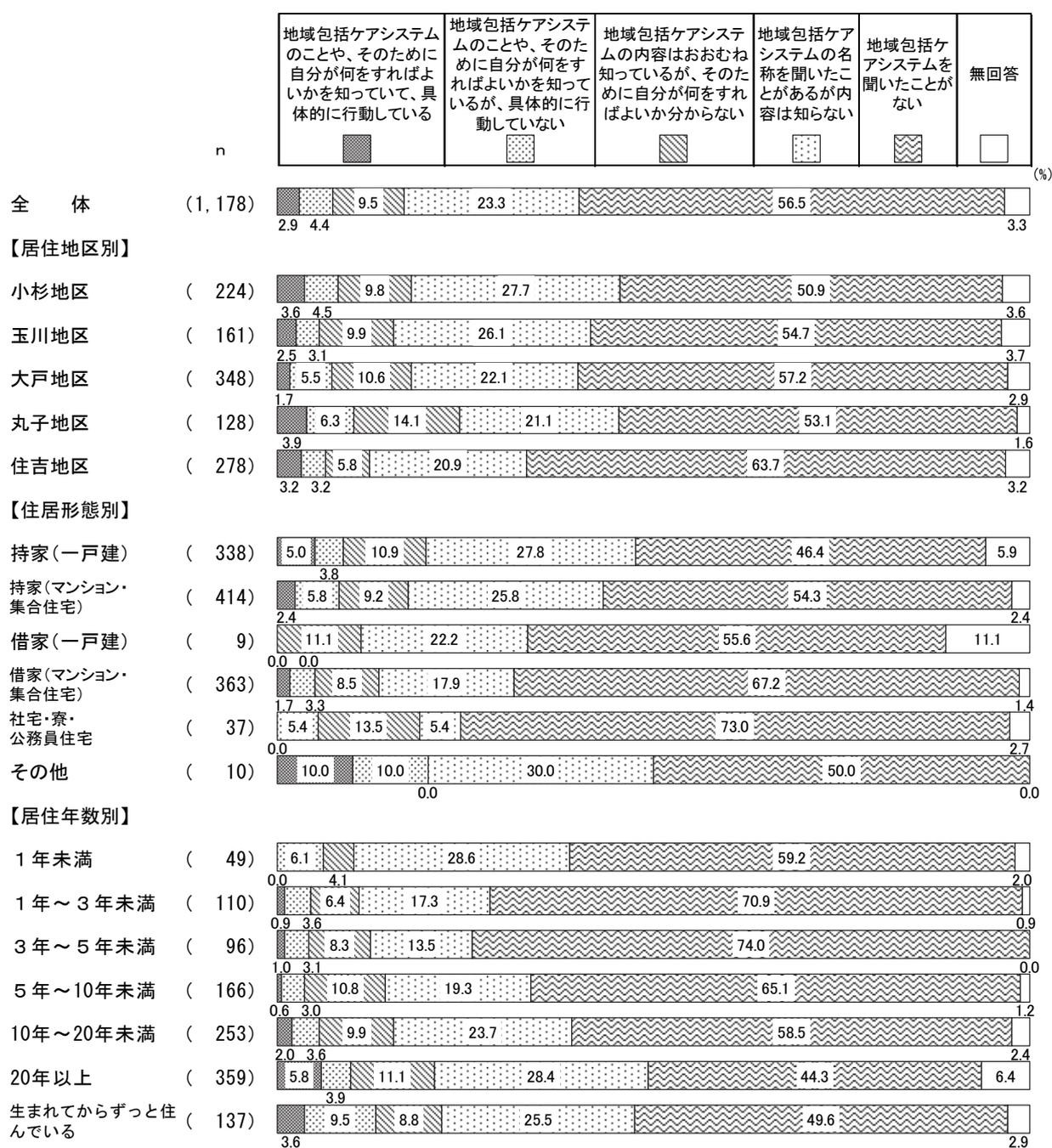
居住地区別にみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は住吉地区（63.7%）が6割を超えて、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいか分からない」は丸子地区（14.1%）が1割半ばと高くなっている。

住居形態別にみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は社宅・寮・公務員住宅（73.0%）が7割を超えて、「地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない」は持家（一戸建）（27.8%）が3割近くと高くなっている。

居住年数別にみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は3年～5年未満（74.0%）が7割を超えて、1年～3年未満（70.9%）が約7割と高くなっている。「地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない」は1年未満（28.6%）が3割近くと高くなっている。

（図表7-1-3）

図表7-1-3 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動－居住地区別・住居形態別・居住年数別

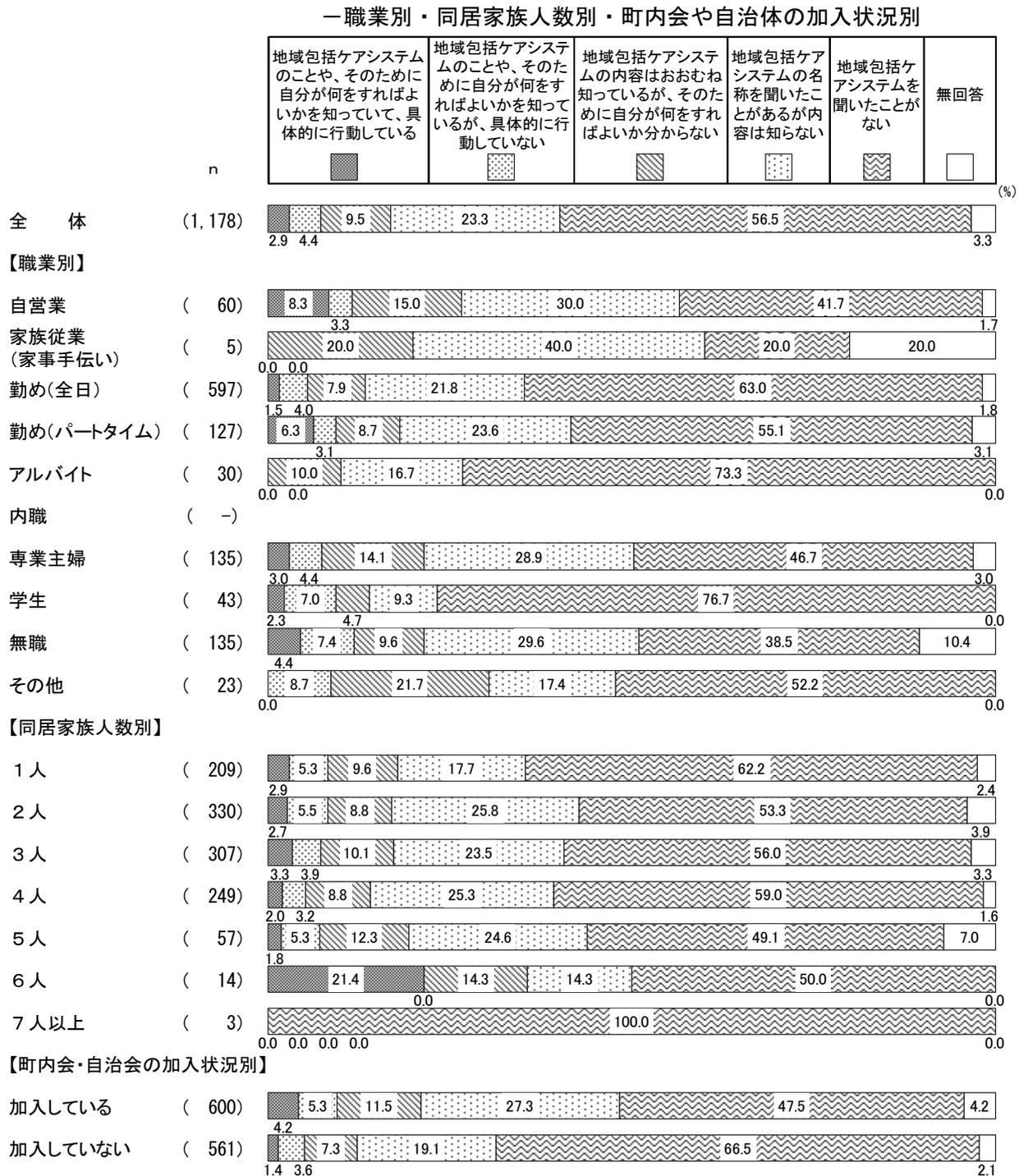


職業別にみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は学生（76.7%）が7割半ば、アルバイト（73.3%）が7割を超えて高くなっている。「地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない」は自営業（30.0%）・無職（29.6%）が約3割と高くなっている。

同居家族人数別でみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は1人（62.2%）が6割を超えて、「地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない」は2人（25.8%）と4人（25.3%）が2割半ばと高くなっている。

町内会・自治体の加入状況別でみると、「地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない」は加入している人（27.3%）が3割近く、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は加入していない人（66.5%）が7割近くと高くなっている。（図表7-1-4）

図表7-1-4 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動

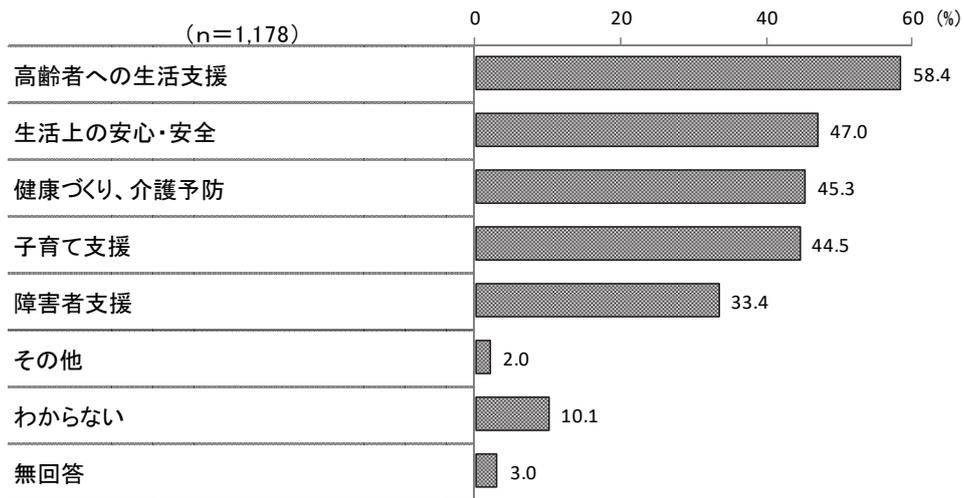


(2) 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと

問 16 地域包括ケアシステムによって取り組むべきだと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

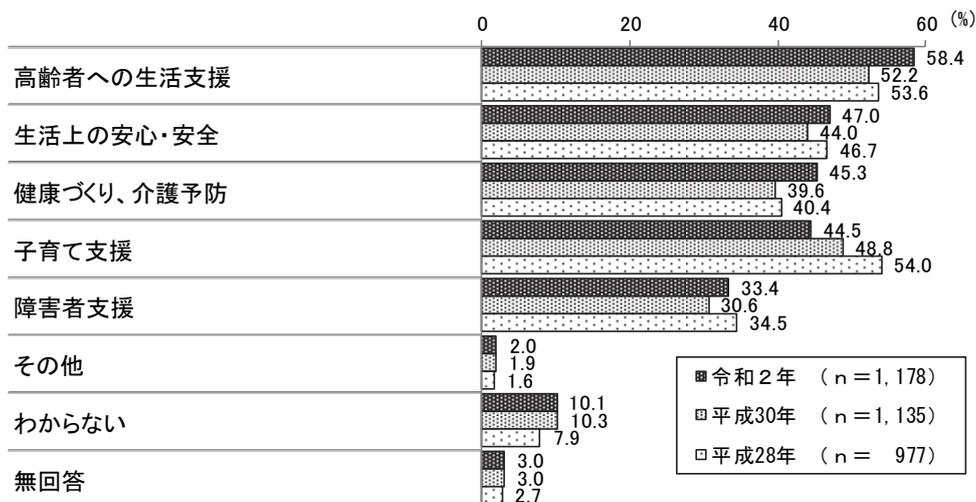
地域包括ケアシステムによって取り組むべきだと思うものを聞いたところ、「高齢者への生活支援」(58.4%)が6割近くで最も高く、次いで「生活上の安心・安全」(47.0%)、「健康づくり、介護予防」(45.3%)、「子育て支援」(44.5%)となっている。(図表7-2-1)

図表7-2-1 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと



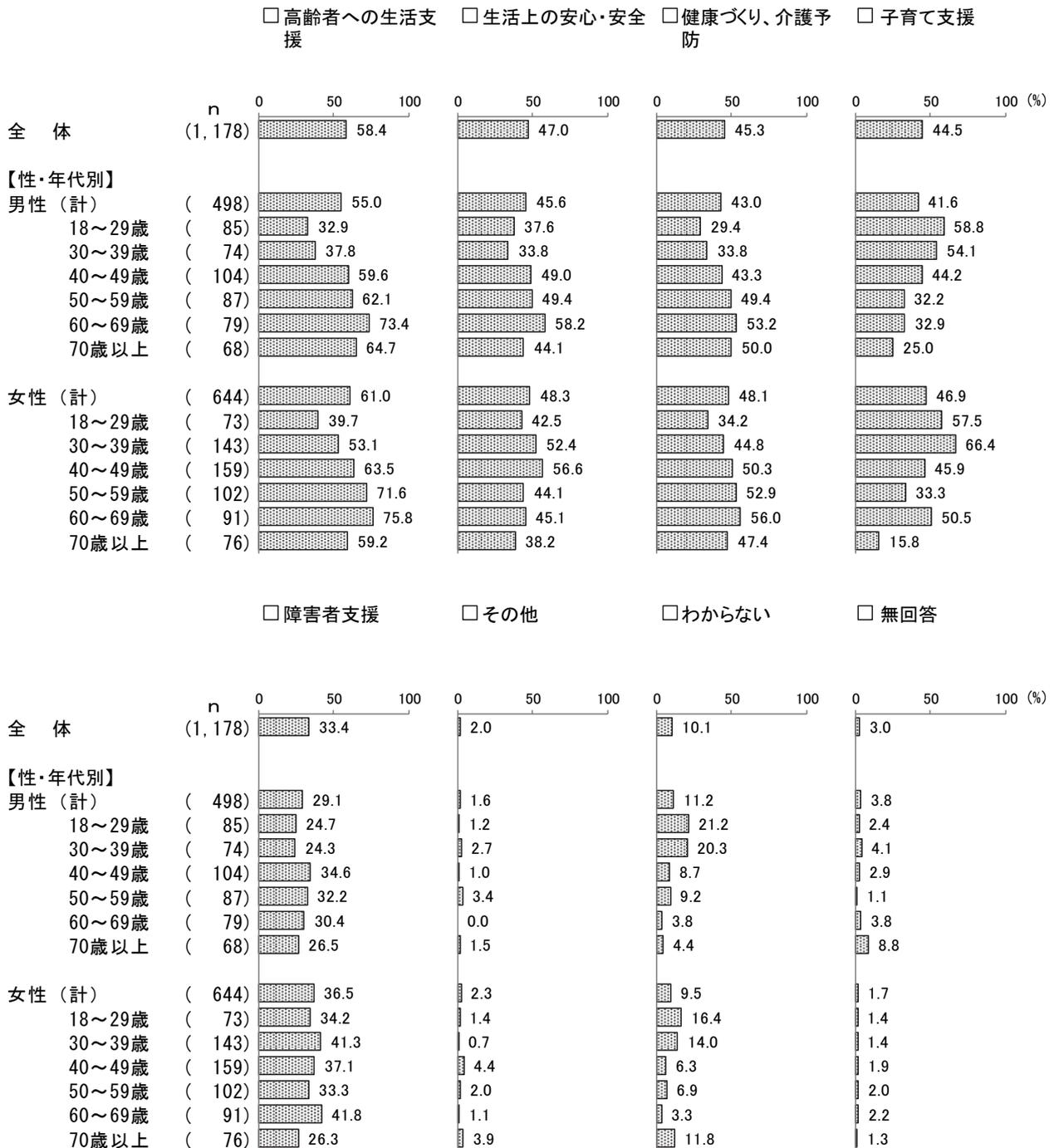
過去の調査と比較すると、「高齢者への生活支援」(58.4%)が6.2ポイント増加している。一方、「子育て支援」(44.5%)が4.3ポイント減少している。(図表7-2-2)

図表7-2-2 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきことー過去の調査との比較



性・年代別にみると、「高齢者への生活支援」は女性 60～69 歳（75.8%）が 7 割半ば、男性 60～69 歳（73.4%）・女性 50～59 歳（71.6%）が 7 割を超えて高くなっている。「子育て支援」は女性 30～39 歳（66.4%）が 6 割半ばと高くなっている。（図表 7-2-3）

図表 7-2-3 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきことー性・年代別



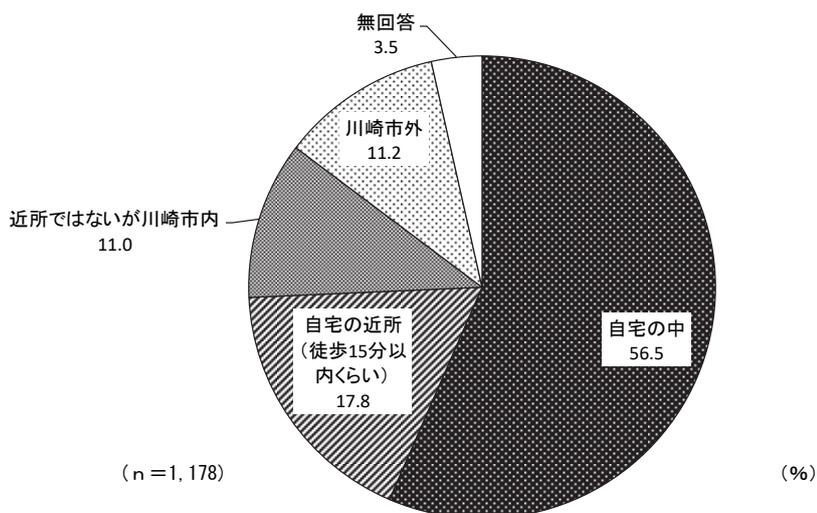
8 自立的な活動

(1) 自由な時間があるときに過ごす場所

問 17 自由な時間があるときは、どこで時間を過ごすことが多いですか。(〇は1つだけ)

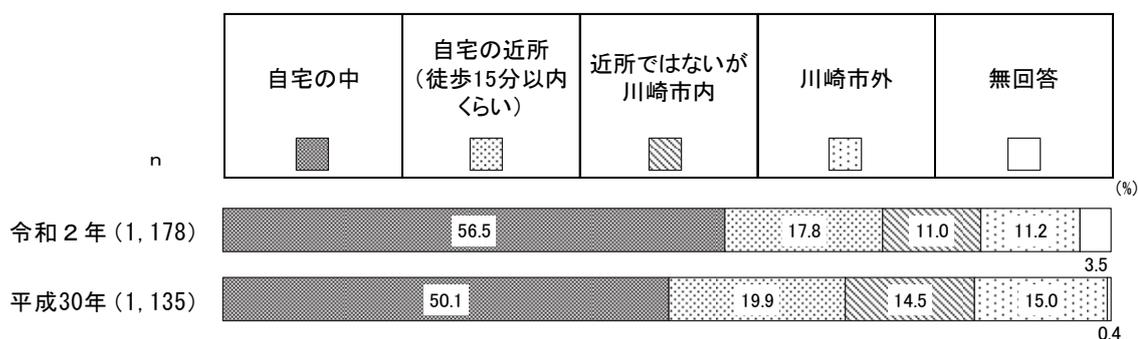
自由な時間があるときは、どこで時間を過ごすことが多いか聞いたところ、「自宅の中」(56.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「自宅の近所(徒歩15分以内くらい)」(17.8%)、「川崎市外」(11.2%)、「近所ではないが川崎市内」(11.0%)となっている。(図表8-1-1)

図表8-1-1 自由な時間があるときに過ごす場所



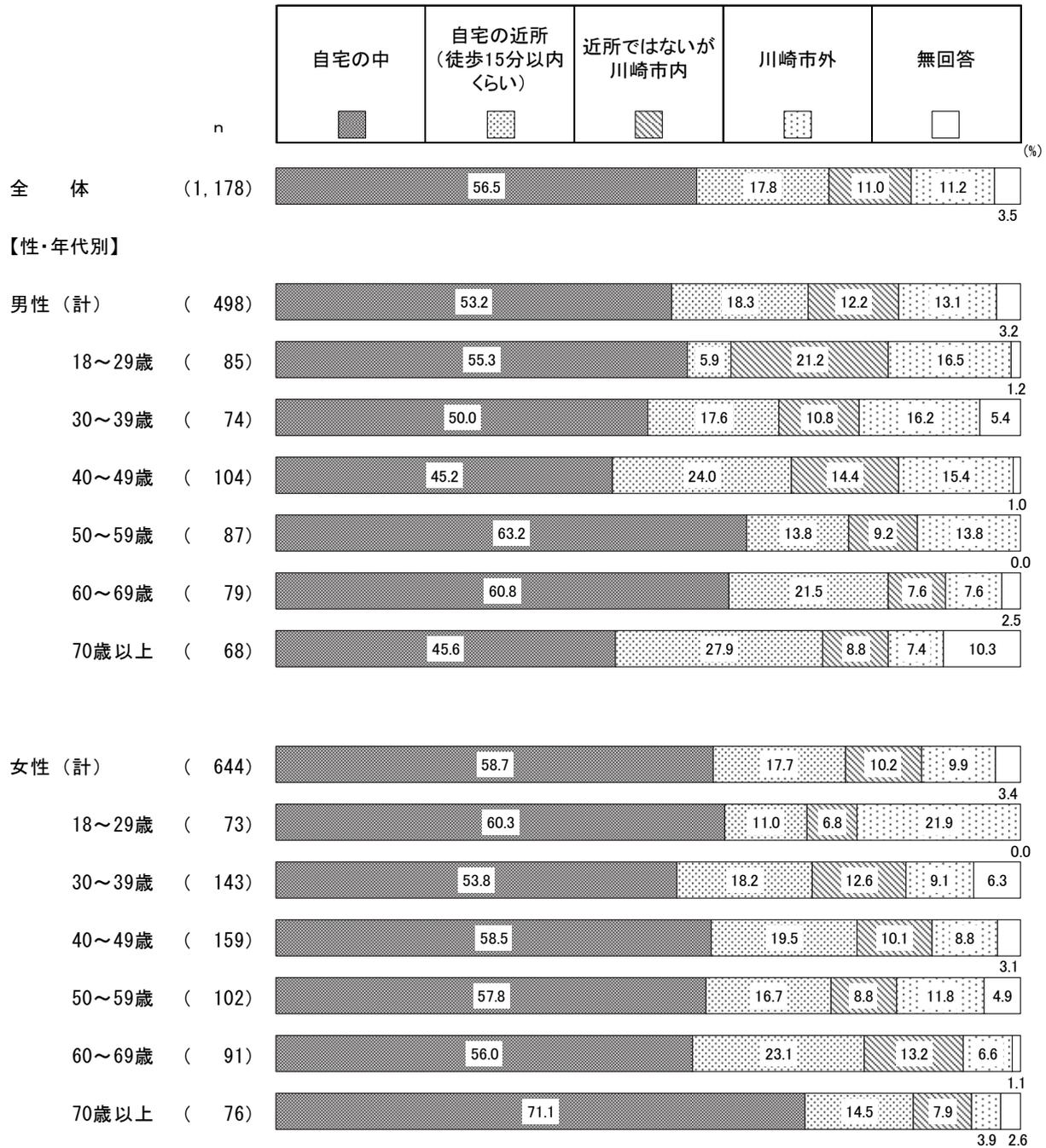
前回の調査と比較すると、「自宅の中」(56.5%)が6.4ポイント増加している。(図表8-1-2)

図表8-1-2 自由な時間があるときに過ごす場所—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「自宅の中」は女性 70 歳以上（71.1%）が 7 割を超えて、「自宅の近所（徒歩 15 分以内くらい）」は男性 70 歳以上（27.9%）が 3 割近く、「近所ではないが川崎市内」は男性 18～29 歳（21.2%）が 2 割を超えて高くなっている。（図表 8-1-3）

図表 8-1-3 自由な時間があるときに過ごす場所一性・年代別

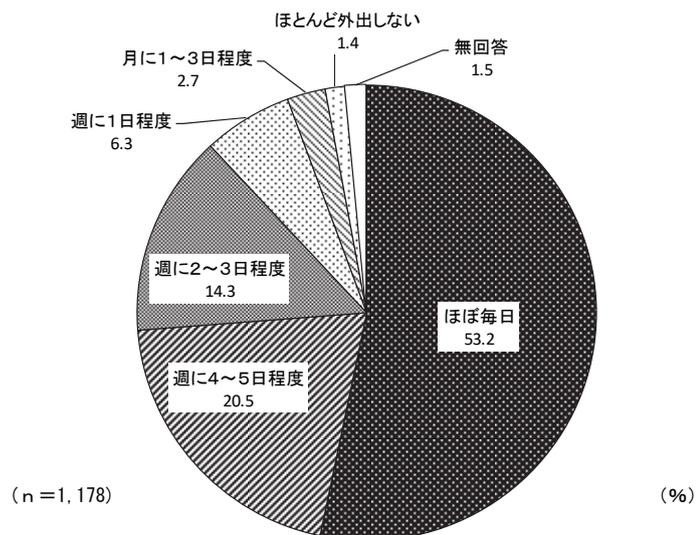


(2) 外出する頻度

問 18 様々な目的を合わせて、ふだん外出する頻度はどのくらいですか。(〇は1つだけ)

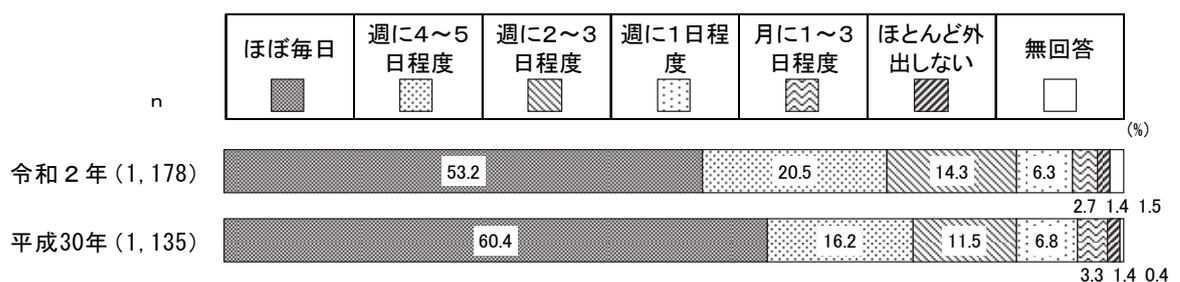
ふだん外出する頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」(53.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「週に4～5日程度」(20.5%)、「週に2～3日程度」(14.3%)となっている。(図表8-2-1)

図表8-2-1 外出する頻度



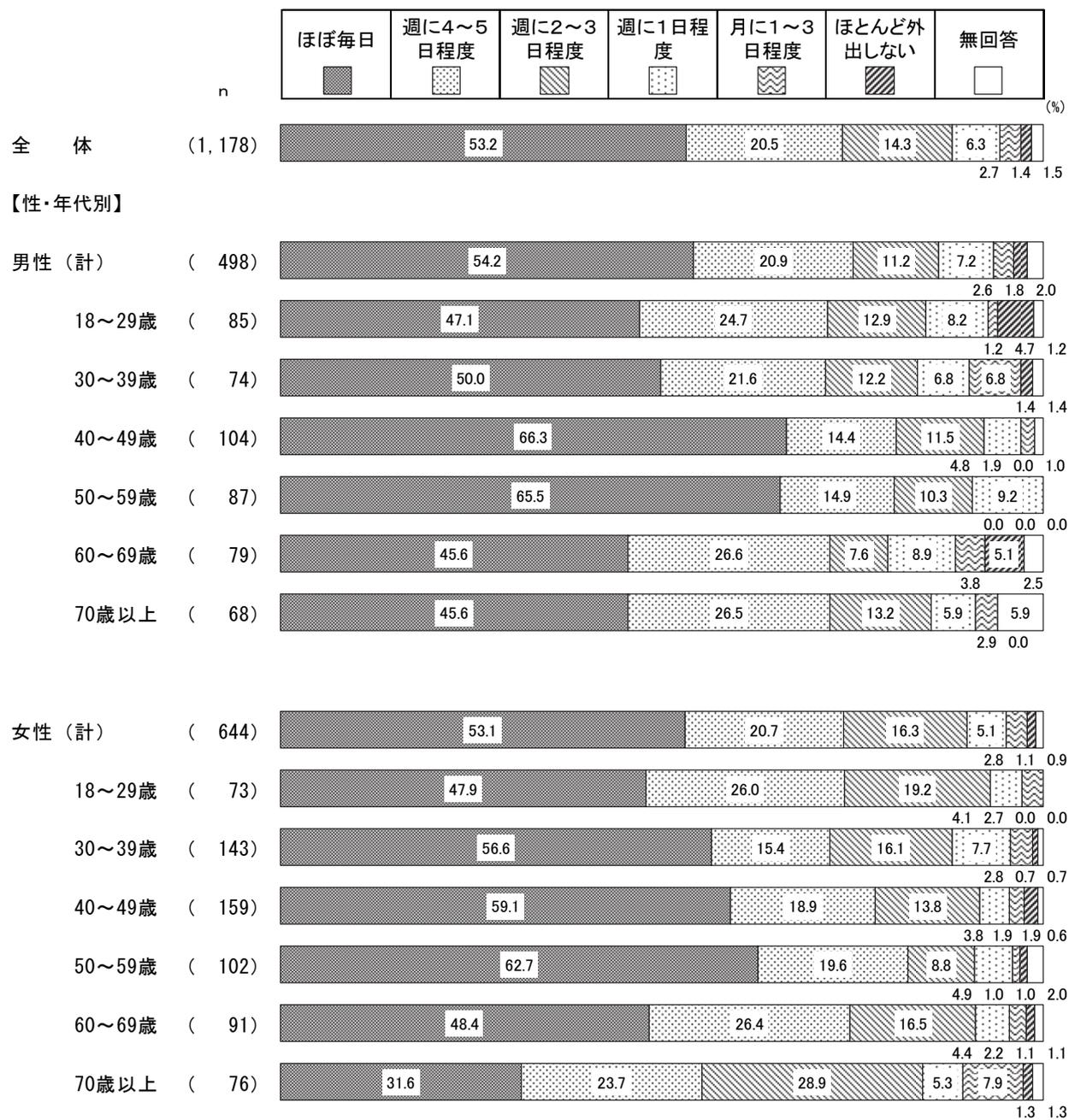
前回の調査と比較すると、「ほぼ毎日」(53.2%)が7.2ポイント減少している。(図表8-2-2)

図表8-2-2 外出する頻度—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「ほぼ毎日」は男性 40～49 歳（66.3%）・男性 50～59 歳（65.5%）が 6 割半ば、女性 50～59 歳（62.7%）が 6 割を超えて高くなっている。「週に 2～3 回程度」は女性 70 歳以上（28.9%）が 3 割近くと高くなっている。（図表 8-2-3）

図表 8-2-3 外出する頻度－性・年代別

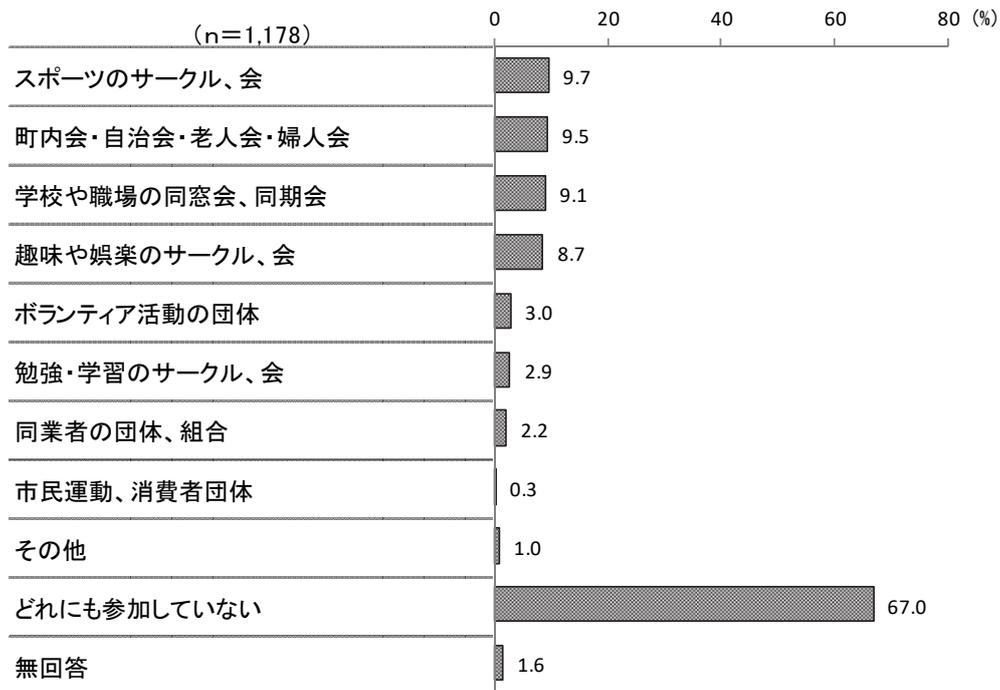


(3) グループ活動への参加状況

問 19 あなたは現在、次にあげるようなグループ活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

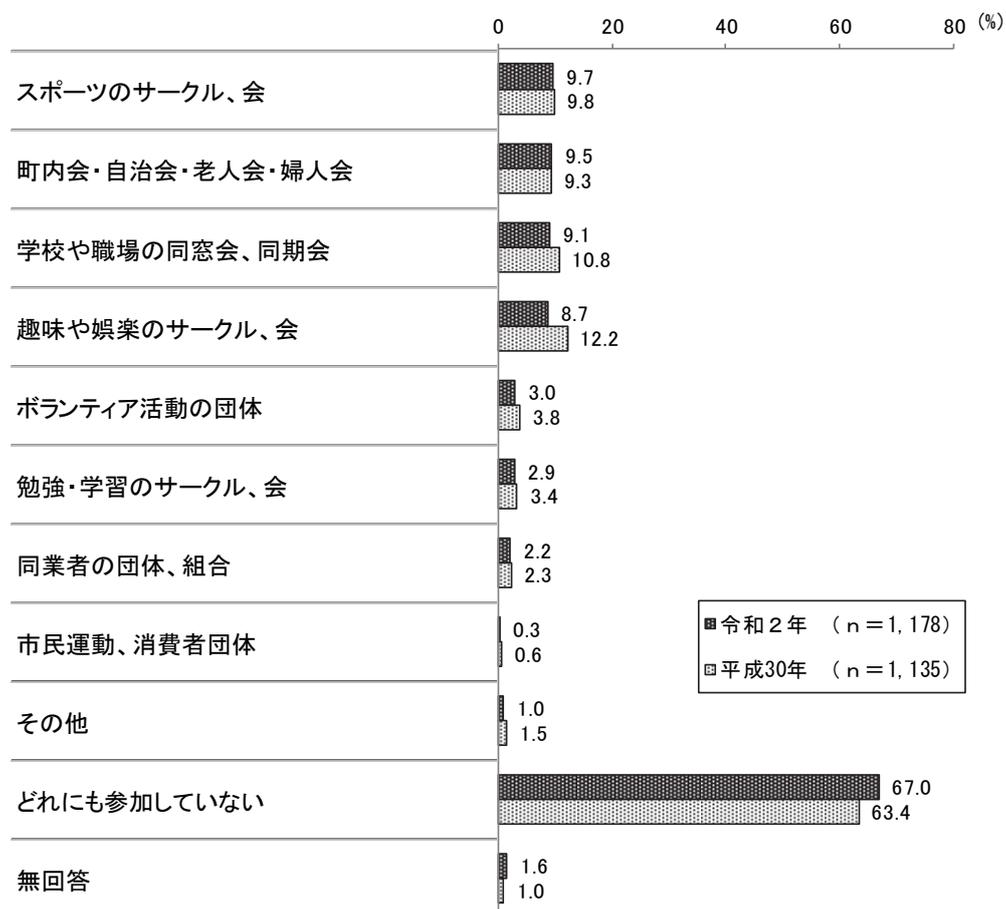
どのようなグループ活動に参加しているか聞いたところ、「スポーツのサークル、会」(9.7%)と「町内会・自治会・老人会・婦人会」(9.5%)、「学校や職場の同窓会、同期会」(9.1%)が1割弱となっている。一方、「どれにも参加していない」(67.0%)は7割近くとなっている。(図表8-3-1)

図表8-3-1 グループ活動への参加状況



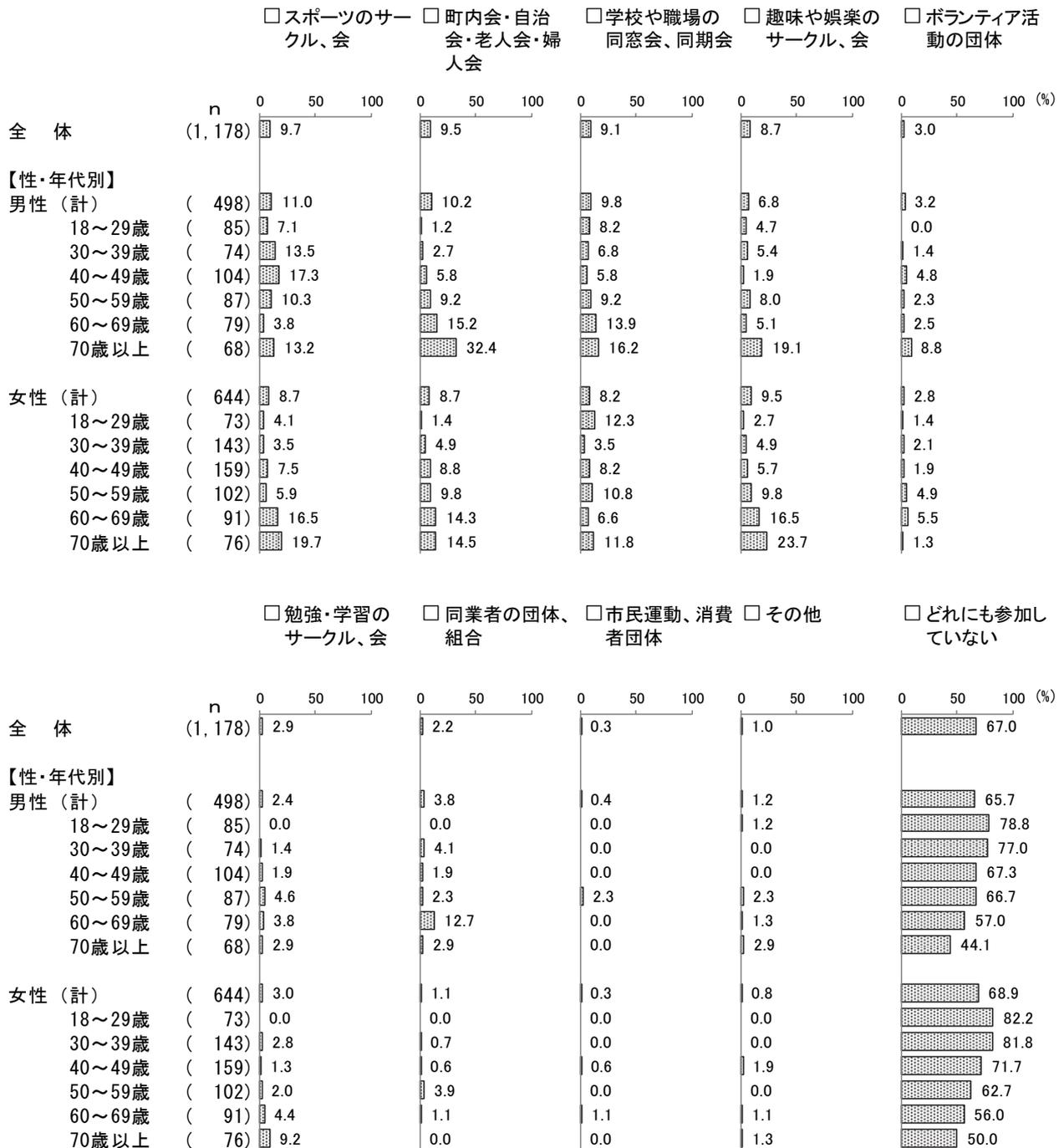
前回の調査と比較すると、「どれにも参加していない」(67.0%)が3.6ポイント増加している。一方、「趣味や娯楽のサークル、会」(8.7%)が3.5ポイント減少している。(図表8-3-2)

図表8-3-2 グループ活動への参加状況—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「町内会・自治会・老人会・婦人会」は男性 70 歳以上（32.4%）が 3 割を超えて高くなっている。「スポーツのサークル、会」は女性 70 歳以上（19.7%）が約 2 割、「趣味や娯楽のサークル、会」で女性 70 歳以上（23.7%）が 2 割を超えて高くなっている。（図表 8-3-3）

図表 8-3-3 グループ活動への参加状況－性・年代別

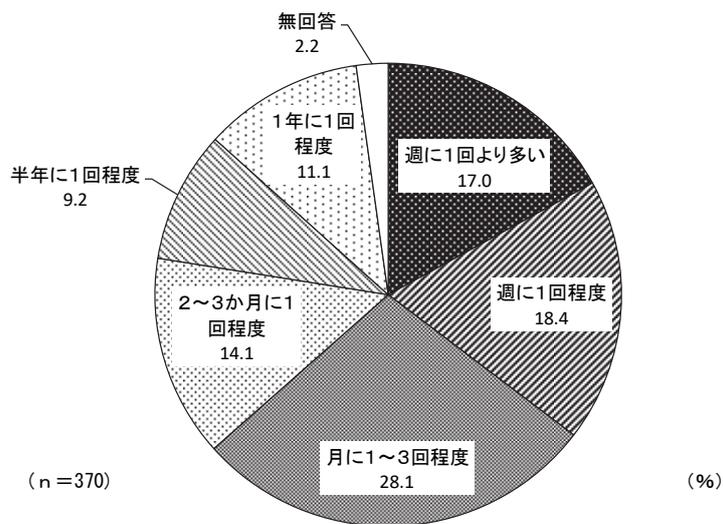


(4) グループ活動への参加頻度

(問 19 で、「どれにも参加していない」以外を回答した方に)
 問 19-1 グループ活動に参加する頻度はどのくらいですか。全体を合わせた頻度でお答えください。
 (○は1つだけ)

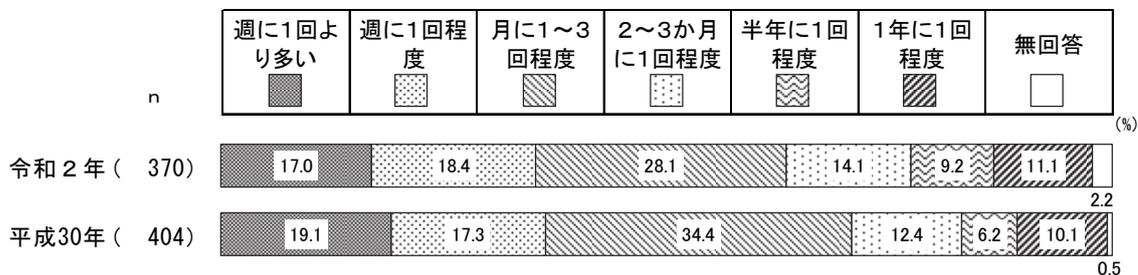
グループ活動に「どれにも参加していない」以外と回答した方(370人)に、参加頻度を聞いたところ、「月に1～3回程度」(28.1%)が3割近くで最も高く、次いで「週に1回程度」(18.4%)、「週に1回より多い」(17.0%)となっている。(図表8-4-1)

図表8-4-1 グループ活動への参加頻度



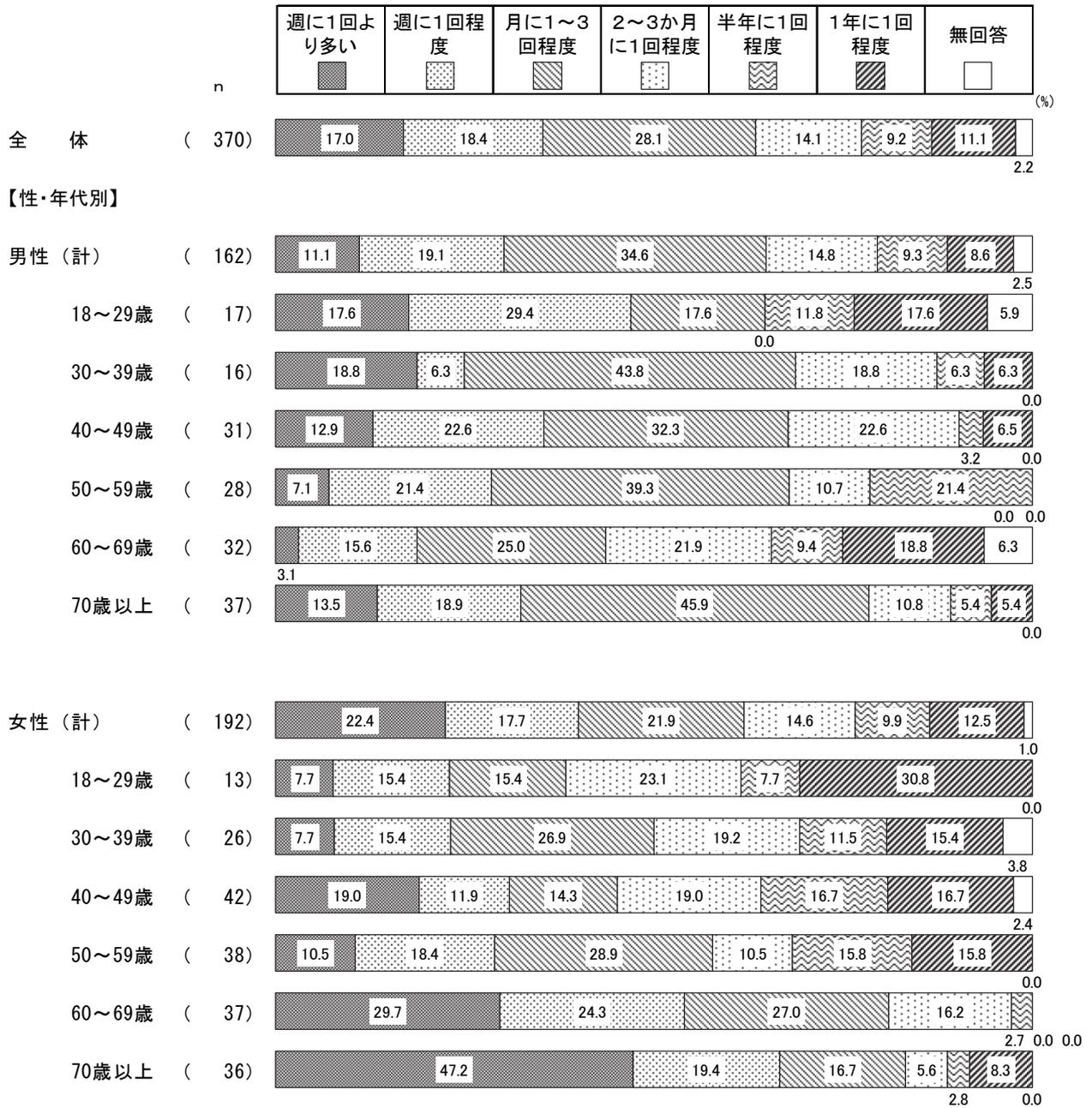
前回の調査と比較すると、「月に1～3回程度」(28.1%)が6.3ポイント減少している。一方、「1年に1回程度」(9.2%)が3.0ポイント増加している。(図表8-4-2)

図表8-4-2 グループ活動への参加頻度—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「月に1～3回程度」は男性70歳以上（45.9%）が4割半ばと高くなっている。「週に1回より多い」は女性70歳以上（47.2%）が5割近くと高くなっている。（図表8-4-3）

図表8-4-3 グループ活動への参加頻度－性・年代別

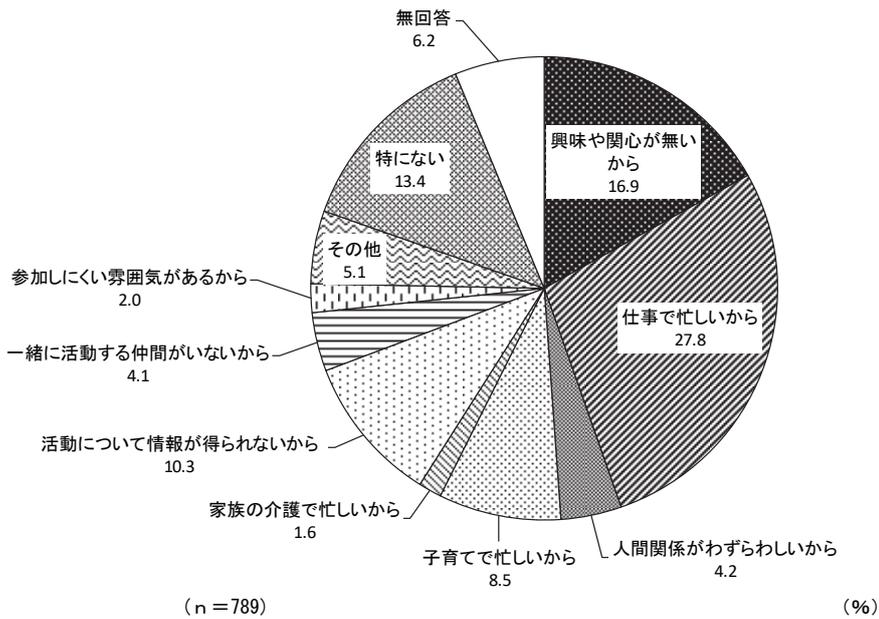


(5) グループ活動に参加していない理由

(問 19 で、「どれにも参加していない」と回答した方に)
 問 19-2 どれにも参加していない理由をお答えください。(〇は1つだけ)

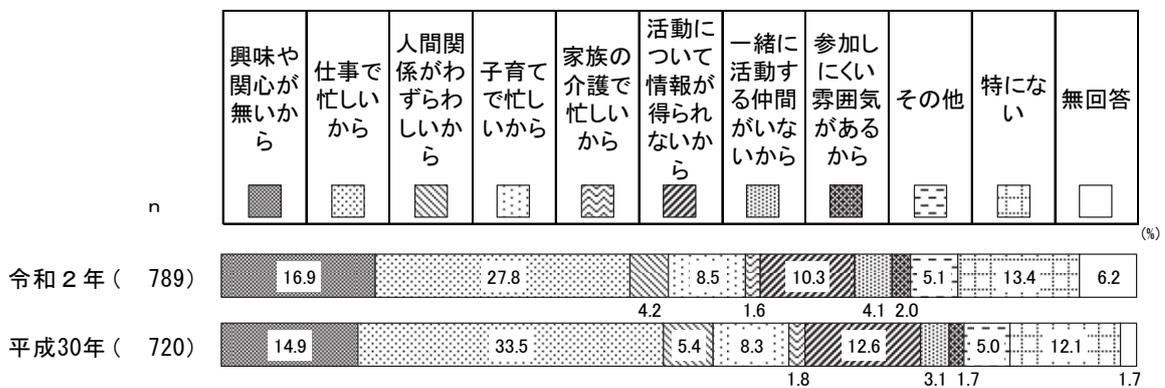
グループ活動に「どれにも参加していない」と回答した方(789人)に、その理由を聞いたところ、「仕事で忙しいから」(27.8%)が3割近くで最も高く、次いで「興味や関心が無いから」(16.9%)、「活動について情報が得られないから」(10.3%)となっている。(図表8-5-1)

図表 8-5-1 グループ活動に参加していない理由



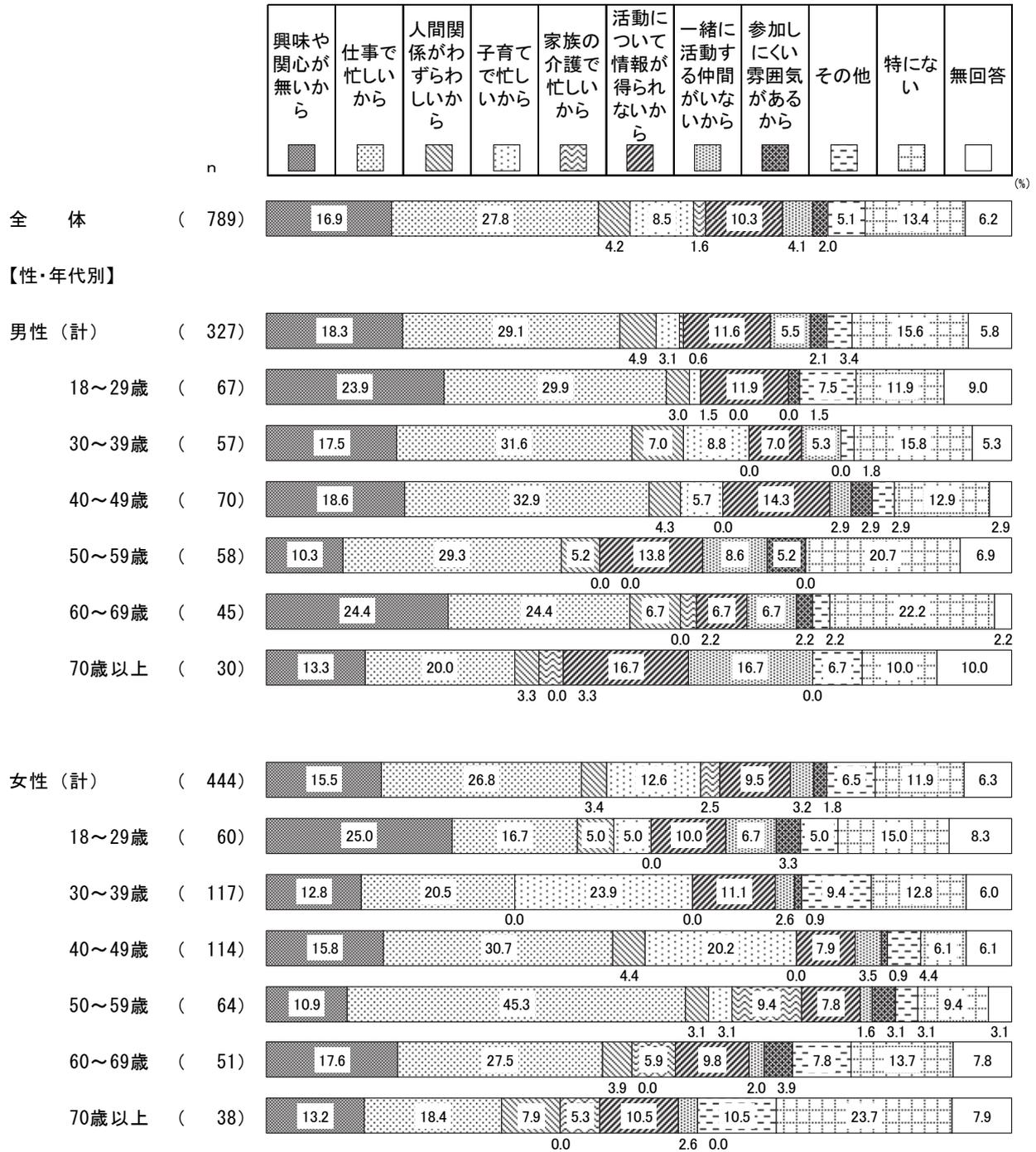
前回の調査と比較すると、「仕事で忙しいから」(27.8%)が5.7ポイント減少している。一方、「興味や関心が無いから」(16.9%)が2.0ポイント増加している。(図表8-5-2)

図表 8-5-2 グループ活動に参加していない理由—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「興味や関心が無いから」は男性 60～69 歳 (24.4%)・女性 18～29 歳 (25.0%) が 2 割半ばと高くなっている。「仕事で忙しいから」は女性 50～59 歳 (45.3%) が 4 割半ばと高くなっている。(図表 8-5-3)

図表 8-5-3 グループ活動に参加していない理由—性・年代別



9 地域の支え合い

(1) 地域で支え合える人の有無

問 20 あなたには次の(ア)から(エ)の項目のような人がいらっしゃいますか。各項目についてそれぞれいくつでも選んでください。(○はそれぞれいくつでも)

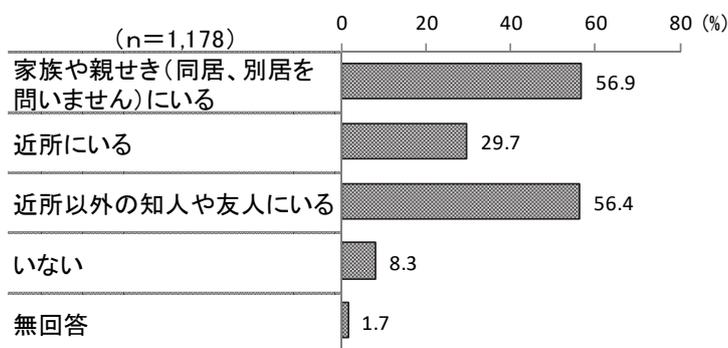
地域で支え合える人がいるか、4項目に分けて聞いた。

- (ア) 一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人を見ると、「家族や親せき(同居、別居を問いません)にいる」(56.9%)と「近所以外の知人や友人にいる」(56.4%)が5割半ばで、「近所にいる」(29.7%)が約3割となっており、「いない」(8.3%)は1割未満となっている。
- (イ) 困ったことがあった時に、助けや手伝いを頼むことができる人を見ると、「家族や親せき(同居、別居を問いません)にいる」(69.5%)が約7割で最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」(35.7%)、「近所にいる」(28.1%)となっており、「いない」(8.4%)は1割未満となっている。
- (ウ) 必要な時に情報をくれたりアドバイスをくれる人を見ると、「家族や親せき(同居、別居を問いません)にいる」(57.9%)が6割近くと最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」(48.6%)、「近所にいる」(29.3%)となっており、「いない」(9.8%)は約1割となっている。
- (エ) 悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人を見ると、「家族や親せき(同居、別居を問いません)にいる」(61.8%)が6割を超えて最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」(50.3%)、「近所にいる」(21.8%)となっており、「いない」(10.3%)は約1割となっている。

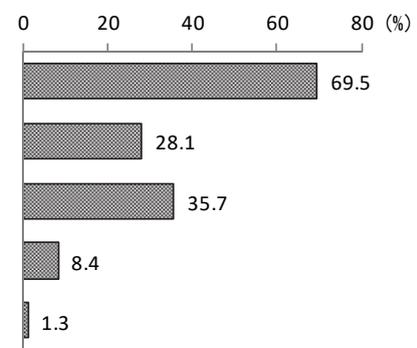
(図表9-1-1)

図表9-1-1 地域で支え合える人の有無

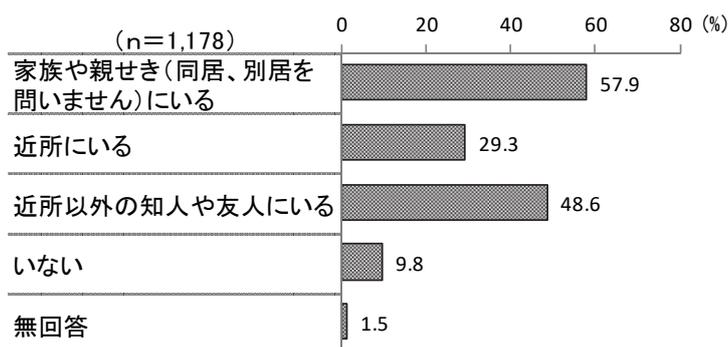
(ア) 一緒に遊んだり
楽しい時間を過ごす人



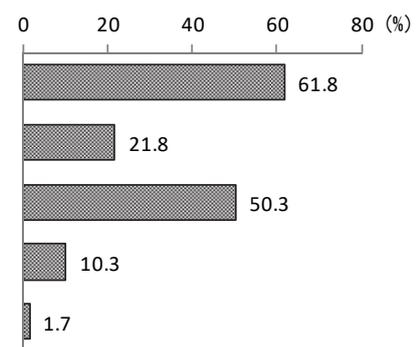
(イ) 困ったことがあった時に、助けや
手伝いを頼むことができる人



(ウ) 必要な時に情報をくれたり
アドバイスをくれる人



(エ) 悩んでいることや、
気持ちや考えを話せる人

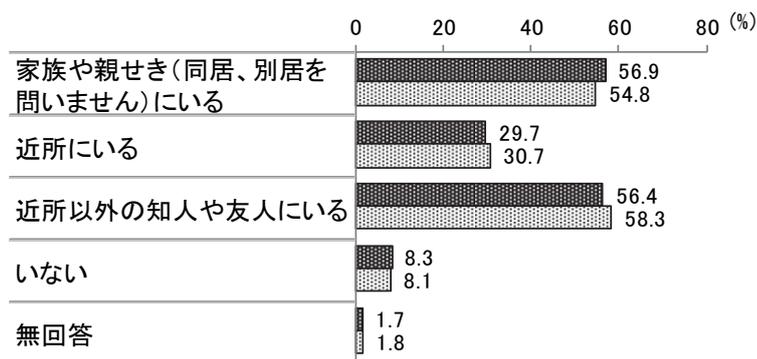


前回の調査と比較すると、

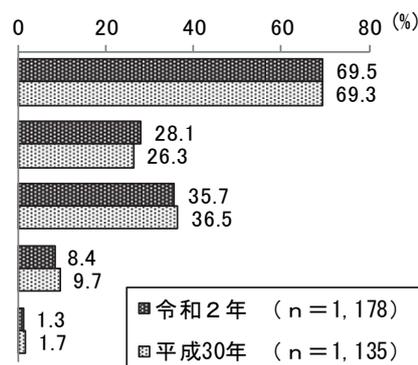
- (ア) 一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人をみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」（56.9%）が2.1ポイント増加し、「近所以外の知人や友人にいる」（56.4%）が1.9ポイント減少している。
- (イ) 困ったことがあった時に、助けや手伝いを頼むことができる人をみると、「近所にいる」（28.1%）が1.8ポイント増加し、「いない」（8.4%）が1.3ポイント減少している。
- (ウ) 必要な時に情報をくれたりアドバイスをくれる人をみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」（57.9%）が3.2ポイント増加し、「近所以外の知人や友人にいる」（48.6%）が3.9ポイント減少している。
- (エ) 悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人をみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」（61.8%）が2.0ポイント増加し、「近所以外の知人や友人にいる」（50.3%）が3.3ポイント減少している。（図表9-1-2）

図表9-1-2 地域で支え合える人の有無—前回の調査との比較

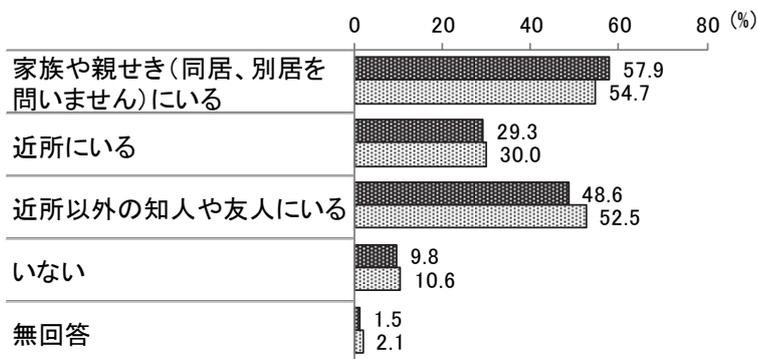
(ア) 一緒に遊んだり
楽しい時間を過ごす人



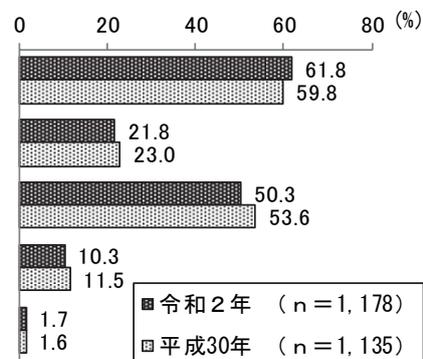
(イ) 困ったことがあった時に、助けや
手伝いを頼むことができる人



(ウ) 必要な時に情報をくれたり
アドバイスをくれる人



(エ) 悩んでいることや、
気持ちや考えを話せる人

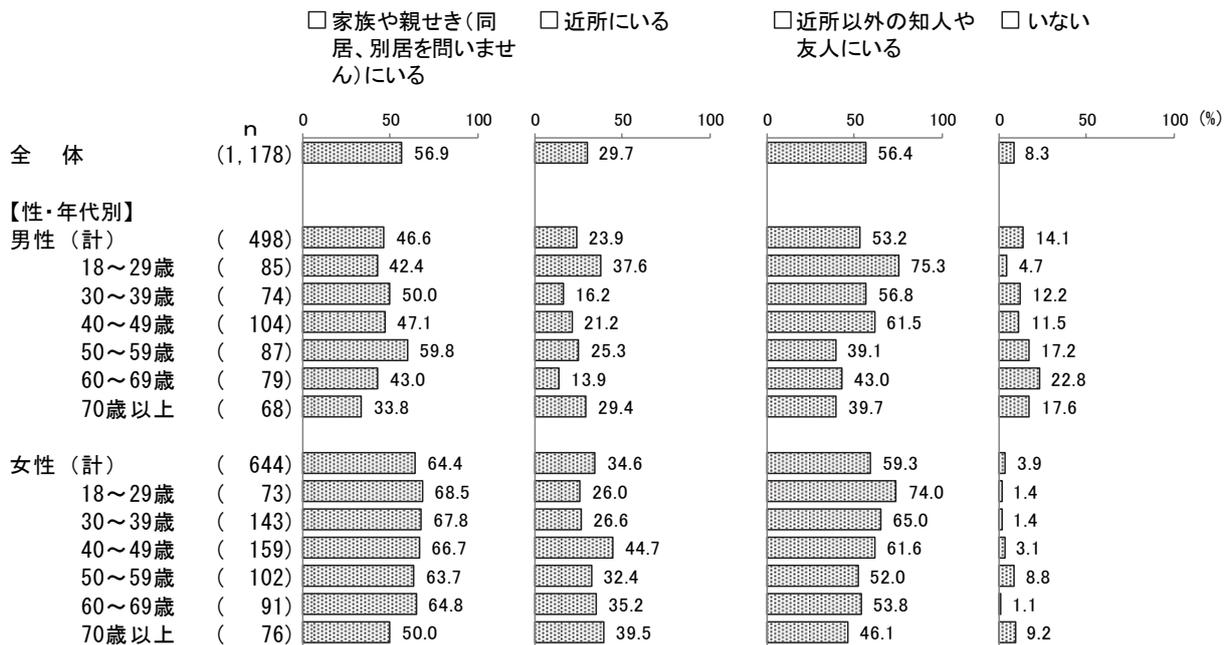


(ア) 一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人について性・年代別にみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」は女性 18～29 歳 (68.5%)・女性 30～39 歳 (67.8%)・女性 40～49 歳 (66.7%) が 6 割半ば以上と高くなっている。「近所以外の知人や友人にいる」は男性 18～29 歳 (75.3%)・女性 18～29 歳 (74.0%) が 7 割半ばと高くなっている。

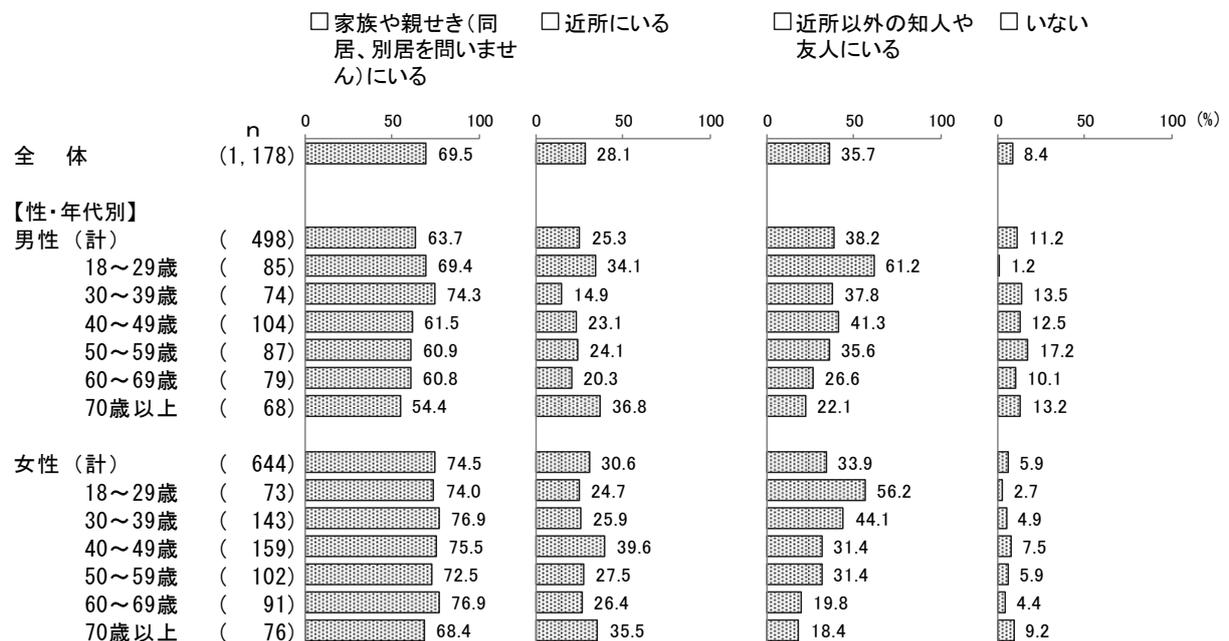
(イ) 困ったことがあった時に、助けや手伝いを頼むことができる人について性・年代別にみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」は女性 30～39 歳 (76.9%)・女性 40～49 歳 (75.5%)・女性 60～69 歳 (76.9%) が 7 割半ば以上と高くなっている。「近所以外の知人や友人にいる」は男性 18～29 歳 (61.2%) が 6 割を超えて高くなっている。（図表 9-1-3）

図表 9-1-3 地域で支え合える人の有無—性・年代別

(ア) 一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人



(イ) 困ったことがあった時に、助けや手伝いを頼むことができる人

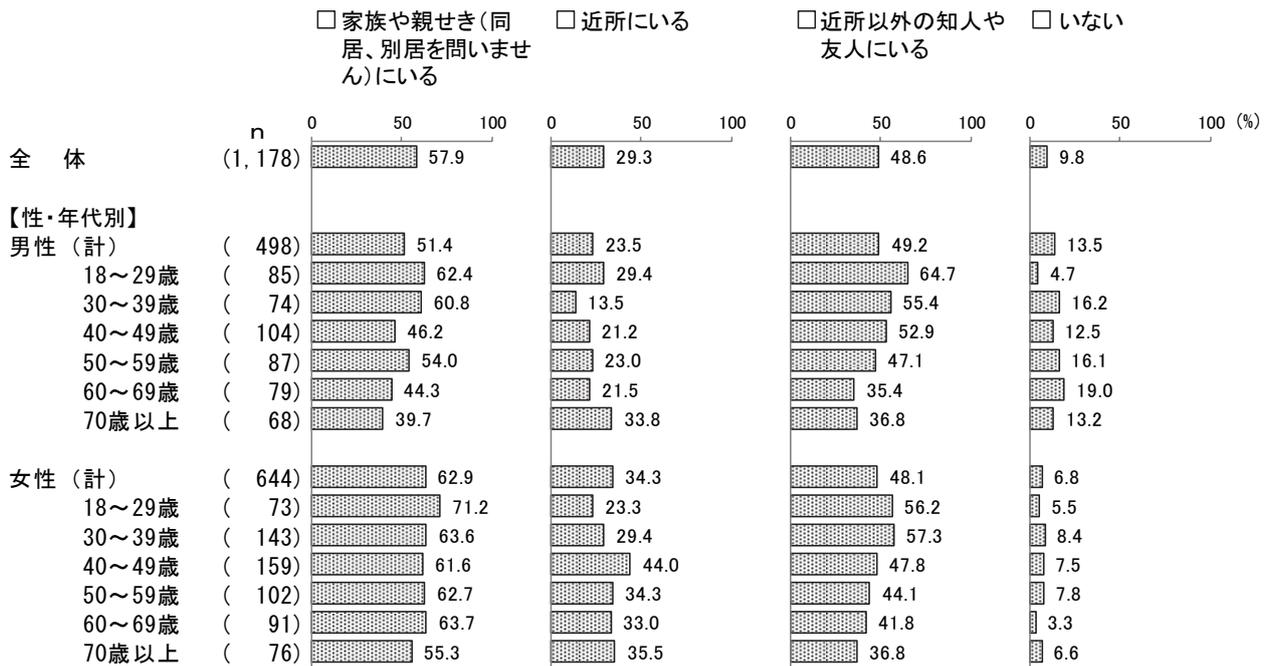


(ウ) 必要な時に情報をくれたりアドバイスをくれる人について性・年代別にみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」は女性 18～29 歳（71.2%）が 7 割を超えて高くなっている。「近所以外の知人や友人にいる」は男性 18～29 歳（64.7%）が 6 割半ばと高くなっている。

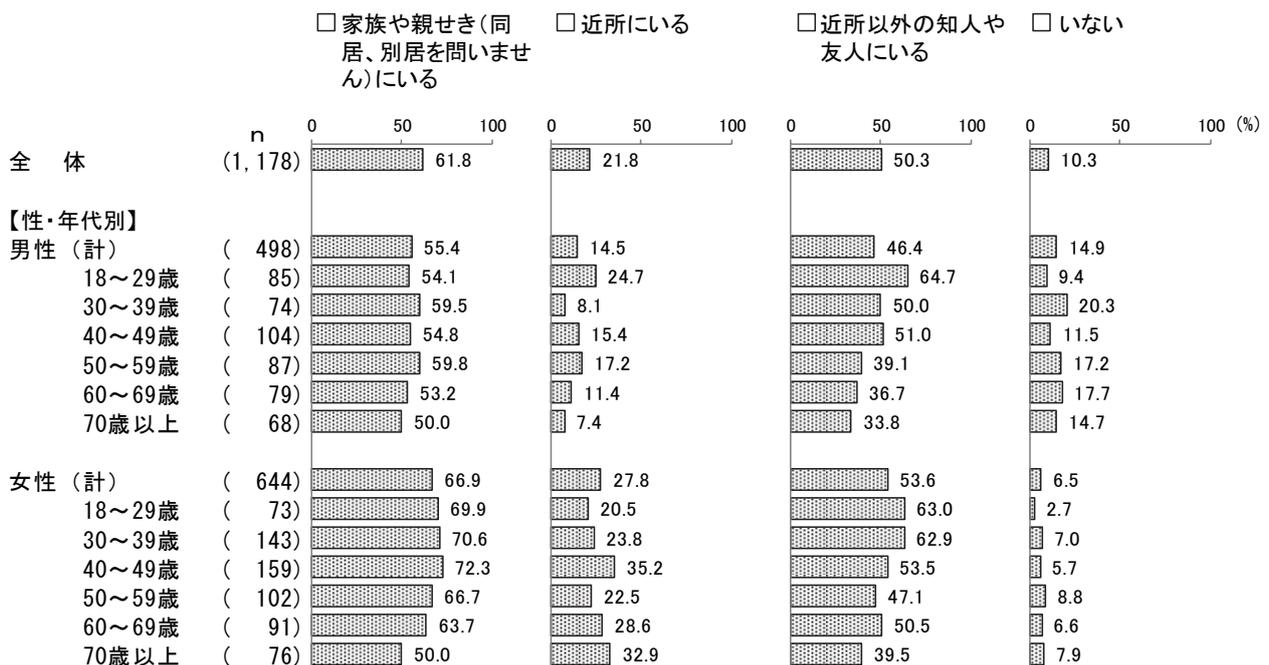
(エ) 悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人について性・年代別にみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」は女性 30～39 歳（70.6%）、女性 40～49 歳（72.3%）が 7 割以上と高くなっている。「近所以外の知人や友人にいる」は女性 18～29 歳（63.0%）、女性 30～39 歳（62.9%）が 6 割以上と高くなっている。（図表 9-1-4）

図表 9-1-4 地域で支え合える人の有無—性・年代別

(ウ) 必要な時に情報をくれたりアドバイスをくれる人



(エ) 悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人

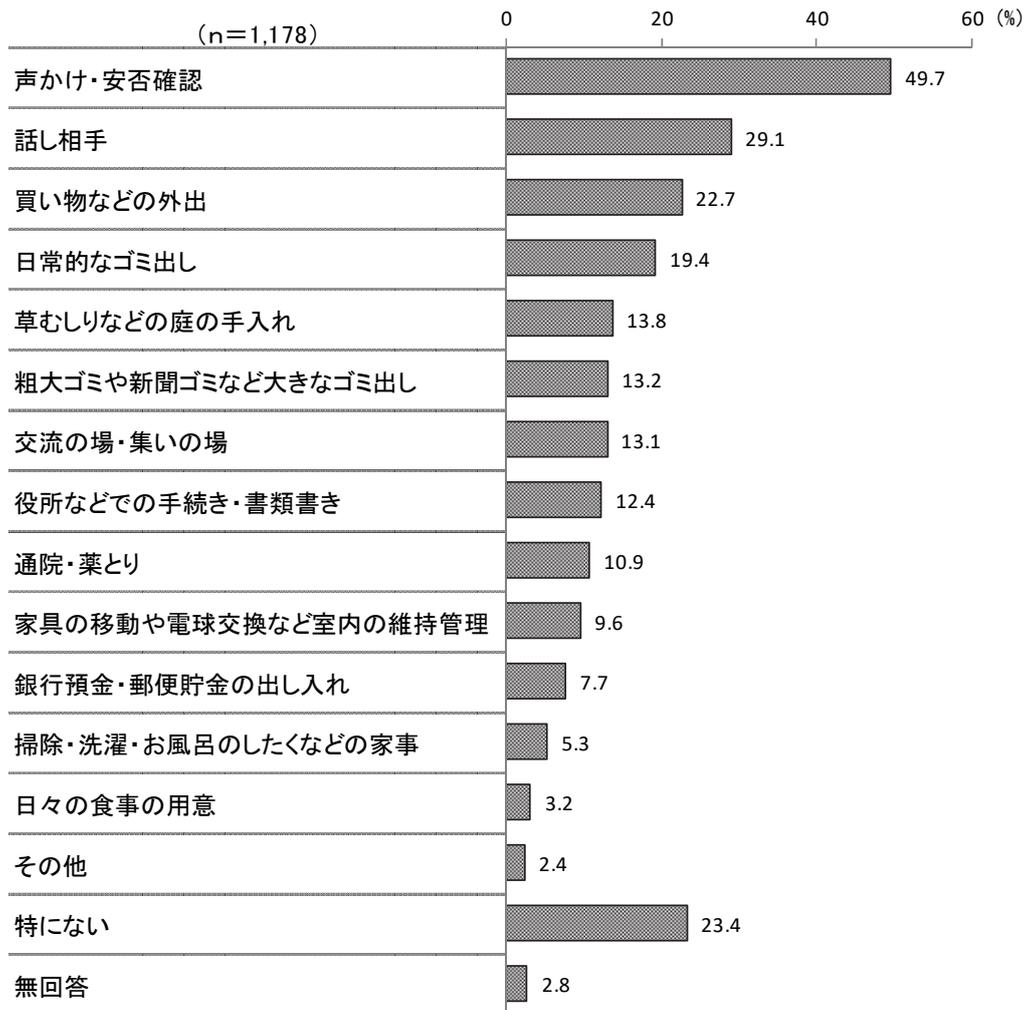


(2) 地域の支え合いに協力できること

問 21 あなたが地域の支え合いに協力できることについて教えてください。(〇はいくつでも)

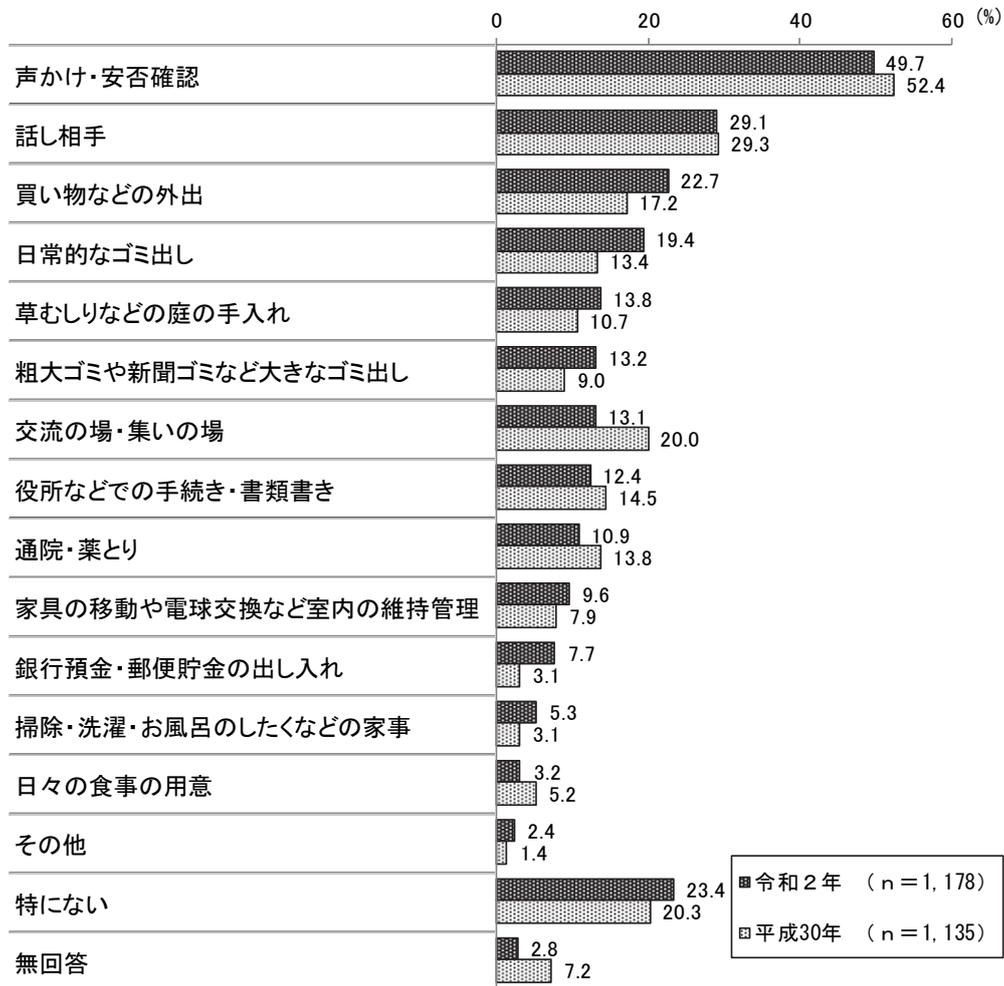
地域の支え合いに協力できることについて聞いたところ、「声かけ・安否確認」(49.7%)が約5割で最も高く、次いで「話し相手」(29.1%)、「買い物などの外出」(22.7%)、「日常的なゴミ出し」(19.4%)となっている。(図表9-2-1)

図表9-2-1 地域の支え合いに協力できること



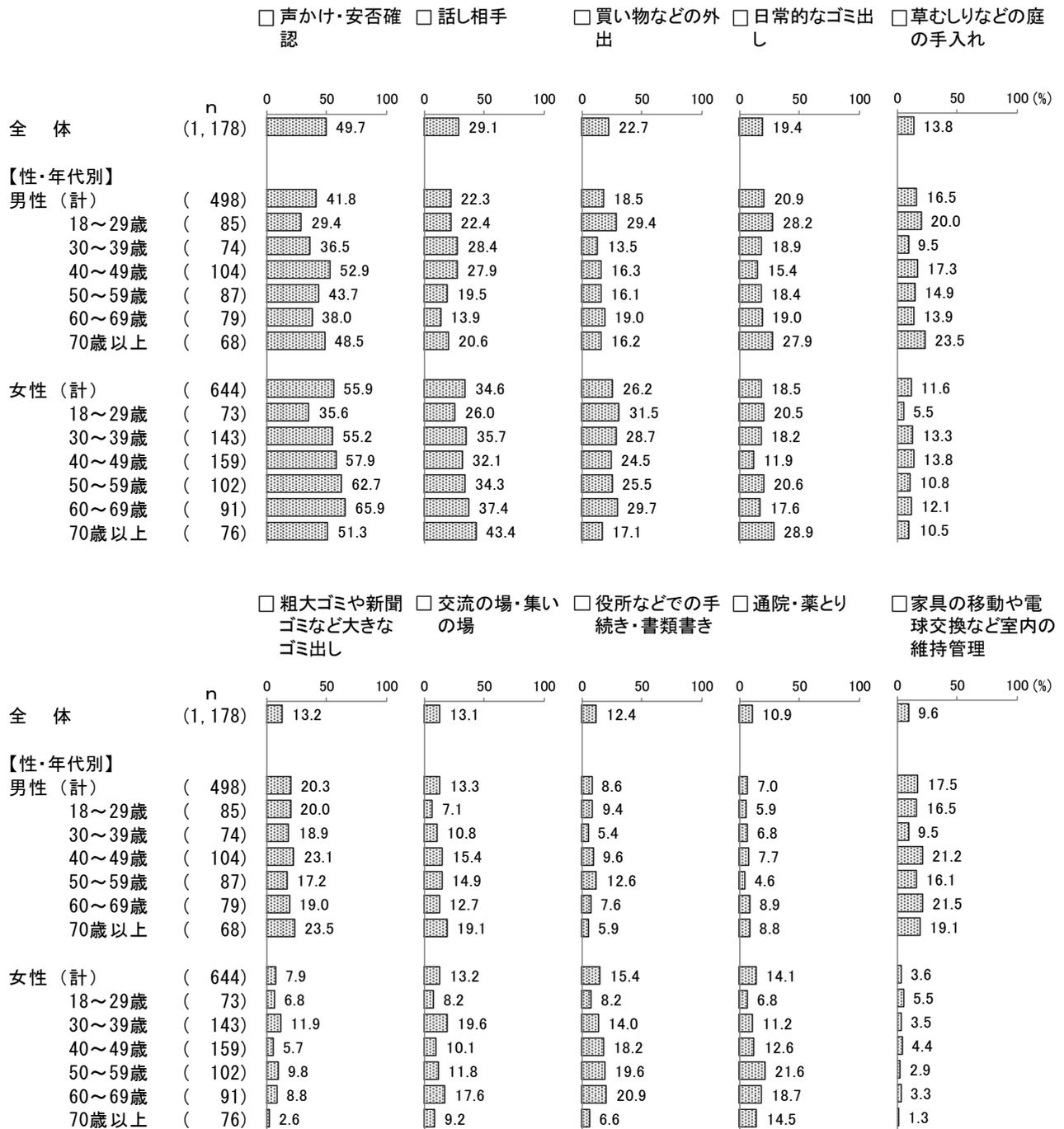
前回の調査と比較すると、「買い物などの外出」(22.7%)が5.5ポイント増加している。一方、「交流の場・集いの場」(13.1%)が6.9ポイント減少している。(図表9-2-2)

図表9-2-2 地域の支え合いに協力できること—前回の調査との比較



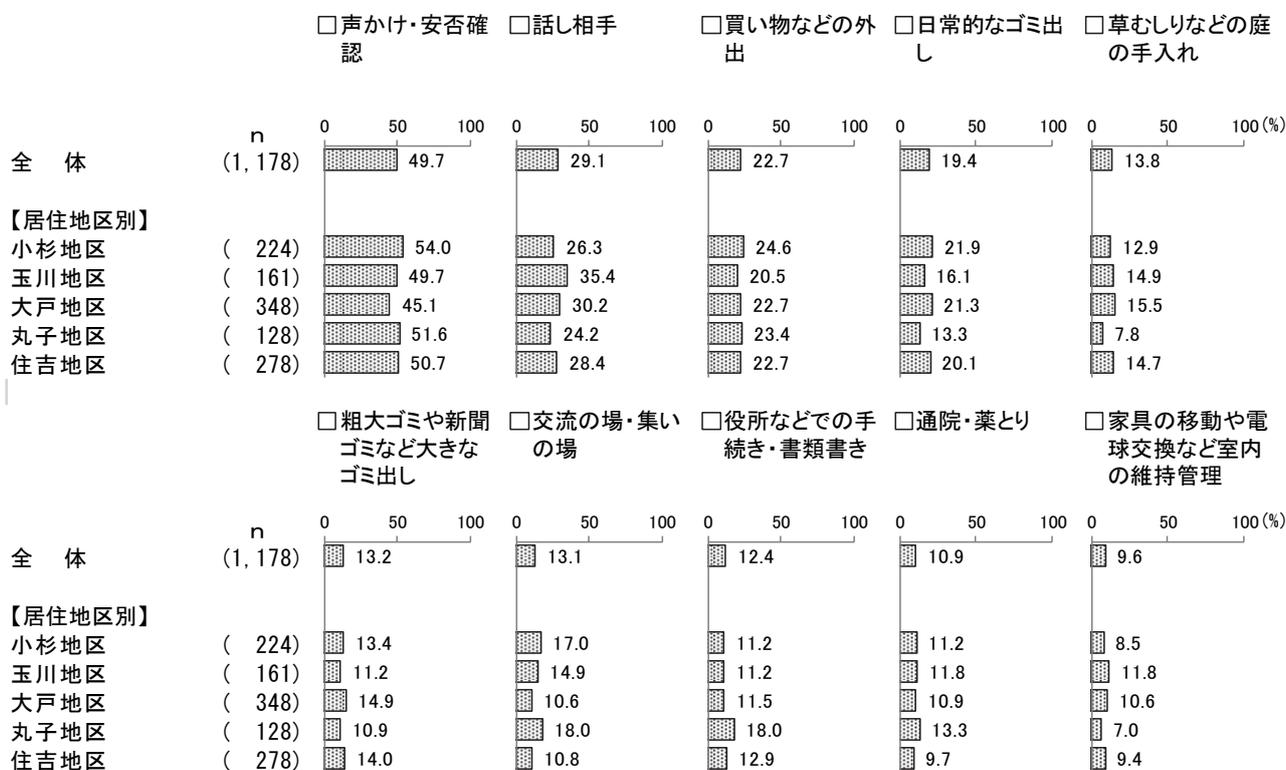
性・年代別にみると、「声かけ・安否確認」は女性（55.9%）が男性（41.8%）より 14.1 ポイント高くなっており、女性 60～69 歳（65.9%）が 6 割半ばと高くなっている。「話し相手」は女性 70 歳以上（43.4%）が 4 割を超えて高くなっている。「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」は男性 40～49 歳（21.2%）・女性 60～69 歳（21.5%）が 2 割を超えて高くなっている。（図表 9-2-3）

図表 9-2-3 地域の支え合いに協力できることー性・年代別（上位 10 項目）



居住地区別にみると、「声かけ・安否確認」は小杉地区（54.0%）が5割を超えて高くなっている。「話し相手」は玉川地区（35.4%）が3割半ばと高くなっている。（図表9-2-4）

図表9-2-4 地域の支え合いに協力できること—居住地区別（上位10項目）

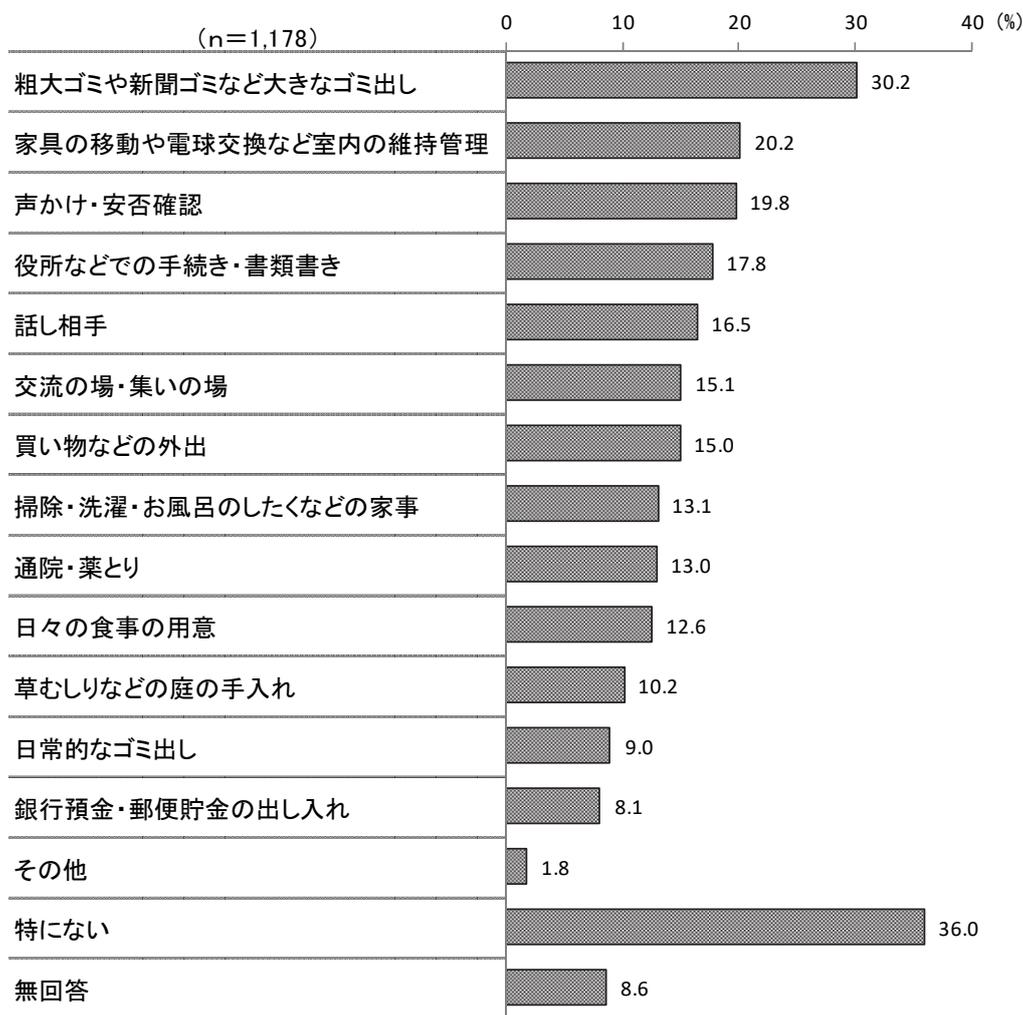


(3) 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うこと

問 22 下記であげる項目について、日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことを教えてください。(〇はいくつでも)

日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことを聞いたところ、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」(30.2%)が約3割で最も高く、次いで「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」(20.2%)、「声かけ・安否確認」(19.8%)、「役所などでの手続き・書類書き」(17.8%)となっている。また、「特にない」(36.0%)は3割半ばとなっている。(図表9-3-1)

図表9-3-1 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うこと

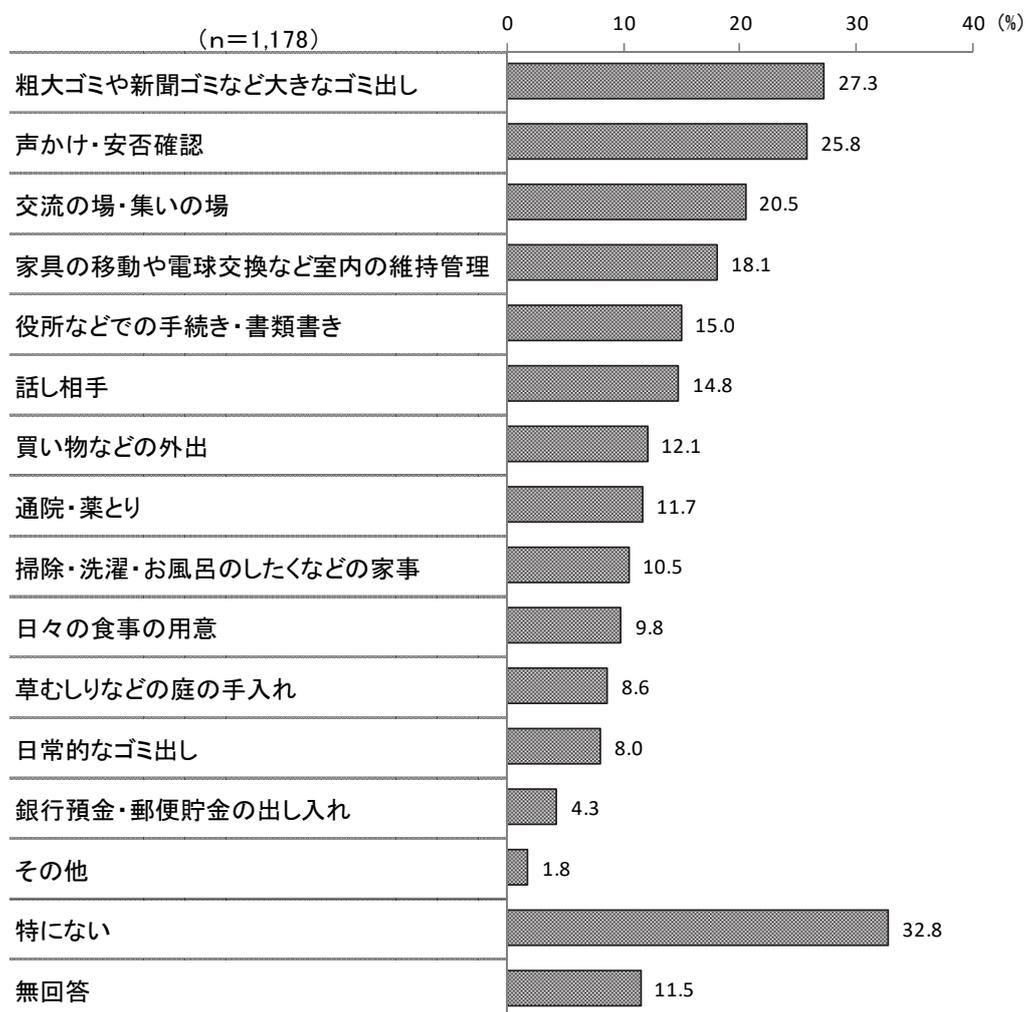


(4) 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと

問 23 問 22 で回答した項目について、地域の支え合いを希望する、または将来的には頼みたいと思うことについて教えてください。(〇はいくつでも)

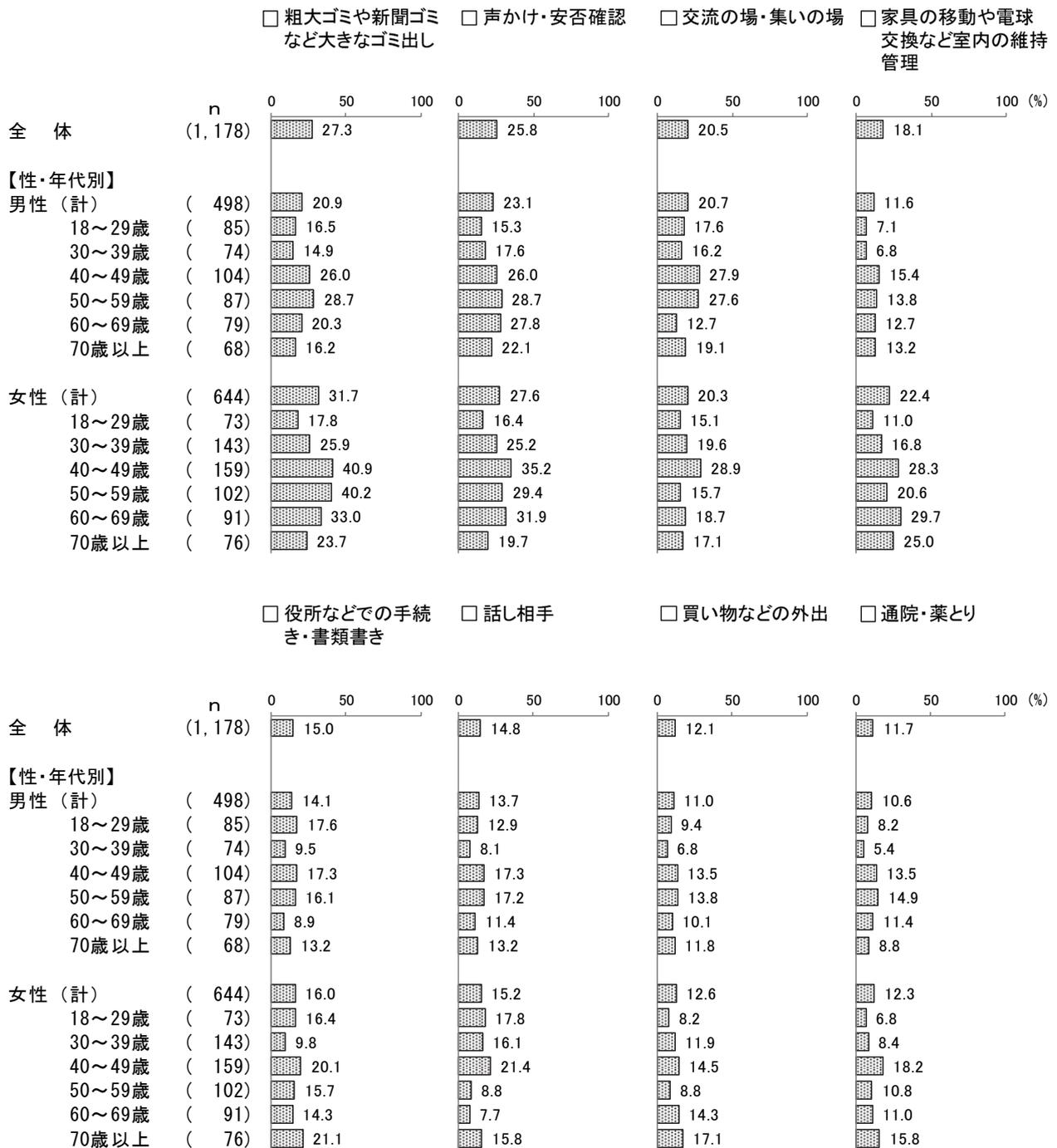
日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことで回答した項目について、地域の支え合いを希望する、または将来的には頼みたいと思うことを聞いたところ、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」(27.3%)が3割近くと最も高く、次いで「声かけ・安否確認」(25.8%)、「交流の場・集いの場」(20.5%)、「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」(18.1%)となっている。また、「特にない」(32.8%)は3割を超えている。(図表9-4-1)

図表9-4-1 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと

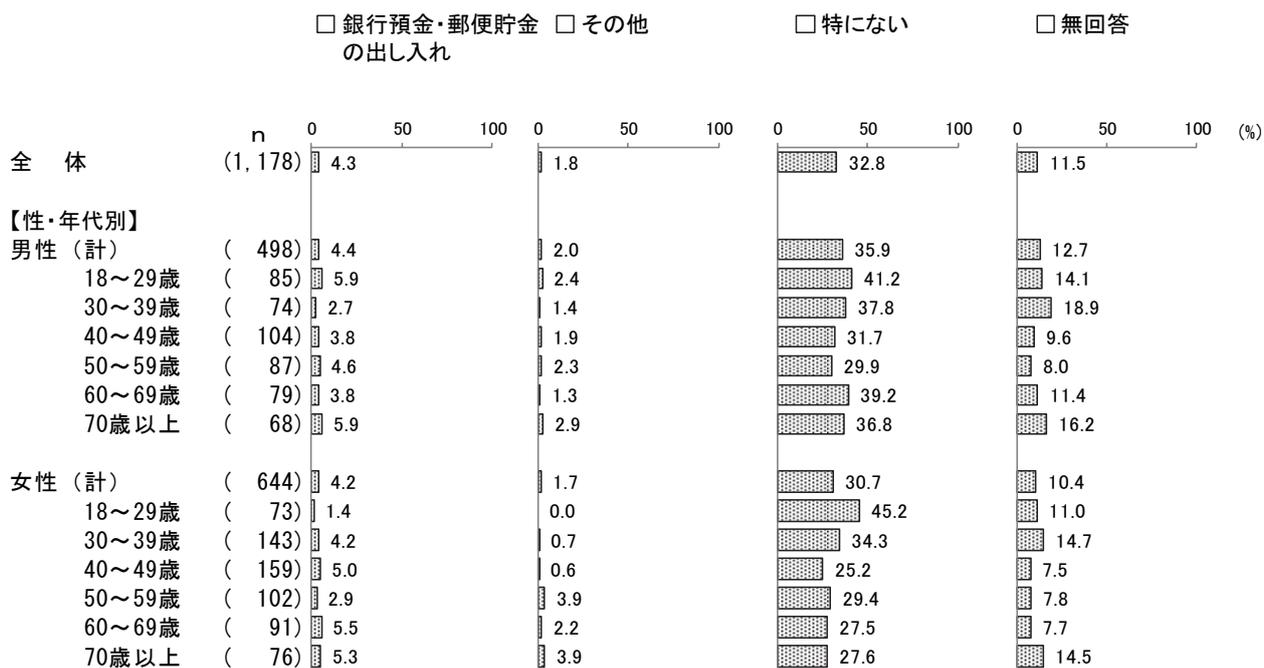
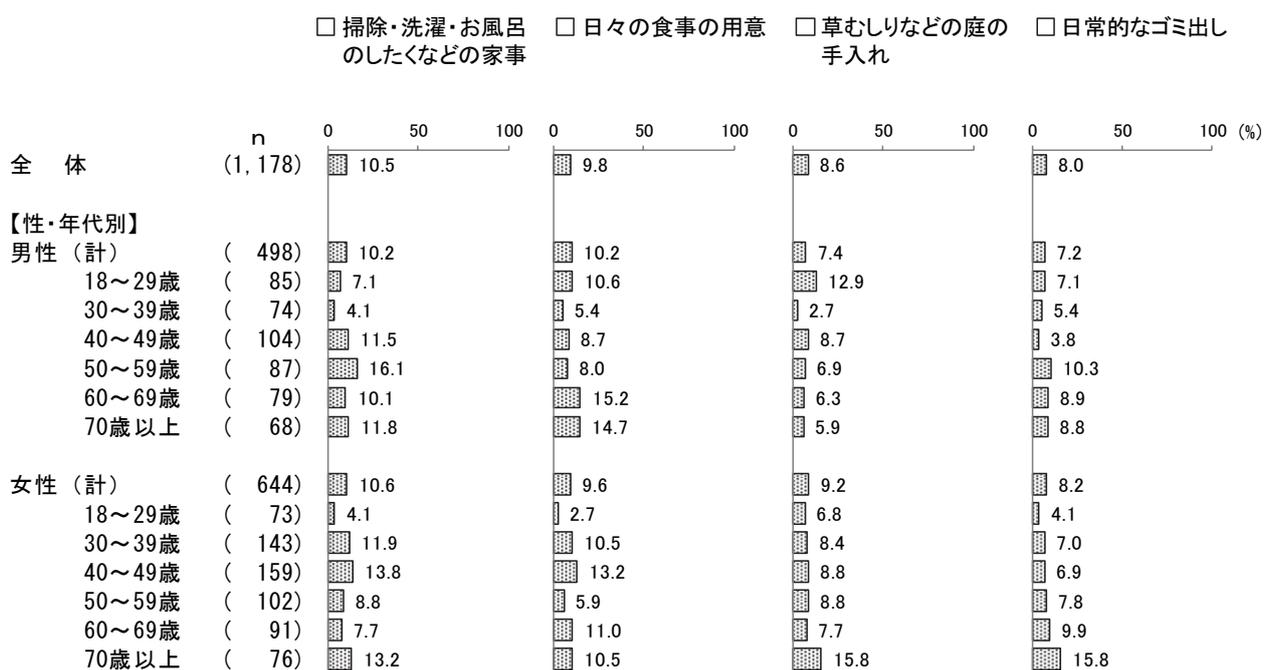


性・年代別にみると、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」は女性 40～49 歳（40.9%）・女性 50～59 歳（40.2%）が約 4 割と高くなっている。「声かけ・安否確認」は女性 40～49 歳（35.2%）が 3 割半ば、「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」は 60～69 歳（29.7%）が約 3 割と高くなっている。（図表 9-4-2・図表 9-4-3）

図表 9-4-2 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うことー性・年代別



図表9-4-3 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと一性・年代別



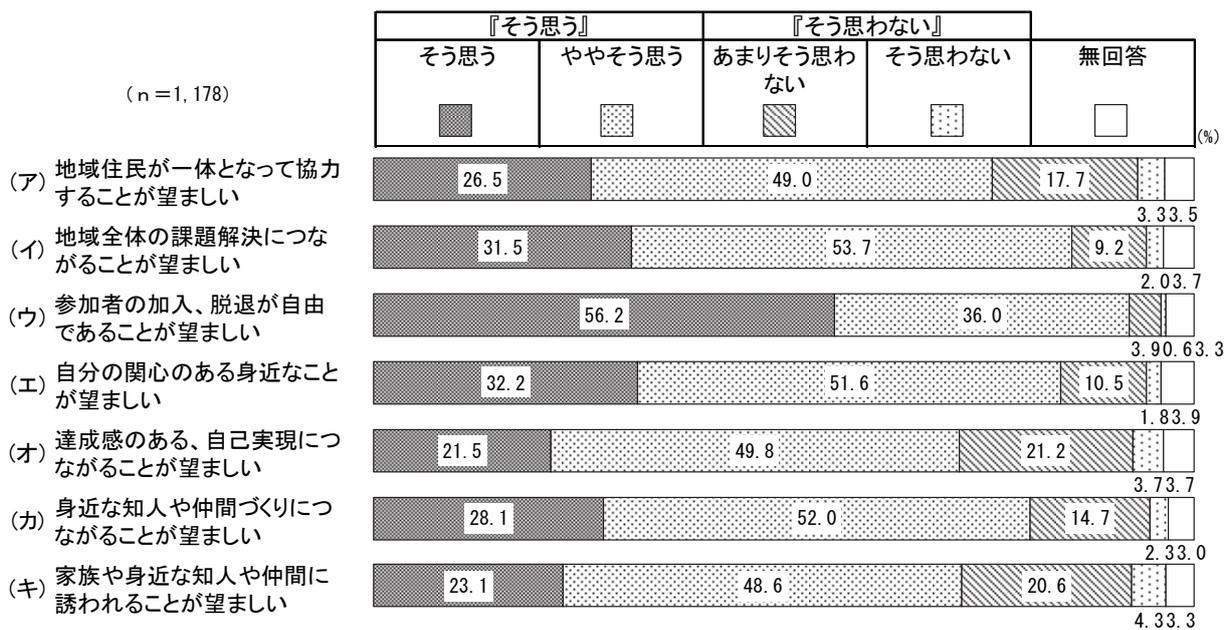
(5) 「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」についての考え

問 24 中原区では「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支え合う地域づくり」を目指しています。この趣旨にそって、次にあげる(ア)から(キ)のそれぞれの項目について、あなたはどのように考えますか。各項目について1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つ)

「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」についての考えについて、7項目に分けて聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」の2つを合わせた『そう思う』は、(ウ)参加者の加入、脱退が自由であることが望ましい(92.2%)が9割を超えて最も高く、次いで(イ)地域全体の課題解決につながることを望ましい(85.2%)、(エ)自分の関心のある身近なことが望ましい(83.8%)となっている。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の2つを合わせた『そう思わない』は、(オ)達成感のある、自己実現につながることを望ましい(24.9%)、(キ)家族や身近な知人や仲間に誘われることが望ましい(24.9%)で2割半ばとなっている。(図表9-5-1)

図表9-5-1 「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」についての考え



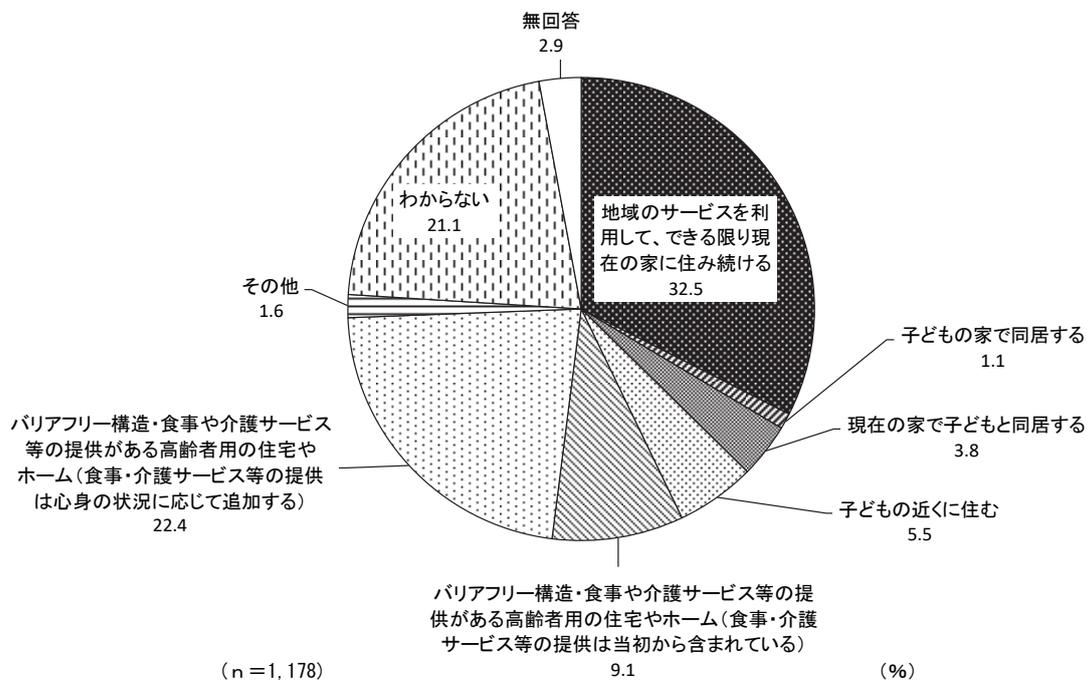
10 在宅療養

(1) 最期までどのように住みたいか

問 25 自分の健康への不安が生じたり、日常的な生活の見守り等が必要になった場合、最期までどのように住みたいと思いますか。(〇は1つだけ)

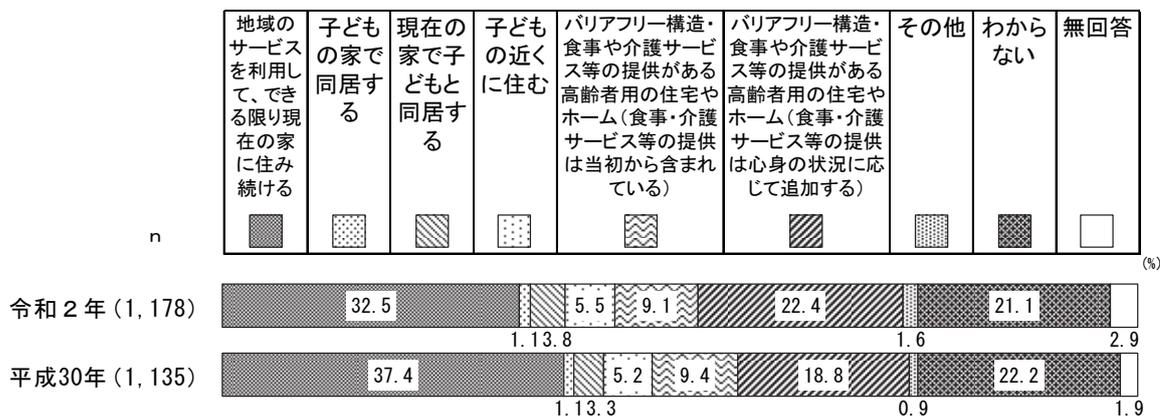
自分の健康への不安が生じたり、日常的な生活の見守り等が必要になった場合、最期までどのように住みたいと思うか聞いたところ、「地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける」(32.5%)が3割を超えて最も高く、次いで「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は心身の状況に応じて追加する)」(22.4%)、「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は当初から含まれている)」(9.1%)となっている。(図表10-1-1)

図表 10-1-1 最期までどのように住みたいか



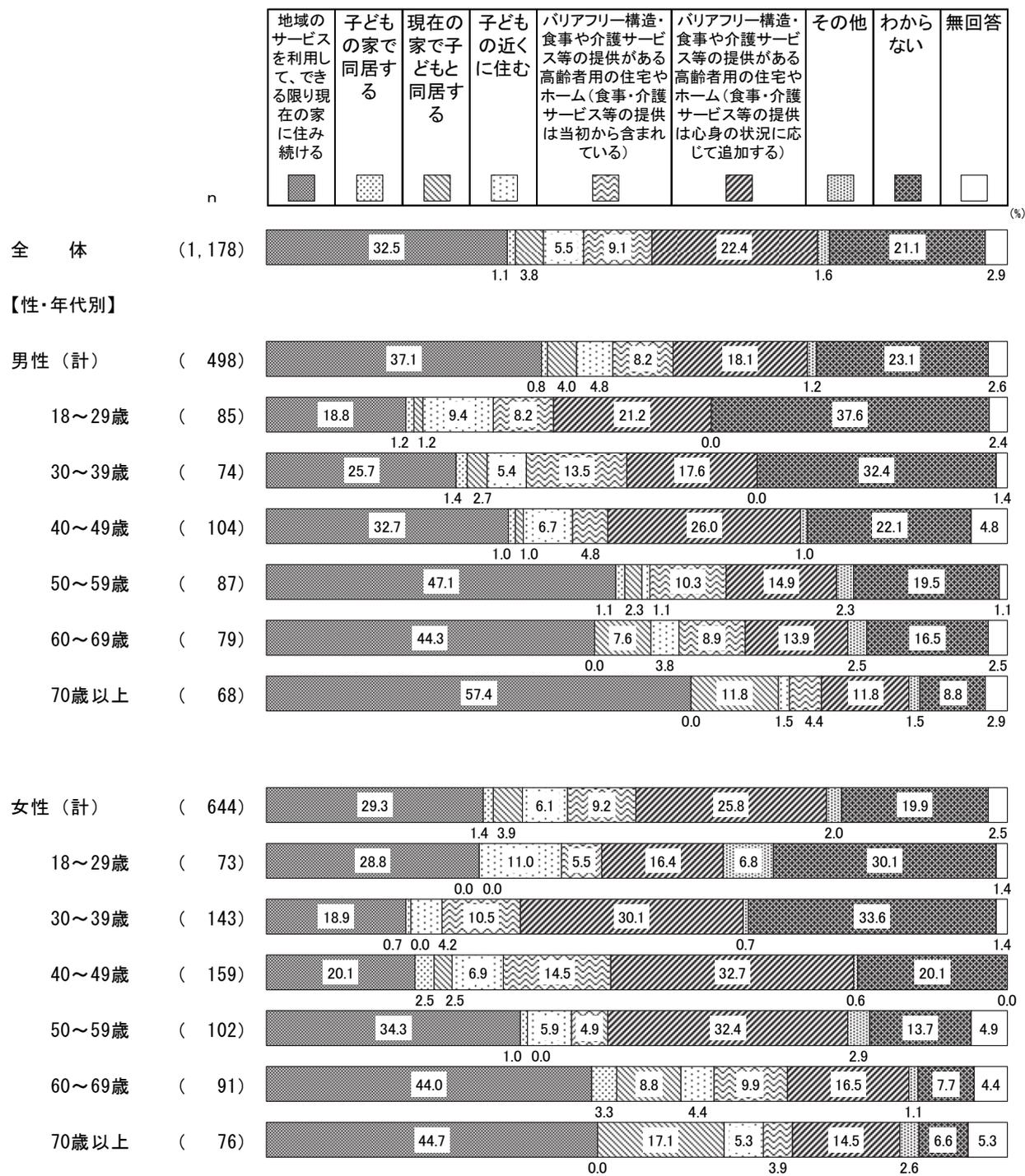
前回の調査と比較すると、「地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける」(32.5%)が4.9ポイント減少している。一方、「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は心身の状況に応じて追加する)」(22.4%)が3.6ポイント増加している。(図表10-1-2)

図表10-1-2 最期までどのように住みたいか—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける」は70歳以上(57.4%)で6割近くと高くなっており、おおむね年代が上がるほど割合が高くなる傾向にある。「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は心身の状況に応じて追加する)」は女性30~39歳(30.1%)・女性40~49歳(32.7%)・女性50~59歳(32.4%)で3割以上と高くなっている。(図表10-1-3)

図表10-1-3 最期までどのように住みたいかー性・年代別



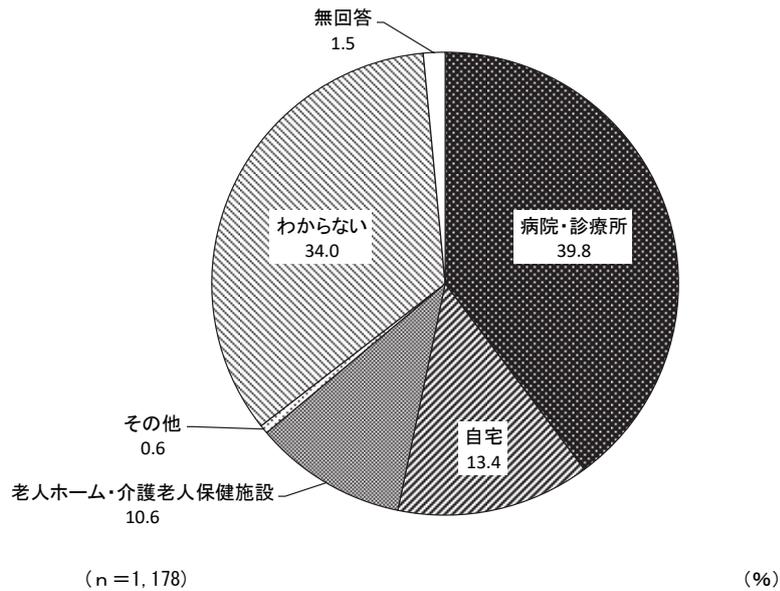
(2) 実際に最期を迎えると思う場所

問 26 実際に最期を迎えるのはどこだと思いますか。(○は1つだけ)

実際に最期を迎えるのはどこだと思うか聞いたところ、「病院・診療所」(39.8%)が約4割で最も高く、次いで「自宅」(13.4%)、「老人ホーム・介護老人保健施設」(10.6%)となっている。

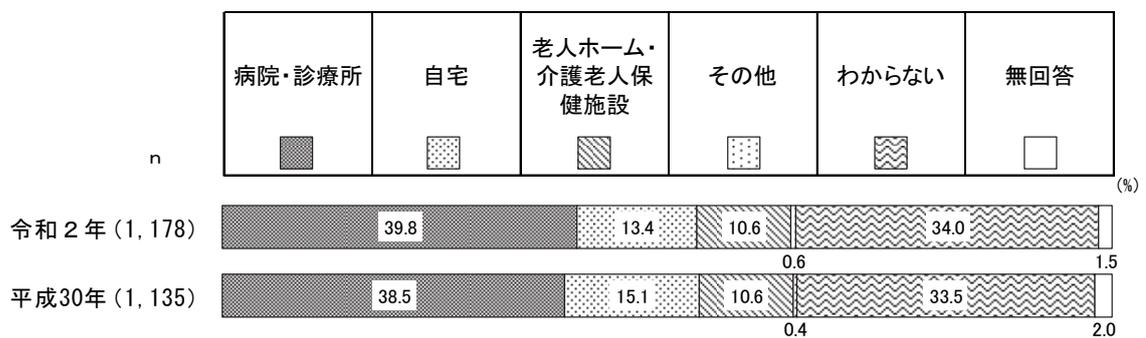
(図表 10-2-1)

図表 10-2-1 実際に最期を迎えると思う場所



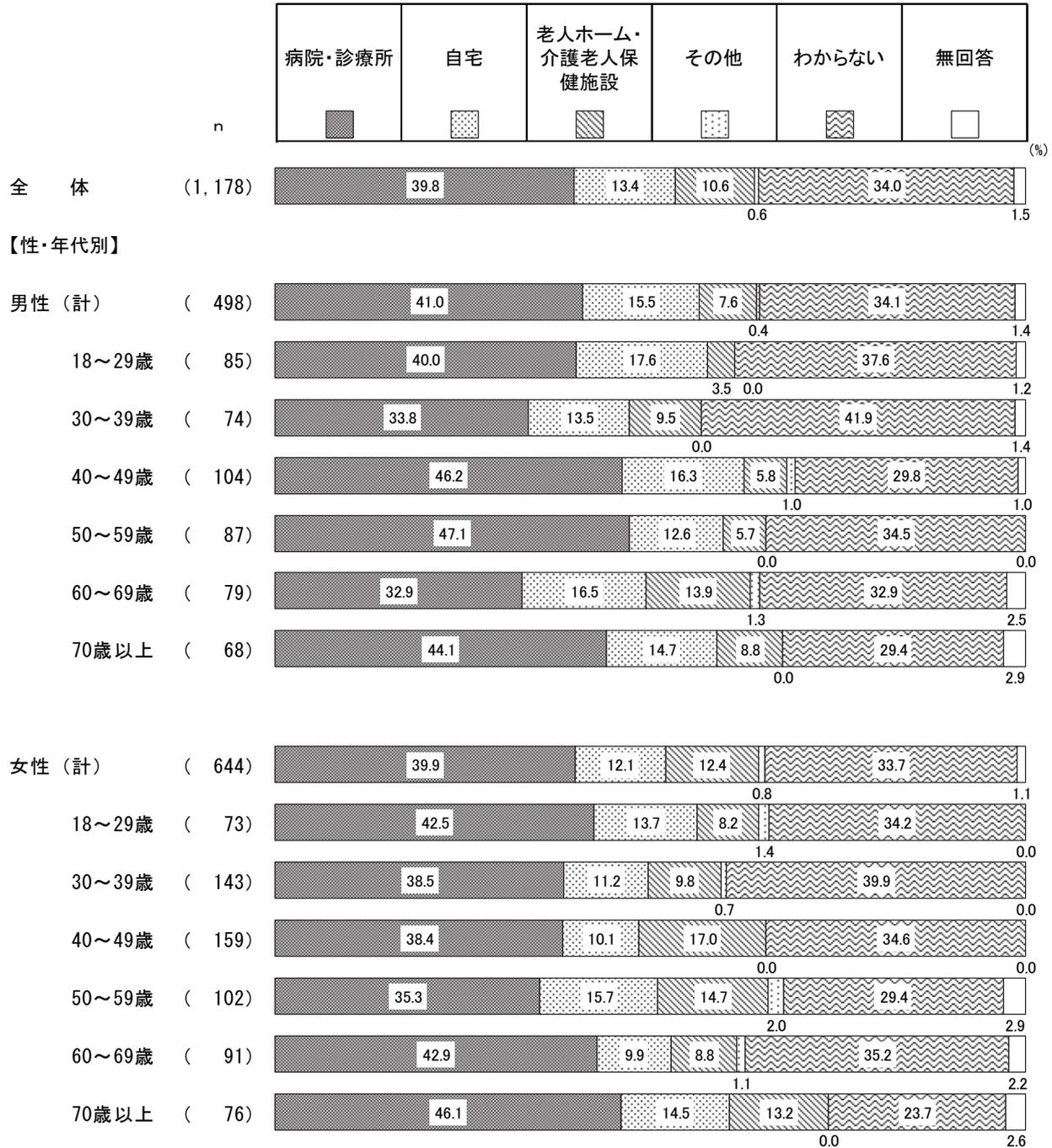
前回の調査と比較すると、大きな違いはみられない。(図表 10-2-2)

図表 10-2-2 実際に最期を迎えると思う場所—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「病院・診療所」は男性 40～49 歳（46.2%）・男性 50～59 歳（47.1%）・女性 70 歳以上（46.1%）が 4 割半ば以上と高くなっている。（図表 10-2-3）

図表 10-2-3 実際に最期を迎えると思う場所－性・年代別

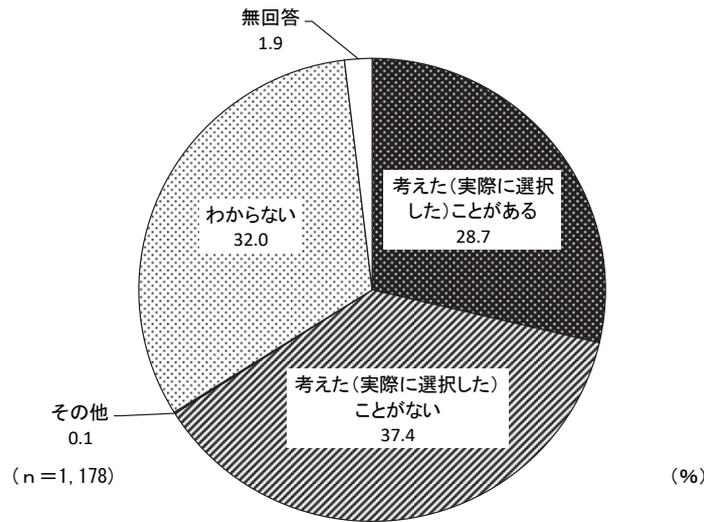


(3) 在宅療養を考えた経験

問 27 ご本人またはご家族が住み慣れた場所で最期まで過ごすために、在宅療養ということ考えた（実際に選択した）ことがありますか。（○は1つだけ）

在宅療養ということ考えた（実際に選択した）ことがあるか聞いたところ、「考えた（実際に選択した）ことがある」（28.7%）が3割近く、「考えた（実際に選択した）ことがない」（37.4%）が4割近くとなっている。（図表 10-3-1）

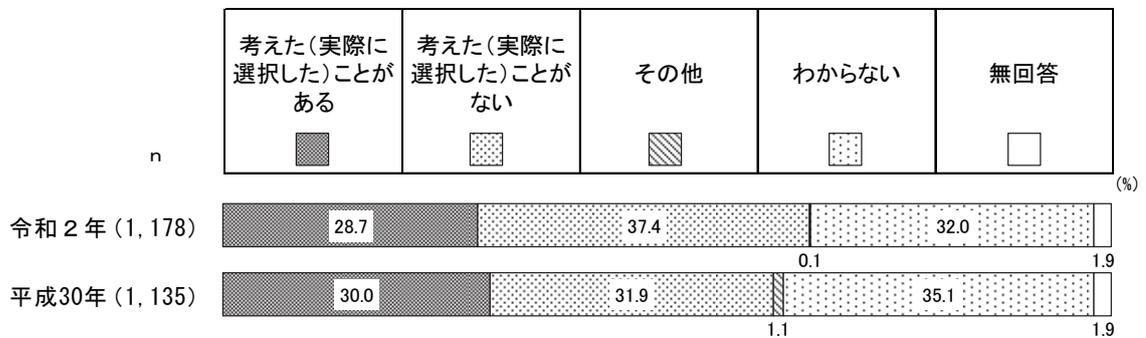
図表 10-3-1 在宅療養を考えた経験



前回の調査と比較すると、「考えた（実際に選択した）ことがない」は5.5ポイント増加している。

(図表 10-3-2)

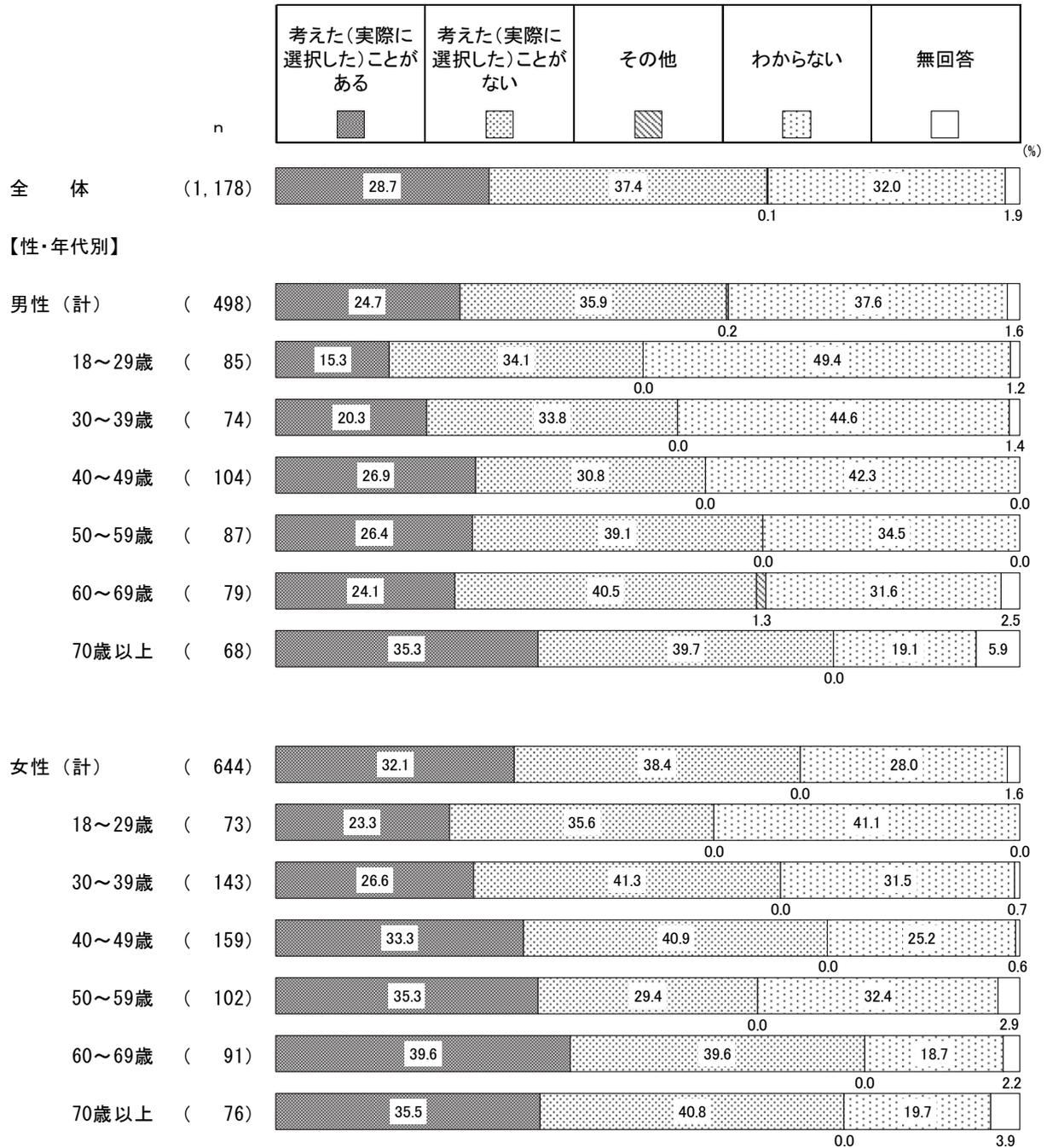
図表 10-3-2 在宅療養を考えた経験—前回の調査との比較



性・年代別にみると、「考えた（実際に選択した）ことがある」は女性 60～69 歳（39.6%）が約 4 割と高くなっている。「わからない」は男性 18～29 歳（49.4%）が約 5 割と高くなっている。

(図表 10-3-3)

図表 10-3-3 在宅療養を考えた経験—性・年代別



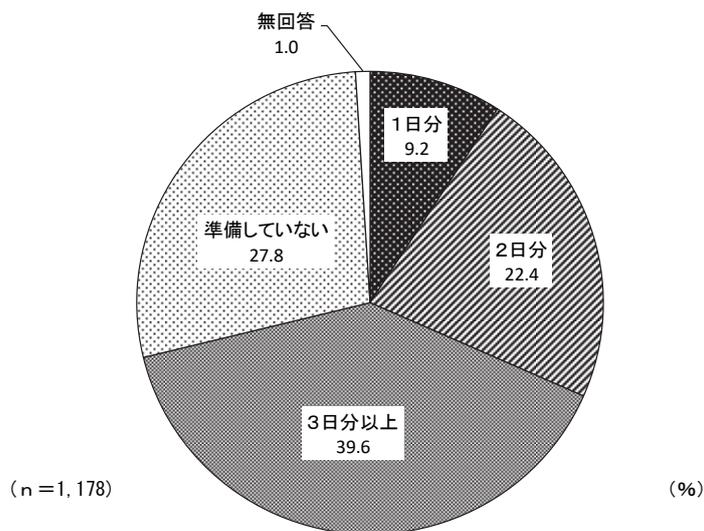
11 防災対策

(1) 食料の備蓄状況

問 28 あなたのご家庭では、大震災に備えて何日分の食料を準備していますか。(〇は1つだけ)

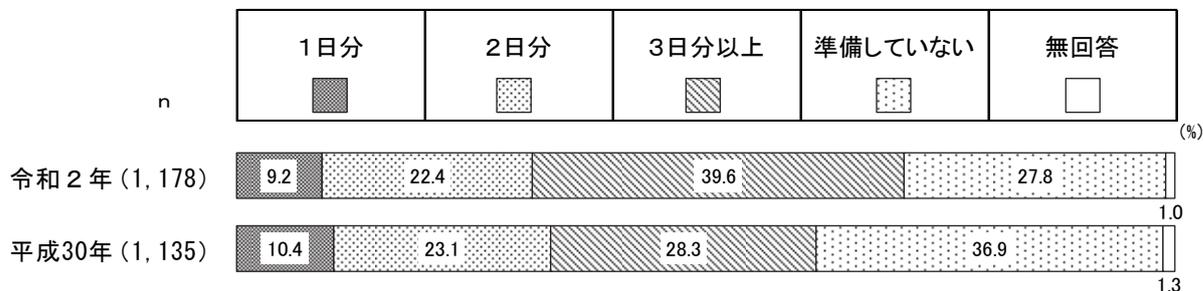
大震災に備えて何日分の食料を準備しているか聞いたところ、「1日分」(9.2%)が1割弱、「2日分」(22.4%)は2割を超え、「3日以上」(39.6%)は約4割となっている。一方、「準備していない」(27.8%)は3割近くとなっている。(図表 11-1-1)

図表 11-1-1 食料の備蓄状況



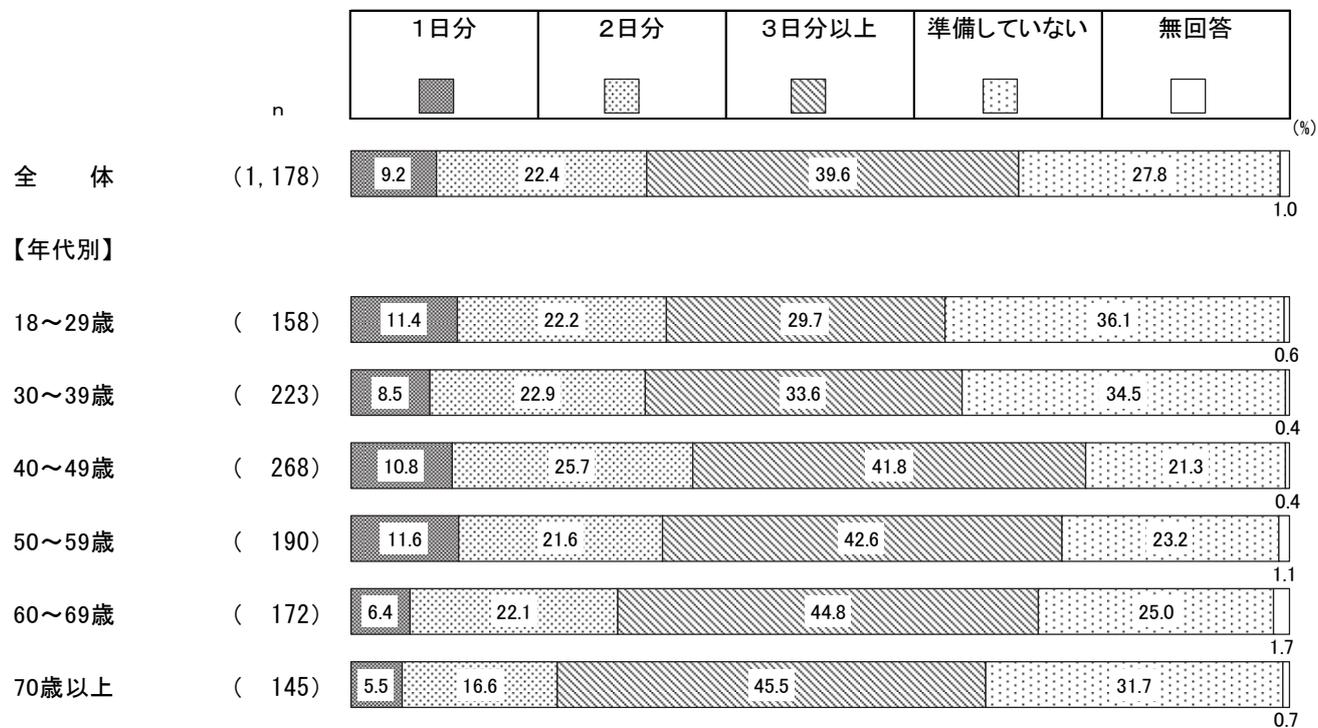
過去の調査と比較すると、前回調査より「3日以上」は 11.3 ポイント増加し、「準備していない」は 9.1 ポイント減少している。(図表 11-1-2)

図表 11-1-2 食料の備蓄状況—過去の調査との比較



年代別にみると、「3日分以上」は70歳以上（45.5%）で4割半ばと高くなっている。「準備していない」は18～29歳（36.1%）が3割半ばを超えて高くなっている。（図表11-1-3）

図表11-1-3 食料の備蓄状況一年代別

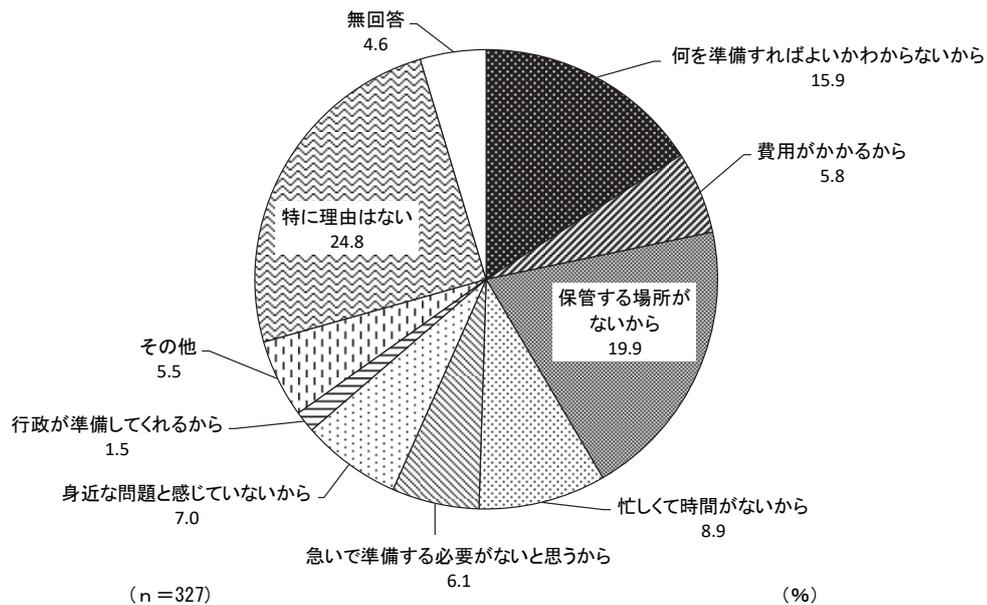


(2) 食料を準備していない理由

(問 28 で、「準備していない」と回答した方に)
問 28-1 準備していない理由は何ですか。(〇は1つだけ)

食料を「準備していない」と回答した方(327人)に、その理由を聞いたところ、「保管する場所がないから」(19.9%)が約2割で最も高く、次いで「何を準備すればよいかわからないから」(15.9%)、「忙しくて時間がないから」(8.9%)となっている。(図表11-2-1)

図表 11-2-1 食料を準備していない理由



(3) 浸水想定の確認

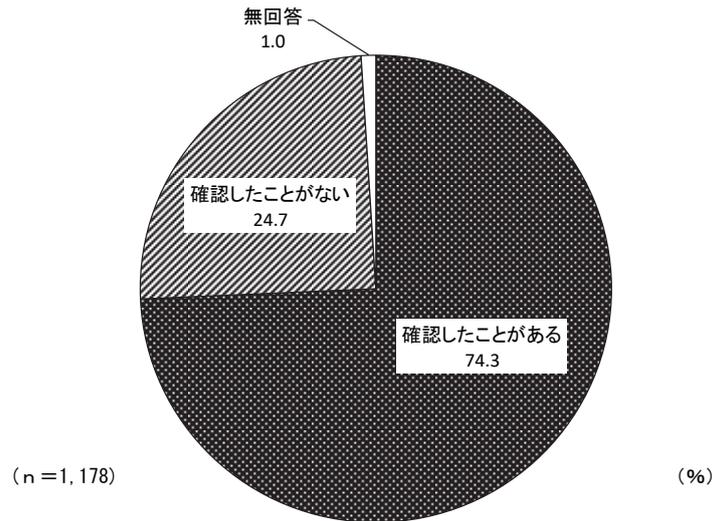
問 29 あなたは、「洪水ハザードマップ」でご自宅の浸水想定を確認したことがありますか。

(○は1つだけ)

「洪水ハザードマップ」で自宅の浸水想定を確認したことがあるか聞いたところ、「確認したことがある」(74.3%)が7割半ば、「確認したことがない」(24.7%)は2割半ばとなっている。

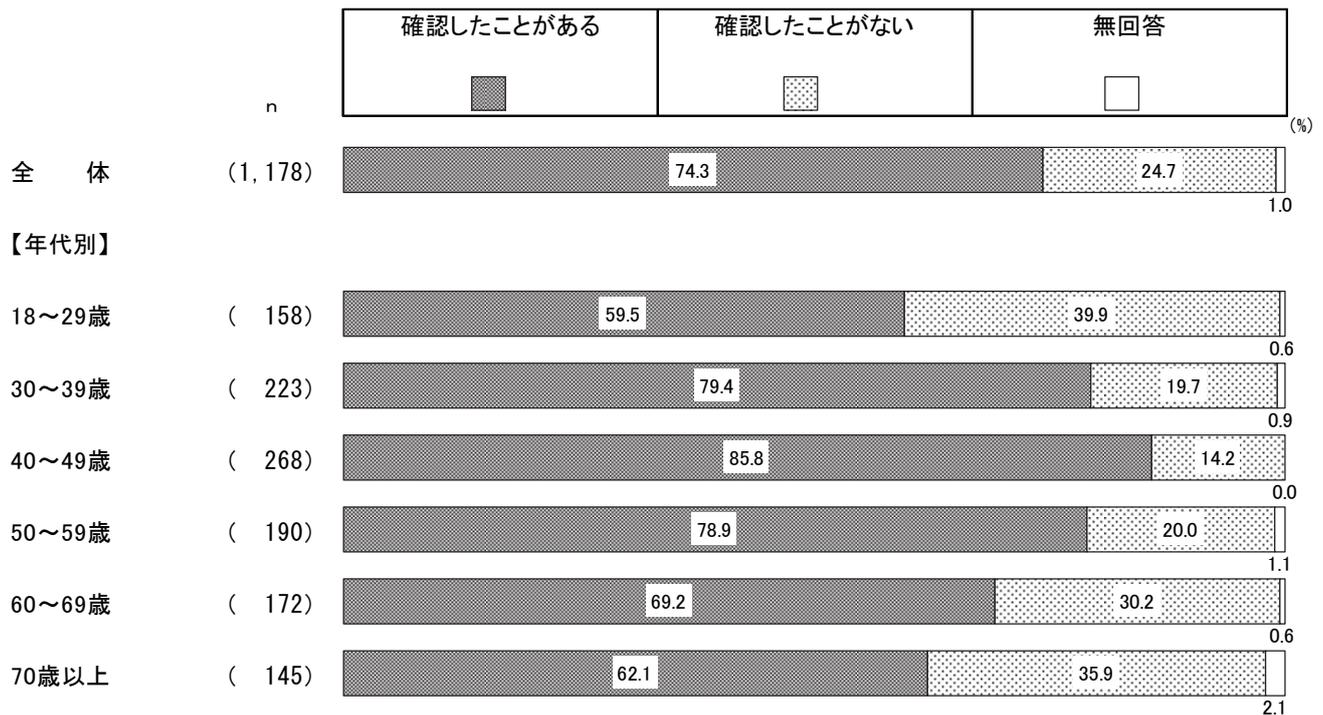
(図表 11-3-1)

図表 11-3-1 浸水想定の確認



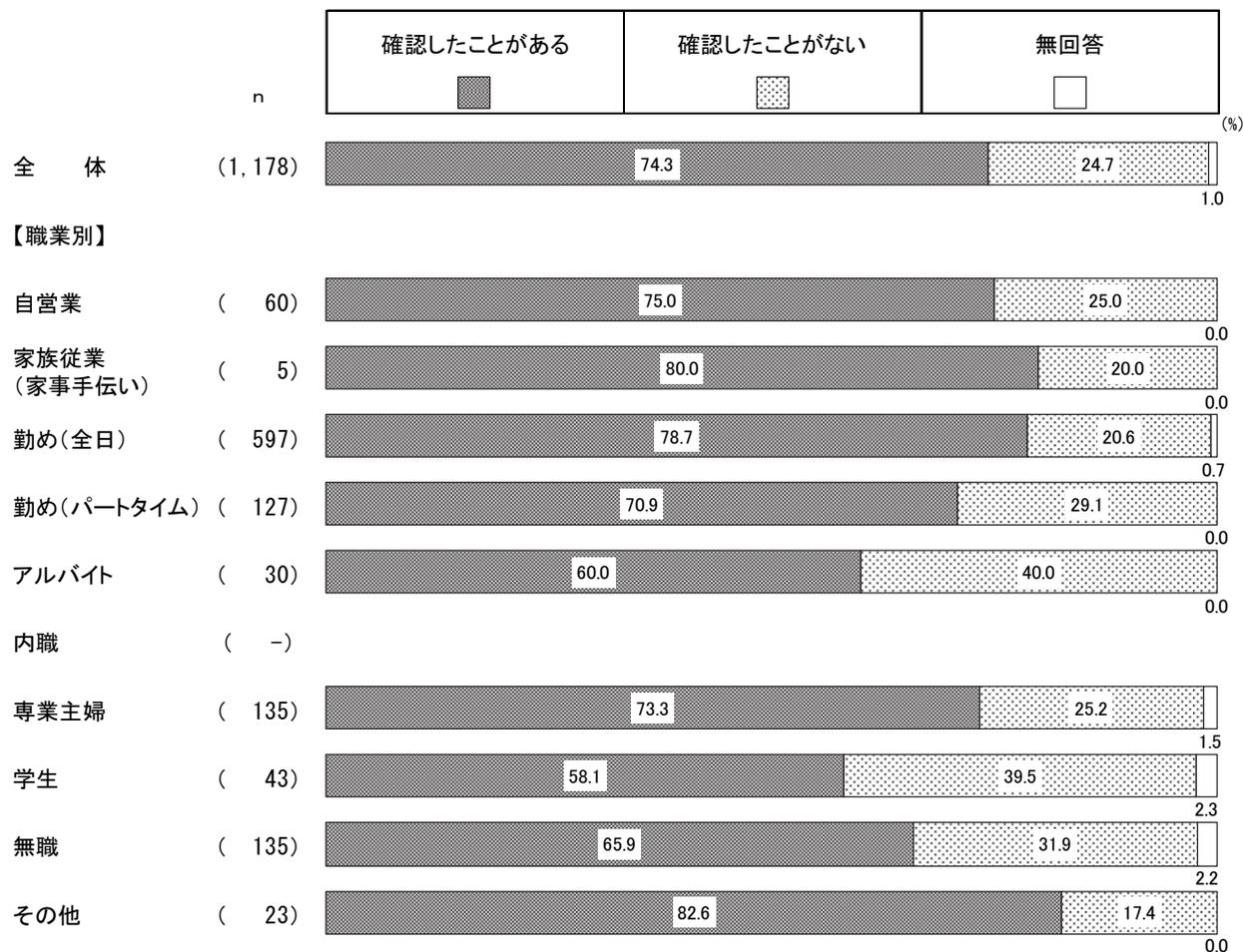
年代別にみると、「確認したことがある」は40～49歳(85.8%)が8割半ばと高く、18～29歳(59.5%)が6割弱と低くなっている。(図表 11-3-2)

図表 11-3-2 浸水想定の確認一年代別



職業別にみると、「確認したことがある」は勤め（全日）（78.7%）が8割近くと高く、学生（60.0%）・アルバイト（58.1%）が約6割と低くなっている。（図表11-3-3）

図表 11-3-3 浸水想定の確認—職業別



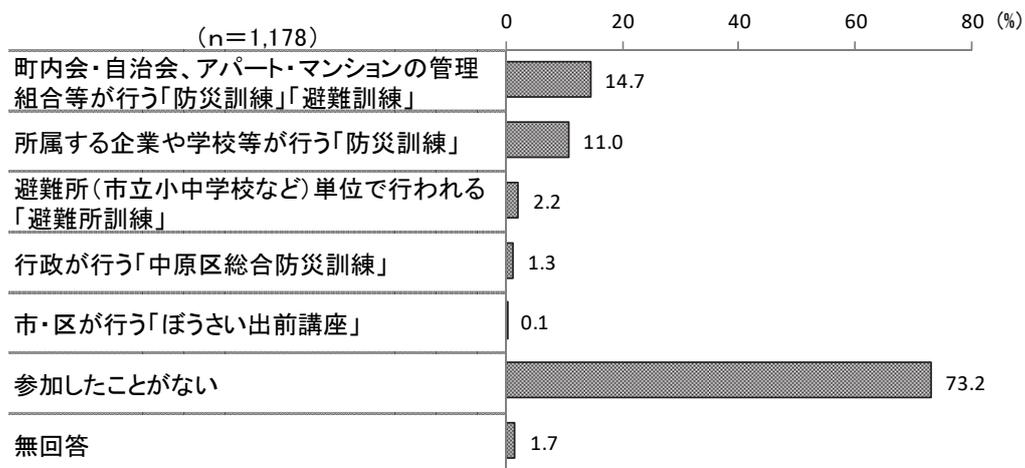
(4) 地域で行われる訓練への参加経験

問 30 あなたは、ここ 1 年間で地域で行われた次の訓練等に参加したことがありますか。

(〇はいくつでも)

地域で行われた訓練等に参加したことがあるか聞いたところ、「町内会・自治会、アパート・マンションの管理組合等が行う『防災訓練』『避難訓練』」(14.7%)が1割半ばで最も高く、次いで「所属する企業や学校等が行う『防災訓練』」(11.0%)となっている。一方、「参加したことがない」(73.2%)は7割を超えている。(図表 11-4-1)

図表 11-4-1 地域で行われる訓練への参加経験

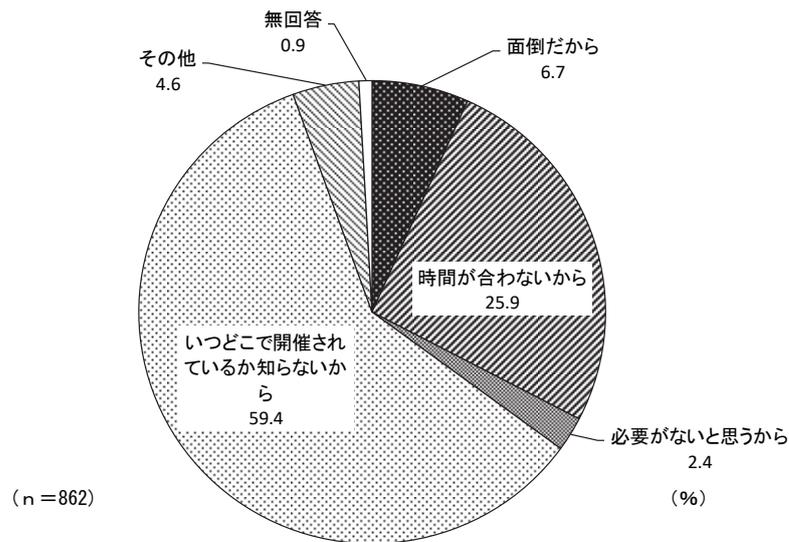


(5) 地域で行われる訓練に参加していない理由

(問 30 で、「参加したことがない」と回答した方に)
問 30-1 参加していない理由は何ですか。(○は1つだけ)

地域で行われた訓練等に「参加したことがない」と回答した方(862人)に、その理由を聞いたところ、「いつどこで開催されているか知らないから」(59.4%)が6割弱で最も高く、次いで「時間が合わないから」(25.9%)となっている。(図表 11-5-1)

図表 11-5-1 地域で行われる訓練に参加していない理由



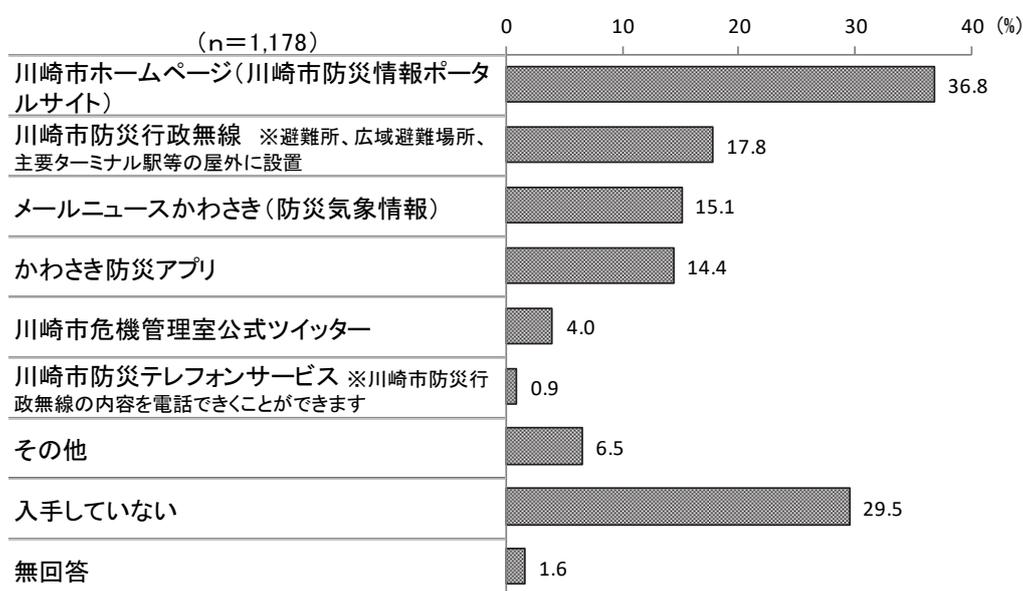
(6) 災害情報の入手手段

問 31 あなたは、災害時に川崎市から提供される災害情報をどのような手段で入手していますか。

(〇はいくつでも)

災害時に川崎市から提供される災害情報をどのような手段で入手しているか聞いたところ、「川崎市ホームページ(川崎市防災情報ポータルサイト)」(36.8%)が3割半ばで最も高く、次いで「川崎市防災行政無線」(17.8%)、「メールニュースかわさき(防災気象情報)」(15.1%)、「かわさき防災アプリ」(14.4%)となっている。一方、「入手していない」(29.5%)は3割弱となっている。(図表 11-6-1)

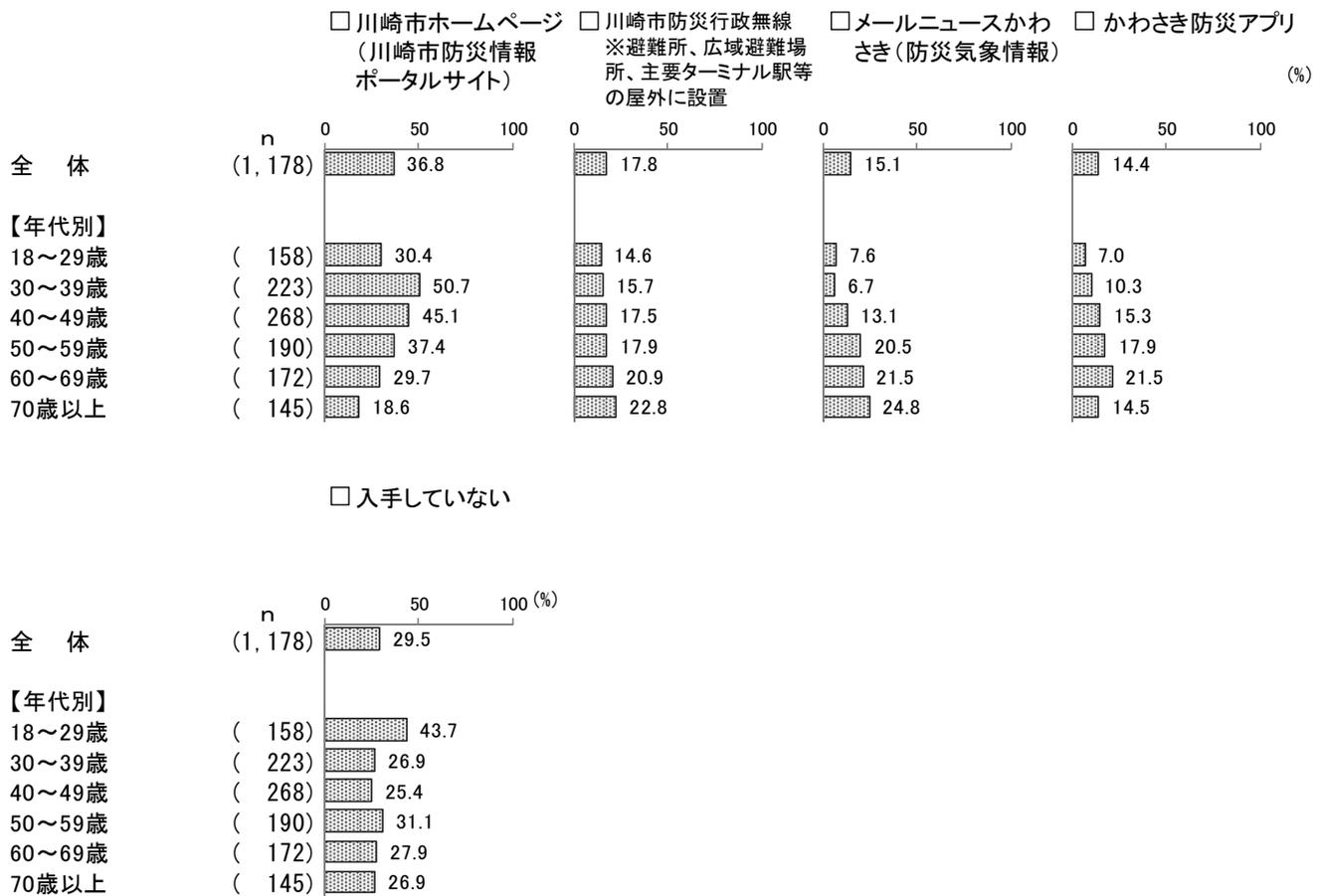
図表 11-6-1 災害情報の入手手段



年代別にみると、「川崎市ホームページ（川崎市防災情報ポータルサイト）」は30～39歳（50.7%）が約5割と高くなっている。「メールニュースかわさき（防災気象情報）」は70歳以上（24.8%）が2割強と高くなっている。一方、「入手していない」は18～29歳（43.7%）が4割を超えている。

（図表11-6-2）

図表11-6-2 災害情報の入手手段一年代別



12 ペットに関する防災対策

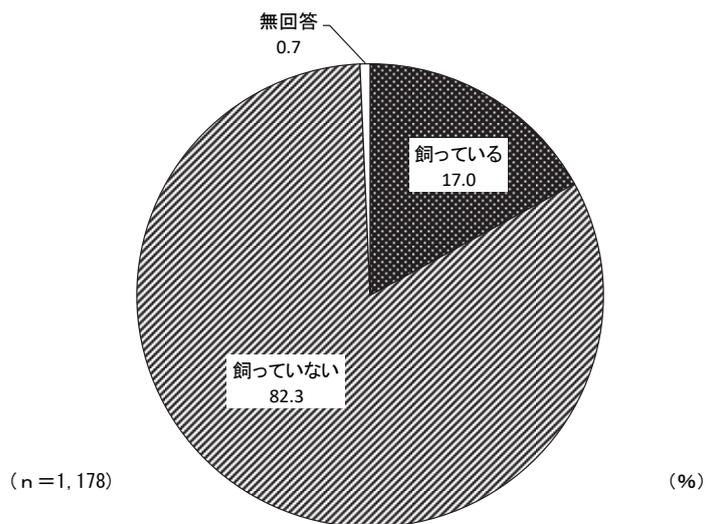
(1) 飼養状況

問 32 現在ペットを飼っていますか (○は1つだけ)

現在ペットを飼っているか聞いたところ、「飼っている」(17.0%)が2割近くとなっている。

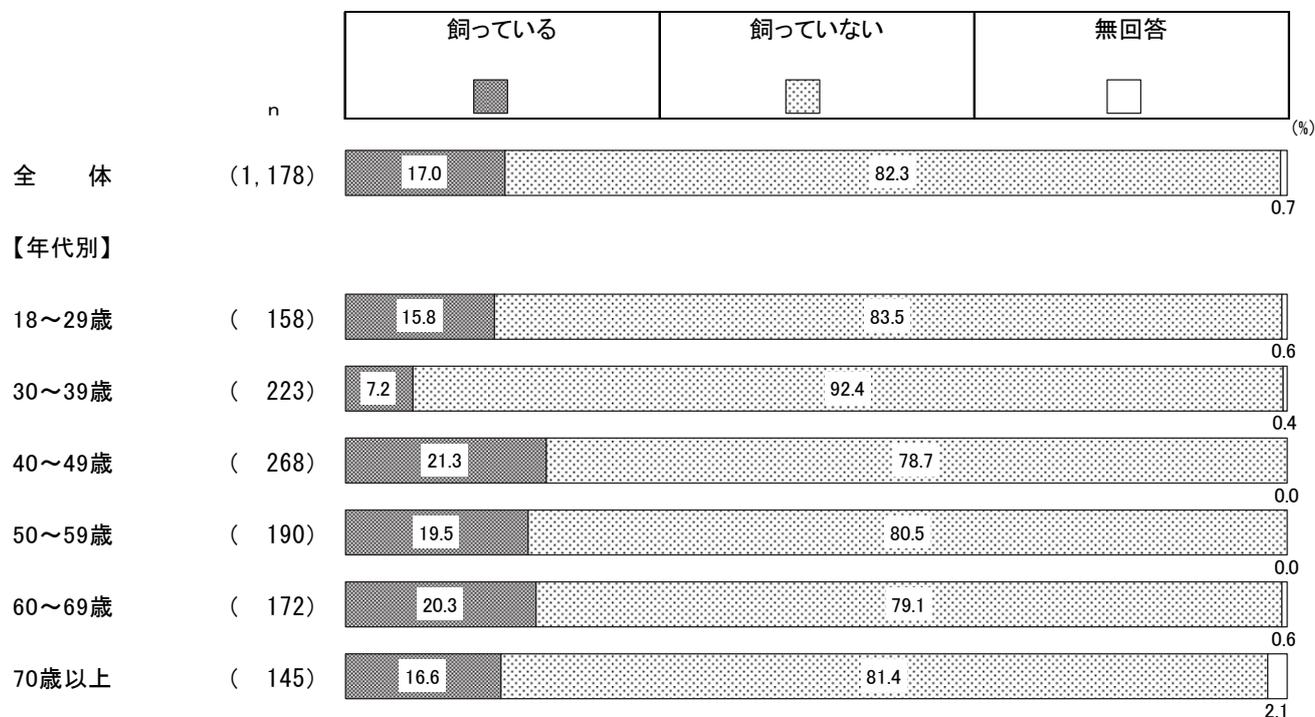
(図表 12-1-1)

図表 12-1-1 飼養状況



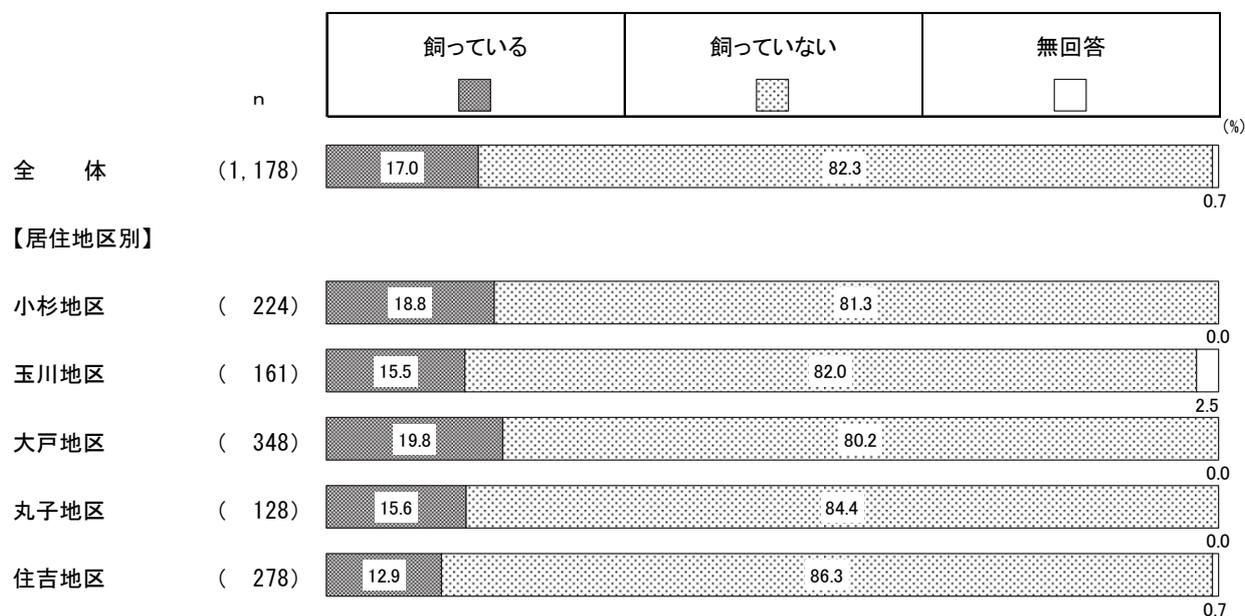
年代別にみると、「飼っている」は40～49歳（21.3%）・60～69歳（20.3%）が2割以上と高くなっている。「飼っていない」は30～39歳（92.4%）が9割を超えて高くなっている。（図表12-1-2）

図表12-1-2 飼養状況—年代別



居住地区別にみると、「飼っている」は大戸地区（19.8%）が約2割と高くなっている。「飼っていない」は住吉地区（86.3%）が8割半ばと高くなっている。（図表12-1-3）

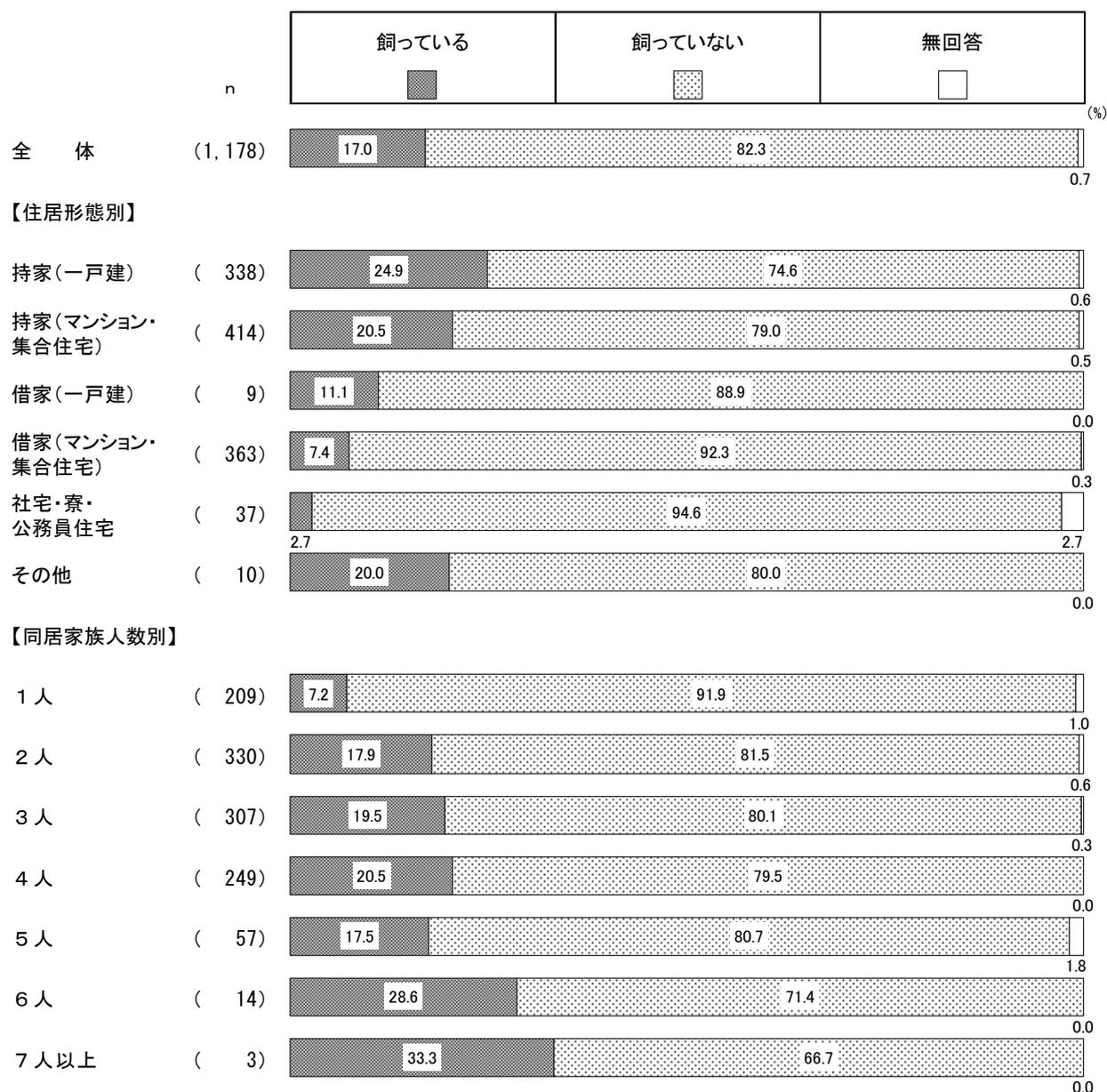
図表12-1-3 飼養状況—居住地区別



住居形態別にみると、「飼っている」は持家（一戸建）（24.9%）が2割半ばと高くなっている。「飼っていない」は社宅・寮・公務員住宅（94.6%）が9割半ばと高くなっている。

同居家族人数別にみると、「飼っている」は3人（19.5%）・4人（20.5%）が約2割と高くなっている。（図表 12-1-4）

図表 12-1-4 飼養状況－住居形態別・同居家族人数別



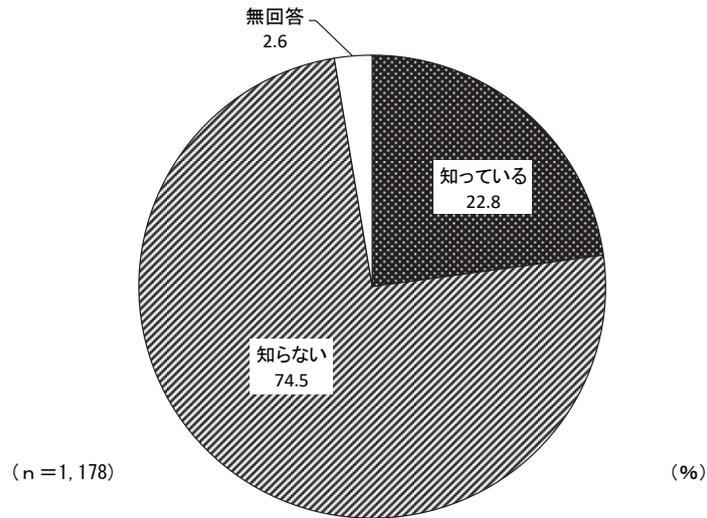
(2) ペットの同行避難の認知度

問 33 「同行避難」の内容を知っていますか (○は1つだけ)
 (※ペットを飼っていない方も回答してください)

「同行避難」の内容を知っているか聞いたところ、「知っている」(22.8%)が2割にとどまっている。

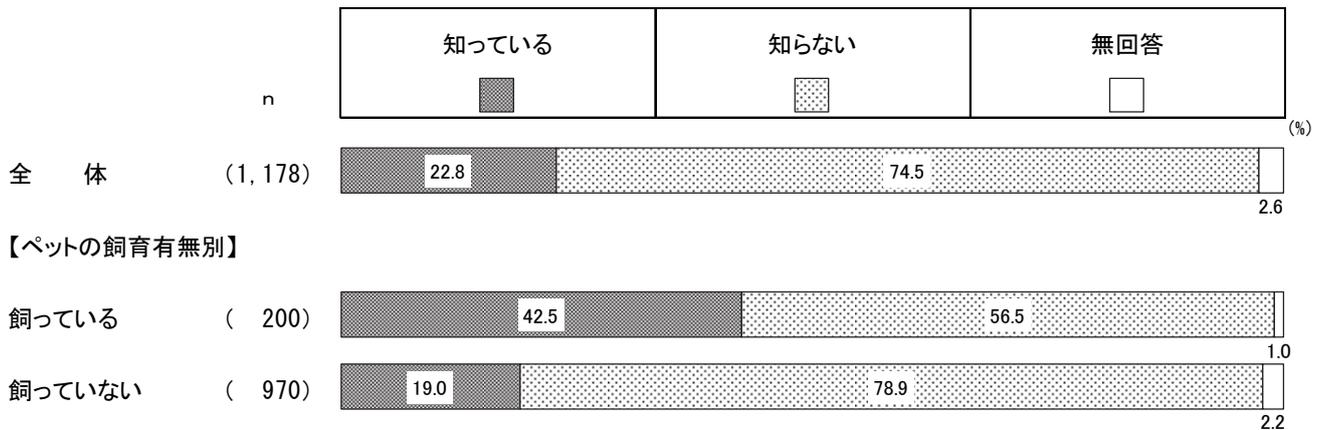
(図表 12-2-1)

図表 12-2-1 ペットの同行避難の認知度



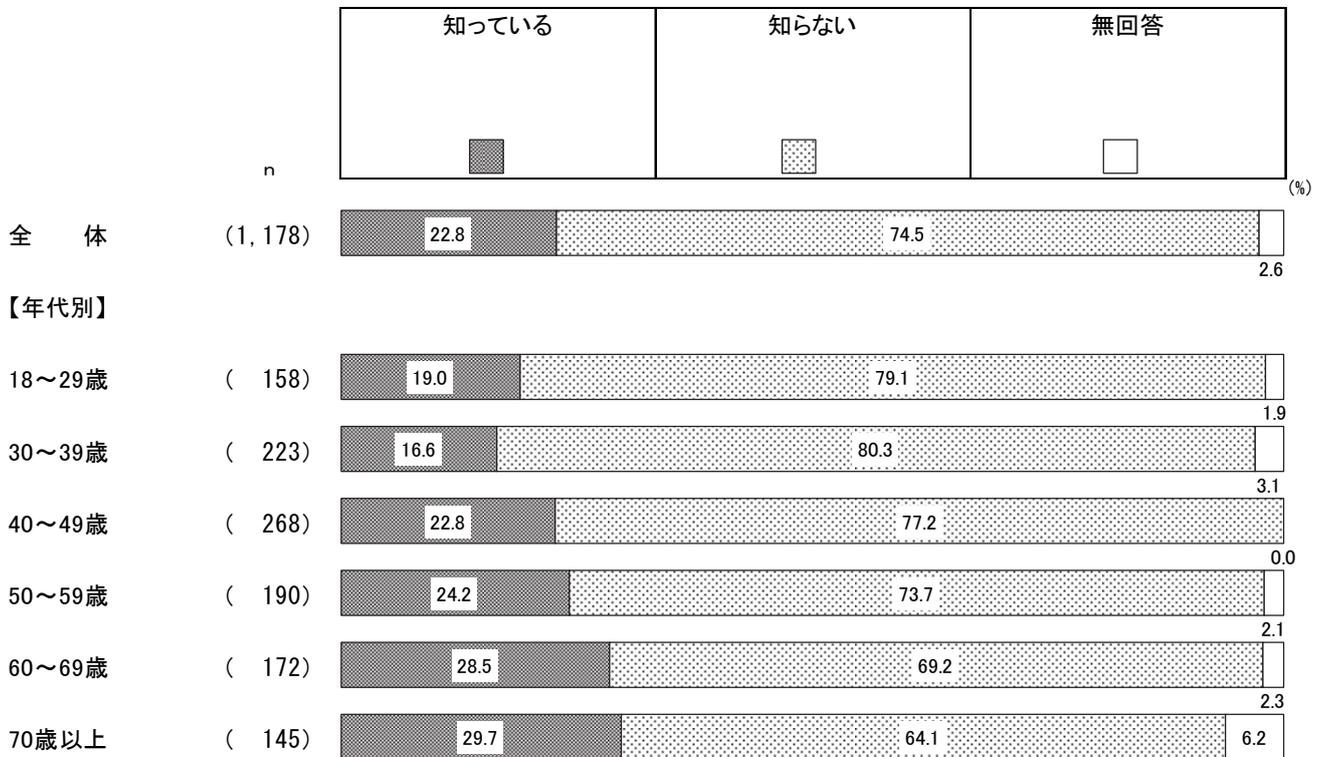
ペットの飼育有無別にみると、「知っている」はペットを飼っている人(42.5%)が4割を超えて高くなっている。(図表 12-2-2)

図表 12-2-2 ペットの同行避難の認知度—ペットの飼育有無別



年代別にみると、「知っている」は70歳以上（29.7%）が約3割と高くなっている。「知らない」は30～39歳（80.3%）が約8割と高くなっている。（図表12-2-3）

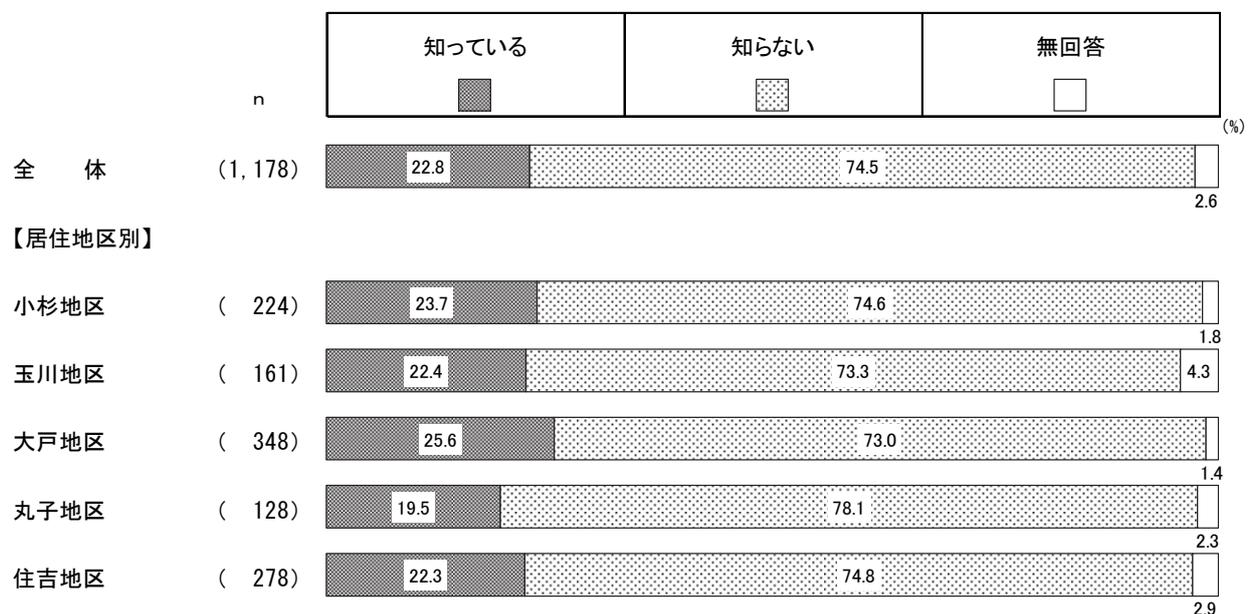
図表12-2-3 ペットの同行避難の認知度—年代別



居住地区別にみると、「知っている」は大戸地区（25.6%）で2割半ばと高くなっている。

（図表12-2-4）

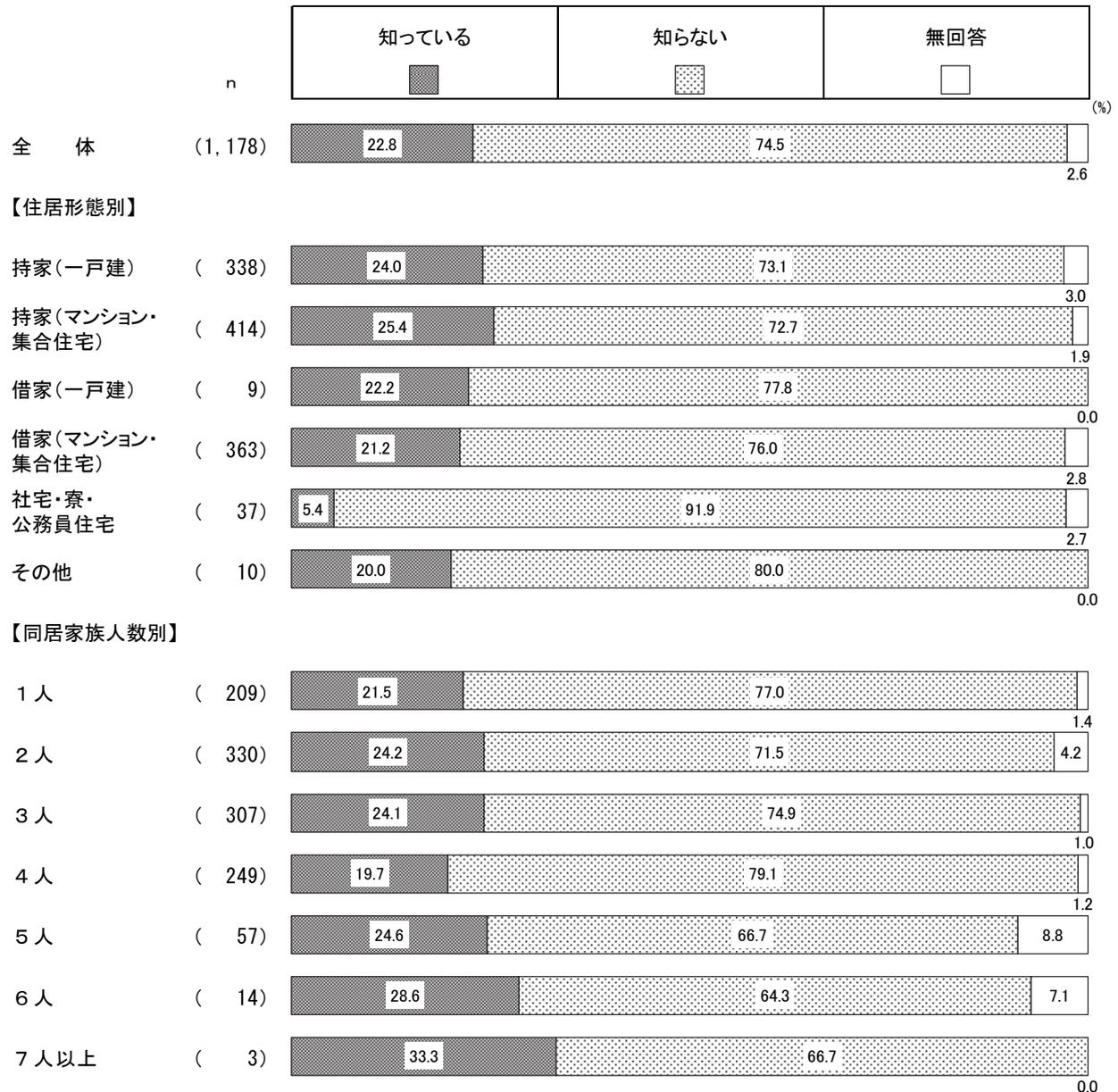
図表12-2-4 ペットの同行避難の認知度—居住地区別



住居形態別にみると、「知らない」は社宅・寮・公務員住宅（91.9%）が9割を超えて高くなっている。
同居家族人数別にみると、「知らない」は4人（79.1%）が約8割と高くなっている。

（図表 12-2-5）

図表 12-2-5 ペットの同行避難の認知度—住居形態別・同居家族人数別

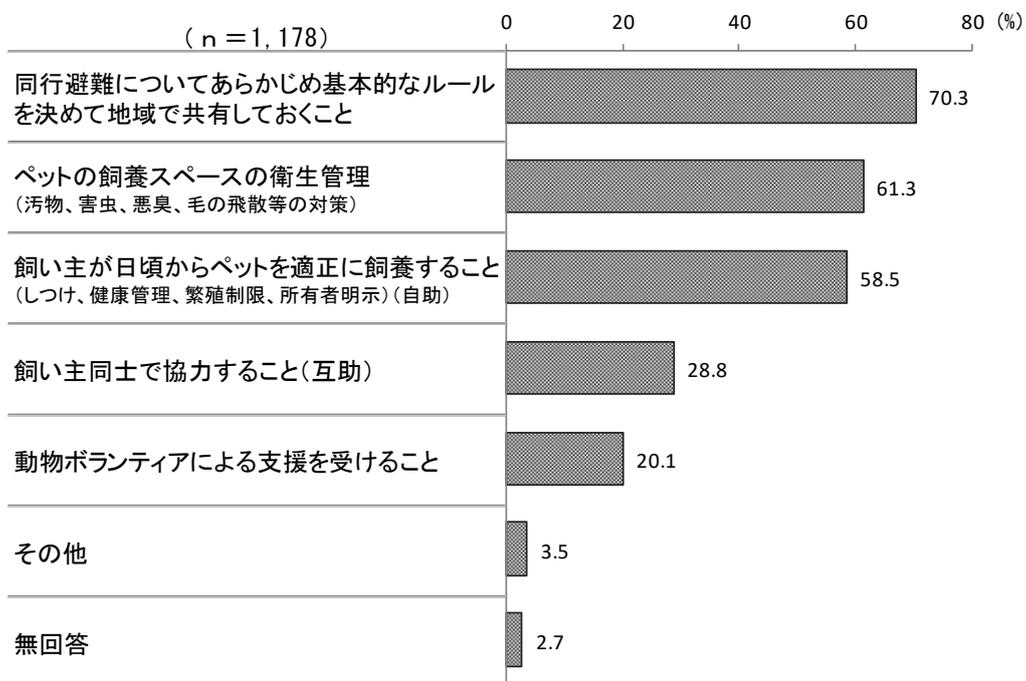


(3) ペットの同行避難で大事だと思うこと

問 34 円滑な避難所運営のためにペットの同行避難で大事だと思うことは何ですか（複数選択可）
（※ペットを飼っていない方も回答してください）

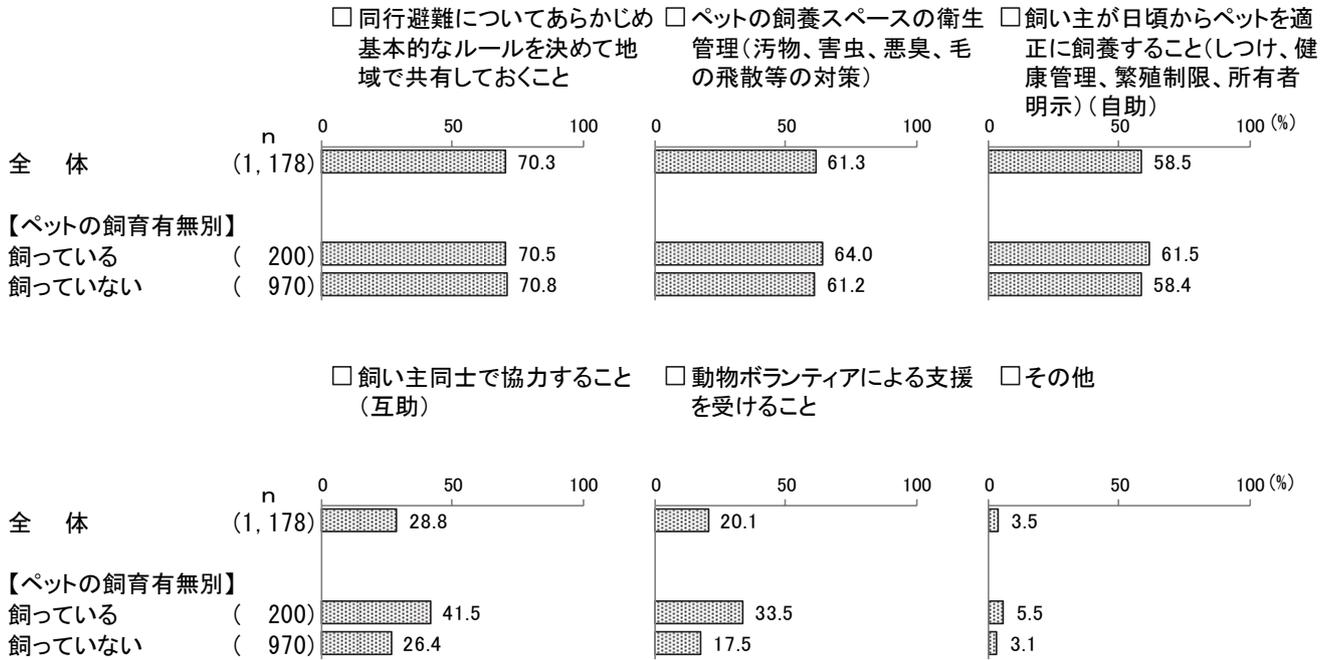
円滑な避難所運営のためにペットの同行避難で大事だと思うことを聞いたところ、「同行避難についてあらかじめ基本的なルールを決めて地域で共有しておくこと」（70.3%）が約7割で最も高く、次いで「ペットの飼養スペースの衛生管理（汚物、害虫、悪臭、毛の飛散等の対策）」（61.3%）、「飼い主が日頃からペットを適正に飼養すること（しつけ、健康管理、繁殖制限、所有者明示）（自助）」（58.5%）となっている。（図表 12-3-1）

図表 12-3-1 ペットの同行避難で大事だと思うこと



ペットの飼育有無別にみると、「飼い主同士で協力すること」は飼っている（41.5%）で4割強と高くなっている。（図表 12-3-2）

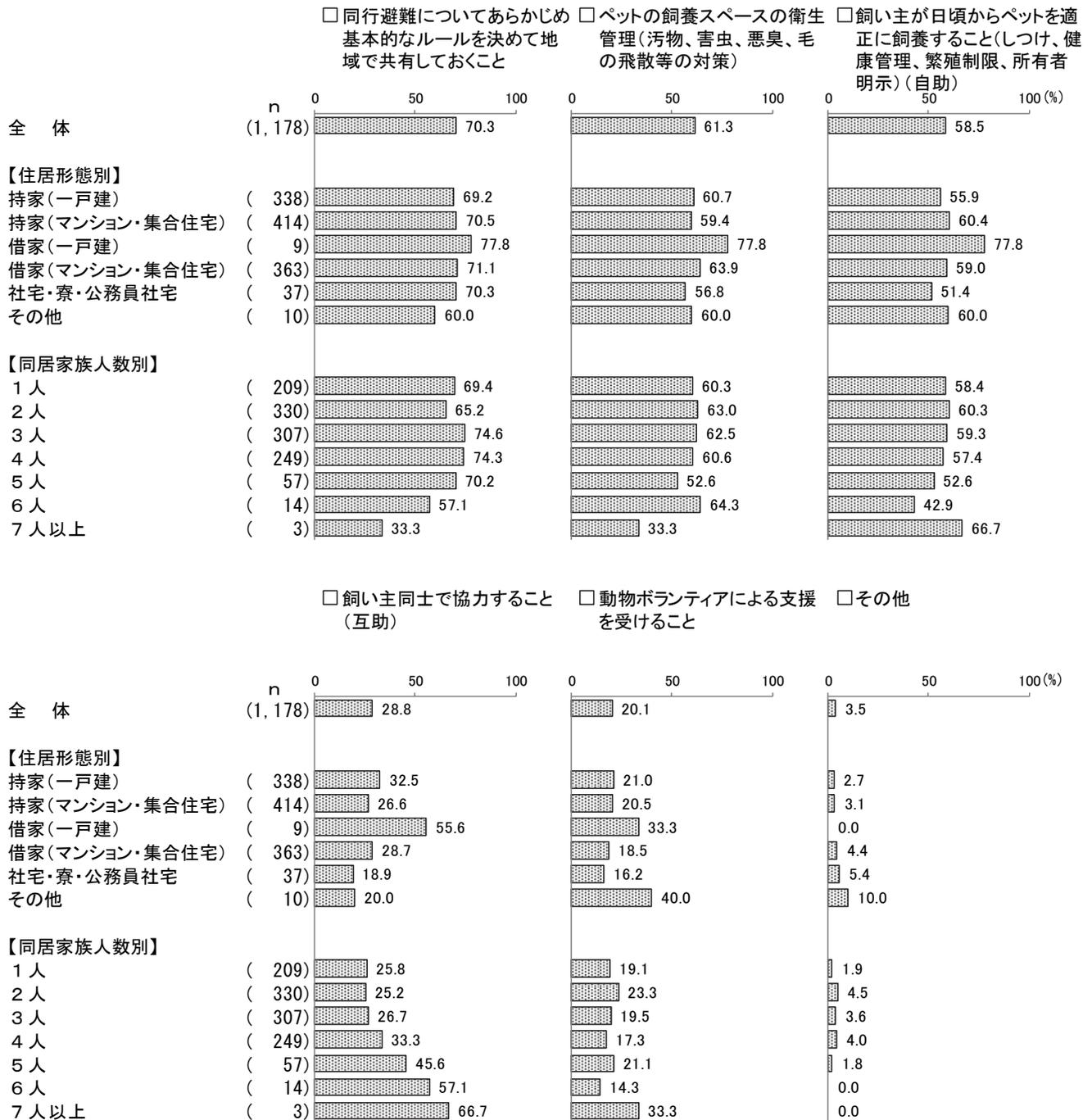
図表 12-3-2 ペットの同行避難で大事だと思うことーペットの飼育有無別



住居形態別にみると、「飼い主同士で協力すること（互助）」は持家（一戸建）（32.5%）が3割を超えて高くなっている。

同居家族人数別にみると、「同行避難についてあらかじめ基本的なルールを決めて地域で共有しておくこと」は3人（74.6%）・4人（74.3%）が7割半ばと高くなっている。（図表12-3-3）

図表12-3-3 ペットの同行避難で大事だと思うことー住居形態別・同居家族人数別

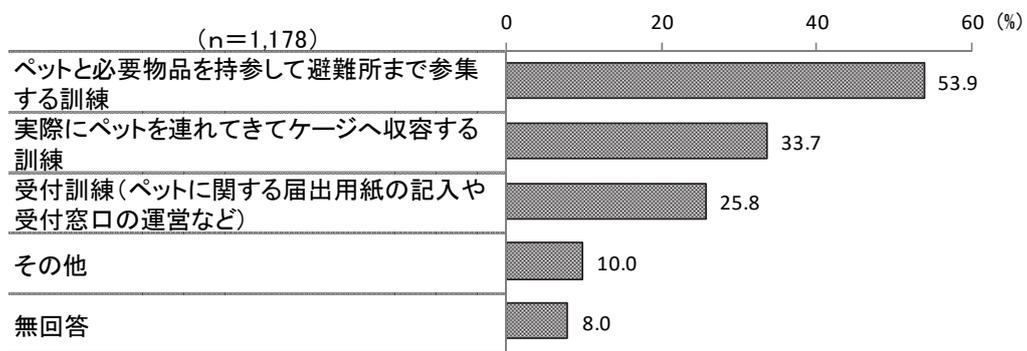


(4) どのような訓練なら参加したいか

問 35 中原区総合防災訓練で同行避難訓練を実施する場合、どのような内容なら参加（見学）したいと思いますか（複数選択可）（※ペットを飼っていない方も回答してください）

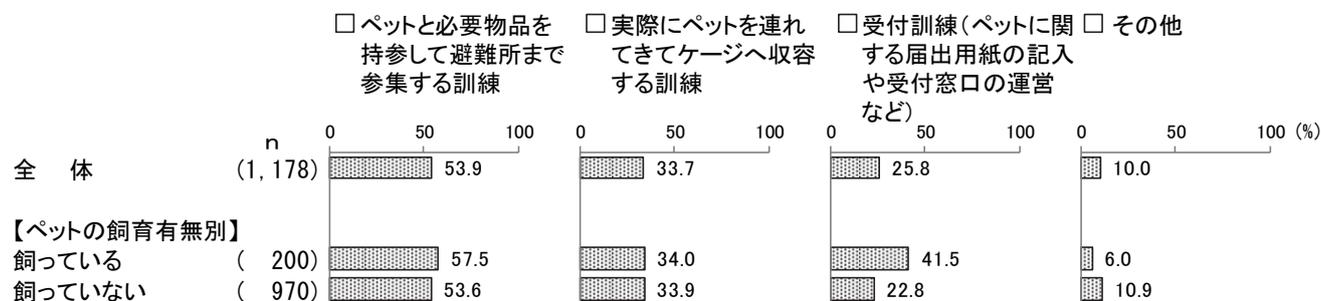
中原区総合防災訓練で同行避難訓練を実施する場合、どのような内容なら参加（見学）したいと思うか聞いたところ、「ペットと必要物品を持参して避難所まで参集する訓練」（53.9%）が5割を超えて最も高く、次いで「実際にペットを連れてきてケージへ収容する訓練」（33.7%）、「受付訓練（ペットに関する届出用紙の記入や受付窓口の運営など）」（25.8%）となっている。（図表 12-4-1）

図表 12-4-1 どのような訓練なら参加したいか



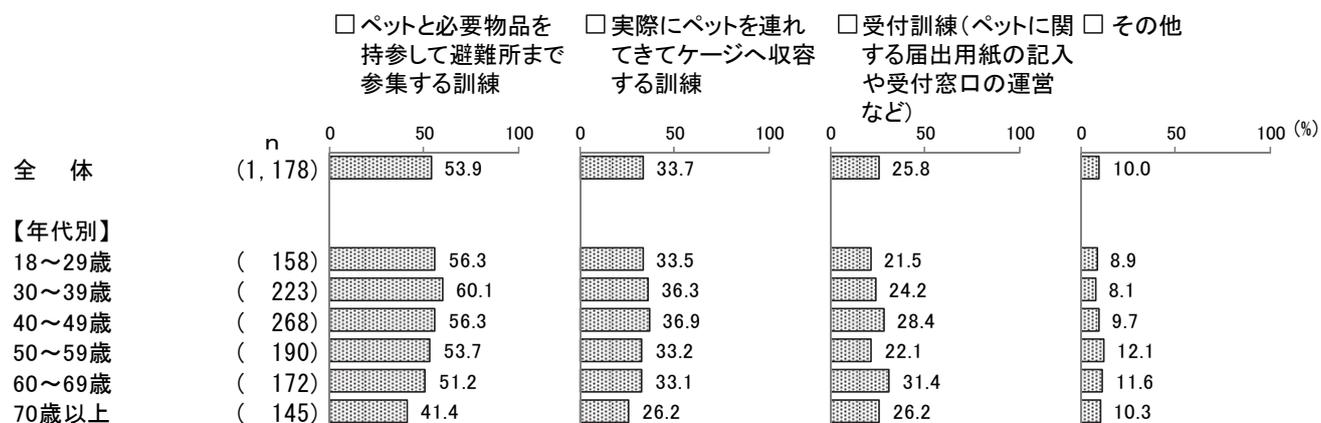
ペットの飼育有無別にみると、「受付訓練（ペットに関する届出用紙の記入や受付窓口の運営など）」は飼っている（41.5%）が4割強と高くなっている。（図表12-4-2）

図表12-4-2 どのような訓練なら参加したいかーペットの飼育有無別



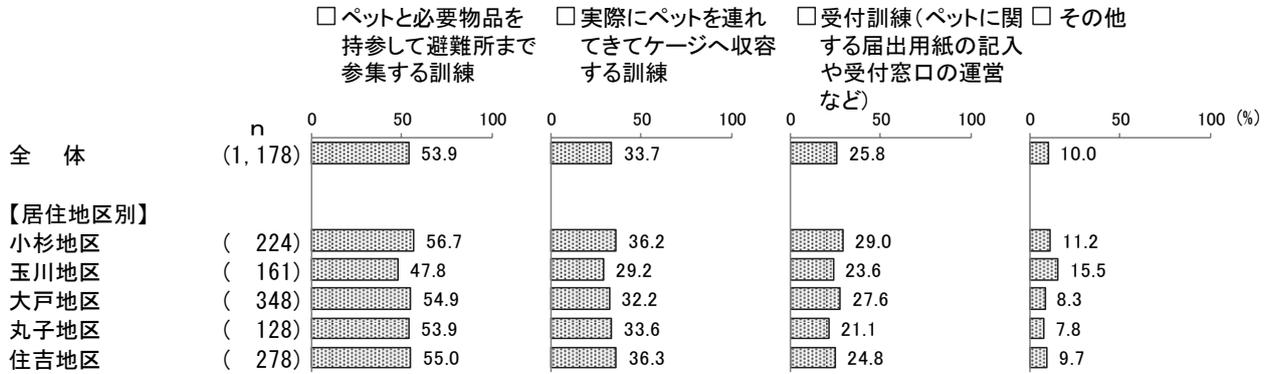
年代別にみると、「ペットと必要物品を持参して避難所まで参集する訓練」は30～39歳（60.1%）が6割を超えて高くなっている。「受付訓練（ペットに関する届出用紙の記入や受付窓口の運営など）」は60～69歳（31.4%）が3割を超えて高くなっている。（図表12-4-3）

図表12-4-3 どのような訓練なら参加したいかー年代別



居住地区別にみると、「受付訓練（ペットに関する届出用紙の記入や受付窓口の運営など）」は小杉地区（29.0%）が約3割と高くなっている。（図表12-4-4）

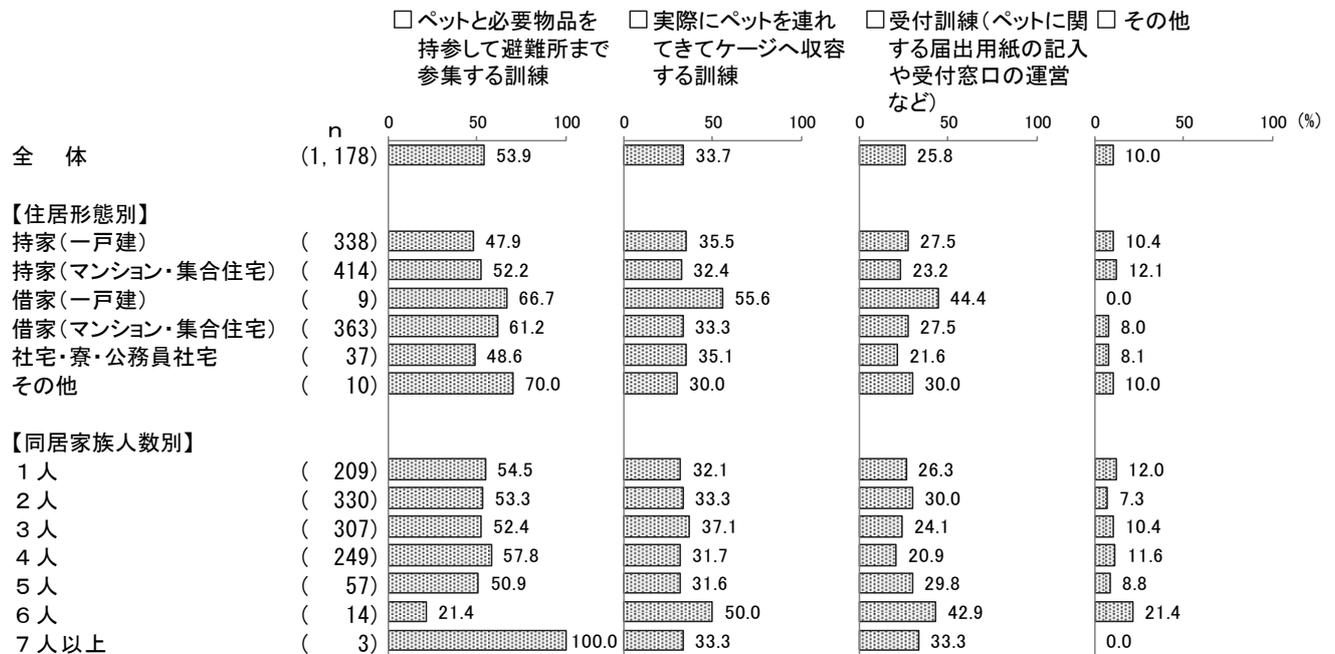
図表12-4-4 どのような訓練なら参加したいかー居住地区別



住居形態別にみると、「ペットと必要物品を持参して避難所まで参集する訓練」は借家（マンション・集合住宅）（61.2%）が6割を超えて高くなっている。

同居家族人数別にみると、「ペットと必要物品を持参して避難所まで参集する訓練」は4人（57.8%）が6割近くと高くなっている。（図表12-4-5）

図表12-4-5 どのような訓練なら参加したいかー住居形態別・同居家族人数別



13 新しい生活様式について

(1) 実施している対策

問 36 次の新型コロナウイルス感染症対策のうち実施しているものおよび実施していないものはその理由を教えてください（〇はいくつでも）

新型コロナウイルス感染症対策のうち実施しているものについて、8項目に分けて聞いた。

(ア) 人との間隔の確保（1 m以上）をみると、「実施している」（81.8%）は8割を超えている。

(イ) 正面を避けた会話・食事（横並びなど）をみると、「実施している」（72.4%）は7割を超えている。実施していない理由では「気にしていない」（11.0%）が1割を超えている。

（図表 13-1-1）

(ウ) マスクの着用をみると、「実施している」（96.5%）は9割半ばとなっている。

(エ) まめな手洗い・手指の消毒をみると、「実施している」（95.9%）は9割半ばとなっている。

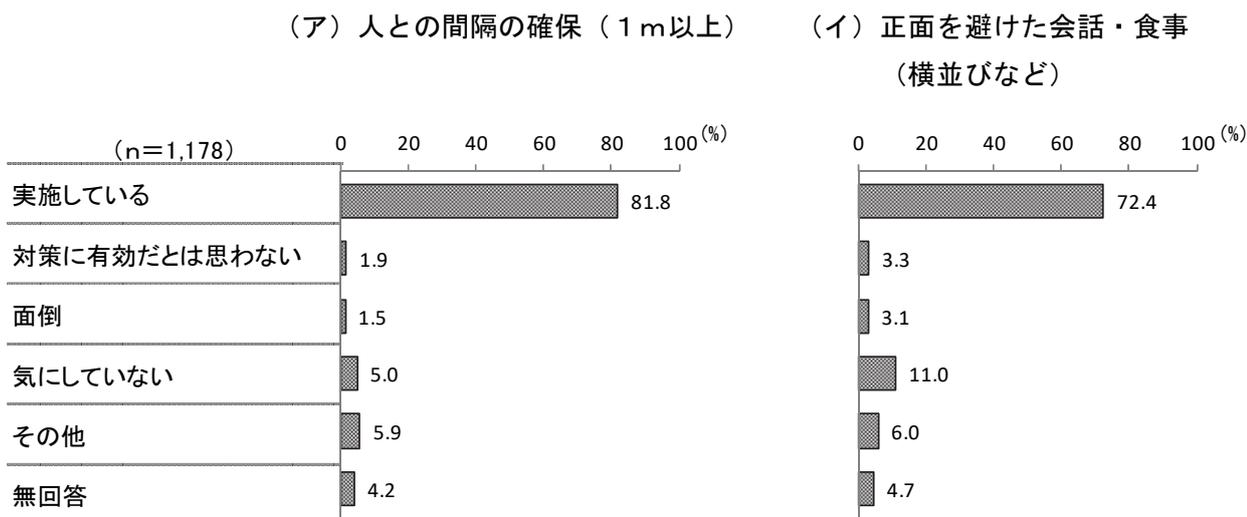
(オ) 帰宅後すぐの着替え、シャワーをみると、「実施している」（42.4%）は4割を超えている。実施していない理由では「気にしていない」（22.9%）が2割を超えている。

(カ) こまめな換気をみると、「実施している」（81.2%）は8割を超えている。実施していない理由では「気にしていない」（9.8%）が約1割となっている。

(キ) 空いている時間帯の利用（買い物、交通機関、公園など）をみると、「実施している」（64.5%）は6割半ばとなっている。実施していない理由では「気にしていない」（16.8%）が1割半ばとなっている。

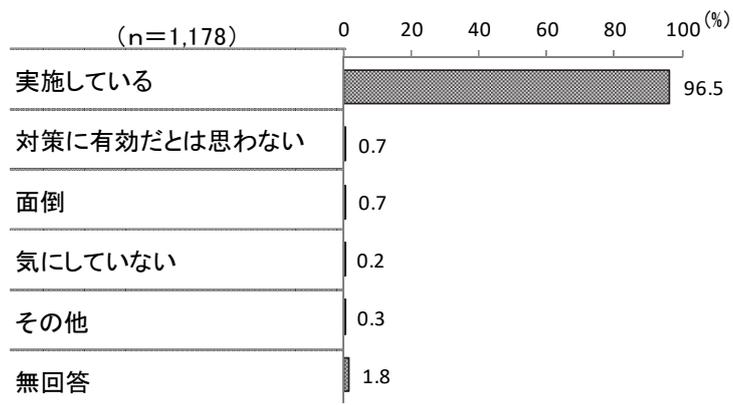
(ク) 3密となる店・場に行くことの自粛をみると、「実施している」（90.3%）は約9割となっている。実施していない理由では「気にしていない」（3.7%）が高くなっている。（図表 13-1-2）

図表 13-1-1 実施している対策

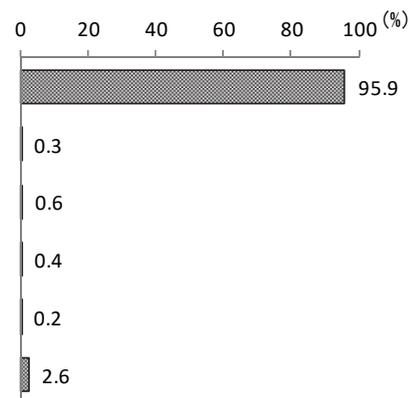


図表 13-1-2 実施している対策

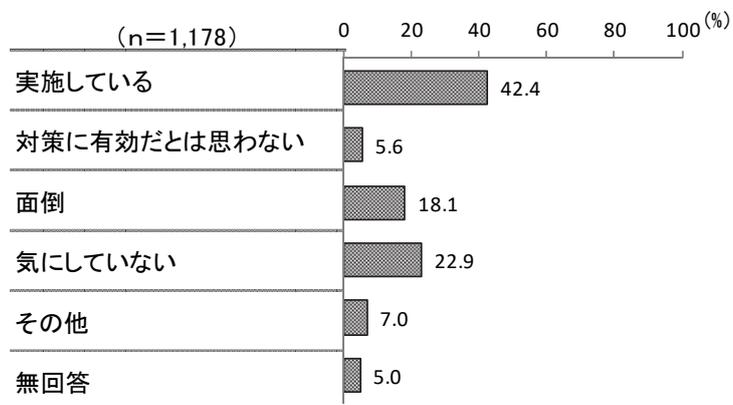
(ウ) マスクの着用



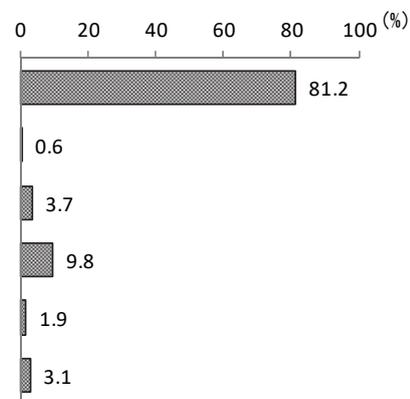
(エ) まめな手洗い・手指の消毒



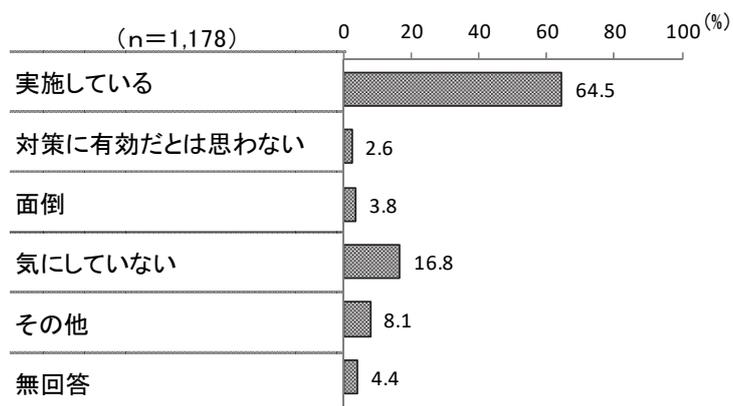
(オ) 帰宅後すぐの着替え、シャワー



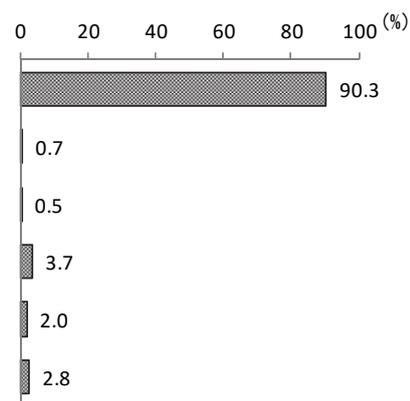
(カ) こまめな換気



(キ) 空いている時間帯の利用
(買い物、交通機関、公園など)



(ク) 3密となる店・場に行くことの自粛

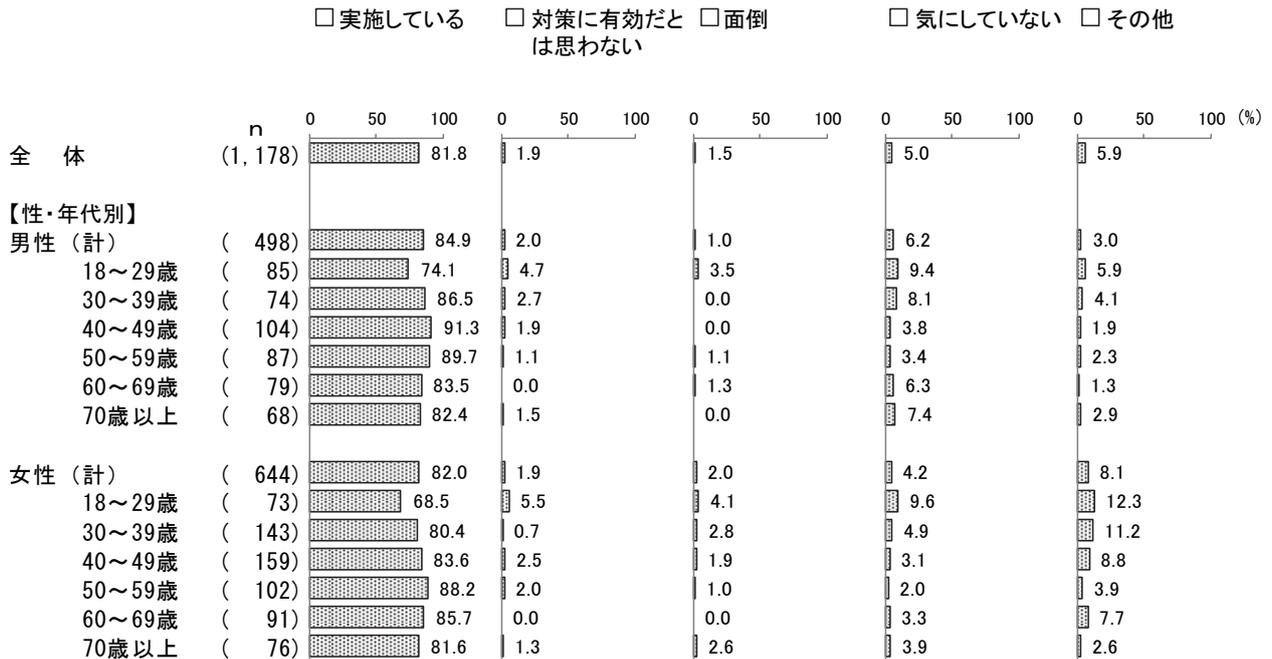


(ア) 人との間隔の確保（1 m以上）について性・年代別にみると、「実施している」は男性 40～49 歳（91.3%）が9割を超えて高くなっている。

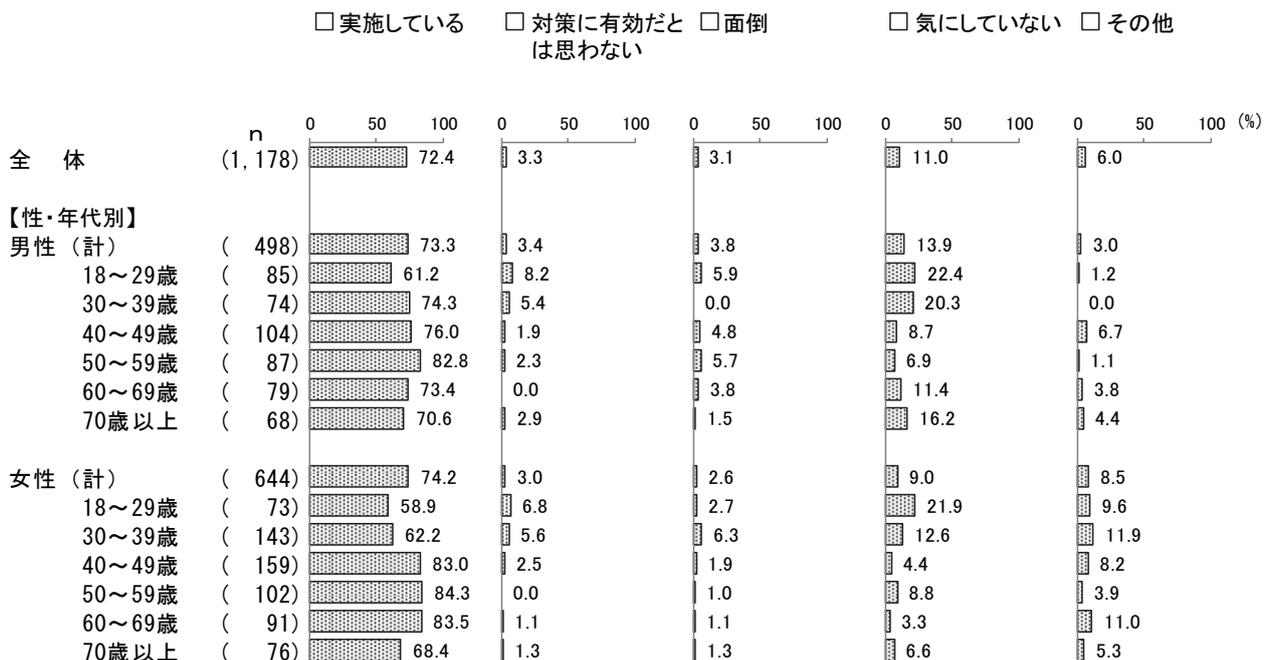
(イ) 正面を避けた会話・食事（横並びなど）について性・年代別にみると、「実施している」は男性 50～59 歳（82.8%）・女性 40～49 歳（83.0%）・女性 50～59 歳（84.3%）・女性 60～69 歳（83.5%）が8割を超えて高くなっている。（図表 13-1-3）

図表 13-1-3 実施している対策－性・年代別

(ア) 人との間隔の確保（1 m以上）



(イ) 正面を避けた会話・食事（横並びなど）



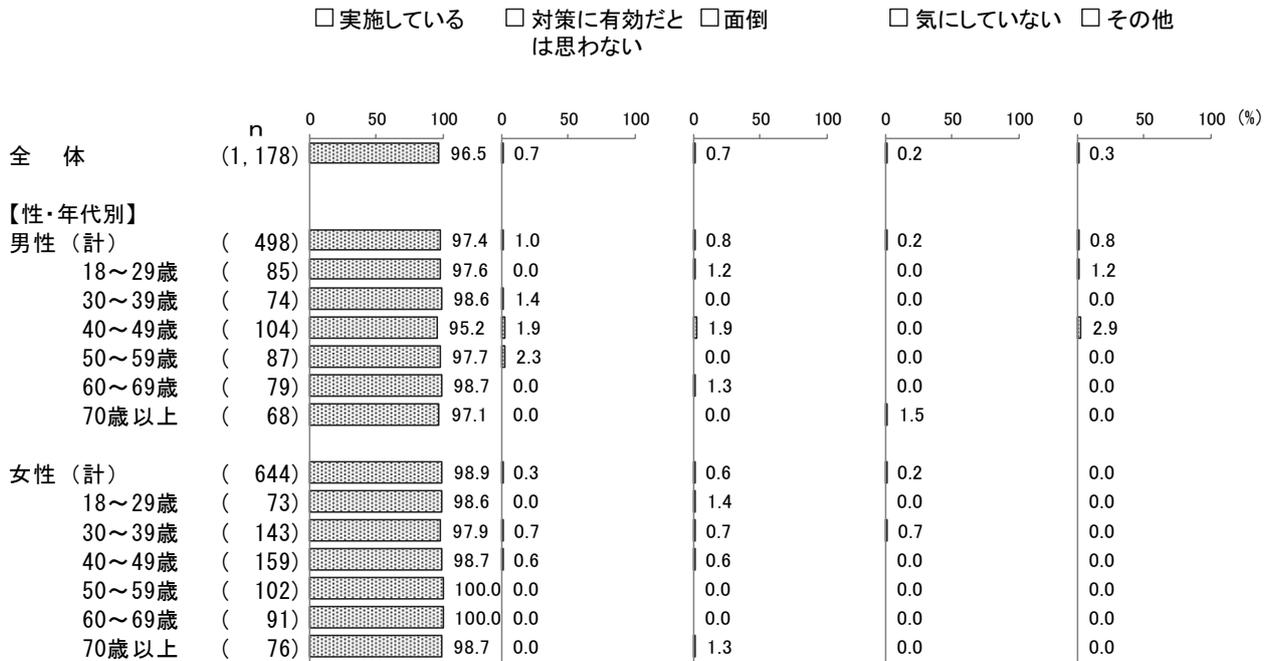
(ウ) マスクの着用について性・年代別にみると、大きな違いはみられない。

(エ) まめな手洗い・手指の消毒について性・年代別にみると、大きな違いはみられない。

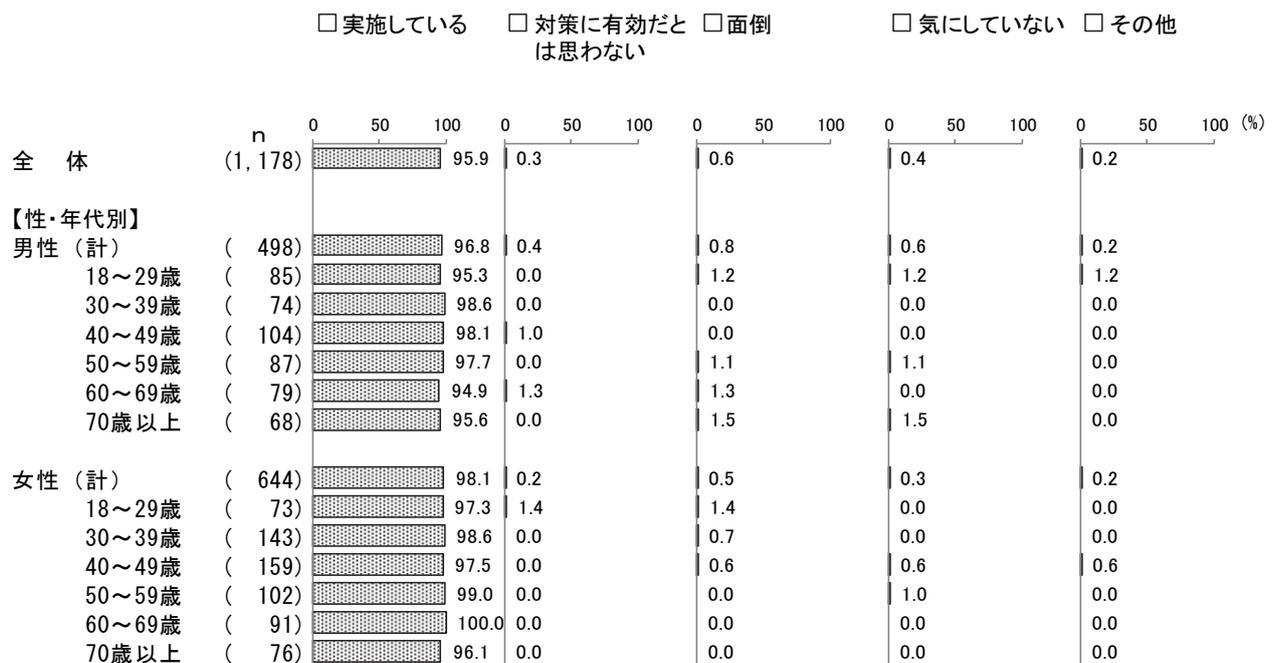
(図表 13-1-4)

図表 13-1-4 実施している対策—性・年代別

(ウ) マスクの着用



(エ) まめな手洗い・手指の消毒

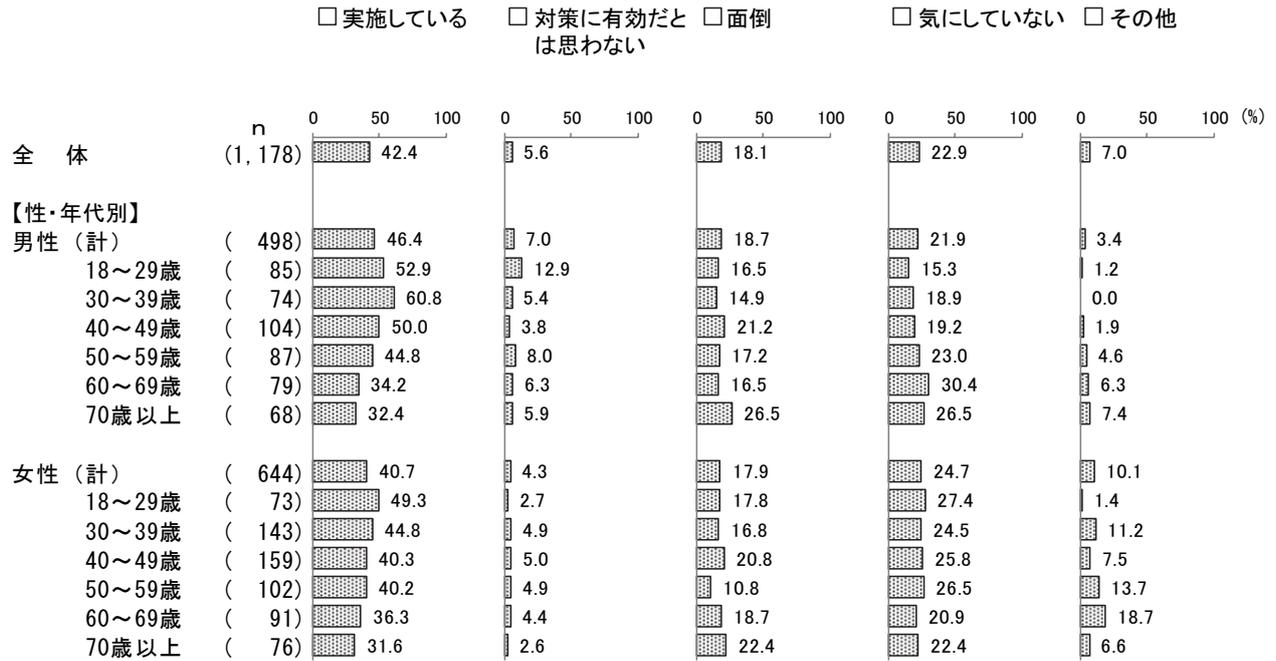


(オ) 帰宅後すぐの着替え、シャワーについて性・年代別にみると、「実施している」は男性 30～39 歳 (60.8%) が約 6 割と高くなっている。

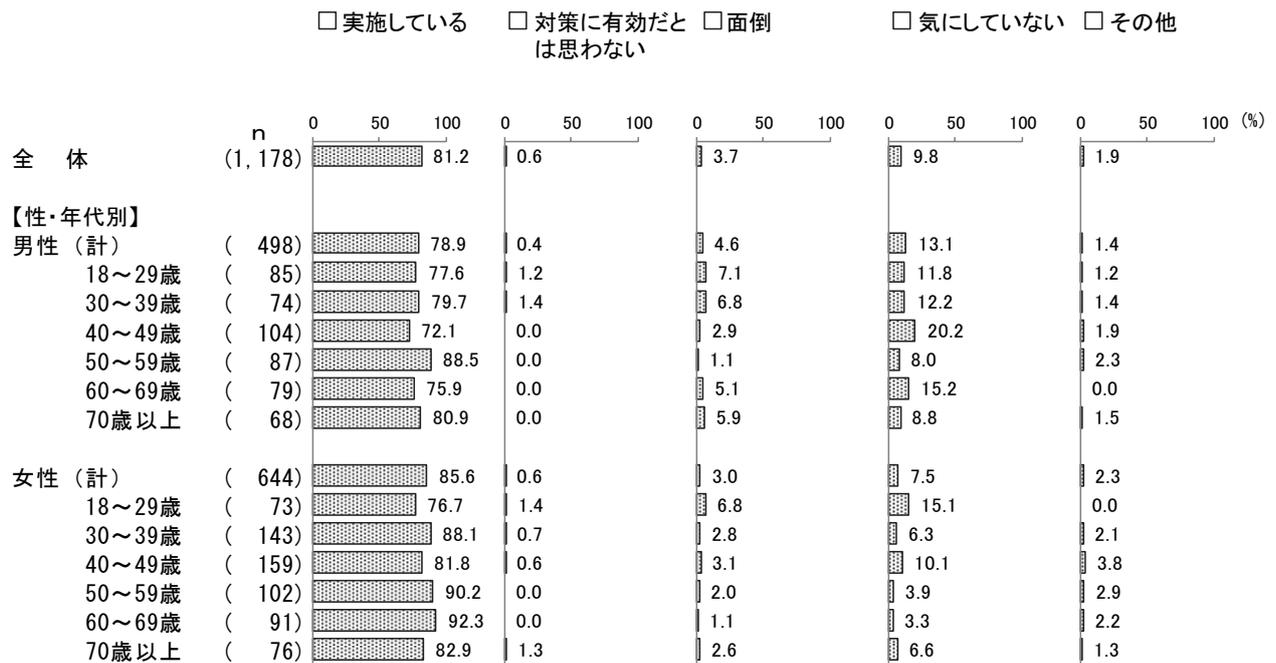
(カ) こまめな換気について性・年代別にみると、「実施している」は女性 50～59 歳 (90.2%)・女性 60～69 歳 (92.3%) が 9 割以上と高くなっている。(図表 13-1-5)

図表 13-1-5 実施している対策一性・年代別

(オ) 帰宅後すぐの着替え、シャワー



(カ) こまめな換気

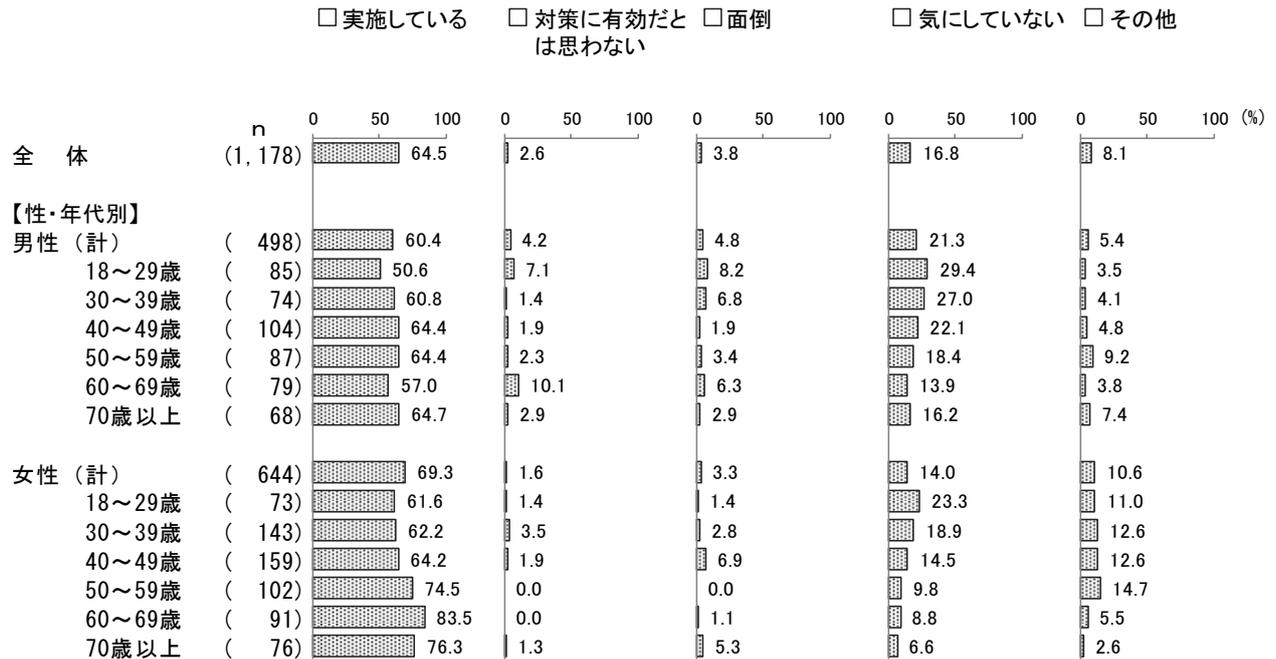


(キ) 空いている時間帯の利用（買い物、交通機関、公園など）について性・年代別にみると、「実施している」は女性 60～69 歳（83.5%）が 8 割を超えて高くなっている。「気にしていない」は男性 18～29 歳（29.4%）が約 3 割と高くなっている。

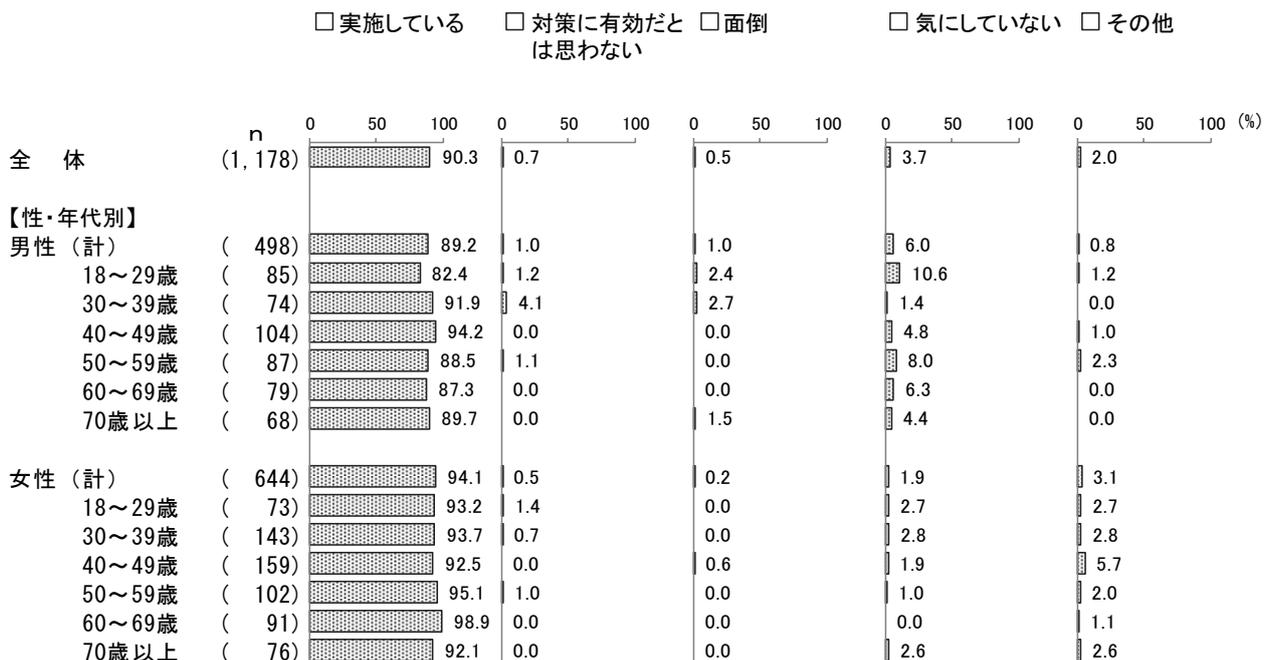
(ク) 3密となる店・場に行くことの自粛について性・年代別にみると、「実施している」は女性 60～69 歳（98.9%）が 10 割近くと高くなっている。（図表 13-1-6）

図表 13-1-6 実施している対策—性・年代別

(キ) 空いている時間帯の利用（買い物、交通機関、公園など）



(ク) 3密となる店・場に行くことの自粛

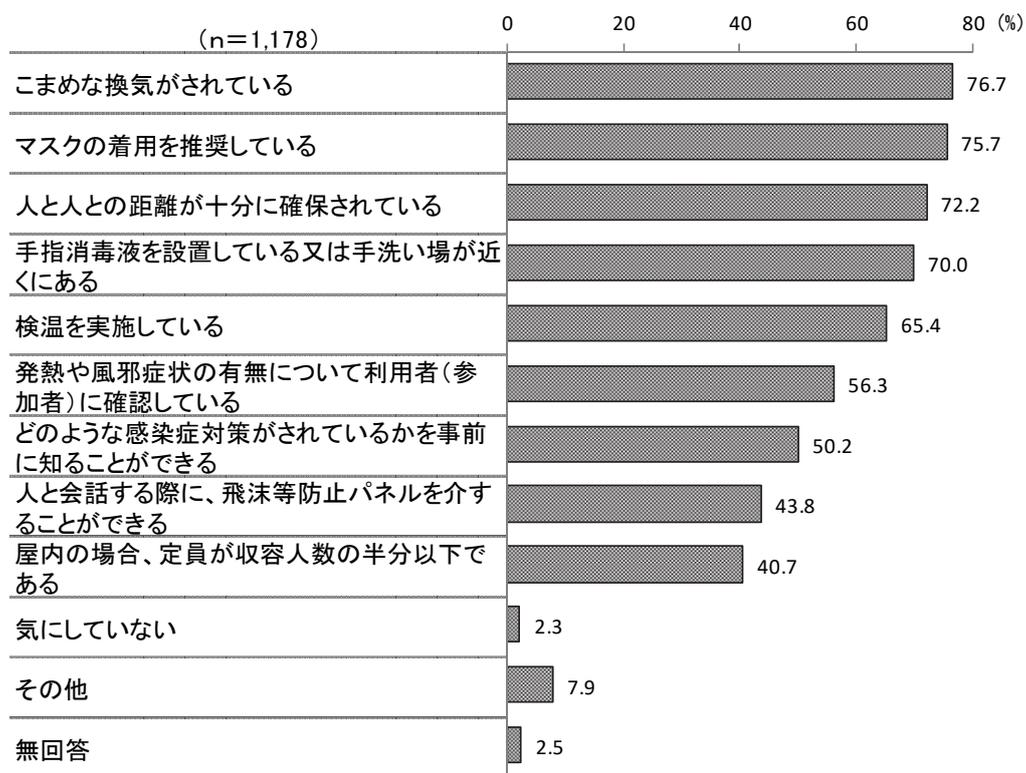


(2) どのような対策を求めるか

問 37 人が集まる場所（施設やイベント等）に行く場合、どのような感染防止対策がされていれば、行こう（参加しよう）と思いますか。（〇はいくつでも）

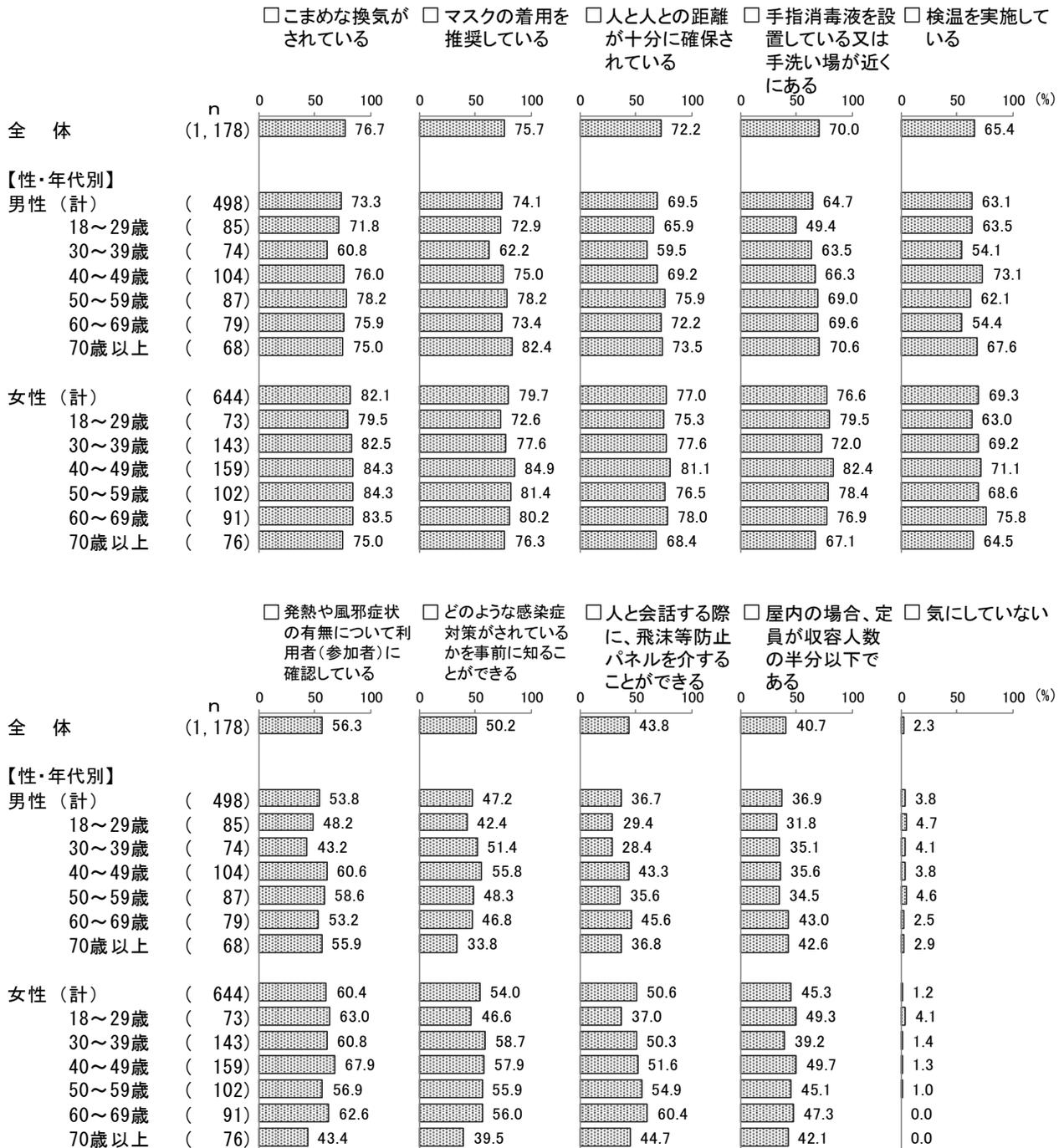
人が集まる場所（施設やイベント等）に行く場合、どのような感染防止対策がされていれば、行こう（参加しよう）と思うか聞いたところ、「こまめな換気がされている」（76.7%）と「マスクの着用を推奨している」（75.7%）が7割半ばとなっており、次いで「人と人との距離が十分に確保されている」（72.2%）、「手指消毒液を設置している又は手洗い場が近くにある」（70.0%）となっている。（図表 13-2-1）

図表 13-2-1 どのような対策を求めるか



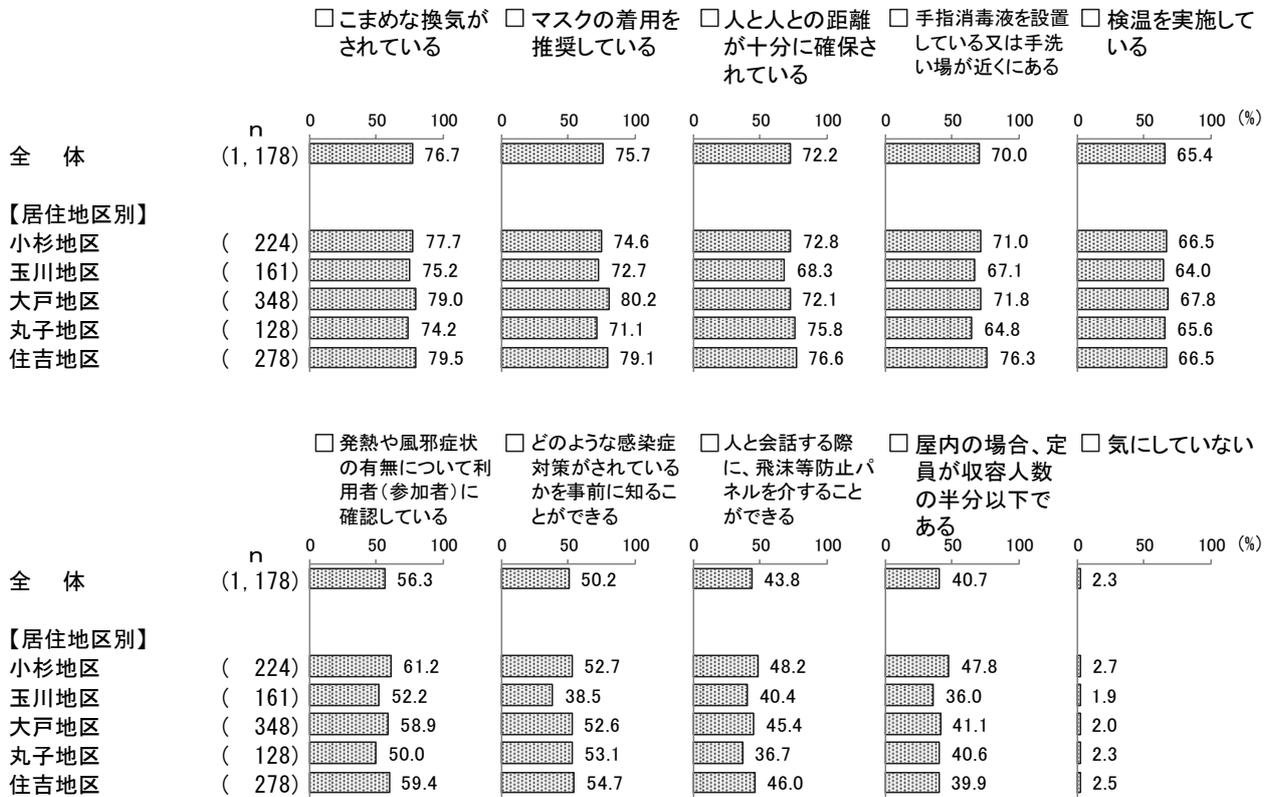
性・年代別にみると、「こまめな換気がされている」は女性 40～49 歳 (84.3%)・女性 50～59 歳 (84.3%) が 8 割半ばと高くなっている。「マスクの着用を推奨している」は女性 40～49 歳 (84.9%) が 8 割半ばと高くなっている。「人と会話する際に、飛沫等防止パネルを介することができる」は女性 60～69 歳 (60.4%) が約 6 割と高くなっている。(図表 13-2-2)

図表 13-2-2 どのような対策を求めるかー性・年代別（「その他」をのぞく）



居住地区別にみると、「マスクの着用を推奨している」は大戸地区（80.2%）が約8割と高くなっている。（図表13-2-3）

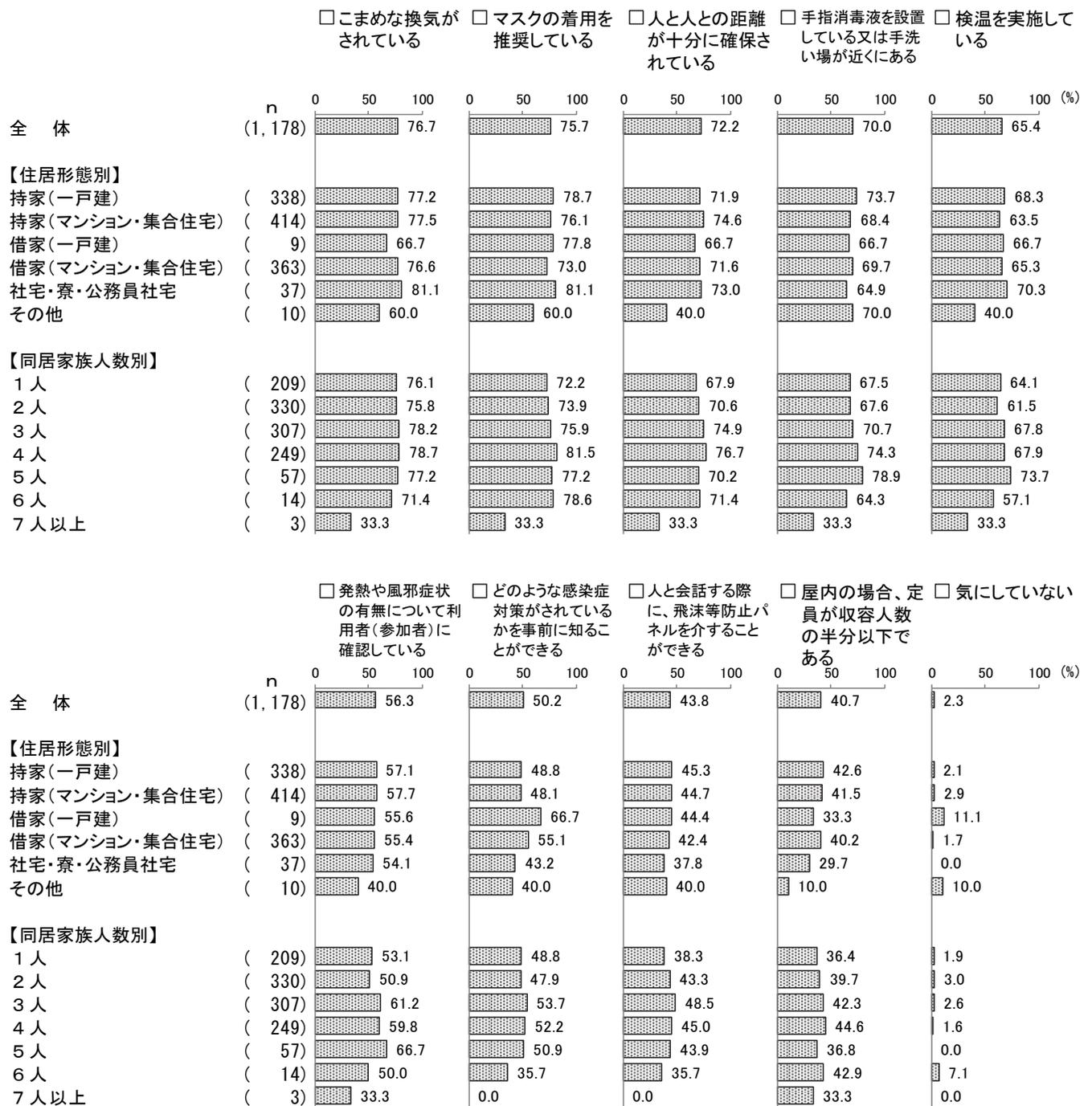
図表13-2-3 どのような対策を求めるか—居住地区別（「その他」をのぞく）



住居形態別にみると、「こまめな換気がされている」は社宅・寮・公務員住宅（81.1%）が8割を超えて高くなっている。「マスクの着用を推奨している」は社宅・寮・公務員住宅（81.1%）が8割を超えて高くなっている。

同居家族人数別にみると、「発熱や風邪症状の有無について利用者（参加者）に確認している」は5人（66.7%）が6割半ばと高くなっている。「手指消毒液を設置している又は手洗い場が近くにある」は同居家族人数が増加するとともに高くなっている。（図表13-2-4）

図表13-2-4 どのような対策を求めるか—住居形態別・同居家族人数別（「その他」をのぞく）



14 自由意見

問 38 その他に中原区の課題や魅力等がありましたら、ご自由にご記入ください。

「行政全般（災害対策、計画、制度等）について」（102 件）が最も多く、次いで「生活環境（住みやすさ等）について」（66 件）、「公園・緑地・河川・道路の整備等」（48 件）と続いている。

上位項目	件数
行政全般(災害対策、計画、制度等)について	102
生活環境(住みやすさ等)について	66
公園・緑地・河川・道路の整備等について	48
交通ルールやマナーについて	26
バス・鉄道などの交通機関について	20

Ⅲ 質問と回答

中原区区民アンケート

令和2年7月

<居住環境>

問1 中原区にお住みになって何年になりますか。(○は1つだけ) n=1,178

1	1年未満	4.2	4	5年～10年未満	14.1	7	生まれてからずっと住んでいる	
2	1年～3年未満	9.3	5	10年～20年未満	21.5		問2へ	11.6
3	3年～5年未満	8.1	6	20年以上	30.5		(無回答)	0.7

(問1で、「1」～「6」と回答した方に)

問1-1 中原区に住む以前はどちらにお住まいでしたか。(○は1つだけ) n=1,033

1	市内の他の区	19.4	4	東京23区内	26.2
2	横浜市	17.7	5	東京23区外	4.7
3	神奈川県内(川崎市、横浜市を除く)	4.5	6	その他の地域(国外含む)	26.1
				(無回答)	1.3

問2 これからも中原区にお住まいになる予定ですか。(○は1つだけ) n=1,178

1	これからも住んでいたい	75.5		
2	できれば市内の他の区へ移りたい	0.8		
3	できれば市外へ移りたい	5.3		
4	わからない ⇒ 問3へ	17.9		(無回答) 0.5

(問2で、「1 これからも住んでいたい」と回答した方に)

問2-1 中原区に住んでいたい主な理由は何ですか。(○は1つだけ) n=889

1	通勤・通学の便が良いから	24.7	6	以前から住んでいるから	15.7
2	買い物が便利だから	6.7	7	近くに親戚や知人が住んでいるから	4.3
3	住宅を購入したから	26.2	8	その他	2.1
4	子どもの教育のため	0.9	9	特になし	0.6
5	まわりの環境がよいから	12.0		(無回答)	6.6

(問2で、「2 できれば市内の他の区へ移りたい」、「3 できれば市外へ移りたい」と回答した方に)

問2-2 中原区から移りたいという主な理由は何ですか。(○は1つだけ) n=72

1	通勤・通学が不便だから	6.9	4	子どもの教育のため	4.2
2	買い物が不便だから	1.4	5	まわりの環境がよくないから	18.1
3	住宅事情(家賃、面積等)がよくないから	20.8	6	その他	38.9
				(無回答)	9.7

<生活環境>

問3 中原区の生活環境についてお伺いします。次にあげる（ア）から（シ）のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。各項目について1つずつ選んでください。

（○はそれぞれ1つ） n=1,178

	満足	まあ満足	少し不満	不満	わからない	(無回答)
回答例 ⇒	1	2	3	4	5	
(ア) 地震・火災・風水害等の災害時の安全さ	5.7	30.7	29.2	20.8	10.5	3.1
(イ) 風紀上・防犯上の安全さ	10.7	54.8	22.2	6.3	4.6	1.4
(ウ) 交通事故・危険物からの安全さ	8.7	50.2	25.5	7.7	6.2	1.8
(エ) 空気や川のきれいさ	5.9	53.0	26.5	8.7	4.8	1.3
(オ) 家のまわりの静けさ	16.0	49.3	21.6	11.0	0.8	1.3
(カ) 公園や緑の豊かさ	16.4	52.4	19.4	7.7	2.2	1.9
(キ) 通勤・通学の便利さ	49.2	39.8	5.1	2.1	1.7	2.0
(ク) 買い物の便利さ	46.4	42.4	8.3	1.3	0.3	1.3
(ケ) 病院や診療所までの近さ	39.5	48.7	7.8	1.8	1.1	1.1
(コ) 休日・夜間の救急医療体制	14.3	39.9	15.2	4.2	24.7	1.8
(サ) 文化施設・スポーツ施設などの近さ	13.9	45.1	18.1	7.4	13.7	1.9
(シ) 区役所の窓口サービス	10.8	55.9	14.5	5.0	12.3	1.4

問4 地域の生活環境を総合的にみた場合、中原区にどの程度満足していますか。

（○は1つだけ） n=1,178

1 満足している	22.8	3 少し不満である	11.7	5 わからない	2.7
2 まあ満足している	59.8	4 不満である	1.8	(無回答)	1.3

問5 住みよい環境とは、どのようなものだと思いますか。（○は3つまで）

n=1,178

1 地震・火災・風水害等の災害に 対して安心である	55.9	7 通勤・通学に便利	42.2
2 風紀や治安がよい	62.2	8 買い物に便利	45.4
3 交通事故の危険がない	8.5	9 病院や診療所が近い	24.6
4 空気や川がきれい	8.2	10 休日・夜間の救急医療体制が整っている	7.3
5 家のまわりが静か	16.7	11 文化施設・スポーツ施設が近い	4.5
6 公園や緑が豊か	17.6	12 区役所の窓口サービスがよい	2.7
		13 その他	1.5
		(無回答)	0.8

<区役所業務の評価・区のイメージ>

問6 次にあげる区役所の業務で、よくやっていると思うものは、どれですか。(○はいくつでも) n=1,178

問7 今後、特に力を入れてほしいと思うものは、どれですか。(○はいくつでも) n=1,178

回答例 ⇒	問6	問7
	よくやっている と思うもの (○はいくつでも)	特に力を入れて ほしいと思うもの (○はいくつでも)
	①	①
(1) 放置自転車対策	44.8	8.1
(2) 防犯や交通安全の対策	19.5	39.3
(3) 地震や風水害への対策	10.5	59.9
(4) 駅周辺の環境整備	36.9	22.1
(5) 道路、歩道の整備	25.8	31.1
(6) 緑地や水辺の整備	25.5	22.9
(7) 建築、開発計画、景観ルールなどまちづくりに関する相談・支援	10.4	14.0
(8) 健康づくりに関する事業	11.4	17.1
(9) 高齢者関係の事業	10.5	26.2
(10) 子ども・子育ての支援	17.9	33.5
(11) 心身の不自由な人の支援	8.3	20.3
(12) 町内会・自治会活動への支援	12.0	8.5
(13) 地域の住民同士のつながりを深める事業	7.3	13.9
(14) 市民活動の支援	8.2	7.3
(15) 区の広報・広聴の充実	12.3	5.9
(16) 文化(音楽祭、コンサートなど)を通じたまちづくり	20.4	11.7
(17) スポーツを通じたまちづくり	22.0	9.6
(18) 区のイメージアップを図り、地域に愛着を持たせる取組	10.3	13.8
(19) 区民と行政が協働でまちづくりを進める仕組みづくり	5.9	11.0
(20) 区役所の窓口サービスの向上	15.1	18.4
(21) 環境学習の取組	6.0	7.6
(22) 区内在住の外国人に対する支援	6.2	6.7
(23) その他	0.8	4.3
(24) 特になし	3.4	1.5
(25) わからない	8.7	3.5
(無回答)	8.0	5.1

問8 中原区の「イメージ」として何を思い浮かべますか。(〇はいくつでも)

n=1,178

1	先端技術・産業の集積地	6.5	11	放置自転車が多い	5.8
2	買い物に便利	55.9	12	二ヶ領用水・渋川・矢上川・江川	31.5
3	文化と歴史がある	4.9	13	若者が多い	11.7
4	等々力緑地	53.1	14	車が多い	10.1
5	交通網の発達	47.9	15	騒音	6.0
6	保健・医療設備が充実	8.6	16	公害	1.0
7	中小企業の工場が多い	9.6	17	国際性が豊か	3.1
8	静かな住宅地	14.7	18	郷土芸能・民俗行事	0.3
9	公共施設が多い	6.3	19	その他	8.3
10	公園が多い	11.4	20	特にない	3.8
				(無回答)	1.0

<中原区役所の広報>

問9 ふだん、行政情報や地域情報を何から入手していますか。(〇はいくつでも)

n=1,178

1	市政だより	48.7	8	ラジオ・テレビ	8.4
2	電話での問い合わせ	0.7	9	一般新聞	8.9
3	区役所の情報コーナー	3.3	10	地域情報紙	14.3
4	町内会・自治会の回覧	22.8	11	会社・学校・近所での口コミ	9.3
5	市や区のホームページ	27.8	12	その他	1.9
6	かわさきアプリ	2.9	13	特にない	18.1
7	SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)	14.1		(無回答)	0.7

問10 行政情報や地域情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。(〇は3つまで)

n=1,178

1	市政だより中原区版を充実させる	35.1	7	スマートフォンアプリ等を充実させる	43.6
2	区のガイドマップを充実させる	16.4	8	メールマガジンを充実させる	6.1
3	チラシを様々な施設におく	7.4	9	タウン誌や地域新聞を活用する	16.9
4	ポスターなどを掲示板に貼る	13.6	10	ラジオ・テレビを活用する	6.6
5	町内会・自治会で回覧する	14.1	11	その他	2.8
6	ホームページを充実させる	39.8		(無回答)	2.1

問11 区の広報誌としては毎月1日発行の「かわさき市政だより」の中に中原区版※(2ページ)がありますが、中原区版はお読みになっていますか。(〇は1つだけ)

n=1,178

1	毎月読んでいる	16.7	4	ほとんど読んでいない	18.7
2	ほとんど毎月読んでいる	8.1	5	読んでいない	23.2
3	たまに読んでいる	32.8		(無回答)	0.6

※令和2年7月現在、発行休止中ですが9月1日号から再開予定です。

問 12 今後、区の広報を区民の皆さんの情報源として活かしていくには、どのような内容に重点をおいていくのがよいと思いますか。(〇はいくつでも) n=1,178

1	区内の文化や歴史の紹介	12.6	9	文化情報	11.7
2	区内の出来事やイベント情報 (コミュニティ情報など)	46.8	10	レジャー・スポーツ・レクリエーション 情報	31.4
3	区内の施設の紹介や利用情報	45.2	11	健康・福祉・医療情報	44.9
4	区内で生活していく上での便利知識	46.7	12	道路・交通情報	14.9
5	区内の名所案内	16.4	13	気象・環境・防災情報	38.8
6	区の事業や施策	19.1	14	地域や身近な出来事に関する情報	19.4
7	トピック・ニュース	9.9	15	その他	1.6
8	学習・教育情報	14.3	16	特にな (無回答)	4.4 1.4

<中原区役所の環境>

問 13 中原区役所をどの位の頻度で利用しますか。(〇は1つだけ) n=1,178

1	月に数回	0.8	4	半年に1回程度	25.7	7	ほとんど行かない・行ったこと がない ⇒ 問14へ	17.4
2	月に1回程度	2.3	5	1年に1回程度	29.2		(無回答)	1.3
3	3か月に1回程度	10.3	6	3年に1回程度	13.1			

(問13で、「1」～「6」と回答した方に)

→ 問 13-1 中原区役所庁舎についてお伺いします。次にあげる(ア)から(カ)のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。各項目について1つずつ選んでください。

(〇はそれぞれ1つ) n=958

	満足	まあ満足	少し不満	不満	わからない	(無回答)
回答例 ⇒	1	②	3	4	5	
(ア) 区役所までの経路案内	21.0	54.7	8.2	1.4	12.6	2.1
(イ) 庁舎内の窓口案内	18.7	59.8	11.4	3.8	5.4	0.9
(ウ) 待合スペースの広さ	12.6	54.3	20.9	7.3	3.7	1.3
(エ) 窓口のプライバシーへの配慮	8.9	53.1	20.1	4.8	11.3	1.8
(オ) 衛生環境	8.9	55.3	18.4	4.5	11.5	1.5
(カ) 自転車駐輪スペース	11.8	44.4	11.6	3.1	27.5	1.7

<子育て支援>

問 14 あなたは子育ての経験がありますか。(○は1つだけ)

n=1,178

1	ある	55.2	2	ない ⇒ 問 15 へ	42.1	(無回答)	2.7
---	----	------	---	-------------	------	-------	-----

(問 14 で、「1 ある」と回答した方に)

→ 問 14-1 ふだん利用している、もしくは利用したことのあるサービスを教えてください。

(○はいくつでも) n=650

1	中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場 (自主サロン)	20.9
2	認可保育所の園庭開放や交流行事	17.5
3	保育園一時預かり (認可保育所)	11.8
4	保育園一時預かり (認可外保育施設)	6.0
5	保育園一時預かり (認可か認可外か不明)	2.2
6	区役所のこども相談窓口 (育児全般に関する相談)	6.3
7	ふれあい子育てサポート事業	4.8
8	民間のベビーシッター	3.7
9	子育てに関する来所相談窓口 (育児相談、幼児相談、アレルギー相談など)	4.9
10	川崎市産前・産後家庭支援ヘルパー派遣事業	2.6
11	シルバー会員による子育て支援サービス	0.6
12	その他	3.5
13	サービスを利用したことはない ⇒ 問 15 へ	48.6
	(無回答)	4.3

(問 14-1 で、「1」～「12」と回答した方に)

問 14-2 これらのサービスはどちらで知りましたか。(○は3つまで)

n=306

1	市政だより	17.0	8	SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	
2	川崎市や中原区の広報誌				3.9
	(市政だより以外)	22.2	9	子育てサロンや自主グループ活動等の中で	
3	市や区のホームページ	21.6			13.7
4	市や区以外のホームページ	3.6	10	町内会、自治会の掲示板や回覧板	12.4
5	保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント	19.0	11	新聞	0.0
6	育児本・雑誌等	0.0	12	区の掲示板	7.2
7	テレビ・ラジオ	0.0	13	メールマガジン・メーリングリスト	0.3
			14	口コミ	26.5
			15	その他	13.7
				(無回答)	3.9

<地域包括ケアシステム>

問 15 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム*」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものを選んでください。(〇は1つだけ) n=1,178

1	地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している	2.9
2	地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っているが、具体的に行動していない	4.4
3	地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいか分からない	9.5
4	地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない	23.3
5	地域包括ケアシステムを聞いたことがない	56.5
	(無回答)	3.3

*地域包括ケアシステム

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けるため、住まい、医療、介護、予防、福祉・生活支援が切れ目なく、一体的に提供される仕組と地域づくりの取組のことです。この取組を進めるには、市民や事業者、地域・ボランティア団体、行政など、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により、取り組むことが大切です。



【市 HP 「川崎版地域包括ケアシステムの構築に向けて」】

問 16 地域包括ケアシステムによって取り組むべきだと思うものは何ですか。(〇はいくつでも) n=1,178

1	高齢者への生活支援	58.4	5	生活上の安心・安全	47.0
2	健康づくり、介護予防	45.3	6	その他	2.0
3	子育て支援	44.5	7	わからない	10.1
4	障害者支援	33.4		(無回答)	3.0

<自立的な活動について>

問 17 自由な時間があるときは、どこで時間を過ごすことが多いですか。(〇は1つだけ) n=1,178

1	自宅の中	56.5	3	近所ではないが川崎市内	11.0
2	自宅の近所(徒歩15分以内くらい)	17.8	4	川崎市外	11.2
				(無回答)	3.5

問 18 様々な目的を合わせて、ふだん外出する頻度はどのくらいですか。(〇は1つだけ) n=1,178

1	ほぼ毎日	53.2	4	週に1日程度	6.3
2	週に4~5日程度	20.5	5	月に1~3日程度	2.7
3	週に2~3日程度	14.3	6	ほとんど外出しない	1.4
				(無回答)	1.5

問 19 あなたは現在、次にあげるようなグループ活動に参加していますか。(〇はいくつでも) n=1,178

1	町内会・自治会・老人会・婦人会	9.5	6	同業者の団体、組合	2.2
2	趣味や娯楽のサークル、会	8.7	7	市民運動、消費者団体	0.3
3	スポーツのサークル、会	9.7	8	ボランティア活動の団体	3.0
4	勉強・学習のサークル、会	2.9	9	その他	1.0
5	学校や職場の同窓会、同期会	9.1	10	どれにも参加していない	67.0
				(無回答)	1.6

(問 19 で、「1」～「9」と回答した方に)

問 19-1 グループ活動に参加する頻度はどのくらいですか。全体を合わせた頻度でお答えください。(〇は1つだけ) n=370

1	週に1回より多い	17.0	4	2～3か月に1回程度	14.1
2	週に1回程度	18.4	5	半年に1回程度	9.2
3	月に1～3回程度	28.1	6	1年に1回程度	11.1
				(無回答)	2.2

(問 19 で、「10 どれにも参加していない」と回答した方に)

問 19-2 どれにも参加していない理由をお答えください。(〇は1つだけ) n=789

1	興味や関心が無いから	16.9	6	活動について情報が得られないから	10.3
2	仕事で忙しいから	27.8	7	一緒に活動する仲間がいないから	4.1
3	人間関係がわずらわしいから	4.2	8	参加しにくい雰囲気があるから	2.0
4	子育てで忙しいから	8.5	9	その他	5.1
5	家族の介護で忙しいから	1.6	10	特になし	13.4
				(無回答)	6.2

<地域の支え合いについて>

問 20 あなたには次の(ア)から(エ)の項目のような人がいらっしゃいますか。各項目についてそれぞれいくつでも選んでください。(〇はそれぞれいくつでも) n=1,178

	別居を問いません	家族や親せき(同居、近所にいる)	近所にいる友人にいます	近所以外の知人や友人にいます	いない	(無回答)
回答例 ⇒	1	②	③	4		
(ア) 一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人	56.9	29.7	56.4	8.3	1.7	
(イ) 困ったことがあった時に、助けや手伝いを頼むことができる人	69.5	28.1	35.7	8.4	1.3	
(ウ) 必要な時に情報をくれたりアドバイスをくれる人	57.9	29.3	48.6	9.8	1.5	
(エ) 悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人	61.8	21.8	50.3	10.3	1.7	

問 21 あなたが地域の支え合いに協力できることについて教えてください。(〇はいくつでも) n=1, 178

1	声かけ・安否確認	49.7	9	家具の移動や電球交換など室内の維持管理	9.6
2	話し相手	29.1	10	草むしりなどの庭の手入れ	13.8
3	交流の場・集いの場	13.1	11	通院・薬とり	10.9
4	買い物などの外出	22.7	12	役所などでの手続き・書類書き	12.4
5	日常的なゴミ出し	19.4	13	銀行預金・郵便貯金の出し入れ	7.7
6	粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し	13.2	14	その他	2.4
7	日々の食事の用意	3.2	15	特になし	23.4
8	掃除・洗濯・お風呂のしたくなどの家事	5.3		(無回答)	2.8

問 22 下記であげる項目について、日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことを教えてください。(〇はいくつでも) n=1, 178

問 23 問 22 で回答した項目について、地域の支え合いを希望する、または将来的には頼みたいと思うことについて教えてください。(〇はいくつでも) n=1, 178

	問 22 (〇はいくつでも) 困っていること、 または将来困る だろうと思うこと	問 23 (〇はいくつでも) 地域の支え合いを 希望する、または 将来的には頼み たいと思うこと
回答例 ⇒	①	①
(1) 声かけ・安否確認	19.8	25.8
(2) 話し相手	16.5	14.8
(3) 交流の場・集いの場	15.1	20.5
(4) 買い物などの外出	15.0	12.1
(5) 日常的なゴミ出し	9.0	8.0
(6) 粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し	30.2	27.3
(7) 日々の食事の用意	12.6	9.8
(8) 掃除・洗濯・お風呂のしたくなどの家事	13.1	10.5
(9) 家具の移動や電球交換など室内の維持管理	20.2	18.1
(10) 草むしりなどの庭の手入れ	10.2	8.6
(11) 通院・薬とり	13.0	11.7
(12) 役所などでの手続き・書類書き	17.8	15.0
(13) 銀行預金・郵便貯金の出し入れ	8.1	4.3
(14) その他	1.8	1.8
(15) 特になし	36.0	32.8
(無回答)	8.6	11.5

問 24 中原区では「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支え合う地域づくり」を目指しています。この趣旨にそって、次にあげる（ア）から（キ）のそれぞれの項目について、あなたはどのように考えますか。各項目について1つずつ選んでください。（○はそれぞれ1つ）
n=1,178

	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	(無回答)
回答例 ⇒	1	2	3	4	4
(ア) 地域住民が一体となって協力することが望ましい	26.5	49.0	17.7	3.3	3.5
(イ) 地域全体の課題解決につながることを望ましい	31.5	53.7	9.2	2.0	3.7
(ウ) 参加者の加入、脱退が自由であることが望ましい	56.2	36.0	3.9	0.6	3.3
(エ) 自分の関心のある身近なことが望ましい	32.2	51.6	10.5	1.8	3.9
(オ) 達成感のある、自己実現につながることを望ましい	21.5	49.8	21.2	3.7	3.7
(カ) 身近な知人や仲間づくりにつながることが望ましい	28.1	52.0	14.7	2.3	3.0
(キ) 家族や身近な知人や仲間に誘われることが望ましい	23.1	48.6	20.6	4.3	3.3

問 25 自分の健康への不安が生じたり、日常的な生活の見守り等が必要になった場合、最期までどのように住み続けたいと思いますか。（○は1つだけ）
n=1,178

1 地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける	32.5
2 子どもの家で同居する	1.1
3 現在の家で子どもと同居する	3.8
4 子どもの近くに住む	5.5
5 バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム (食事・介護サービス等の提供は当初から含まれている)	9.1
6 バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム (食事・介護サービス等の提供は心身の状況に応じて追加する)	22.4
7 その他	1.6
8 わからない	21.1
(無回答)	2.9

問 26 実際に最期を迎えるのはどこだと思いますか。（○は1つだけ）
n=1,178

1 病院・診療所	39.8	4 その他	0.6
2 自宅	13.4	5 わからない	34.0
3 老人ホーム・介護老人保健施設	10.6	(無回答)	1.5

<在宅療養について>

問 27 ご本人またはご家族が住み慣れた場所で最期まで過ごすために、在宅療養*ということをお考えた（実際に選択した）ことがありますか。（○は1つだけ） n=1,178

1	考えた（実際に選択した）ことがある	28.7	3	その他	0.1
2	考えた（実際に選択した）ことがない	37.4	4	わからない	32.0
				（無回答）	1.9

*在宅療養

病院や外来ではなく、自宅や施設などで医療行為を受けたり、介護サービスを受けたりしながら療養することをいいます。



【区 HP「在宅療養はじめて BOOK を配布しています。」】

<防災対策について>

問 28 あなたのご家庭では、大震災に備えて何日分の食料を準備していますか。（○は1つだけ） n=1,178

1	1日分	9.2	2	2日分	22.4	3	3日以上	39.6	4	準備していない	27.8
										（無回答）	1.0

（問 28 で、「4 準備していない」と回答した方に）

問 28-1 準備していない理由は何ですか。（○は1つだけ） n=327

1	何を準備すればよいかわからないから	15.9	6	身近な問題と感じていないから	7.0
2	費用がかかるから	5.8	7	行政が準備してくれるから	1.5
3	保管する場所がないから	19.9	8	その他	5.5
4	忙しくて時間がないから	8.9	9	特に理由はない	24.8
5	急いで準備する必要がないと思うから	6.1		（無回答）	4.6

問 29 あなたは、「洪水ハザードマップ」でご自宅の浸水想定を確認したことがありますか。（○は1つだけ） n=1,178

1	確認したことがある	74.3	2	確認したことがない	24.7	（無回答）	1.0
---	-----------	------	---	-----------	------	-------	-----

※「洪水ハザードマップ」については区役所等で配布中、市 HP にも掲載しています。



【市 HP「洪水ハザードマップ」】

問 30 あなたは、ここ 1 年間で地域で行われた次の訓練等に参加したことがありますか。
 (○はいくつでも) n=1, 178

1	町内会・自治会、アパート・マンションの管理組合等が行う「防災訓練」「避難訓練」	14.7
2	行政が行う「中原区総合防災訓練」	1.3
3	避難所（市立小中学校など）単位で行われる「避難所訓練」	2.2
4	所属する企業や学校等が行う「防災訓練」	11.0
5	市・区が行う「ぼうさい出前講座」	0.1
6	参加したことがない	73.2
	(無回答)	1.7

▶ (問 30 で、「6 参加したことがない」と回答した方に)

問 30-1 参加していない理由は何ですか。(○は 1 つだけ) n=862

1	面倒だから	6.7	4	いつどこで開催されているか知らないから	59.4
2	時間が合わないから	25.9	5	その他	4.6
3	必要がないと思うから	2.4		(無回答)	0.9

問 31 あなたは、災害時に川崎市から提供される災害情報をどのような手段で入手していますか。
 (○はいくつでも) n=1, 178

1	メールニュースかわさき（防災気象情報）	15.1
2	かわさき防災アプリ	14.4
3	川崎市ホームページ（川崎市防災情報ポータルサイト）	36.8
4	川崎市防災行政無線 ※避難所、広域避難場所、主要ターミナル駅等の屋外に設置	17.8
5	川崎市防災テレホンサービス（川崎市防災行政無線の内容を電話で聞くことができます）	0.9
6	川崎市危機管理室公式ツイッター	4.0
7	その他	6.5
8	入手していない	29.5
	(無回答)	1.6

※川崎市から提供される災害情報手段については、市 HP をご確認ください。



【市 HP 「川崎市の防災気象情報」】

<ペットに関する防災対策>

問 32 現在ペットを飼っていますか (○は1つだけ) n=1,178

1 飼っている	17.0	2 飼っていない	82.3	(無回答)	0.7
---------	------	----------	------	-------	-----

問 33 「同行避難*」の内容を知っていますか (○は1つだけ)

(※ペットを飼っていない方も回答してください)

n=1,178

1 知っている	22.8	2 知らない	74.5	(無回答)	2.6
---------	------	--------	------	-------	-----

***同行避難**

災害発生時に飼い主がペットを同行させ、避難所まで安全に避難することです。避難所内でペットと人が同一スペースで過ごすことを意味するものではありません。

問 34 円滑な避難所運営のためにペットの同行避難で大事だと思うことは何ですか (複数選択可)

(※ペットを飼っていない方も回答してください)

n=1,178

1 同行避難についてあらかじめ基本的なルールを決めて地域で共有しておくこと	70.3
2 飼い主が日頃からペットを適正に飼養すること (しつけ、健康管理、繁殖制限、所有者明示) (自助)	58.5
3 飼い主同士で協力すること (互助)	28.8
4 ペットの飼養スペースの衛生管理 (汚物、害虫、悪臭、毛の飛散等の対策)	61.3
5 動物ボランティアによる支援を受けること	20.1
6 その他	3.5
(無回答)	2.7

問 35 中原区総合防災訓練で同行避難訓練を実施する場合、どのような内容なら参加 (見学) したい

と思いますか (複数選択可) (※ペットを飼っていない方も回答してください)

n=1,178

1 ペットと必要物品を持参して避難所まで参集する訓練	53.9
2 実際にペットを連れてきてケージへ収容する訓練	33.7
3 受付訓練 (ペットに関する届出用紙の記入や受付窓口の運営など)	25.8
4 その他	10.0
(無回答)	8.0

<新型コロナウイルス感染症対策および「新しい生活様式」について>

問 36 次の新型コロナウイルス感染症対策のうち実施しているものおよび実施していないものはその理由を教えてください（〇はいくつでも） n=1,178

	実施している	実施していない				(無回答)
		対策に有効だとは思わない	面倒	気にしていない	その他	
回答例 ⇒	1	2	③	4	⑤	
(ア) 人との間隔の確保（1 m以上）	81.8	1.9	1.5	5.0	5.9	4.2
(イ) 正面を避けた会話・食事（横並びなど）	72.4	3.3	3.1	11.0	6.0	4.7
(ウ) マスクの着用	96.5	0.7	0.7	0.2	0.3	1.8
(エ) まめな手洗い・手指の消毒	95.9	0.3	0.6	0.4	0.2	2.6
(オ) 帰宅後すぐの着替え、シャワー	42.4	5.6	18.1	22.9	7.0	5.0
(カ) こまめな換気	81.2	0.6	3.7	9.8	1.9	3.1
(キ) 空いている時間帯の利用 （買い物、交通機関、公園など）	64.5	2.6	3.8	16.8	8.1	4.4
(ク) 3密となる店・場に行くことの自粛	90.3	0.7	0.5	3.7	2.0	2.8

※3密：「密集」「密接」「密閉」

問 37 人が集まる場所（施設やイベント等）に行く場合、どのような感染防止対策がされていれば、行こう（参加しよう）と思いますか。（〇はいくつでも） n=1,178

1 屋内の場合、定員が収容人数の半分以下である	40.7
2 人と人との距離が十分に確保されている	72.2
3 マスクの着用を推奨している	75.7
4 こまめな換気がされている	76.7
5 発熱や風邪症状の有無について利用者（参加者）に確認している	56.3
6 検温を実施している	65.4
7 手指消毒液を設置している又は手洗い場が近くにある	70.0
8 人と会話する際に、飛沫等防止パネルを介することができる	43.8
9 どのような感染症対策がされているかを事前に知ることができる	50.2
10 気にしていない	2.3
11 その他	7.9
(無回答)	2.5

<自由意見>

問 38 その他に中原区の課題や魅力等がありましたら、ご自由にご記入ください。

<あなたご自身について>

F 1 あなたの性別をお聞かせください。(○は1つだけ) n=1,178

1	男性	42.3	2	女性	54.7	3	回答しない	1.3	(無回答)	1.8
---	----	------	---	----	------	---	-------	-----	-------	-----

F 2 あなたの年齢をお聞かせください。(○は1つだけ) n=1,178

1	18～19歳	1.4	3	30～39歳	18.9	5	50～59歳	16.1	7	70歳以上	12.3
2	20～29歳	12.0	4	40～49歳	22.8	6	60～69歳	14.6	(無回答)	1.9	

F 3 あなたの現在の職業をお聞かせください。(○は1つだけ) n=1,178

1	自営業	5.1	5	アルバイト	2.5	9	無職	11.5
2	家族従業(家事手伝い)	0.4	6	内職	0.0	10	その他	2.0
3	勤め(全日)	50.7	7	専業主婦	11.5	(無回答)	2.0	
4	勤め(パートタイム)	10.8	8	学生	3.7			

F 4 あなたのお勤め先または通学先をお聞かせください。(○は1つだけ) n=1,178

1	川崎市(中原区)	18.3	5	東京都(23区内)	34.2
2	川崎市(他の区)	8.6	6	東京都(23区外)	2.2
3	横浜市	8.5	7	その他	1.9
4	神奈川県内(川崎、横浜以外)	1.7	8	通勤・通学していない	17.6
				(無回答)	7.1

F 5 あなたのお住まいをお聞かせください。(○は1つだけ) n=1,178

1	小杉地区(市ノ坪、今井上町、今井仲町、今井西町、今井南町、小杉、小杉御殿町1・2丁目、小杉陣屋町1・2丁目、小杉町1～3丁目、等々力)	19.0
2	玉川地区(上平間、北谷町、下沼部、田尻町、中丸子)	13.7
3	大戸地区(上小田中1～7丁目、上新城1・2丁目、下小田中1～6丁目、下新城1～3丁目、新城、新城1～5丁目、新城中町、宮内1～4丁目)	29.5
4	丸子地区(上丸子、上丸子山王町1・2丁目、上丸子天神町、上丸子八幡町、新丸子東1～3丁目、新丸子町、丸子通1・2丁目)	10.9
5	住吉地区(井田1～3丁目、井田三舞町、井田杉山町、井田中ノ町、大倉町、荻宿、木月1～4丁目、木月伊勢町、木月祇園町、木月住吉町、木月大町、西加瀬)	23.6
	(無回答)	3.3

F 6 普段あなたがよく利用する駅はどちらですか。(○は1つだけ) n=1,178

1	J R 武蔵小杉(南武線)	6.5	5	J R 向河原	1.8	9	東急元住吉	18.3
2	J R 武蔵小杉(横須賀線)	9.6	6	J R 平間	7.2	10	東急日吉	1.8
3	J R 武蔵中原	14.2	7	東急武蔵小杉	17.5	11	その他	1.4
4	J R 武蔵新城	9.0	8	東急新丸子	9.2	(無回答)	3.6	

F 7 普段あなたがよく利用する駅までどのような手段で行きますか。(○は1つだけ) n=1,178

1 徒歩	78.5	3 バイク	0.7	5 車	0.7
2 自転車	15.4	4 バス	3.7	(無回答)	1.1

F 8 あなたのお住まいの形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=1,178

1 持家(一戸建)	28.7	4 借家(マンション・集合住宅)	30.8
2 持家(マンション・集合住宅)	35.1	5 社宅・寮・公務員社宅	3.1
3 借家(一戸建)	0.8	6 その他	0.8
		(無回答)	0.6

F 9 現在、一緒にお住まいの方はあなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ) n=1,178

1 1人 ⇒ F10へ	17.7	3 3人	26.1	5 5人	4.8	7 7人以上	0.3
2 2人	28.0	4 4人	21.1	6 6人	1.2	(無回答)	0.8

(F 9で、「2」～「7」と回答した方に)

▶ F 9-1 また、一緒にお住まいの方で次にあてはまる方は何人いますか。
(該当する番号に○を付け、人数をお書きください) n=960

1 未就学児(平均1.27人)	14.8	3 中学生(平均1.11人)	7.7	5 いない	0.7
2 小学生(平均1.23人)	13.3	4 高校生(平均1.09人)	8.3	(無回答)	65.7

(F 9で、「2」～「7」と回答した方に)

▶ F 9-2 また、一緒にお住まいの方であなたとは別に65歳以上の方はいますか。(○は1つだけ) n=960

1 はい	24.2	2 いいえ	73.3	(無回答)	2.5
------	------	-------	------	-------	-----

F 10 あなたは町内会・自治会に加入していますか。(○は1つだけ) n=1,178

1 はい	50.9	2 いいえ	47.6	(無回答)	1.4
------	------	-------	------	-------	-----

F 11 あなたはインターネットを利用していますか。(○は1つだけ) n=1,178

1 はい	87.4	2 いいえ	11.8	(無回答)	0.8
------	------	-------	------	-------	-----

以上でアンケートは終了です。

御協力大変ありがとうございました。

中原区区民アンケート 報告書

令和2年12月

川崎市中原区役所まちづくり推進部企画課

〒211-8570 川崎市中原区小杉町3-245
電話 (044) 744-3149
FAX (044) 744-3340